

大
鹿
村

前
島
家
文
書
目
録

長野県下伊那郡大鹿村

CD-R Ver. of 2003 年 9 月 25 日

まえがき

この目録に収載されている文書は、長野県下伊那郡大鹿村の前島家が所蔵していた文書のうちの約半分で、現在も同家に所蔵されている。残りの半分は、飯田市美術博物館蔵で、すでに平成 12 年（2000）に整理が完成して『文書目録（Ⅴ）大河原前島家』が出版されている。信州伊那郡大河原村は幕府直轄地で、千村平右衛門預かり所の一村であった。前島家は江戸時代を通して、大河原村の代々名主であった。この名主所文書が前島家文書の大部分を構成している。前島家文書は二ヵ所に別れて所蔵されているため、当面は飯田市美術博物館所蔵のものを「大河原前島家文書」と、大鹿村前島家に所蔵されているものを「大鹿村前島家文書」と呼んで区別することにする。両者をあわせて一万五千点以上もの数の文書で、整理項目数は約一万である。前島家文書の紹介などについては、今のところ『文書目録（Ⅴ）大河原前島家』や『大鹿村誌』、そのほか大鹿村関係の歴史研究論文などを参照されたい。

明治の初めはまだ江戸時代からの過渡期で、幕末までの名主が村の長としての役割を果たしたため、多くの村関係文書が残されている。この大鹿村前島家文書目録では、これら明治期のものに加え、大正、昭和の若干の文書も収載した。書簡は、特に幕末のものについては、年代を記した整理袋に収納されていたものが多く、一括して整理した。その他の文書も、関連している文書は、ひとまとまりのものとして整理したものがある。目録は、通しの整理番号、年号別の番号、文書の表題、年号、月日、文書の形態と数量、差出人または文書の筆者と受取人、文書の内容概略、備考を記した。概ね項目によらず、編年で配列した。

この『大鹿村前島家文書目録』は、大鹿村の近世における榑木や諸木材木の切り出しの歴史などに基づいて大鹿村自然環境の変遷と人間について研究した縁で、松原輝男（名古屋大学環境学研究科教授）が文書を整理して作成した。

2003 年 4 月 14 日記す。

目次

年号	西暦年	整理番号	
		通し番号	年号別 番号
延宝	(1673～1680)	1	1
天和	(1681～1683)		
貞享	(1684～1687)		
元禄	(1688～1703)		
宝永	(1704～1710)		
正徳	(1711～1715)		
享保	(1716～1735)	2 － 3	1 － 2
元文	(1736～1740)	4 － 9	1 － 6
寛保	(1741～1743)	10－ 13	1 － 4
延享	(1744～1747)	14－ 25	1 － 12
寛延	(1748～1750)	26－ 31	1 － 6
宝暦	(1751～1763)	32－ 359	1 － 328
明和	(1764～1771)	360－ 662	1 － 303
安永	(1772～1780)	663－ 851	1 － 189
天明	(1781～1788)	852－ 944	1 － 93

年号	西暦年	整理番号	
		通し番号	年号別 番号
寛政	(1789～1800)	945－1063	1 － 119
享和	(1801～1803)	1064－1107	1 － 44
文化	(1804～1817)	1108－1476	1 － 369
文政	(1818～1829)	1477－1791	1 － 315
天保	(1830～1843)	1792－2203	1 － 412
弘化	(1844～1847)	2204－2331	1 － 128
嘉永	(1848～1853)	2332－2490	1 － 159
安政	(1854～1859)	2491－2694	1 － 204
万延	(1860)	2695－2728	1 － 34
文久	(1861～1863)	2729－2876	1 － 148
元治	(1864)	2877－2932	1 － 56
慶應	(1865～1867)	2933－3035	1 － 103
明治	(1868～1911)	3036－3565	1 － 530
大正	(1912～1925)	3566－3585	1 － 20
昭和	(1926～1988)	3586－3610	1 － 25
年代不明		3611－3707	1 － 97

宝暦以前

整理番号	年号別番号	題目	年月日	数量	筆者 差出人 受取り人	主内 容	備考
1	延宝 1	高寄帳	延宝五年 巳 八月	一冊	前嶋(破損)、松下 (破損)	高寄帳の写しか?	下半分破 損
2	享保 1	(取立帳)	(享保十七年)壬子 十一月六日	一冊	右馬之丞、安右衛 門、幸七、兵衛門	金子取立帳	
3	2	寅年流帳	享保十九年 寅 七月	一冊	大河原村	大河原村各地の畑の内、流れ畑面積	
4	元文 1	(㊟鉄砲御改帳	元文元年(享保二十 一年)辰 三月	一冊	信濃国伊那郡大河 原村、飯田御役所	威し鉄砲二十二挺、獵師鉄砲十八挺	
5	2	(㊟鉄砲御改帳	元文二年 巳 三月	一冊	信濃国伊那郡大河 原村、飯田御役所	威し鉄砲二十二挺、獵師鉄砲十八挺	
6	3	御公儀御用并郷中諸用書留帳	元文三年 午 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	元文三年と四年のそれぞれ一月から十 二月までの御用村用日記	
7	4	牛之永流田畑反別書上帳 控	元文三年 午 七月	一冊	前嶋右馬之丞 松下 久蔵	四月から七月まで洪水で流れてしま った各地の田畑の面積を	
8	5	大河原村当牛之荒所改帳	元文三年 午 八月	一冊	大河原村名主中	元文三年に荒所となつた地の調査記録	
9	6	御公儀御用并郷中諸用書留帳	元文五年 申 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	元文五年一月から十二月までの御用 村用日記	
10	寛保 1	御公儀御用并郷中諸用書留帳	(元文六年)寛保元 年 酉 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	寛保元年一月から十二月までの御用 村用日記	
11	2	御公儀御用并郷中諸用書留帳	寛保二年 戌 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	寛保二年一月から十二月までの御用 村用日記	
12	3	(㊟人馬并家数改帳	寛保二年 戌 八月	一冊	大河原村	家数百五十六軒、人数千百三十九人 (男五百八十六人、女五百五十三人) 馬数三十五匹	

13	寛保 4	御公儀御用并郷中諸用書留帳	寛保三年 亥 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	寛保三年一月から十二月までの御用 村用日記	
14	延享 1	御公儀御用并郷中諸用書留帳	(寛保四年)延享元 年 子 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	延享元年一月から十二月までの御用 村用日記	
15	2	(5)被官五人組帳	(寛保四年)延享元 年 子 三月	一冊	大河原村	大河原村五人組帳	
16	3	御公儀御用并郷中諸用書留帳	延享二年 丑 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	延享二年一月から十二月までの御用 村用日記(三年二月六日まで)	
17	4	上村 畑高反別改書上帳	延享二年 丑 二月	一冊	名主他	畑高反別書上げ帳の様式見本	虫食いひどい
18	5	大河原村当丑年起返り改帳	延享二年 丑 七月	一冊	大河原村名主所	丑年起返りの田畑の面積、持ち主など	
19	6	延宝七末年より延享二五年迄荒起返 仕訳帳	(延享二年)	一冊		延宝七年から延享二年までの荒所、起 こし返り地の反別、石量の記録	
20	7	当寅年御公儀様御触御用并村方諸用 留帳	延享三年 寅 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	延享三年一月から十二月までの御用 村用日記	虫食いひどい
21	8	(1) 指上ケ申一札之事 (2) 丑年御年貢勘定目録 (3) 去丑年伐出候御榎木代、材木… 差上帳書付 (4) 覚 (5) 覚 (*)覚	延享三年 寅 (1) 何月 (2) 三月 (3) 正月 (4) 九月 (5) 九月 (*) 正月	五通 一包 (*) 紙 み	(1) 何村名主他・吉 田八郎、藤井儀左衛 門 (2) 大河原名主他・ 御役所様 (3) 大河原他山方六 カ村名主・御役所 (4) 六カ村名主・吉 田八郎、藤井儀左衛 門 (5) 同 右 (*) 右馬之丞、七左 衛門、御役所	(1) 榎木山はましろん百姓持山からも みだりに諸木を切り出さない (2) 延享二年分の年貢の勘定目録 (3) 延享二年に切り出した代材木のう ち唐松材が見当たらないことについて 役所からの問い合わせの回答 (4) 田畑荒所について仰せ付けを承知し た (5) 当年分の榎木代材木がまだ用意で きていないことはあるまじきことだが時 期が過ぎたので速断なく取り掛かる (*) 延享二年分の榎、樺、姫子、楓の各 根伐数二千三百三十九本	

22	延享 9	延享三年 宗門御改帳 (2) 当年印形相改帳人数寛帳 (2)(5) 大河原村五人組印鑑改帳 (3) 宗門御改帳 (7) 御樽木山御改御吟味二付村中御 請書 (9) 家数御改帳	延享三年 寅 三月	五冊 一袋	大河原村	丑寛当年家数 二百九軒	
23	10	年々流起返書出覺帳	延享三年 寅 一月	三冊	大河原村名主所	延享七、八年、から元文三年までの間 の水流地などの記録	
24	11	当卯年御公儀様御触御用井村方諸用 留帳	延享四年 卯 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	延享四年一月から九月までの御用村 用日記	
25	12	延享四年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (5) 被官五人組帳 (5) (延享四年と寛延四年の五人組帳 下改め帳)	延享四年 卯 三月	四冊	大河原村	宗門改め關係帳	
26	寛延 1	卯屋両年起返御改写帳	(延享五年) 寛延元 年 辰(八月)	二冊	大河原村	(延享五年) 寛延元年八月に作成した 荒所起し返り地などの調査報告	
27	2	延享五年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 宗門御改増減帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳	寛延元年(延享五 年) 辰 三月 延享五年正月 延享五年三月	四冊	大河原村、	増人五十六人、減人九十五人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 人数千百四十二人(男六百八人、女五百 四十二人)	
28	3	当巳年御用井村用諸事書留帳)	寛延二年 巳 一月吉日	一冊	(前嶋右馬之丞政 俊)	寛延二年一月から十二月までの御用 村用日記	虫食いひら い
29	4	寛延二年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 宗門御改増減帳 (5) 門屋被官五人組帳	寛延二年 巳 三月 寛延二年正月 寛延二年三月	三冊	大河原村、	増人四十三人、減人六十八人 人数千百七十七人(男五百八十六人、女 五百三十一人)	
30	5	当午年御用井村用諸事書留覺帳	寛延三年 午 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	寛延三年一月から十二月までの御用 村用日記。御用状留帳が付属している	
31	6	信州伊那郡大河原村当年秋田方内見 合毛帳并見取田畑共三合帳	寛延三年 午 九月	一冊	大河原村名主所	各地田畑、持ち主調査の寛	

整理 番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 人	主 内 容	備 考
32	宝暦 1	当米御用井村方諸用事書留覚帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 一 月 吉 日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦元年一月から十二月までの御用 村用日記	
33	2	寛延四年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (5)門屋被官五人組帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 三 月	二冊	大河原村	人数千二百三十二人(男五百九十二人、 女五百三十人)	
34	3	差上申證文之事	(寛延四年)宝暦元 年 未 三 月	一通	右馬之丞被官久左 衛門他、名主組頭他	御樽木山だけでなく百姓持山からも 諸木をみだりにひいて売買し、	
35	4	四ヶ年勘定割渡し未年三分一取立勘 定纏込帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 六 月	一冊	大河原村	未年纏込帳	
36	5	焼畑下勘定諸法書留帳	(寛延四年)宝暦元 年 未 八 月	一冊	大河原村名主所	各地焼畑の面積、本途増減の覚	
37	6	当申御用井村方諸用事書留覚帳	宝暦二年 申 一 月 吉 日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦二年一月から十二月までの御用 村用日記	
38	7	去未年分百石毫分御蔵金高掛り取立 帳	宝暦二年 申 一 月 十 二 日	一冊	大河原村名主所	宝暦元年分の御蔵金高掛り取立帳	
39	8	去小巳年御代材木江戸御蔵所歩減取 立納勘定帳	宝暦二年 申 十 一 月	一冊	大河原村名主所	延享二年年貢代材木を納めたうち、歩 減分を各村で分担、大河原村分の分担	
40	9	大河原村去未送り当申年分郷中御用 井村入用大減取立割付帳	宝暦二年 申 十 一 月	一冊	代判市五郎、次三郎	宝暦元年に使い、二年に取り立てる村 入用費などの分担取立帳	
41	10	(4)宗門御改増減帳	宝暦三年 酉 一 月 十 一 日	一冊	大河原村名主他	宝暦二年分の宗門増減の調査報告、五 十二人増五十七人減、差引五人減	
42	11	去申年分百石毫分御蔵金高掛り取立 納帳	宝暦三年 酉 一 月 十 七 日	一冊	大河原村名主所	宝暦二年分の御蔵金高掛り取立帳	
43	宝暦 12	御年貢勘定纏込帳	宝暦三年 酉 二 月	一冊	大河原村	二月から四月の纏込の覚え書き	

44	13	差出申渡文之事	宝暦三年 西 二月	一通	鹿堀村名主他・ 大河原村名主他	宝暦三年四年分の年貢代材木も伐出 と運材を請け負うことの証文	
45	14	宝暦三年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (5)五人組帳下改帳帳 (6)鉄砲御改帳	宝暦三年 西 三月 宝暦三年 西 三月	四冊	大河原村名主他	威し鉄砲十九挺 獵師鉄砲十六挺	
46	15	江戸奏頼母子帳写	宝暦三年 西 八月	一冊	(名馬之丞写す)	頼母子講の仕様写し	
47	16	当酉御年貢御樽木代材木代金取立勘 定帳応帳	宝暦三年 西 十一月二十四日	一冊	大河原村勘定所	宝暦三年十月から五年二月までの帳 応覚之書き	
48	17	当酉御年貢御樽木代材木御代金取立 勘定帳	宝暦三年 西 十一月二十四日	一冊	大河原村名主所	宝暦三年分の年貢取り立て勘定帳	
49	18	去儿牛年御年貢御代材木江戸御蔵納 歩減弁納取立納帳	宝暦三年 西 十一月	一冊	大河原村名主所	延享三年年貢代材木を納めたら、歩 減分を多村で分担、大河原村分の分担	
50	19	酉十二月御年貢御代材木代金取立皆 済帳	宝暦三年 西 十二月十八日	一冊	大河原村名主所	当年年貢の取立計算帳	
51	20	大河原村去申送り当酉年分郷中御用 井村入用夫減賃割付取立帳	宝暦三年 西 十二月	一冊	代判治三郎、五郎三	宝暦二年に使い、三年分の村入用費な どの分担取立帳	
52	21	当戌御用井村用諸用書留覚帳	宝暦四年 戌 一月吉日	二冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦四年一月から十二月までの御用 村用日記	
53	22	宝暦四年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門御改増減帳 (5)門屋被官五人組帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事	宝暦四年 戌 三月 宝暦四年 戌 一月十一日	三冊 一通	大河原村・ 飯田御役所	増人五十六人、減人三十二人 人数五百七十六人(男六百十三人、女 五百六十三人)	
54	23	乍恐口上書を以申上候御事	宝暦四年 戌 七月	一通	大河原村名主他・飯 田御役所	大河原、鹿堀の御樽木山見分へ来村す る御林奉行様の迎えは定法通り	
55	宝暦 24	当十四日鹿堀村御願書差出候二付大 河原村江送参被仰付候二付乍恐明細 言上仕候御事	宝暦四年 戌 八月	一通	大河原村名主他・村 役人・飯田御役所	見分の御役人出迎え及び諸事に付、鹿 堀村と争ひ事で願書が出たがそれについ て返参を大河原村が言上した	

56	25	当戌年出御樽木棚狩御改帳	宝暦四年 戌 十一月十三日	一冊	大河原村	宝暦四年に出した樽木の品等、長短の 調べ	
57	26	当戌御年貢御樽木御代材木代金取立 納帳	宝暦四年 戌 十一月二十八日	一冊	大河原村	宝暦四年分の年貢御樽木代材木代金 取り立て勘定帳	
58	27	当戌釜輪矢食米拝借郷中割付帳	宝暦四年 戌 十一月	一冊	大河原村	宝暦四年分矢食米の分配割り付け帳	
59	28	御樽木請取野帳	宝暦四年 戌 十一月	一冊	飯田御役所	青木川初め渡場等の樽木の受け取り 帳、樽木の品等、数、木主などの記録	
60	29	当戌御樽木代仕入三分一銘々高割渡 帳	宝暦四年 戌 十二月六日	一冊	大河原村名主所	樽木代三分の一を高割りする	
61	30	御樽木代材木代金培済取立納覚	宝暦四年 戌 十二月六日	一冊	大河原村	村中樽木代材木の代金取り立て帳	
62	31	去酉送り当戌年分村入用費割付取立 皆済改帳	宝暦四年 戌 十二月九日	一冊	大河原村名主所	宝暦三年に使い、四年分の村入用費な どの分担取立帳	
63	32	去酉年送り当戌年分村入用費割付取 立皆済請取帳	宝暦四年 戌 十二月十二日	五冊	代判又六	大河原村村入用費の取立受け取り帳	
64	33	戌年取立高書出改覚	宝暦四年 戌	一冊	大河原村	諸費用など取り立てる際に基礎となる 高の書出し覚	
65	34	当亥御用井村用諸事書留覚帳	宝暦五年 亥 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦五年一月から十二月までの御用 村用日記	
66	35	去戌年分山林地代永取立納帳	宝暦五年 亥 一月十八日	一冊	大河原村名主所	宝暦四年分の山林地代永の取り立て帳	
67	36	去戌年出御樽木勘定取立納帳	宝暦五年 亥 一月十八日	一冊	大河原村	宝暦四年分の樽木勘定取り立て帳	
68	37	去戌年出御樽木木場改井中木廻勘定 帳	宝暦五年 亥 一月十八日	一冊	大河原村	宝暦四年に出した樽木の中木廻しの勘 定帳	
69	38	去戌年分百石巻分御蔵金高掛り取立 納帳	宝暦五年 亥 一月十八日	一冊	大河原村名主所	宝暦四年分の御蔵金の取立納帳	
70	39	去戌年御年貢勘定皆済過樽木高改書 出帳	宝暦五年 亥 二月十一日	一冊	大河原村	宝暦四年分年貢高計算帳	

71	宝暦40	去々末年分御年貢御代材木江戸木場入用遠州表御払木渡し信州葛嶋二而御払木引除入用掛り取立勘定帳	宝暦五年亥 二月十四日	一冊	大河原村	宝暦元年分の年貢代材木を出す際に必要だった経費の取立帳	
72	41	当々御年貢勘定纏込帳	宝暦五年亥 十一月十五日	一冊	大河原村	当年分纏込帳、宝暦五年から八年末までの覚	
73	42	当々御年貢金銭請取帳	宝暦五年亥 十一月二十九日	一冊	大河原村名主会所	宝暦五年分の年貢の金銭受け取り帳	
74	43	当々箕輪夫食米拝借郷中割付帳	宝暦五年亥 十一月	一冊	大河原村	宝暦五年分の夫食米の分配計算帳	
75	44	当御年貢取立勘定帳	宝暦五年亥 十一月	一冊	大河原村名主所	宝暦五年分の年貢取立帳	
76	45	去成年送り当々年分村入用費割付取立小割帳	宝暦五年亥 十二月九日	一冊	大河原村名主会所	宝暦四年に使った村入用費の取立帳	
77	46	(1)坂東道中記序 (2)坂東札所往来日記 (3)坂東三十三番札所御歌	宝暦五年亥 十二月八日 (宝暦六年正月)	三通	筆者不明	坂東二十四所寺、三十三番札所の回り方案内、信州より参るのに良い小トのガイド、三十三番札所詠歌の記	
78	47	当々年貢取立集帳	宝暦五年亥 十二月	一冊	大河原村惣百姓代 庄五郎	宝暦四年分の年貢取立帳	
79	48	ハケ国川除国役金割付帳	宝暦五年亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	川除国役金の割り当て分担金	
80	49	去々年分百石巻分御蔵金高掛り取立納帳	宝暦六年子 一月十七日	一冊	大河原村	宝暦五年分の御蔵金の取立納帳	
81	50	去々年分山林地代永取立納帳	宝暦六年子 一月二十一日	一冊	大河原村名主他	延享三年牛から宝暦五年までの六年間分の山林地代永の取立納帳	
82	51	亥年分御蔵金山林御地代集帳	宝暦六年子 一月二十三日	一冊	大河原村勘定場	宝暦五年分の御蔵金と山林地代の徴収帳	
83	52	宝暦六年宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (5)門屋雑官五人組帳	宝暦六年子 三月	二冊	大河原村・ 飯田御役所	人数千二百十人(男六百三十七人、女五百七十三人)	
84	53	申年六ヶ村立会御樽木御代材木御勘定目録用留帳	宝暦六年子 八月五日	一冊	大河原村名主他・ 飯田御役所	六ヶ村立会にてこれまでの樽木代材木納について納数、歩減数など	
85	54	酉年御年貢諸勘定六ヶ村立会引去皆済帳	宝暦六年子 八月十四日	一冊	大河原村	宝暦三年分の年貢諸勘定を六ヶ村立会で行った決算	

86	宝暦55	去申酉両年分御勘定割返金郷中江皆 済割渡帳	宝暦六年 予 八月	一冊	大河原村名主所	宝暦二、三年分の勘定の返金帳	
87	56	(御用井村用書留帳)	宝暦六年 予 八月	一冊	(前嶋右馬之丞)	宝暦六年八月から十二月までの御用 村用日記(◇即八月の内より)	
88	57	申年引去り目録	宝暦六年 予 八月	一通	右馬之丞他村役人、 飯田御役所	寛延三年歩減弁納、宝暦三年上納不 足、宝暦二年榎木値段切り替など	
89	58	大河原村堂社御調帳上納二付村中改 帳	宝暦六年 予 十月二十九日	一冊	大河原村名主所	村内各地にある御堂御社の調査、御社 七十四社、お堂二十ヶ所	
90	59	大河原村永荒川穴山崩流高持御改帳	宝暦六年 予 十月二十九日	一冊	大河原村名主会所	災害がどぞ荒地とどろた畑、川穴、山崩 れなどの高改帳	
91	60	当子御年貢御榎木代金勘定取立納帳	宝暦六年 予 十一月十五日	一冊	大河原村名主会所	宝暦六年の年貢取立帳	
92	61	六ヶ村御年貢御榎木井御代材木御代 金納額江戸詰惣代入用野割付帳	宝暦六年 予 十一月二十一日	一冊	大河原村	山方六ヶ村の年貢を金納するについて 願いのため在江戸の費用分担取立	
93	62	九両沢渡下と高橋入用書抜帳	宝暦六年 予 十一月二十九日	一冊	大河原村	橋をかけ道を作った人足賃、祭り分担 金、その他諸費用など、覚取立帳	
94	63	当子箕輪大食米拝借郷中割付帳	宝暦六年 予 十一月	一冊	大河原村	宝暦六年分の大食米の分配割り当り帳	
95	64	去去年送当子年分村入用費村中割付 取立小前小割掛帳	宝暦六年 予 十二月一日	一冊	大河原村名主会所	宝暦五年に使った村入用費を分担、取 り立て帳	
96	65	去ル酉年御年貢御代材木江戸御蔵所 歩減井遠州船積歩減弁納取立納帳	宝暦六年 予 十二月十四日	一冊	大河原村名主会所	宝暦三年に江戸へ納めた際に歩減木が 出た、それらの弁納分担取り立て	
97	66	戌年出御榎木刎木御引戻頂戴村中木 主方へ割渡し並清帳	宝暦六年 予 十二月十八日	一冊	大河原村名主会所	宝暦四年に出した榎木のうち、刎木と なつて戻された分を割り当て返す	
98	67	去ル酉年歩減金取立引去り一件改覚	宝暦六年 予 十二月二十二日	一冊	大河原村名主会所	宝暦三年分の歩減木弁納分担金の割 り当て計算取り立て帳	
99	68	(1、2)覚 (3、4)書簡	宝暦六年 予 十二月二十三日 他	四通	右馬之丞他、 飯田御役所	宝暦四年に出した榎木のうち、刎木にな つた分の代金、関連書簡	
100	69	(1)覚 (2)書簡	宝暦六年 予 十二月二十四日 他	二通 一包	市岡源九郎、棚橋元 右衛門、名主	材木歩減金の受取とそれについて書簡	
101	70	田畑荒所引高小前帳(控)	宝暦六年 予 十一、十二月	四冊	大河原村、 飯田御役所	宝暦六年十一月と十二月にお役所へ出 した荒所引高小前帳の写し	

102	宝暦71	子年分御年貢御勘定調申候事	宝暦六年 子	一冊	右馬之丞他	樽木と代材木による年貢納期が終わ	
103	72	(御用留日記)	(宝暦五、六年)	一冊	(前嶋右馬之丞)	宝暦五年十一月から宝暦六年六月ま	
104	73	六拾人取退大黒講仕組帳	宝暦七年 丑 一月吉日	一冊	林 三右衛門	六十人で言う大黒講と称する金廻の仕	
105	74	去子年分百石毫分御蔵金高掛り取立納帳	宝暦七年 丑 一月十八日	一冊	大河原村名主会所	宝暦六年分の御蔵金の取立納帳	
106	75	去儿戌年分御樽木刳木代再割渡し皆済帳	宝暦七年 丑 一月十九日	一冊	大河原村名主会所	宝暦四年に刳木に於た樽木を割り戻	
107	76	宝暦七年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門御改増減帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳	宝暦七年 丑 三月 宝暦七年 丑 正月十一日	四冊 一袋	大河原村・ 飯田御役所	増人七十人、減人六十一人 威士鉄砲十九挺、鐵師鉄砲十六挺 人数二百十九人(男六百三十九人、 女五百八十人)	
108	77	差上申渡文之事	宝暦七年 丑 三月	一通	大河原村名主他惣 百姓・飯田御役所	樽木山からはもちろん百姓持ち山から も諸木を切り出さない誓約	
109	78	当丑荒所見分書上帳	宝暦七年 丑 五月十一日	一冊	大河原村	五月三日から七日の洪水で荒所とら た地を見分し書き上げた	
110	79	銘々小前高附井流置事載帳	宝暦七年 丑 六月十一日	一冊	大河原村	洪水などで流れた荒所の高の覚	
111	80	当丑永荒所高書出帳	宝暦七年 丑 六月	一冊	大河原村安右衛門・ 飯田御役所	宝暦七年に荒所と高の高書出し	
112	81	(御用留帳)	宝暦七年 丑 九月	一冊	(右馬之丞)	宝暦七年九月から十二月までの御用 日記(二番帳初め人印とある)	
113	82	当丑御年貢御樽木成御代金納付中取立納帳	宝暦七年 丑 十月二十五日	一冊	大河原村	宝暦七年分の年貢取り立て帳	
114	83	去儿戌年御年貢御代材木江戸御蔵前歩減金奉納取立納帳	宝暦七年 丑 十月二十八日	一冊	大河原村名主会所	宝暦四年に出た代材木の歩減分の奉納 金の分担取立帳	
115	84	田畑荒所引高小前帳	宝暦七年 丑 十月	一冊	大河原村	以前に出した小前帳の改定再提出版	
116	85	覚	宝暦七年 丑 十一月二十五日	一冊	右馬之丞他	分担金取立帳 計算帳	

117	宝暦 86	去子年送当丑年分村入用費村中割付 取立小高小割掛帳	宝暦七年 丑 十一月二十八日	一冊	大河原村名主会所	宝暦六年に使た村入用費の分担取立 帳	
118	87	当丑箕輪夫食米拝借郷中割付帳	宝暦七年 丑 十一月	一冊	大河原村	宝暦七年分の夫食米の分配割り当り帳	
119	88	当丑銘々小前御年貢納高辻改帳	宝暦七年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	宝暦七年分の年貢高計算帳	
120	89	覚	(宝暦七年) 丑 十二月	一冊		諸費用の取立帳	
121	90	当寅御用井村用諸用留日記覚帳	宝暦八年 寅 一月吉日	四冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦八年一月から十二月までの御用 村用日記	
122	91	去丑年分御蔵金百石是分高掛り取立 納帳	宝暦八年 寅 一月十二日	一冊	大河原村名主会所	宝暦七年分の御蔵金の取立納帳	
123	92	宝暦八年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門御改増減帳 (5)門屋被官五人組帳 (7)(御樽木山證文一通門屋被官分) 差上申證文之事	宝暦八年 寅 三月 宝暦八年 寅 一月十一日	三冊 一通 一袋	大河原村・ 飯田御役所	増人四十七人、減人四十五人 人数千二百二十一人(男六百四十三 人、女五百七十八人)	
124	93	差出申一札之事	宝暦八年 寅 三月二十三日	一通	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
125	94	当寅三月去丑年分荒所再御見分改書 上帳	宝暦八年 寅 三月二十六日	一冊	大河原村	宝暦七年に荒所となった地を再見分し 改め書上げ帳	
126	95	去丑年新規二六尺給米山林口永被仰 付取立勘定納帳	宝暦八年 寅 四月十三日	一冊	大河原村	新たに六尺給米、山林口永が課せられ たので取り立てる	
127	96	(重簡および同封二覚)	宝暦八年 寅 四月十六日	一通	市岡源九郎他・ 大河原村名主	六尺給米、山林永などと帳面、書付を 受け取った、余分に納めた一文を返す	一文銭 同 封
128	97	差出申一札之事	宝暦八年 寅 九月七日	一通	掛塚湊屋九兵衛他・ 前嶋右馬之丞	御用木と敷木材木回船の請負状	
129	98	覚	(宝暦八年) 寅 九月	一通	回船総代長三郎・ 湊屋九兵衛他三名	示したような川並値段の運賃、材木を 運搬する	
130	99	田畑荒所引高小前帳	宝暦八年 寅 十月	二冊	大河原村	荒所となった田畑の年貢減額高	

131	宝暦100	箕輪米夫食拝借割渡帳	宝暦八年 寅 十一月七日	一冊	大河原村	宝暦八年分の米食米の分配帳	
132	101	当寅拾五年機御年貢定免切替り小前取立上納帳	宝暦八年 寅 十一月七日	一冊	大河原村	宝暦八年分の年貢取り立て帳	
133	102	覚	(宝暦八年) 寅 十一月十一日 寅	一冊		年貢を取り立てるにあたり、田畑の謄渡など調査	
134	103	当寅銘々小前年貢納高辻改帳	宝暦八年 寅 十一月	一冊	大河原村名主会所	宝暦八年分小前年貢高帳	
135	104	去丑年分六尺給米取立皆済帳	宝暦八年 寅 十二月十三日	一冊	大河原村	宝暦七年分の給米山林口永などの取り立て帳	
136	105	去丑年送当寅年分村入用費村中割付取立小前小割掛帳	宝暦八年 寅 十二月十三日	一冊	大河原村名主会所	宝暦八年分の村入用費の分担取り立て	
137	106	米食米割渡覚	(宝暦八年) 寅 十二月十八日	一冊	右馬之丞	宝暦八年分の米食米分配覚	
138	107	薪山割付改覚	(宝暦八年) 寅 十二月十九日	一冊	大河原村名主所	宝暦八年分の薪木代など分担取り立て	
139	108	当卯御用井村用諸用書留ノ日記覚帳	宝暦九年 卯 一月吉日	三冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦九年一月から十二月までの御用村用日記	
140	109	仕候借用預かり證文之事 預り申金字之事	宝暦九年 卯 一月十一日	三通 一包	吉次郎他三名・香松寺	香松寺大鐘建立と本道修繕の費用を村方入用費に願う。	一通は金額の覚書
141	110	去寅年分御蔵金百口巻分高掛り取立納帳	宝暦九年 卯 一月十一日	一冊	大河原村名主会所	宝暦八年分の御蔵金の取立納帳	
142	111	宝暦九年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 宗門御改増減帳 (5) 門屋被官五人組帳	宝暦九年 卯 三月 宝暦九年 卯 一月十一日	三冊 一袋	大河原村・飯田御役所	増人五十三人、減人四十一人 人数千二百三十三人(男六百五十二人、女五百八十一人)	
143	112	「」掛塚湊積出船持共江紀敷被御触奉願上候御事	宝暦九年 卯 十月	一通	右馬之丞・飯田御役所	掛塚湊の船主たちに材木の積み出しを油断なく行いうように伝える願ひ	
144	113	当卯御師向家別掛寄帳	(宝暦九年) 卯 十一月一日	二冊	代判	御師にかかる費用を分担、一人十五文	
145	114	当卯御年貢勘定取立納帳	宝暦九年 卯 十一月九日	一冊	大河原村名主所	宝暦九年分の年貢取り立て帳	

146	宝暦 115	当卯夫食御拝借箕輪米郷中割付帳	宝暦九年 卯 十一月九日	一冊	大河原村名主会所	宝暦九年分の夫食米の分配	
147	116	当卯箕輪夫食米割渡帳	宝暦九年 卯 十一月二十二日	一冊	大河原村名主会所	宝暦九年分夫食米の分配割り渡しの 覚え	
148	117	六ヶ国川々海道御普請御入用因役高 掛り金取立納帳	宝暦九年 卯 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	宝暦九年の川除普請の分担金取立帳	
149	118	去寅年送当卯年分村入用費村中割付 取立小高割掛普済帳	宝暦九年 卯 十一月晦日	一冊	大河原村名主会所	宝暦九年分の村入用費の取立帳	
150	119	(部分につき題目不明)	宝暦九年 卯 十一月	一通	右馬之丞 飯田御役所	宝暦十年から五ヶ年の御用木伐出請書 (表題なし、部分と思われる)	
151	120	御用書付	(宝暦九年 卯 十二月二十九日	一通	飯田御役所・大河原 村名主右馬之丞	御用木仕出しにつき御用、一月三日に 出頭せよ	
152	121	新木代割付渡帳	宝暦九年 卯 十二月	一冊	大河原村代判会所	新木代金の割付	
153	122	当辰御用并村方諸御用木方惣用留 入(整理袋)	宝暦十年 辰 正月吉日	一袋	右馬之丞	宝暦十年の諸書付、書簡などの整理 袋、宝暦九年九月の書付を使用	
154	123	受取申金予之事	(宝暦十年)(卯)辰 力 正月二日	一通	前嶋右馬之丞・ 伊勢屋川久右衛門	金百両の受取状	宝暦十年の 袋入り
155	124	覚	(宝暦十年)辰 正月六日	一通	右馬之丞 飯田御役所	江戸へ出立につき添え状一通の受け取 り状	
156	125	乍恐書付を以奉願上候御事	宝暦十年 辰 正月十七日	一通	右馬之丞・ 千村平右衛門	御用木御仕入れ金前借の願ひ	
157	126	書付を以奉申上候御事	宝暦十年 辰 正月十七日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用木仕入れ金の前借について	
158	127	乍恐書付を以奉申上候御事	宝暦十年 辰 正月二十三日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用木請け負うについて仕入れ金を前 借する件	
159	128	御用書付	(宝暦十年)辰 一、二、三月	三通	棚橋元右衛門市岡 佐蔵・名主右馬之丞	金予之受け取り、川除普請などにつ いての御用に付役所への出頭	宝暦十年 袋入り
160	129	以書付を奉申上候御事	宝暦十年 辰 正月	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用木仕入れ金の前借について、秩父御 手山や遠山の前例について	
161	130	以書付を奉申上候御事	宝暦十年 辰 正月	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用木の仕入れ金の担保について	

162	宝暦 131	乍恐以書付を御願奉申上候御事	宝暦十年 辰 正月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用木仕入れの前借金を月割で願いた い	
163	132	差上候一札 借用申金之事	宝暦十年 辰 二月一日	二通	右馬之丞・飯田御役 所・中川三十郎	四百両を中川三十郎から借りた證文 と、それを飯田御役所へ知らせた書付	
164	133	乍恐書付を以奉申上候御事	(宝暦十年)辰 二月二十二日	一通	右馬之丞・村平右 衛門御役所	御用木仕出しを勤めるにあたり日程な ど予定の件	宝暦十年の 袋入り。
165	134	永相續仕候間願之通御免被仰付被下 置歴控	宝暦十年 辰 二月	一通	右馬之丞他村役人・ 飯田御役所	山林水、六尺給米、口永他田畑数など 書付下書き	
166	135	(1)鍛冶方諸品請取貫目改帳 (2、3)寛	宝暦十年 辰 二月	三件	御用木元び会所	杉用具買入れおよび修理費などの寛 えと御用木仕出し入用寛	
167	136	書簡	(宝暦十年)辰 二、五、八、九月	四通	飯田御役所・ 大河原村名主	御用木仕出しに付願いと請状の提出に ついて御用	宝暦十年 袋入り
168	137	書簡	(宝暦十年)辰 三月七日	一通	飯田御役所・大河原 村名主・右馬之丞	御用木仕出しにつき役人が出役・駕籠 の手配や準備金の受け取りなど通達	宝暦十年の 袋入り
169	138	寛	宝暦十年 辰 三月二十三日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	仙方、日雇方と米代として金二百両受け 取った	
170	139	乍恐口上書を以奉言上候	(宝暦十年)辰 三月二十三日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	三月中旬に受けた材木仕入れ金につい て言上	宝暦十年の 袋入り
171	140	宝暦十年 (7)(御樽木山證文一通門屋被官分) 差上申證文之事	宝暦十年 辰 三月	一通	大河原村 飯田御役所	御樽木山の諸木をみだりに切らない	
172	141	差出し申一札之事	宝暦十年 辰 三月	一通	惣百姓代、小代判・ 名主他村役人	当年の惣百姓代、小代判を引き受けた が何事によらずその仕に勤む	
173	142	寛	宝暦十年 辰 四月二日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	金二百両の受け取り状	
174	143	寛	宝暦十年 辰 四月十三日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	日雇と米代金二百両の受取状	
175	144	寛	宝暦十年 辰 四月十三日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	三回に分けて計五百両を、材木仕入 れ、日雇、米代金として受け取った	
176	145	寛	宝暦十年 辰 四月十四日	一通	右馬之丞・兵左衛 門・飯田御役所	日雇と米代として金五十両の受取状	

177	宝暦 146	御用書付	宝暦十年 辰 四月十五、十七日	三通	飯田御役所・ 大河原村名主	延享元年二年の検地帳を差し出す件 と、その理由について	宝暦十年 袋入り
178	147	大河原村山より御材木仕出被仰付候 ニ付御請書左奉申上候	宝暦十年 辰 (五月二二日)	一冊	右馬之丞他、千村平 右衛門御役所	宝暦十年から五カ年の材木仕出しの 定書上げ帳	
179	148	覚	宝暦十年 辰 五月六日	一通	湯浅備兵衛・大河原 村名主右馬之丞	御用材木仕入れ金五百両を江戸から 届けた費用の銭五貫文の受け取り状	
180	149	書付を以奉申上候御事 覚	(宝暦十年)辰 五月八日	二通	右馬之丞、傳左衛門 飯田御役所	材木積み場の葛嶋渡場を見分した、材 木積み場の見取り図の覚え	宝暦十年の 袋入り
181	150	覚	宝暦十年 辰 五月十七日	二通	右馬之丞・ 山方御奉行	四月末までの材木田木数の知らせ 縦樫以外の樹種、縦樫の数の知らせ	宝暦十年の 袋入り
182	151	覚	宝暦十年 辰 五月十七日	一通	右馬之丞・ 山方御奉行	四月末日までに材木三千本の準備がで きた	
183	152	覚	宝暦十年 辰 五月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	五百両を御仕入れ金として確かに受け 取った	
184	153	乍恐口上書を以奉願上候御事	宝暦十年 辰 五月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用材木仕入れについてお願い	
185	154	乍恐口上書を以奉申上候御事	宝暦十年 辰 五月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用材木伐出の月割り仕入れ金について	
186	155	信州伊那郡大河原村御樽木山より御 用水伐出し願之通被仰付候ニ付差上 候御請書之事	宝暦十年 辰 五月	一冊	大河原村名主右馬 之丞他村役人・ 千村平右衛門	宝暦十年から五カ年の御用材木伐出 しの請け状、数など詳細	
187	156	書付を以奉申上候御事	宝暦十年 辰	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用材木伐下り廻船の御用日の丸の ぼり入用金について	
188	157	書簡、書付	(宝暦十年)辰 五月	六通	松井左衛門・ 前嶋右馬之丞	御師松井左衛門が旦那衆に近くまぐさて いるのに訪ねることについて苦情	宝暦十年の 袋入り
189	158	御用書付	(宝暦十年)辰 六月三日	一通	棚橋元七・ 右馬之丞	諸事御用に付出頭のこと、右馬之丞に よるメセ書きあり	宝暦十年の 袋入り
190	159	覚	(宝暦十年)辰 六月五日	二通	右馬之丞・ 飯田御役所	縦と樫材木千八百本を出木した 同一内容の二通	宝暦十年の 袋入り
191	160	乍恐書付を以願上奉候御事	宝暦十年 辰 六月五日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	材木仕入れの金の月割り金二百両を 七月上旬にはばし	

192	宝暦 161	寛	(宝暦十年)辰 六月九日	一通	右馬之丞・ 山方御奉行	御用木根伐株の改めのための極印を受 け取った	宝暦十年の 袋入り
193	162	乍恐書付を以奉申上候御事	(宝暦十年)辰 六月十一日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	材木仕入れ金の支払いが遅れている、借 入金を送すので支払してほしい	宝暦十年の 袋入り
194	163	差上申御請書之事 御尋二付申上候口上之事	(宝暦十年)辰 六月	二通 一包	右馬之丞・ 飯田御役所	御用一件の控へ、一通は以前の村人に ついでに合ませに送る回答	宝暦十年の 袋入り
195	164	寛	宝暦十年 辰 六月	一冊	右馬之丞他村役人・ 飯田御役所	下田、中畑、下畑、屋敷、竹木の売り買 い値段概要の覚書等し	
196	165	書簡と書付下書き 「下御尋之趣御答奉申上候御事」	(宝暦十年)七月四 日(書簡日付)	二通	井上柳八・ 右馬之丞	材木仕出しについて回答書付について、 訂正の上提出された	宝暦十年の 袋入り
197	166	御用書付	(宝暦十年)辰 七月二十六日	一通	市岡佐蔵柳橋元右 衛門・大河原村名主	去る十七、十八、十九日の大雨で溝 水、谷抜け流れ場について	宝暦十年の 袋入り
198	167	指上候御請書	(宝暦十年)辰 七月	一通	大河原村名主代・ 飯田御役所	六尺給米、山林口永上納の免除を願 うが果たせず、願書の返却を受ける	宝暦十年の 袋入り
199	168	(1)御用書付 (2)寛	(宝暦十年)辰 八月五、十一日	二通	飯田御役所・ 鹿嶋、大河原村	去る戌から寅までの年貢、酉と戌の材 木歩減について、現状受け取り覚え	宝暦十年の 袋入り
200	169	差上候書付	(宝暦十年)辰 八月八日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	敷木運上木を納入するが、葛嶋波場に 材木を積み付けについて願	
201	170	乍恐書付を以御断奉申上候事	宝暦十年 辰 八月八日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	晴天が続いたので材木を渡入れした、 川底のお触れ、入用金などを願う	
202	171	(1)書簡 (2)寛	(宝暦十年)辰 八月十日	二通	鹿嶋村名主・ 大河原村名主	酉から寅年までの勘定に付飯田で村々 立ち会う、国役金割付覚え	宝暦十年の 袋入り
203	172	乍恐書付を以御達奉申上候事	(宝暦十年)辰 八月十四日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	材木を渡入した、モミの材木は納めら れず、白樺やトウなどを納めたい	
204	173	乍恐書付を以奉願上候御事	(宝暦十年)辰 八月十五日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	材木敷木五百本三割過不足の願と葛 嶋波場に材木を積み付けについて願	宝暦十年の 袋入り
205	174	戌年御年貢勘定六ヶ村立会控帳	宝暦十年 辰 八月十六日	一冊	大河原村	宝暦四年分の年貢の決算を六ヶ村立会 で行った控	
206	175	木品御吟味付御断奉申上候	(宝暦十年)辰 八月十八日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	縦材木の代わりに白樺、唐榿などを納 めたい、白樺の材木についての説明	宝暦十年の 袋入り
207	176	以書付奉申上候事	(宝暦十年)辰 八月十九日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	葛嶋波場へ材木を揚げする仕事及び運 上材木の納入について申し立て	宝暦十年の 袋入り

208	宝暦 177	以書付奉申上候事	(宝暦十年)辰 八月十九日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	材木数が不足のときは運上木で補うか または代金を返す	宝暦十年の 袋入り
209	178	差上申御請書之事	宝暦十年辰 八月二十四日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	葛嶋渡場に材木を積み付けは請ける、縦 が不足なので白樺唐槽などで納める	
210	179	寛	(宝暦十年)辰 八月二十四日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	運上木五百本は三割選不足があっても 必ず年々納める	宝暦十年の 袋入り
211	180	乍恐書付を以御断奉申上候	(宝暦十年)辰 八月二十五日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	筏下げ入用金など受け取るまで、右馬 之丞、材木問屋中川三十郎、又兵衛の 印形をもって受け取れるよう願う	宝暦十年の 袋入り
212	181	乍恐口上書を以奉申上候	(宝暦十年)辰 八月	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	御用木筏下りと江戸までの廻船に立て る日の丸幟について	宝暦十年の 袋入り
213	182	辰年御年貢勘定目録	宝暦十年辰 八月	一通	右馬之丞他村役人、 飯田御役所	宝暦十年辰年の年貢勘定書 (宝暦十一年巳二月が消してある)	
214	183	口上	(宝暦十年)辰 九月四日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	小浜川に材木を流すにあたり部奈村 が通り道になる件について知らせ	
215	184	寛	宝暦十年辰年 九月五日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	葛嶋渡場材木積み場の引渡し受取状	
216	185	寛	(宝暦十年)辰 九月八日	一通	右馬之丞・ 山方御奉行	樺、縦、唐松など材木五千五百本を出 木する	宝暦十年の 袋入り
217	186	寛	(宝暦十年)辰 九月八日	一通	右馬之丞・ 山方御奉行	材木五千五百本が出来、渡入れする 知らせ	宝暦十二 年の袋入り
218	187	寛	(宝暦十年辰年) 九月十一日	一通	鹿嶋村組頭、 大河原村名主	役所からの回状受取状	宝暦十年の 袋入り
219	188	御年季中御用木御取扱被成下候様仕 度添書二申上候御事	宝暦十年辰 九月十一日	一通	右馬之丞・村平右 衛門御役所	材木の天竜川流し、出水、掛塚湊から の積み出し材木渡場での扱いなど	
220	189	借用申金予之事	(宝暦十年辰年) 九月十一日	一通	前嶋右馬之丞・飯田 本町校井藤次郎	六十両の借用証書	宝暦十年の 袋入り
221	190	以書付御請申上候御事	(宝暦十年)辰 九月十五日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	極印三挺を受け取ったこの極印は天 竜川を流す材木に印す、	宝暦十年の 袋入り
222	191	差上申書付之事	(宝暦十年)辰 九月十六日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	天竜川両岸の村々への御用木下ろしの 触書之事	宝暦十年の 袋入り

223	宝暦 192	覚	(宝暦十年)辰 九月十七日	一通	部 奈村名主・ 大河原村名主衆中	千村平右衛門様よりの廻状と触書帳 面を受け取った	宝暦十年の 袋入り
224	193	書簡	(宝暦十年)辰 九月二十一日	一通	中川三十郎 又兵衛・ 前嶋右馬之丞	御用水伐出入用のこま長文の手紙	虫。食い有
225	194	書簡	(宝暦十年)辰 九月二十一日	一通	前嶋右馬之丞・ 部 奈村名主	御用水小渋川を流した際の満水の件	宝暦十年の 袋入り
226	195	覚	(宝暦十年)辰 九月二十二日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	川除普請の入用米代を受け取った	宝暦十年の 袋入り
227	196	書簡	(宝暦十年)辰 九月 廿二から廿四日	三通	部 奈村名主・ 前嶋右馬之丞	材木川下げて雑木、苗木植ふ下草刈 りなどお役所下知なしには行わない	宝暦十年の 袋入り
228	197	覚	(宝暦十年)辰 九月二十八日	一通	中野村・ 大河原村兵左衛門	薪木雑木など代金受取状	宝暦十年の 袋入り
229	198	書簡	(宝暦十年)辰 九月二十九日	一通	飯田御役所・小川、 加々々須、鹿塩、大河 原村様名主	御料所巡見御廻村に際し村々が差し 出すべき書き物の用意等についての知ら せ	宝暦十年の 袋入り
230	199	天龍興側通信州大河原村御林より出 候御材木二付川長村々江御触書之趣 奉承知差上候御請書帳	宝暦十年 辰 九月	一冊	大河原村名主組頭・ 天竜川川長村々	御用水を天竜川に流すことより天竜川 治いの川長村々に知らせる請書	
231	200	覚	宝暦十年 辰 九月	一通	宇都只右衛門・ 大河原村名主	当辰年の国役金納入不足銀三匁四分 九厘の請求書	
232	201	書簡	(宝暦十年)辰 九月	一通	千村平右衛門・天龍 川治村々名主組頭	残下り江戸まで、流失などないように お触れを天龍村々に伝える	宝暦十年の 袋入り
233	202	味一伴留帳 控	宝暦十年 辰 十月 八日 十月十日	三通	右馬之丞 飯田御役所	材木の天龍川下り、川長、出水流失な ど損木あるときの舟木の方法など	
234	203	作恐書付を以奉願上候	(宝暦十年)辰 十月九日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	小渋川長の際、部 奈村内道橋の通行が できるように道橋の造請をいただく	宝暦十年の 袋入り
235	204	覚	(宝暦十年)辰 十月十五日	一通	水野市蔵・ 右馬之丞	返上した極印の受取状	宝暦十年の 袋入り
236	205	覚	(宝暦十年)辰 十月二十九日	一通	宿儀より	右馬之丞を召し連れて屋敷に出頭す る通知帳	宝暦十年の 袋入り
237	宝暦 206	覚	(宝暦十年)辰 十月	一通	右馬之丞・ 野口村	米食米二十二石余りの受取状	宝暦十年の 袋入り

238	207	書付を以申上候	(宝暦十年)辰 十月	一通	右馬之丞・ 舟明御役所	御用木を御塚まで運ぶなどについては、 与左衛門に仰付付けられたい	宝暦十年の 袋入り
239	208	宿手形之事 他	宝暦十年 辰 十一月	十七 通		材木切り出し現場の宿泊人数など、支 払いのための手形と関連文書	
240	209	久蔵方分川除下絵 控	(宝暦十年)	絵図 一枚		市場前、義師堂周辺の地における川除 の場の絵図	宝暦十年の 袋入り
241	210	書付を(以)奉申上候御事	(宝暦十年)	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	〆用木伐下、船方御用日の丸幟 御入 用金について	宝暦十年の 袋入り
242	211	乍恐口上書を以御吟味御答奉申上候	(宝暦十年)	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	〆用木伐出の手順などについて吟味に対 するたえ	宝暦十年の 袋入り
243	212	三月十九日二被仰遣候御材木方御用 同二十一日二出勤二十二日於御役所 様二被仰渡候一件承知則答仕候次第	宝暦十年 辰	一冊 と 覚書 二通	大河原村名主他 村 役人 千村 平 右衛門様 御 役所	材木方御用についておおせわされた 一件承知の次第、他は日付なしの覚書 二通様々込み、意反列(三番)と材木仕 入れ金について(三番)	
244	213	(表題なし、年号記入なし)	(宝暦十年)	五通		宝暦十年の袋入り下書きなど五通	
245	214	乍恐書付を以奉願上候	宝暦十一年 巳 三月	四通	右馬之丞他村役人・ 御巡見御役人衆中	去る丑年に仰付付けられた六尺給米と 山林口承は御免願いたい、他三通	
246	215	宝暦十一年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門御改増減帳	宝暦十一年 巳 三月 宝暦九年 卯 一月十一日	二冊	大河原村・ 飯田御役所	増入五十人、減入三十六人 人数二百二十七人(男六百五十一 人、女五百七十六人)	
247	216	覚	宝暦十一年 巳 六月二日、七月三日	三通	名主右馬之丞兵左 衛門、山方奉行	宝暦御用木 宝暦十一年六月と七月の 出来数報告	宝暦十二 年用状 袋 入り
248	217	此度御巡見御名前并国府	宝暦十一年 巳 八月	一通		このたびの巡見使の名前と巡見の国々の 名前	
249	218	一札之事	宝暦十一年 巳 九月	一通	問屋・ 川島	材木を船積する件	
250	219	当已御年貢勘定小前取立上納帳	宝暦十一年 巳 十一月二十日	一冊	大河原村名主所	宝暦十一年分の年貢取り立之帳	
251	宝暦 220	当已箕輪大食米割渡帳	宝暦十一年 巳 十一月二十日	一冊	大河原村名主所	宝暦十一年分の大食米の分配渡之帳	

252	221	当已去食御拝借其輪米郷中割付帳	宝暦十一年 巳 十一月二十日	一冊	大河原村名主所	宝暦十一年分の米食米の分配	
253	222	御用木并敷木御材木当川入之谷々 改書帳	宝暦十一年 巳 十一月	一冊	大河原村	巳年に切り出した材木の本数、二間一 尺角廻し数、各伐出場所別記録	
254	223	去ル戌年歩減請取割付取立帳	宝暦十一年 巳 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	宝暦四年に出た歩減木の年納の分担取 り立て帳	
255	224	当巳年高役金割付帳	宝暦十一年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	宝暦十一年分の高役金の割り当て	
256	225	当巳六尺給米山林口永休り人数御願 帳	宝暦十一年 巳 十二月	一冊	大河原村	宝暦十一年分の山林口永などの取り立 て寛	
257	226	薪代休小使共方江割付渡帳	宝暦十一年 巳 十二月	一冊	大河原村代刺会所	薪代など受け取り帳	
258	227	当巳年家別掛り取立帳	宝暦十一年 巳 十二月	一冊	大河原村代刺	宝暦十一年分の諸経費取り立て帳	
259	228	去辰年送り当巳年分村入用費村中割 付取立小前割掛増減帳	宝暦十一年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	宝暦十一年分の村入用費の取り立て増 減帳	
260	229	(村木荷物書付)	(宝暦十一年)巳 十二月	一通	岩間四郎兵衛他・河 嶋与左衛門	十一月十五日辰左衛門乗る船が出船 した、材木荷物の数などの件	宝暦十二 年の袋入り
261	230	寛 他二通	(宝暦十一年)巳 十二月	三通	右馬之丞 飯田御役所	御用木と敷木、巳年分根伐数報告、 寛の下書きと訂正文書、計算書付	
262	231	表題不明(日記手帳)	宝暦十一年 巳	一冊	(右馬之丞伴 兵左 衛門)	一月十一日から十二月二十一日まで 諸用書留日記手帳	
263	232	当午御用井村方諸用書留寛帳	宝暦十二年 午 正月吉日	一冊	前嶋右馬之丞	十二年一月一日から四月十七日まで の御用村用日記「一ノ終わり△印終」 の記入有り	
264	233	(当午御用井村方諸用書留寛帳)	(宝暦十二年)	二冊 一袋	(前嶋右馬之丞)	四月七日からと四月十日から五月二 十四日まで二分冊、横と縦の帳の違いは あるが題目の日記帳の第二、第三冊目 か	
265	234	当午年御用村用諸用書留帳入 (袋)	宝暦十二年 午 正月吉日	一袋		主に宝暦十二年の書留入り袋、辰年の ものも入っていた	

266	宝暦 235	覚	宝暦十二年 午 正月十三日	一通	不明； 飯田御役所	湯浅儀兵衛他役人の三泊四昼の食事に 要した米の量	
267	236	書簡	宝暦十二年 午 一月十四日	二通	(井上)柳八・ 前嶋右馬之丞	御出仕前の急用で江戸屋敷に御状一通 届けてほしい、返却すべき書付未念	
268	237	去已年分御蔵金百石老分高掛り取立 帳	宝暦十二年 午 一月二十日	一冊	大河原村名主会所	宝暦十一年分の御蔵金の取り立て帳	
269	238	覚	宝暦十二年 午 正月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用木の葛嶋渡場における間知の際に 必要だった米持米や日雇賃の覚え	
270	239	御吟味三付書付を以申上候	宝暦十二年 午 一月	一通	右馬之丞他 村役 人・飯田御役所	六尺給米・山林口米など仰せ付けられ たが御免願いた	
271	240	(前半なし、題目不明)	宝暦十二年 午 一月	一通	右馬之丞 飯田御役 所	扶持米代金・金予の受け取り	
272	241	御用木去り辰年御材木御蔵納仕上井 江戸参三而御用木一件方諸用字控帳	宝暦十二年午(己は 誤り)二月三日	一冊	右馬之丞	宝暦十年納入の材木について江戸での 諸用書留帳・三番帳とある	虫食い有り
273	242	覚	(宝暦十二年)午 二月三日	一通	中川三十郎 同 又 兵衛・御役所	辰年の豊松元役数と値段について	宝暦十二 年の袋入り
274	243	覚	(宝暦十二年)午 二月八日	一通	丸山忠兵衛・ 安橋	定右衛門、定へとも名乗っていた男につ いて心当たりを知らずほしい	宝暦十二 年の袋入り
275	244	信州伊那郡大河原山御用木井御入用 仕上帳 他五通	宝暦十二年 午 二月	一冊 他	右馬之丞・中川三十 郎 同 又兵衛	宝暦十年の納材木について 他の五通は挟み込み書付	虫食いひと い
276	245	信州大河原辰年御用木穴塚廻り運賃 差引仕上げ帳	宝暦十二年 午 二月吉日	一冊	中川三十郎 同 又兵 衛・前嶋右馬之丞	辰年御用木の運賃出入りについての覚 書付	
277	246	信州大河原辰年御用木御材木蔵江上 納運送入用仕上帳	宝暦十二年 午 二月吉日	一冊	尾沢又兵衛・ 前嶋右馬之丞	辰年御用木を材木蔵へ納入するにあた りて請負入用金出入りの覚え	
278	247	信州大河原御用木卯年より午二月迄 諸入用仕上帳	宝暦十二年 午 二月吉日	一冊	中川三十郎 同 又兵 衛・前嶋右馬之丞	卯年から午年二月までの御用木仕出し にかから出入り金覚え	
279	248	御吟味三付書付を以奉申上候御事	宝暦十二年 午 三月二十二日	一通	中川三十郎 同 又兵 衛・村平右衛門御 役所	買い上げた材木について吟味に答えた書 付	宝暦十二 年の袋入り
280	宝暦 249	借用申金予之事 覚	(宝暦十二年)午 三月二十九日 他	四通	右馬之丞・ 中川三十郎	借用証と金銭受け取り状の一切み四 通	宝暦十二 年の袋入り

281	250	宝暦十二年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門御改増減帳 (5)門屋禁官五人組帳 (6)鉄砲御改帳	宝暦十二年 午 三月 宝暦十二年 午 一月十一日	四冊	大河原村・ 飯田御役所	増入五十二人・減入三十五人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 人数二百四十四人(男六百五十六 人、女五百八十八人)	
282	251	差上申送文之事	宝暦十二年 午 三月	一通	大河原村名主他惣 百姓・飯田御役所	樽木山はもちろふ百姓持ち山からみた りに諸木を切り出して売買しない	
283	252	差上申一札之事	宝暦十二年 午 三月	一通	惣百姓代と各耕地 代判・名主他村役人	惣百姓代・小代判を引き受けるが何事 によらずその任に就む	
284	253	書簡(亨し)	宝暦十二年 午 四月七日	一通	右馬之丞・中川三十 郎他・大田五郎八他	書簡亨し、四郎兵衛と廻船方出入りに 着いて	
285	254	差上申御請書之事	宝暦十二年 午 四月八日	一通	中川三十郎同 又兵 衛・右馬之丞・千村 平右衛門御役所	辰年に切り出した數木のうち唐松材 木を納入する件	
286	255	寛	(宝暦十二年)午 閏四月八日	一通	御勘定所・ 御村木奉行所	赤松木數百三十本を中川三十郎が納 めた	宝暦十二 年の袋入り
287	256	寛	宝暦十二年 午 四月十日	一通	中川三十郎・千村平 右衛門御役所	材木値段は一両につき尺八本替え ある	宝暦十二 年の袋入り
288	257	乍恐口上書を以奉申上候	(宝暦十二年)午 四月十日	一通	中川三十郎 同 又 兵衛 右馬之丞・御 役所	唐松材木を納めるにあたって聞知改めの 件	宝暦十二 年の袋入り
289	258	書簡	(宝暦十二年) 午 二月二十九日、四月 十四、十八日	三通	前嶋右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	江戸鉄砲州中川三十郎方より、江戸 諸御屋數焼失のこと、残下げ、本草米 買い入れ、祖母大姉寄に丸反彈丹送る	
290	259	乍恐口上書を以奉申上候	(宝暦十二年)午 四月十八日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門御役所	掛塚・廻船問屋四郎兵衛と廻船方と の出入りについて	
291	260	寛	(宝暦十二年)午 四月十八日	一通	中川三十郎・千村平 右衛門御役所	モミとツガ材木二千四百二十九本を んで四月五日と十三日に出發した	宝暦十二 年の袋入り
292	宝暦 261	寛	(宝暦十二年)午 四月十九日	一通	中川三十郎・千村平 右衛門御役所	辰年に切り出した數木のうち唐松材 木について	宝暦十二 年の袋入り

293	262	御吟味二付書付を以奉申上候	(宝暦十二年)十 四月二十三日	一通	中川三十郎同又兵衛・十村平右衛門御役所	大河原山敷木唐松の買い上げ値段など の件	宝暦十二 年の袋入り
294	263	覚	(宝暦十二年)十 五月十二日	一通	嶋田屋・ 前嶋右馬之丞	五十両の受け取り	宝暦十二 年の袋入り
295	264	覚	宝暦十二年 午 五月十二日	一通	綿屋茂七・ 右馬之丞	三口合わす三百三十七俵の米代金の 内、五十両を受け取った	
296	265	覚	宝暦十二年 午 五月十二日	一通	板屋藤次郎・ 右馬之丞	塩路、姫小松、の角材と板の注文書	宝暦十二 年の袋入り
297	266	書簡	宝暦十二年 午 五月十三日	一通	前嶋右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	葛嶋渡場より母持病、金子四十五両 に付飯田へ久助を便に出した	
298	267	御用留ノ第四番諸用日記	宝暦十二年 午 五月二十八日	二分 冊	前嶋右馬之丞政俊	宝暦十二年五月二十二日より十二月 二十八日まで、の御用諸用日記帳	
299	268	乍恐書付を以奉申上候御事	宝暦十二年 午 五月	一通	右馬之丞他村役人・ 飯田御役所	六尺給米、山林口永御免の願が却下さ れたかもう一度検討を願い上げる	
300	269	以書付を御請奉申上候	(宝暦十二年) 午五月	一通	大河原村名主他村 役人・飯田御役所	六尺給米と山林口永御免の許しが出ない ので納めを乞ふ事を知る	宝暦十二 年の袋入り
301	270	一札之事	(宝暦十二年) 午	二通	右馬之丞・ 中川三十郎	御用木伐出にいての一札之事と、二百 両の受け取り状の二書き	宝暦十二 年の袋入り
302	271	覚	(宝暦十二年)十 七月十日	一通	右馬之丞・ 山方御奉行	糶、榎御用木材木十本を六月二十七 日から七月十日に出木した	宝暦十二 年の袋入り
303	272	郷中勘定毎餐応帳	宝暦十二年 午 七月二十一日	二冊	大河原村	宝暦九年から十二年の餐応帳	
304	273	借用申證文之事	宝暦十二年 午 七月二十五日	一通	前嶋右馬之丞・ 中川三十郎	金四百両の借用証文、材木売り代金で 返却するとしている	宝暦十二 年用 状 袋 入り
305	274	覚	宝暦十二年 午 八月五日	一通	前嶋右馬之丞・天城 山川口佐兵衛他	天城山御用木仙方が不足、大河原山の 仙方を雇いたい、預り金を受け取った	宝暦十二 年用 状 袋 入り
306	275	御用書付	宝暦十二年 午 八月二十六日	一通	飯田御役所・ 名主右馬之丞	草刈の代金について吟味するので書付を 出すこと	

307	宝暦 276	荒所高反別御改二付書上帳	宝暦十二年 午 八月	一冊	大河原村	荒所の高反別の書上げ帳	
308	277	御吟味二付申上候書付	(宝暦十二年)午 八月	一通	右馬之丞 大草太郎 左衛門 御役所	葛嶋渡場まゝ流す途中に出水の際に 川囲いをした、場所は郡森村三石	
309	278	書簡	宝暦十二年 午 四月、九月、十月	四通	浅金所利兵衛、勘右 衛門、名主兵左衛門	浅下げについて、金子必要のこと	
310	279	(1)覚 (2)證文之事	宝暦十二年 午 九月十六、二十日	二通 一包	伊豆天城山吉岡長 右衛門他、右馬之丞	杉雇い頼み、お世話金預かり証文と十 両二分の受け取り	宝暦十二 年用状袋
311	280	書簡	宝暦十二年 午 九月二十一日	二通	右馬之丞、 兵左衛門	久々里より、疱瘡について、飯田出借金 二百両返済、大草米八十両供米	
312	281	午十月二日掛塚湊廻船問屋と廻船方 出入一件記	宝暦十二年 午 (十月二日)	一冊		宝暦十二年十月の掛塚湊の廻船問屋と 廻船方の接め事一件の聞き書き	
313	282	書簡	宝暦十二年 午 十月十一日	二通 一包	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	濃州久々里から諸事を配など、久助の 出役、疱瘡流行、材木川下げ、年貢	宝暦十二 年用状袋
314	283	口上之覚	(宝暦十二年)午 十月二十日	一通 四枚		掛塚湊廻船方と廻船問屋四郎兵衛と の出入りについて	
315	284	乍恐令度廻船方と問屋四郎兵衛出入 方御吟味……	(宝暦十二年)午 十月二十六日	一通	右馬之丞、十村平右 衛門久々里	掛塚湊廻船問屋四郎兵衛と廻船方と の出入りについての回答	宝暦十二 年の袋入り
316	285	廻船方出訴願出 右御吟味二付口上書上候 控	宝暦十二年 午 十月	一冊	問屋四郎兵衛、十村 平右衛門御役所	廻船問屋四郎兵衛と廻船方との出入 りについて吟味にも口上	
317	286	差上申書付	(宝暦十二年)午 十月	一通	右馬之丞、 久々里御役所	掛塚廻船問屋四郎兵衛を廻船方が支 配よろしくらずと訴え出た件	宝暦十二 年の袋入り
318	287	当午御拝借米并三代永割付高掛割付 帳	宝暦十二年 午 十一月六日	一冊	大河原村名主会所	宝暦十二年分の拝借米の代金割り付 け	
319	288	当午年御年貢御樽木成勘定取立納帳	宝暦十二年 午 十一月六日	一冊	大河原村名主所	宝暦十二年分の年貢の取り立て帳	
320	289	覚	(宝暦十二年)午 十一月二十三日	一通	右馬之丞、 飯田御役所	百両の受け取り状	
321	290	乍恐以書付を奉申上候	(宝暦十二年)午 十一月二十三日	一通	大河原村名主 他村役人、不明	六尺給米と山林水について	宝暦十二 年の袋入り

322	宝暦 291	覚	宝暦十二年 午 十一月二十四日	一通	小島市右衛門・中川 三十郎 又兵衛	金百両を御用木仕出しの十年分運賃 として飯田役所で渡す	
323	292	覚	(宝暦十二年) 午 十一月二十六日	一通	千村平右衛門役人・ 御料なむ村々	大河原村より切り出した材木を天竜 川に流すなどの触書	宝暦十二 年の袋入り
324	293	覚	(宝暦十二年) 午 十一月二十六日	一通	右馬之丞・ 御奉行	材木筏を天竜川へ流す触書を受け取 りた	宝暦十二 年の袋入り
325	294	覚	宝暦十二年 午 十一月二十六日	二通	部奈村、葛嶋名主・ 渡場会所、右馬之丞	天竜川川長の触れ渡し廻状の受け取り	
326	295	作認書付を以奉願上候	(宝暦十二年) 午 十二月五日	一通	右馬之丞 飯嶋御役所	部奈村三つ石において出水の際に御用 木の水囲い場所にとご	宝暦十二 年の袋入り
327	296	当午年六尺給米山林口永入用出之井 薪代諸取遣り帳	宝暦十二年 午 十二月十四日	一冊	大河原村名主会場	六尺給米、山林口永など諸費の取り立 て帳	
328	297	浦手形之事	宝暦十二年 午 十二月十五日	一通	豆州入間村名主仙 助他・大塚惣持主	掛塚利平船・沖船頭七郎兵衛乗る船、 水主二十八人、御前崎沖で遭難	
329	298	当午国役金高掛割付納帳	宝暦十二年 午 十二月	一冊	大河原村名主会場	宝暦十二年分の国役金の割り付け取 り立て帳	
330	299	当午家別二百六拾貳軒費取立帳	宝暦十二年 午 十二月	一冊	大河原村名主勘定 場	二百六十二軒の家別に四十七文ずつ取 り立てる	
331	300	去り巳年送当午年分村入用費村中割 付取立小前割掛皆済帳	宝暦十二年 午 十二月	一冊	大河原村名主会場	宝暦十二年分の村入用費など取り立て 皆済帳	
332	301	覚	(宝暦十二年) 午 十二月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	午年御用木の問知の際使った米と日雇 賃の件	宝暦十二 年の袋入り
333	302	書簡、覚書付	(宝暦十二年) 午 十二月	十通		宝暦十二年十二月の諸書簡、書付	宝暦十二 年の袋入り
334	303	覚	(宝暦十二年)	一通		午十一月十八日まで残下げ分の一万 三百本、他の覚書	宝暦十二 年の袋入り
335	304	大禮萬帳	宝暦十三年 未 一月吉日	一冊	前嶋氏	宝暦十三年前嶋家の大禮帳	
336	305	去午年分御蔵金百石迄分高掛り取立 納帳	宝暦十三年 未 一月十二日	一冊	大河原村	宝暦十三年分の御蔵金の取り立て帳	

337	306	手前者請狀之事	宝暦十三年 未 一月	一通	鹿嶋村三治郎、御用 木支配五郎三郎	材木伐出で手前者に雇われ前金受け 取った決まりを守りよく働く	宝暦十二 年袋入り 文書
338	宝暦 307	手前者請狀之事	宝暦十三年 未 二月二十一日	一通	本人甚左衛門	材木伐出で手前者に雇われ前金受け 取った決まりを守りよく働く	宝暦十二 年袋入り 文書
339	308	(1)御用木抱役定之事 (2)御用木抱乗極覚	宝暦十三年 未 二月	二冊	船明村弥八郎他、 御用木元び下代中	材木伐の費用など請求、契約書一冊 は返書	
340	309	宝暦十三年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳	宝暦十三年 未 三月 宝暦十二年 未 一月十一日	四冊	大河原村、 飯田御役所	増人四十八人、減人三十四人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 人数十二百五十八人(男六百六十六 十七人、女五百九十一人)	
341	310	書簡	宝暦十三年 未 三月	一通	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	久助、久内が二又、伊豆天城山から帰 った山入りの事は伝え聞いた	宝暦十二 年袋入り 文書
342	311	書簡	宝暦十三年 未 四月一日	一通	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	掛塚湊岩間四郎兵衛方に宿泊滞在中 の右馬之丞から数木廻船のことなど	宝暦十二 年袋入り 文書
343	312	(1)御手前雇米貢人足覚 (2)兵左衛門様御留守詰村日記覚帳 (3)覚(四通)	宝暦十三年 未 四月	二冊 と 四通	兵治郎 賄	(1)四月四日から十日までに四十二俵 の米を運んだ人足覚(2)兵左衛門 久々里へ出役中の諸事記録(3)金銭な ど出納の覚(四通)	
344	313	嶽惣絵図	宝暦十三年 未 八月一日	絵図 一枚	前嶋右馬之丞政俊	赤石岳、荒川岳の西側、本谷らぶひ広 河原を中心とした絵地図、関連二枚付	
345	314	差出申一札之事	宝暦十三年 未 八月七日	一通	小代判他村民総買、 名主他村役人	本谷、小河内山など各地で材木盗伐が 見つかった五人組総買の誓約一札	
346	315	差出申一札之事	宝暦十三年 未 八月八日	一通	長三郎本人他、名主 他村役人	御樽木山から材を取ったことが衆覚、し かし許された、今後しないこと	
347	316	大井川見分絵図	(宝暦十三年七月、 八月)	絵図 一枚	長三衛門?	大井川上流、赤石岳東側の水系絵図	
348	317	(大井川上流見分絵図)	(宝暦十三年 未 八月)	絵図 一枚	前嶋右馬之丞	大井川上流、赤石岳、荒川岳の東側大 絵図、80cm × 200cm	

349	318	借用申金子之事	宝暦十三年 未 十一月、十二月	三通	前嶋玄馬之丞・ 桜井藤治郎 他	百両の借用証文三通、波場表日雇勘 定払い金などのため	虫食い
350	319	当米年御年貢御樽不成勘定取立納帳	宝暦十三年 未 十一月十九日	一冊	大河原村名主所	宝暦十三年分の年貢取り立て帳	
351	320	当米御拝借米并右代米割付高割割付 割付帳	宝暦十三年 未 十一月十九日	一冊	大河原村名主所	宝暦十三年分の拝借米の代金割り付 け帳	
352	宝暦 321	当米御年貢取立差引皆済帳	宝暦十三年 未 十一月二十七日	一冊	大河原村勘定所	宝暦十三年分の年貢計算帳	
353	322	實差引請取帳	宝暦十三年 未 十二月十日	一冊	大河原村	村貢取り立て請取り帳	
354	323	当米年薪代遠山泰加四分三高割薪代 取遣り帳	宝暦十三年 未 十二月十日	一冊	大河原村名主会所	宝暦十三年分の各地薪代の取立て帳	
355	324	当米国役金高掛割付取立納帳	宝暦十三年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	宝暦十三年分の国役金分担取立帳	
356	325	当米家別二百六拾貳軒掛り費割付取 立帳	宝暦十三年 未 十二月	一冊	大河原村勘定所	宝暦十三年分の諸経費を二百六十二 軒の家別に取り立てる	
357	326	当米国役掛り取立帳	宝暦十三年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	宝暦十三年分の国役金の取り立て帳	
358	327	去々年送り当米年分科入用費郷中割 付取立小前割掛皆済帳	宝暦十三年 未 十二月	一冊	大河原村勘定所	宝暦十三年分の科入用費の取り立て帳	
359	328	借用申金子之事	宝暦十三年 未 十二月	一通	鹿塩村彦助・ 大河原市場元 〆	金子一分を借用する	宝暦十二 年用状入 り

整理番号	年号別番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 人	主 内 容	備 考
360	明和 1	宝暦十四年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳	明和元年(宝暦十四年)申三月 宝暦十四年 申 一月十一日	三冊	大河原村・ 飯田御役所	威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 人数千二百七十二人(男六百六十七 十三人、女五百九十九人)	
361	2	(4)宗門増減御改帳	(宝暦十四年)明和 元年 申 三月	一冊	大河原村	宝暦十三年の宗門増減の調査結果	
362	3	去来年分御蔵金百石是分高掛り取立 納帳	(宝暦十四年)明和 元年 申 一月八日	一冊	大河原村	宝暦十三年分の御蔵金の取立帳	
363	4	覚、書付	明和元年 申 一月八日、十九日	二通	釘屋庄助、大河原 村 友八	名古屋表の釘屋に釘などの注文	
364	5	乍恐書付を以奉願上候御事	(宝暦十四年)明和 元年 申 一月	一通	御用木支配人右馬 之丞・飯田御役所	去年十二月掛塚で大難船があり材木 船積み之差支えなく、出船願う	
365	6	書簡	(明和元年)申 二月四日	一通	中川三十郎・ 前嶋右馬之丞	右馬之丞が遠州へ向けて出立するとの こと	
366	7	書簡	(明和元年)申 二、四、五、六月	五通	傳左衛門・ 前嶋兵左衛門	御用木筏方会所から筏下げ、日雇、筏 賃などで金が必要	
367	8	書簡	(明和元年)申 三月八日	一通	前嶋右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	遠州二俣より三月八日出す、船明御 用、掛塚で諸用、江戸大火の知らせ	明和元年 り 用 状 袋 入
368	9	書簡	(明和元年)申 三月十三日	一通	右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	遠州二俣から御用木の件、山入り、家 普請のことなど	宝暦十四 年 袋 入
369	10	書簡	(明和元年)申 三月二十日	一通	高田勘右衛門川島 利兵衛・兵左衛門	筏下しに金二十両必要のことなど	明和元年 り 用 状 袋 入

370	11	書簡	明和元年申 三月二十八日	一通	前嶋右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	掛塚より。茶屋敷や寺邊請御用木の 運搬廻船手配、江戸大火の件など	宝暦十四 年の袋入り
371	12	差上申・證文之事	(宝暦十四年)明和 元年申 三月	一通	大河原村名主他・惣 百姓・飯田御役所	樽木山はもちろん百姓持ち山からも 諸木をみだりに切り出さない誓約	
372	13	差出申書付之事	(宝暦十四年)明和 元年申 四月三日	一冊	百姓代・ 名主他村役人	内証で村方四つ割百姓代を引き受け た、任に励むとの一札	
373	14	差出申一札之事	(宝暦十四年)明和 元年申 四月十日	一冊	惣百姓代・小代判・ 名主他村役人	当年惣百姓代、小代判を引き受けた、 任に励むとの一札	
374	15	書簡	(明和元年)申 四月十二日	一通	傳左衛門・ 前嶋兵左衛門	筏方出たので金子五十両ほど必要のこ となど	明和元年 り 用 状 袋 入
375	16	書簡	(明和元年)申 四月十二、二十日	二通	中小や五郎三郎・ 前嶋兵左衛門	中小屋にて村方新組を編成した	
376	17	書簡	(明和元年)申 四月十七日	一通	下嶋五郎三郎・ 前嶋兵左衛門	鹿塩山見分の者たちは帰った、塩川ば かり一年材木を出すことについて	明和元年 り 用 状 袋 入
377	18	書簡	(明和元年)申 四月二十、二十一日	三通	前嶋傳左衛門他・ 前嶋兵左衛門	已年分の筏下げ帳材木品訳帳に誤り があつて訂正した、筏が出た、	
378	19	書簡	(明和元年)申 四月二十二日	一通	前嶋右馬之丞・ 高田勘右衛門他	掛塚湊からの書簡、御用木、敷木の積 船出船のことなど	明和元年 り 用 状 袋 入
379	20	書簡(控え)	(明和元年)申 四月晦日	一冊	兵左衛門・ 右馬之丞	筏卸帳、渡場間和帳、鹿塩山の樹木の 有様見分、その他日常の用件	宝暦十四 年の袋入り
380	21	書簡	(明和元年)申 四月二十九、三十 日、五月七日	三通	右馬之丞他・ 前嶋兵左衛門	掛塚から黒岩四郎兵衛、右馬之丞か ら兵左衛門へ、兵左衛門から右馬之丞 へ(下書き)、材木筏、出船、江戸行き	
381	22	書簡	(明和元年)申 五月六、七、十二日	二通	在掛塚右馬之丞、渡 場会所・兵左衛門	筏下げ報告、筏乗りの問題など、在掛 塚右馬之丞から兵左衛門へ材木御用	
382	23	書簡	(明和元年)申 五月二十四日	一通	前嶋兵左衛門・ 前嶋右馬之丞	御用木の件、その他日常の報告、別に部 屋の欄間の件を図入りで報告	宝暦十四 年の袋入り

383	24	(1)口上 (2)書簡(三通)	(明和元年)申 五月二十九日他	四通	右馬之丞他: 兵左衛門	(1)口上は勘定支度金五両の件、(2) 右馬之丞から(3)河嶋亭左衛門から (4)葛嶋渡場から兵左衛門へ材木袋下 げ、掛家での右馬之丞の様子、江戸へ 出立予定など知らせ	
384	25	書簡	(明和元年)申 六月一日	一通	長谷川作兵衛: 前嶋兵左衛門	片桐山御用木御用掛にまだ親父様 先月二十一日江戸表に出府の記述	明和元年 用状袋入
385	明和 26	書簡	(明和元年)申 六月七日	一通	前嶋右馬之丞: 前嶋兵左衛門	江戸からの書簡、御東鷹を納めく三人 は噂だと、他材木運搬のこと	宝暦十四 年の袋入り
386	27	書簡	(明和元年)申 六月十一日	一通	前嶋右馬之丞: 前嶋兵左衛門	江戸から、江戸までの道中について、 御用木の件などさまざまな連絡	宝暦十四 年の袋入り
387	28	書簡	(明和元年)申 六月十一日	一通	中川三十郎 同又兵 衛・前嶋兵左衛門	右馬之丞が五月末日到着した、道中 病氣だったが、このところ快気の様子	
388	29	書簡	(明和元年)申 六月十二日	一通	久助: 前嶋兵左衛門	江戸から久助が到着したことを知らせ た、右馬之丞が少々病氣気味	
389	30	書簡	(明和元年)申 六月十二日	一通	中川三十郎: 前嶋兵左衛門	右馬之丞は五月二十九日に江戸到 着、その他御用木などについて	明和元年 用状袋入
390	31	書簡	(明和元年)申 六月二十三日	一冊	前嶋兵左衛門・中川 三十郎 又兵衛	御用木についての書簡の控え	宝暦十四 年の袋入り
391	32	書簡	明和元年 申 六月晦日	一通	前嶋右馬之丞・鹿場 村大嶋権角・彦兵衛	江戸よりからの書簡、年貢切り替える 件のほか、明和と改元されたことなど	宝暦十四 年の袋入り
392	33	河嶋山儀兵衛組林付間知帳 他計十二通	(明和元年)申 七月二日から八日	十二 通	中小や会所: 御用木御元び	青木川東城各地の林地の御用木間知 帳、河嶋山、南保、おな平山	宝暦十四 年の袋入り
393	34	書簡	(明和元年)申 七月三日	三通	前嶋兵左衛門・四郎 兵衛 他	兵左衛門から岩間四郎兵衛へあつた御 用木廻船にかかわる書簡の控え	宝暦十四 年の袋入り
394	35	書簡	(明和元年)申 七月四日 五日	二通 一包	前嶋右馬之丞: 前嶋兵左衛門	江戸からの書簡、腐木等損木多い、他 御用木関係、年貢切り替える件など	宝暦十四 年の袋入り
395	36	書簡	(明和元年)申 七月九日	一通	岩間四郎兵衛: 前嶋兵左衛門	親父殿に御厚意を得たこと、廻船がま ま成らないこと、材木運搬のこと	宝暦十四 年の袋入り
396	37	書簡	(明和元年)申 七月九日	一通	河嶋亭左衛門: 前嶋兵左衛門	伊勢、名古屋への材木廻船のこと	宝暦十四 年の袋入り

397	38	書簡	(明和元年)申 七月九日	一通	高田屋惣治・ 前嶋兵左衛門	挨拶状と同日付け水野惣吉による船 請け状	宝暦十四 年の袋入り
398	39	書簡	(明和元年)申 六月十六日	一通	中川三十郎・同又兵 衛 前嶋兵左衛門	右馬之丞病氣回復のことしかし暑さ 激しく名代へ仕事をするため兵左衛門 が江戸へ来たほうが悪いこと	
399	40	書簡(不書き)	明和元年 申 七月二十一日	一通	前嶋兵左衛門・ 前嶋右馬之丞	病状快復はよかつた、四百両を受け取 った材木出来高報告	
400	明和 41	青木川北侯(他) 御材木問知帳	(明和元年)申 七月二十七日	一冊	中小や金所・ 御用水元々	青木川北侯、本谷筋、葛久保、南侯、 大川通の角林地で行われた間知の帳	宝暦十四 年の袋入り
401	42	覚	(明和元年)申 二・三月、七・八月	七通		諸々の覚え書付、由金覚え、金手受け 取り覚えなど	明和元年 り 用 状 袋 入 入
402	43	書簡	(明和元年)申 八月二日	一通	河嶋利兵衛・ 前嶋兵左衛門	右馬之丞の病気の知らせで江戸へ行った 兵左衛門へ大原村と御用水について 報告	
403	44	書簡	(明和元年)申 十月七日	二通 一包	掛塚大田五郎八・ 前嶋右馬之丞	江戸から帰国したはずの右馬之丞に病 気見舞いを主に材木運船など通知	
404	45	書簡	(明和元年)申 十月、十一月	五通	傳左衛門・ 前嶋兵左衛門	御用水袋方会所から残下げその他につ いて知らせ	
405	46	当申年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和元年 申 十一月十七日	一冊	大原村名主所	明和元年分の年貢取り立て帳	
406	47	当申御拝借米并右代永割付高割割付 割付帳	明和元年 申 十一月十七日	一冊	大原村名主会所	明和元年分の拝借米の代金割り当て帳	
407	48	御年貢并賞勘定纏込帳	明和元年 申 十一月十七日	一冊	大原村勘定場	宝暦十三年から明和元年までの纏込 帳	
408	49	(年貢普濟)	(明和元年)申 十一月二十六日	一冊		已年普濟并納金や当年年貢、米代など 取り立て帳	
409	50	当申国役金高掛割付取立納帳	明和元年 申 十一月	一冊	大原村名主会所	明和元年分国役金の割り当て金取り 立て帳	
410	51	郷中貢取立差引帳	明和元年 申 十二月十六日	一冊	大原村勘定場	村貢の取立て帳	

411	52	当申御年貢取立差引増済帳	明和元年 申十二月	一冊	大河原村名主勘定場	明和元年分の年貢取り立て計算帳	
412	53	当申家別式百六拾式軒掛り費割付取立帳	明和元年 申十二月	一冊	大河原村勘定所	二百二十六軒分の諸費用取り立て帳	
413	54	当申国役掛取立帳	明和元年 申十二月	一冊	大河原村名主会所	国役金の割り当て取り立て帳	
414	55	当申年薪代井津嶋高遠泰加四分三高割新代取遣り帳	明和元年 申十二月	一冊	大河原村勘定所	明和元年分薪代泰加金などの取り立て帳	
415	明和56	申米を送り当申年分村入用費郷中割付取立小前割掛増済帳	明和元年 申十二月	一冊	大河原村勘定場	明和元年分の村入用費取り立て増済帳	
416	57	(申年用状入)	(宝暦十四年) 明和元年	一袋	前嶋兵左衛門	宝暦十四年(明和元年)の用状の整理袋	
417	58	書簡、口上	(明和元年 申)	一通	五郎三郎・前嶋兵左衛門	伊勢・富士代参金二両一分の請求書、受け取りは飯田市美濃蔵文書1765	
418	59	去年年分御蔵金百石毫分高掛り取立納帳	明和二年 酉一月九日	一冊	大河原村	明和元年分御蔵金の取りた帳	
419	60	明和二年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)人馬并家数御改帳	明和二年 酉三月 明和二年 酉一月十一日	五冊 一袋	大河原村、飯田御役所	増人五十五人、減人三十九人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千二百八十八人(男六百八十二人、女六百六十六人) 馬数三十五匹	宝暦十二年から明和二年の「一人馬井家数」の記録
420	61	差上申證文之事	明和二年 酉三月	一通	大河原村名主他惣百姓・飯田御役所	櫛木はもちろぬ諸木もみだりに切り出さない事の誓約	
421	62	乍恐以書付奉願上候事	明和二年 酉四、五月	一枚	大河原村名主他・飯田御役所	四月十五日から二十三日の大雨で市場が流れた川陰を仰せ付けてほしい	虫食い
422	63	当酉田畑荒所書上帳	明和二年 酉五月二十四日	一冊	大河原村	田畑で荒所となった地の書上げ	
423	64	書簡	明和二年 酉五、八月	三通	鈴木伊兵衛・前嶋兵左衛門	小浜渡場から大豆の相場、出荷の要請などを知らせ	
424	65	書簡	明和二年 酉五月から十月	十七通	橋元伊兵衛他・前嶋兵左衛門	渡場篠会所から篠下し、榎木について支払金、材木運材のことなど	

425	66	未年仕上目録	(明和二年)西 六月五日	一冊	兵左衛門、傳左衛門	宝暦十三年未まで年貢その他勘定の目録	
426	67	書簡	明和二年 西 六月二十一日	一通	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	掛塚湊から御用木廻船、筏下げのことなど	虫食いひどい
427	68	書簡	明和二年 西 六月二十一日	一通	掛塚岩間四郎兵衛、 前嶋兵左衛門	右馬之丞到着のこと、材木廻船のことなど	
428	69	書簡	明和二年 西 六月二十二日	一通	掛塚湊屋九兵衛、 前嶋兵左衛門	右馬之丞到着のこと、材木積舟の出船がなかなか出来ないうことなど	
429	70	書簡	明和二年 西 七月四、五日	五通		掛塚より吉田五郎、湊屋九兵衛、岩間四郎兵衛、右馬之丞から兵左衛門へ	
430	71	書簡	明和二年 西 七月廿日	一通	平沢与市、与兵衛、 前嶋兵左衛門	大草村から米三百表出すに付必要な金ずのこと	
431	72	(書簡と書簡下書き)	(明和二年) 西 六月、七月	六通	宮下信濃守、松井左 太夫、右馬之丞	神職から右馬之丞への書簡と兵左衛門から神職への手紙下書き	虫食いひどい
432	73	書簡	明和二年 西 七月、八月	三通	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	筏下げ、掛塚からの廻船についてなど、 掛塚からの書簡	
433	74	書簡	明和二年 西 八月十二日	一通	城取儀兵衛、 前嶋兵左衛門	御奉行様が十三日に当地に泊る予定	
434	75	書簡	明和二年 西 八月十三日	一通	大嶋永助、 前嶋兵左衛門	米の件承和した	
435	76	(書簡下書き)	(明和二年) 西 八月十六日	一通	兵左衛門、 前嶋傳左衛門	掛塚に出した書簡の写し、村役人が集まて相談したことのいは会議録	
436	77	当酉年御宗門御今米二付棚橋元右衛 門様井上柳八様御出之節入用賄帳	明和二年 西 九月十一日	一冊	大河原村百姓代与 次兵衛	宗門吟味のちね果村した飯田御役所役人二名の賄費の覚	
437	78	書簡	(明和二年) 西 九月二十五日	一通	益川久右衛門、 前嶋兵左衛門	親父様遠州へおいでのこと、近い内に 掛塚湊を出帆すること、友へのこと	明和二年 り 用状袋入
438	79	辰年御檢地御見取田畑巳年御檢地年々 々御見取田畑反別小前帳	明和二年 西 九月	一冊	大河原村名主会所	田畑見取場毎の高反別の書上げ帳	
439	80	信濃国伊那郡大河原村流作場檢地有 間野帳	明和二年 西 九月	一冊	名主所	流作場の檢地野帳、もとの長さ横幅に それぞれ八割、七割半をかけた計算	

440	81	書簡	(明和二年) 西 十月九日	一通	鹿嶋村大嶋彦兵衛・ 前嶋兵左衛門	銭下げ、金匱のどなど	明和二年 り用状袋入
441	82	当酉年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和二年 西 十月二十一日	一冊	大河原村名主所	明和二年分の年貢取り立て帳	
442	83	当酉年御拝借米并右代米割付高割割 付割符帳	明和二年 西 十月二十一日	一冊	大河原村名主会所	明和二年分の拝借米の代金の割り当て	
443	84	書簡	(明和二年) 西 十月晦日	一通	福与紋平・ 前嶋兵左衛門	銭乗り伊兵衛と名代・傳左衛門を引き 合わせる件、大豆五十表を渡す件	明和二年 り用状袋入
444	85	覚、書付	(明和二年) 西 六月から十月	九通		金子のうけとり、その他書付	
445	明和 86	書簡	明和二年 西 八月から十月	四通	高坂源五郎・ 前嶋兵左衛門	年貢、御用金割付、借金などについて、 絵の真の調査、送り方について	
446	87	当酉国役金高掛割付取立納帳	明和二年 西 十月	一冊	大河原村名主会所	明和二年分の国役金の取り立て帳	
447	88	当酉十一月朔日棚橋元右衛門様出入 方御宗門御吟味二御出被遊候御宿願 入用帳	明和二年 西 十一月一日	一冊	惣百姓代今次兵衛	十一月一日に棚橋宗門吟味で来村 した際の入用費の覚え	
448	89	書簡	(明和二年) 西 十一月三、五日	二通	部奈村弾藏・ 前嶋兵左衛門	鹿嶋村大嶋彦兵衛の次男永介を養子 とする件、結納引取りの際同道願う	明和二年 り用状袋入
449	90	覚	明和二年 西 十一月八日	一通		御用木敷木の銭下げについて、帳面改め の帳面を長三郎に持たせたこと	虫食いひと い
450	91	覚	(明和二年) 西 十一月十日	一通	中や磯之丞・ 前嶋兵左衛門	古大豆三十俵、新大豆二十俵計五十 俵を受け取った	明和二年 り用状袋入
451	92	書簡	明和二年 西 十一月十八、廿三日	二通	前嶋右馬之丞・ 前嶋兵左衛門	江戸からの便り、友八は十一月三日に 伊勢着、敷木が二百本積み出された	明和二年 り用状袋入
452	93	書簡	明和二年 西 十一月廿日	二通 一包	泉龍院・香松寺、右 馬之丞、兵左衛門	金子の受け取りと返金分の送り状	明和二年 り用状袋入

453	94	書簡(卜書き)	明和二年 西 十一月廿二日	一通	前嶋兵左衛門、 前嶋右馬之丞	江戸に居る右馬之丞へ便り、筏下げ、 村方出入り(色置衣一件)など	明和二年 り 用状袋入
454	95	酉年御年貢請取差引帳	明和二年 西 十一月二十三日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和二年分の年貢受け取り計算帳	
455	96	(書簡) 覚	(明和二年 西) 十一月二十五日	一通	下代衷三郎、 前嶋兵左衛門	十一月二十四、二十五日で計八十二 俵の米を受け取った、榎木と人数の件	明和二年 り 用状袋入
456	97	書簡	明和二年 西 十一月二十八日	一通	掛塚湊屋九兵衛、 前嶋兵左衛門	右馬之丞九日に出立、友八は伊勢から 直接帰村する、材木船が出帆する	明和二年 り 用状袋入
457	98	書簡	(明和二年) 西 十一月二十八日	一通	吉田五郎八、 前嶋兵左衛門	掛塚から右馬之丞の様子の知らせ、還 留中は元氣だった、江戸へ立ったなど	明和二年 り 用状袋入
458	99	書簡	明和二年 西 九月から十一月	十通 六包	前嶋右馬之丞、 前嶋兵左衛門	掛塚湊船積御用場から、廻船、筏下 げ、村方出入りのことなど便り	明和二年 り 用状袋入
459	100	書簡	(明和二年) 西 十一月から十二月	八通	高田勘右衛門他、 前嶋兵左衛門	葛嶋渡場から筏下げ、榎木、米の値 段、朔免改め、など	明和二年 り 用状袋入
460	101	巳年元伐敷木船積請拂目録帳控	明和二年 西 十一月	一冊	四郎兵衛、 前嶋右馬之丞	木敷計八十五百五十八本の元伐敷木 の受払い目録、木敷木種など詳細	
461	明和 102	古高瀬高大河原村小前書扱高辻帳	明和二年 西 十一月	一冊	名主所	古、新高辻の書上げ	
462	103	書簡	明和二年 西 十月から十二月	六通	高坂源五郎、 前嶋兵左衛門	年貢割合、村方出入り、二組国役金、 榎木調達、金集、材木注文など	明和二年 り 用状袋入
463	104	書簡	明和二年 西 十二月十日	二通	唐沢又兵衛中川三 十郎、前嶋兵左衛門	江戸本湊町からそれぞれ、病氣見舞 い、右馬之丞の近況、敷木の件など	明和二年 り 用状袋入
464	105	(1)書簡 (2)借用金子之事	明和二年 西 十二月二十一日	二通 一包	三好□吾八、 右馬之丞	書簡と五両の借用書	

465	106	当酉年實差引帳	明和二年 酉 十二月	一冊	大河原村名主勘定場	明和二年分の村實取立て帳	
466	107	去申年送り当酉年分村入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	明和二年 酉 十二月	一冊	大河原村勘定場	明和二年分の村入用費の取り立て皆済帳	
467	108	寛国役	(明和二年)	一冊		明和二年の国役金の取り立て帳	
468	109	書簡、書付	明和二年 酉	八通		各種受け取り覚え、神納など、書簡、下書き	
469	110	書簡	(明和二年 酉)	三通	桑原清太夫、前嶋兵左衛門	金子之受け取り、借金返済の延引きの件など	明和二年 り 用 状 袋 入
470	111	(書付、書簡下書き)	(明和二年 酉)	三通	兵左衛門	各種金子覚え書き、書簡下書き	明和二年 り 用 状 袋 入
471	112	当戌御用井村方諸用山方要用留改帳	明和三年 戌 一月吉日	四冊	前嶋右馬之丞	明和三年一月から十二月十八日まで、右馬之丞による御用村用方日記	
472	113	萬覺帳	明和三年 戌 一月吉日	一冊	前嶋政房	明和三年の出入金覚え帳	
473	114	去酉年分御蔵金百石巻分高掛り取立納帳	明和三年 戌 一月十七日	一冊	大河原村	明和二年分の御蔵金取り立て帳	
474	115	(1)書簡 (2)覚	明和三年 戌 二月二十一日	二通 一包	市岡佐蔵、右馬之丞	明和二年分の百石一分高掛金一両、永百七門四分の受け取り書状と覚え	
475	明和 116	明和三年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分差上申證文之事 (8)人馬并家数御改帳	明和三年 戌 三月 明和三年 戌 一月十一日	五冊 一通 一袋	大河原村、飯田御役所	増人五十三人、減人四十人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百一人(男六百五十四人、女六百七人) 馬数三十五匹	
476	117	(御樽木山御證文本紙控) 差上申證文之事	明和三年 戌 三月	一通	多大河原村名主他惣百姓、飯田御役所	樽木はもちろぬ諸木もみだりに切り出して売買しないとの誓約	

477	118	(上 戌年分百姓代并小代判請文) (1) 差出申書付之事 (2) 差出シ申一札之事	明和三年 戌 四月十九日	二通 一包通	大河原村層百姓代、 小代判	(1) 百姓代の引き受付け書付 (2) 各耕地の小代判の引き受け証文	
478	119	寛	(明和二年酉二月十七日)明和三年 戌 五月二日	二通 一包通	三木忠之、 右馬之丞	極印の返却状	
479	120	去酉年御改出見取場合尾帳	明和三年 戌 九月	一冊	大河原村	明和二年に改めた田畑の広さ、高の書 上げ	
480	121	萬日記	明和三年 戌 十月二十四日	一冊	前嶋政房	明和三年十月二十五日から十二月二十四日まで の萬日記	
481	122	当戌御拝借米右代、永割付高割割付割 符帳	明和三年 戌 十一月十二日	一冊	大河原村名主会所	明和三年分の拝借米の代金割り当て	
482	123	当戌年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和三年 戌 十一月十二日	一冊	大河原村名主所	明和三年分の年貢取り立て帳	
483	124	戌年御年貢請取差引帳	明和三年 戌 十一月二十七日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和三年分の年貢受け取り計算帳	
484	125	去酉御改流作場御年貢勘定帳	明和三年 戌 十一月	一冊	大河原村名主所	明和二年に流作となった田畑の年貢計 算帳	
485	126	当戌国役金高掛割付取立納帳	明和三年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	明和三年分の国役金の取り立て帳	
486	127	(諸経費覚え書き)	(明和三年) 戌	七枚		明和三年分の諸経費などの覚え書き	
487	明和 128	当亥御用井村方諸用書留日記覚帳	明和四年 亥 一月吉日	三冊	前嶋右馬之丞	明和四年一月から十二月まで、右馬之 丞による御用村用方日記	
488	129	寺請證文事	(明和四年) 亥 一月十一日	一通	永泉寺、 西浦村	惣七は代々禪宗で、遠州奥山西浦村 永泉寺の檀家に間違いない	明和四年 宗門袋入
489	130	去戌年分御蔵金百石毫分高掛取立納 帳	明和四年 亥 一月十二日	一冊	大河原村名主所	明和三年分の御蔵金取り立て帳	
490	131	(1) 秩父郡中津川百姓篠山河下ヶ帳 (2) 槻御値段書上帳控	明和四年 亥 一月	二冊	岩田三郎兵衛	(1) 中津川百姓山から材木を川下け した際の代金材木数など(2) 宝暦十二 年の槻値段の目録書の写し	

491	132	去酉送り当戌年分村入用費郷中割付 取立小前割掛普済帳	明和四年 亥 二月吉日	一冊	大河原村勘定名主 組頭会所	明和二年に倣て明和三年分として集 める村入用費の取り立て普済帳	
492	133	酉年分三拾六人方出し不足身共改四 段取立普済帳	明和四年 亥 二月	一冊	大河原村名主会所	わけあてて取集めなかつた費用を改めて 割り当てて取り立てる	
493	134	明和四年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳(二冊) (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)人馬并家数御改帳	明和四年 亥 三月 明和四年 亥 一月十一日	六冊 一通冊 一袋	大河原村・ 飯田御役所	増人四十人、減人三十三人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百軒 人数三百九人男七百一人、女六百 八人 馬数三十五匹	
494	135	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	明和四年 亥 五月三日	二通 一包	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代小代判を引き受けるに あたづ差し出す一札	
495	136	去ル申年送り去戌年迄實高請帳	明和四年 亥 六月	一冊	大河原村勘定場代 判	明和元年から明和三年分の主に村實 入用費の取り立て帳	
496	137	覚	明和四年 亥 十月二十七日	三通	右馬之丞十村平右 衛門江戸御役所	明和元年分の御用木の内明和二年から 四年十月までに納めた材木数覚え	
497	138	申年御用木遠州掛塚湊より御用木同 屋江坂送荷改覚	明和四年 亥 十一月四日	一通 二枚	御用木元メ	信州御樽木山から切り出した御用木 から損木がでたその木数なら覚え	
498	139	實受取差引覚帳	明和四年 亥 十一月七日	一冊	大河原村勘定所	村實諸費用受け取り計算帳	
499	140	当亥御拝借米井右代永割付高割割付 割付帳	明和四年 亥 十一月十二日	一冊	大河原村名主会所	明和四年分の拝借米の代金割り当て	
500	明和 141	当亥年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和四年 亥 十一月十二日	一冊	大河原村名主所	明和四年分の年貢取り立て帳	
501	142	当亥年郷中勘定纏成帳	明和四年 亥 十一月十五日	一冊	大河原村	明和四年十一月から安永二年二月ま での幕迄覚帳	
502	143	亥年御年貢請取普済帳	明和四年 亥 十一月二十日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和四年分の年貢受け取り帳	
503	144	去戌年送り当亥年分村入用費郷中割 付取立小前割掛普済帳	明和四年 亥 十一月	一冊	大河原村勘定名主 組頭立会所	明和三年に倣て明和四年分として集 める村入用費の取り立て普済帳	

504	145	当玄国役金高掛割付取立納帳	明和四年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	明和四年分の国役金取り立て帳	
505	146	申元伐御用木仕上帳	明和四年 亥 十一月	一冊	中川三十郎、又兵衛・前嶋右馬之丞	明和元年分の御用木仕上、一万七百四十二本は材木蔵へ乗り出し済んだ	
506	147	(1)納入用帳 (2)口上 (3)覚	明和四年 亥 十一月	三通	中川又兵衛・前嶋右馬之丞	(1)明和元年分御用木納に要した費用(2)納入用帳の送り口上(3)宝暦十年から明和元年までの納入木数	
507	148	覚	明和四年 亥 十一月	一通	右馬之丞 中川三十郎・千村平右衛門江戸御役所	宝暦十年から明和元年までの間の御用木、數木に差減木が出た数の明細	
508	149	御請書之事	明和四年 亥 十二月二十七日	一通	右馬之丞・千村平右衛門江戸御役所	秩父中津川山から御用木伐出は不許可、舟納木の件は来春考える	
509	150	津嶋代参入用井御付加家別割帳	明和四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	津嶋五王機代参の諸入用費の家別負担割り付け帳	
510	151	(頭分仲間出入費帳面入) (1)借用申金之事 (2)〃(3)覚	(1)明和二酉十月八日(2)酉七月二十八日(3)戌二月十一日(4)明和四亥年三月十日	五冊 一包	安右衛門他	(1)六両の借用書 (2)〃(3)諸所へ出役のときの経費 明和四年十二月十日晚改済とある	
511	152	当子御用井村方諸用書留覚帳	明和五年 子 一月吉日	五冊	前嶋右馬之丞政俊	明和五年一月から明和六年一月まで、右馬之丞筆による御用村用万日記	
512	153	去亥年分御蔵金百石是分高掛取立納帳	明和五年 子 一月十二日	一冊	大河原村名主所	明和四年分の御蔵金の取り立て帳	
513	154	作忍書付を以奉願上候	明和五年 子 正月	一通	右馬之丞・千村平右衛門江戸御役所	御用木舟納木の伐出願	
514	明和155	書簡(控)	明和五年 子 一月二十六日	一通	前嶋右馬之丞・鹿場村名主他	御用木舟木伐出は、鹿場山から足し切りをする可能性があることについて	

515	156	(1)く書簡 (5)作恐口上書を以申上候 (6)作恐御書添御達御願奉申上候御事 (7)く書簡 (10)作恐書付を以奉願上候御事 (11)作恐書付を以言上奉願上候御事	明和五年 予 (1)一月廿二日 (2)一月廿八日 (3)一月三十一日 (4)二月十五日 (5)二月廿三日 (6)三月 (7)三月五日 (8)三月七日 (9)十一月日付無	十一 通	(1, 5, 6, 10, 11)右馬之丞 (2)く4, 7)中 津川村名主: (1)秩父中津川村 名主他、(2)く4, 7)右馬之丞、 (5, 6, 10, 11)中 村平右衛門江戸御 役所	(1)く4, 7)秩父中津川村内山か らの材木伐出について中津川村よりやり 取り (5)中津川村から材木伐出について、 中津川に出かける知らせ (6, 10, 11)中津川村からの材木伐 出願い	
516	157	遠州掛塚三間屋より江戸表江運送材 木入津仕切惣改引合改帳	明和五年 予 二月二十二日	一冊	前嶋右馬之丞	宝暦十年辰から明和元年申まで、大河 原山から出た材木数損木など覚えて	
517	158	一札之事 および 書簡	明和五年 予 二月	二通	秩父中津川名主他、 右馬之丞	秩父中津川村持ちあし山から弁木を切り 出す件について右馬之丞の返書	
518	159	差出申一札之事	明和五年 予 三月十四日	一通	惣百姓代小代判、 名主組頭衆中	今年惣百姓代小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
519	160	明和五年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳(二冊) (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事	明和五年 予 三月 明和五年 予 一月十一日	五冊 一通 一袋	大河原村、 飯田御役所	増人五十九人、減人五十八人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 人数三百九人男七百一人、女六百 八人	
520	161	明和二酉年田畑荒所再御改二付差上 候小前帳	明和五年 予 三月	二冊	大河原村	明和二酉年に荒所にかゝた田畑の調 べ	
521	162	色々小取替書拔	明和五年 予 四月九日	一冊	中川三十郎、 前嶋右馬之丞	中川三十郎扱いの種々預かり金差し引 き覚えて	
522	163	目録	明和五年 予 四月	一通	中川三十郎、 前嶋右馬之丞	百四十五両余りの仕切り金の内、諸費 差し引き四十四両二分余りを渡した	
523	明和 164	当子生荒所下見分帳	明和五年 予 六月五日	一冊	大河原村名主組頭	五月六日の満水で荒所とされた地の下 見分調査	
524	165	御尋二付左申上候	(明和五年) 予 六月	一通	大河原村安右衛門、 飯田御役所	荒所についての問う答へについて回答	

525	166	当子荒所見分書上帳	明和五年 子 六月	一冊	大河原村名主他・ 飯田御役所	荒所となつた田畑の見分報告書	
526	167	荒所小前帳之寄書貫帳	明和五年 子 八月	一冊	大河原村	宝暦八年と明和二年の荒所書き上げ 帳の寄せ書き	
527	168	当子年荒所地主之内十分二居候持 高書付	明和五年 子 八月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	今年荒所になつた田畑などの地主のう ち、十分の一で居けたものの覚	
528	169	田畑荒所御吟味二付書上候小前帳	明和五年 子 八月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	荒所となつた田畑の見分に付それら田 畑の地主となきならぬ記録	
529	170	見取田畑去々年荒所再御改二付書上 候小前帳	明和五年 子 八月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	明和四年に荒所となつた田畑などの再 吟味に際して書き上げたもの	
530	171	当子年荒所見分之上改帳	明和五年 子 八月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	明和五年に荒所となつた田畑を見分の 際の調査書	
531	172	御代官所付	明和五年 子 八月	一通		子八月江戸表上総屋下代に貰ひ受け た諸国代官の名簿	
532	173	明和四年山縣(様)大式一件御裁許書 写	(明和五年)子 八月写	一冊	(右馬之丞)	明和事件判決文の写し、山縣大式、藤 井右門と謀反の嫌疑で処刑された	虫食い
533	174	(1)左恐御尊二付書付を以申上候御 事 (2)左恐口上書を以御催促奉願上候 御事 (3)同(包み紙)	明和五年 子 八月八日 九月十一日	三通	右馬之丞・ 千村平右衛門江戸 御役所	大河原村より明和六年御用木舟木を 秩父中津川村百姓山から切出す件の 願書と下知の催促状	
534	175	当子年田畑荒所之内持高十分二相 当候高反別小前帳	明和五年 子 九月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	今年荒所となつた田畑が持ち高の十分 の一以上に相当するもの調査書	
535	176	当子御拝借米并右代永割付高割割付 割符帳	明和五年 子 十一月十七日	一冊	大河原村名主会所	夫食米代金などの割付計算帳	
536	177	当子年御年貢御樽木成勘定内取立納 帳	明和五年 子 十一月十七日	一冊	大河原村名主所	明和五年分の年貢の取り立て帳	
537	明和 178	子年御年貢内請取差引帳	明和五年 子 十一月二十三日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和五年分の年貢の受け取り計算帳	
538	179	当子年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和五年 子 十一月	一冊	大河原村名主所	明和五年分の年貢の取り立て帳	
539	180	覚	明和五年 子 十一月	三通	飯田御役所・ 大河原村名主	明和五年から十年間の定免の覚書	

540	181	實取立請取差引帳	明和五年 子 十二月十二日	一冊	立会会所	今年分の村實の取り立て計算帳	
541	182	去々年送り当子年分村入用費郷中割 付取立小前割掛皆渡帳	明和五年 子 十二月	一冊	大河原村勘定名主 組頭立会所	明和四年に使い、五年分として集める 村入用費の取り立て帳	
542	183	当子御擇借米高割割付割付帳	明和五年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	明和五年分の米食擇借米の分配割り 当て	
543	184	大河原村明和五子年荒所引減米書付	明和五年 子 十二月	一通	飯田御役所・ 大河原村名主	荒所につき減米したこの書付(集計メ ト書き入り)	
544	185	当丑年御用并村方諸用留覧帳	明和六年 丑 一月吉日	七冊	前嶋右馬之丞	明和六年一月から十二月まで、右馬之 丞筆による御用村用方日記	
545	186	去子年分御蔵金百石迄分高掛取立納 帳	明和六年 丑 一月十二日	一冊	大河原村名主所	明和五年分御蔵金取り立て明細帳	
546	187	御蔵金并川除国役金取立請取覧	(明和六年 丑 一月二十日	一冊	名主傳兵衛	御蔵金、国役金などの取立受け取り帳	
547	188	古高新高大河原村小前書拔高辻帳	明和六年 丑 一月	一冊	名主所	大河原村の以前の古と新高の高辻帳	
548	189	去儿戌年分国役金高掛割付取立納帳	明和六年 丑 一月	一冊	大河原村名主会所	明和三年分の国役金の割り付け取りた て帳	
549	190	去子年御年貢御勘定取送り帳	明和六年 丑 二月二十日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和五年分の年貢を詳細に計算しあ らためて差額を取り立てる	
550	191	古来より子年迄之荒所へ上書拔帳	明和六年 丑 二月二十七日	一冊	大河原村名主所	ずっと以前から明和五年までの荒所を 書き出す	
551	明和 192	明和六年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳(二冊) (5)門屋様官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山燈文一通門屋様官分 差上申證文之事 (8)人馬并家数御改帳	明和六年 丑 三月 明和六年 丑 一月十一日	六冊 一通 一袋	大河原村・ 飯田御役所	増人四十七人、減人三十三人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百二十三人(男七百五人、女 六百十八人) 馬数三十五匹	
552	193	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	明和六年 丑 四月十三日	二通 一包	總百姓代小代判・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代小代判を引き受けるに あたって差し出す一札	

553	194	差上申御請書之事	明和六年 丑 九月十五日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	井川山からの御用木弁木の伐出についで	
554	195	掛方	明和六年 丑 十一月十八日	一通	勘定場	年貢高計算の覚	
555	196	当丑年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和六年 丑 十一月	一冊	大河原村名主所	明和六年分の年貢の取り立て帳	
556	197	当丑御年貢請取取違増済帳	明和六年 丑 十二月十二日	一冊	大河原村名主勘定 場	明和六年分の年貢受け取り帳	
557	198	實取立請取差引帳	明和六年 丑 十二月二十六日	一冊	立会会所	村貢の受け取り計算帳	
558	199	去予年送り当丑年分村入用費郷中割 付取立小前割掛増済帳	明和六年 丑 十二月	一冊	大河原村勘定名主 組頭立会所	明和五年に使い、六年分として集める 村入用費の取りたく帳	
559	200	当丑御拝借米高割割付割付帳	明和六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	明和六年分の米食拝借米の分配割り 当て	
560	201	当村入用四分一家別割帳	明和六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 立会会所	村入用費の四分の一は家別に割り付け て取り立てる	
561	202	去丑年分御蔵金百石壺分高掛取立納 帳	明和七年 寅 一月二十一日	一冊	大河原村名主所	明和六年丑年分百石壺分高掛の増済 明細帳	
562	203	ハケ国何々海運御普請御入用高掛金 去心戌亥子三ツ年分国役金取立納帳	明和七年 寅 一月二十一日	一冊	大河原村名主会所	三ツ年分国役金高掛割り付け取り立 ての明細帳	
563	204	御蔵金百石壺分御普請国役高掛り請 取帳	明和七年 寅 一月二十五日	一冊	大河原村名主会所	国役金高掛かり請取明細帳	
564	明和 205	在所出立通中参着江戸表逗留中三月 中材木方一件用留帳	明和七年 寅 二月、三月	一冊	(前嶋右馬之丞)	材木諸用について江戸へ約二月の日 記	
565	206	作恐書付を以言上奏願上候事	(明和七年)寅 三月十三日	一冊	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	秩父中津川からの御用木伐出願	
566	207	差上申御改願一札之事	(明和七年)寅 三月十七日	二通	中川伊平侍・千村平 右衛門江戸御役所	弁納木ついて御用のときは伊平衛を召 し出された。覚は十両の受け取り	
567	208	(書付)	明和七年 寅 三月十七日	六通		三月十日から十七日の八日間の諸書付	
568	209	差上申御請書之事	明和七年 寅 三月	一冊 五通	右馬之丞 御役所様	明和七年三月中の五通の願い書き等 し井川山からの弁木伐出について	

569	210	(当寅年御用井村方諸用留置帳)	明和七年 寅 四月五日	一冊	(前嶋右馬之丞)	明和七年四月五日から五月三日まで、 右馬之丞筆による御用村用方日記	
570	211	作忍書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 四月二十九日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	駿州大井川上流井川山より御用木弁 木の切り出しにいて	
571	212	作忍書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 四月二十九日	一通	右馬之丞・ 御役所	駿州上田村百姓山から御用木弁木を 切り出す願	
572	213	田畑荒所起返御吟味二付書上候書所 帳	明和七年 寅 四月	一冊	大河原村名主所	前々から荒所であった新田地の再見分 記録帳	
573	214	差上申御請書之事	明和七年 寅 五月一日	一通	右馬之丞・ 江戸御役所	駿州井川上田村百姓山から弁木の伐 出の件、不調のときの弁木の仕方	
574	215	御吟味二付申上候書付	明和七年 寅 五月三日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	御用木納め不足の弁木を上田村から 切り出す願 経過の説明	
575	216	差上申御請書之事	明和七年 寅 五月九日	一通	右馬之丞・ 江戸御役所	上田村から弁木を切り出す件は不調 なので他の弁木の仕方を願ひ出る	
576	217	作忍以書付奉願上候御事	明和七年 寅 五月十日	一冊	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	御用木弁木の仕方について。大河原村 百姓山からの伐出にいて	
577	218	御吟味二付申上候書付	明和七年 寅 五月	一冊	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	御用木弁木を大河原村百姓持ち山か ら切り出す件について申上げること	
578	219	作忍書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 五月	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	宝暦御用木五年季のうち明和元年申 に歩減木多数、この弁木材木の川長を したい、極印仰せ付け願う	
579	明和 220	御吟味二付申上候書付	(明和七年)寅 六月二日	三通 一包	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	御用木納め不足の弁木願ひにいて吟味の 答弁書三通、六月一、二、三日	
580	221	(奏)作忍書付を以奉達候御事 (重)作忍書付を以奉願上候	明和七年 寅 六月十一日	一枚	名主右馬之丞・十村 平右衛門江戸役所	弁納木の件、今年度分の納入したいので 出来るだけ早く下知願ひ、	
581	222	覚	明和七年 寅 閏六月十五日	一通	前嶋右馬之丞・芳賀 玄林・徳田屋基宗衛	芳賀玄林と談判が落着いたので徳田屋 方だした書状の控え	
582	223	御吟味二付申上候書付	明和七年 寅 六月十七日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	十五日までに弁納木納入下知を願った が延引きしているので催促	
583	224	作忍書付を以御断奉願上候御事	明和七年 寅 七月十二日	一通	右馬之丞・村平右 衛門江戸御役所	弁木納入に付山入りが遅れたので残で は間に合わず断符りにしたい	

584	225	乍恐書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 七月十二日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	申年御用木弁木は山入りが遅れたので 伐下げは時節遅れ、管狩りで運ぶ	
585	226	御吟味三付申上候書付	明和七年 寅 七月十二日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	弁木寅年分は早速山入りする、来年分 は後日考へ、管狩りて運材したい	
586	227	御尋二付申上候書付	明和七年 寅 七月十五日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	弁木を大河原村百姓内山から切出す が、御樽木山境を守ることを伝える	
587	228	此度御願申上候管狩下仕法之義御尋 二付申上候	明和七年 寅 七月十五日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	弁木運材の仕方、特に葛嶋渡場より管 狩の仕法	
588	229	(1)賞(二通) (2)帰村仕候付申上候書付	明和七年 寅 八月三日	三通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	江戸より大河原村へ帰村する知らせ二 通と、弁木確認、二年以後の見込み	
589	230	(1)書付を以奉言上候事 (2)乍恐書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 八月十二日	二通	名主右馬之丞・ 飯田御役所	八月八日江戸から帰村した、すべて手 配して弁木伐出へ入山する、	
590	231	書付を以奉言上候御事	明和七年 寅 八月十二日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	八月八日に江戸から帰村し、十一日に 役所に出願した。弁木伐出へ入山した	
591	232	差上候御請書	明和七年 寅 八月十六日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	井川山から弁納木を切り出す件で小 田切様へ出立する、結果を報告する	
592	233	乍恐以書付を奉願上候御事	明和七年 寅 八月	一冊 二通	右馬之丞・ 飯田御役所	井川山から弁木を切り出す件について 小田切様の願い書き亭し二通	
593	234	乍恐書付を以奉願上候御事	明和七年 寅 八月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	弁納木を切り出すための費用借金証の 裏書をお願いしたい	
594	明和 235	一札之事	明和七年 寅 八月	一通	掛塚平左衛門 他前嶋右馬之丞	材木の取扱についての誓約書、保証人が 連名している	
595	236	(1)乍恐書付を以奉願上候御事 (2)御吟味三付申上候御事 (3)差上候書付 (4)乍恐書付を以御改言上奉願上候 御事 (5)乍恐以書付奉願上候御事 (6)(言上願書)控部分(二枚) (7)覚 (8)覚	明和七年 寅 九月十四日、 十八日	九通	右馬之丞・ 飯田御役所	明和元年申年分御用木は多数の損木 がでたが、その弁木のための井川山から の伐出は許されず、大河原村百姓内山 から切出す件、一年目は切出したが、 二年目以後は井川山から切出せるよう 努力していき、十一月まで弁納につい ての予定の願い出を待つはしい、(7)当 年分の本数の覚え(8)御用木改め極印 の受け取り状	(6)の内一 枚は包み紙

596	237	信州大河原村より御用木申年納不足 弁木相残分伐出方言上候願書	明和七年 寅 十一月	一冊	兵左衛門他 村役 人 飯田御役所	明和元年材木納で納め不足を納めたる 材木伐出を願う	
597	238	去丑年違り当寅年分村入用費郷中割 付取立小前割掛皆済帳	明和七年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組 頭 立会所	村入用費明細帳	
598	239	寅年国役増済引帳	明和七年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	明和七年分国役金の納入差し引き明 細帳	
599	240	当初御用井村方諸要用一件書山内留 覚帳	明和八年 卯 一月吉日	三冊	前嶋右馬之丞	明和八年の一月から明和九年一月二 日付けまで御用村用諸用日記	
600	241	去寅年分旨蔵金百石巻分高掛取立納 帳	明和八年 卯 一月十一日	一冊	大河原村名主所	明和七年分の御蔵金の取立納帳	
601	242	御蔵金残寄せ帳	明和八年 卯 一月十三日	一冊		御蔵金の徴収帳	
602	243	(1)奉差上候書付 (2)(3)左様書付を以奉願上候	明和八年 卯 一月廿日	三通	名主右馬之丞・ 飯田御役所	(1)去寅年分の弁木は管達ではなく残 下げにする件、(2)日雇飯米代五十両 を拝借したい、(3)百五十両の拝借願 い	
603	244	差上候御請書	明和八年 卯 一月二十七日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	明和七年に切出した弁木數本ともに 管達でなく、残で運ぶことを承知した	
604	245	差上候證文	明和八年 卯 一月	一通	右馬之丞他村役人・ 飯田御役所	弁納御用木と數本を納めるため、三十 両を借用した、五月に返済する	
605	明和 246	宿手形之事(45通)	明和八年 卯 一月く五月	四十 五通	中小屋会所	明和八年一月から五月までの中小屋 会所関係の宿手形	
606	247	宿手形写控帳	明和八年 卯 一月吉日	一冊	大河原山中小屋会 所	大河原山村材切り出し会所小屋で扱 った宿手形の控	
607	248	御吟味三付申上候書付	明和八年 卯 二月十五日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	明和七年の弁木材木は管達でなく残 下げにしたので早々仰せ付け願う	
608	249	覚 書簡	(明和八年 卯) 二月二十八日	二通	部系村、鹿堤村名 主 大河原村役人	千村平右衛門役所からの廻状の受け取 り覚え	
609	250	書簡	(明和八年 卯) 二月二十九日	一通	大嶋彦兵衛・ 前嶋右馬之丞	大雨大水お見舞い、飯田より遠方へ出 かけていたところを知らせる	
610	251	葛嶋渡場表御用木金残覚 諸入用帳	明和八年 卯 二月	二冊	前嶋右馬之丞	材木切り出し渡場入用帳など 一冊は渡場で働いた人名と日数	

611	252	書簡	(明和八年 卯) 三月三日	一通	市岡才助、井上柳 八右馬之丞	昨夜からの大雨出水で、河下けに差し 支えがあるので出頭のは日は延する	
612	253	書簡	(明和八年 卯) 三月七日	一通	前嶋兵左衛門・ 右馬之丞	渡場に向い、材木筏下げのために金 策で駆け回る。右馬之丞へ手紙、	
613	254	覚	(明和八年 卯) 三月十七日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	明和元年分弁木を大河原村内山から 出した数、五千五百八十九本余	虫食いひと い
614	255	差上候御請書	明和八年 卯 三月十七日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	明和元年御用木弁木、明和七年分は 管符下げではなく、筏下げて運びた	
615	256	御吟味二付以書付申上候御事	明和八年 卯 三月十八日	一通	(右馬之丞・ 飯田御役所)	弁木で納めたものの内、煙子に松、桂に 桜、塩地にキハが混じった	
616	257	御吟味二付書付を以申上候御事	明和八年 卯 三月十八日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	渡入した弁木の中に樹種が違ふものが 混じるところ、白樺が含まれていない	
617	258	覚	明和八年 卯 三月二十五日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	木数六千四百六十七本を川下ける	
618	259	乍恐口上書を以奉願上候御事	(明和八年) 卯 三月二十七日	一通	右馬之丞・彦兵衛・ 飯田御役所	弁木が葛嶋渡場についたが資金不足で 筏下げが遅れた。拝借金を願う	
619	260	覚	明和八年 卯 三月二十七日	一通	御陣屋・ 御用木会所	極印二個の貸与の覚	
620	261	覚	明和八年 卯 三月二十七日	一通	井上豊八・ 右馬之丞	極印二挺の受け取り	宝暦十二 年袋入り 文書
621	明和 262	差上候御請書	明和八年 卯 三月	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	御用木弁木のうち數本は弁木実加木の 納入前には売らざることを知	
622	263	(隠居願二付添状)	明和八年 卯 四月三日	一通	右馬之丞・ 井上柳八・市岡才助	兵治郎が隠居するにつき諸願のため 役所に行くのでよろしく	
623	264	借用申合字之事	明和八年 卯 四月八日	二通	右馬之丞・葛嶋渡場 又右衛門他	御用木方日雇賃金払いのため八両の借 用證文、一通は下書き	
624	265	乍恐御吟味二付口上書を以奉申上候 御事	明和八年 卯 四月九日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	材木筏下げにき村方が呼ばれて吟味 を受けたと	
625	266	乍恐以書付奉願上候御事	明和八年 卯 四月九日	一通	右馬之丞・ 飯田御役所	弁木は先月渡場で間知もすんだが筏 下げは近々行い、八年分は井川から	

626	267	(1)書簡 (2)覚(廻状) (3)差上候書付 (4, 5, 6)覚 (7)差上候證文	明和八年 卯 四月十五日 から 四月十八日	七通		(1)金子を少々貸し与ふので印形持 参で渡場へ(2)筏下けに変えろ川長廻 状(3)拝借金を受け取り(4)材木川長 の触れ状(5)川長廻状の受け取り(6) 極印受け取り(7)拝借金の受け取り 證文	
627	268	(1)借米手形之事 (2)書簡	明和八年 卯 四月二十七日	二通	高坂源五郎、勇助、 右馬之丞	米十五俵の借用證文、代金はいつでも その時の相場で支払う	
628	269	御吟味二付以書付奉申上候御事	明和八年 卯 四月二十九日	一通	右馬之丞、 飯田御役所	舟木材木の川下げが遅れたこと、江戸へ の納期について弁明	
629	270	御吟味二付書付を以申上候事	明和八年 卯 四月	一通 四枚	右馬之丞、 飯田御役所	舟木の筏下けについて明和八年分も大 河原村百姓山から切出す件	
630	271	以書付申上候御事	明和八年 卯 四月	一通	右馬之丞、 飯田御役所	井山川からの切り出し交渉のなか、左 衛門を駿河達わした、右馬之丞も行 き、その後江戸へて願ひ出る	
631	272	差上候書付	明和八年 卯 四月	一通	右馬之丞、 飯田御役所	駿州島田陣屋に材木伐出を願ひ出た 後、江戸お屋敷に行き願ひ出る	
632	273	覚	明和八年 卯 四月	一通	右馬之丞、 飯田御役所	駿州お役所に願ひ出る時の恭状と願ひの 趣旨を飯田御役所に知らせた	
633	274	差上候書付	明和八年 卯 五月九日	一通	右馬之丞、葛嶋渡場 御陣屋奉行	御用木舟木の筏下げなどが遅れている ことについての吟味に答えたもの	
634	275	覚	明和八年 卯 五月十三日	一通	井上豊興、 右馬之丞	給明お役所からの御用状受け取り覚 え	
635	明和 276	差上候書付	(明和八年)卯 五月十五日	一通	右馬之丞、 葛嶋渡場後方	極印二個(御用木用)を受け取った	
636	277	覚 (鹿嶋番所役人との奥書控へ)	(明和八年)卯 五月十六日	二通	櫛田所左衛門、 鹿嶋御役所	明和七年寅年大川原山から切り出し た材木数	
637	278	一札之事	明和八年 卯 五月	一通	右馬之丞他、 頼母殿	金七十両の借用金證文と材木で渡す 件	
638	279	借用金子并賃口相極申數木材木之事	明和八年 卯 五月	一通	右馬之丞、半蔵、 (虫、不明)	七十五両の日雇賃金が滞ったので、數木 材木五百二十五本を賣物とする	虫食いひど い(修復)

639	280	売渡申敷木御材木の事	明和八年 卯 五月	一通	右馬之丞、半蔵、 大草村源五郎 他	敷木材木四百五十本を七十五両で売 る	虫食いひと い
640	281	一札之事	明和八年 卯 五月	一通	右馬之丞 他	残下げ費用に困り、六月中に支払うと して實物は敷木を十四百七十五本	
641	282	(御吟味二付申上候御事)	明和八年 卯 六月十一日	一通	右馬之丞、 陣屋御奉行	弁木残下げは資金に困り敷木を売った件 について吟味を受け弁明のこと	
642	283	差上候書付 以書付奉願上候御事	(明和八年) 卯 六月十四日	二通	大川原村名主 他、 飯田御役所	明和元年の材木納め不足の弁木について	
643	284	以書付奉申上候御事	(明和八年) 卯 六月十九日	一通		申年切り出し分御用木弁木の伐出山 の調査、寛年に出した御用木の残下げ	
644	285	作忍以書付奉願上御事	明和八年 卯 六月十九日	一通	(右馬之丞、 飯田御役所	大河原内山にはもはや役立つ木はない、 井川山から出したいが、七月二十日ま でに決めて知らせる	
645	286	差上候御請書	明和八年 卯 六月	一通	大河原村名主 他 村 役人、飯田御役所	御用木納め不足分の弁納、売られてし まな敷木は取り戻しう渡場に通ず	
646	287	作忍以書付奉願上候御事	明和八年 卯 六月	一通	大川原村名主 葛嶋 村伊八 他、 飯田御役所	御用木弁納木を待下げる日雇共と買 金支払いについてもめたが、今後このよ うなことはないよう努める	
647	288	作忍書付を以奉願上候御事	明和八年 卯 七月二十日	一通	右馬之丞、 飯田御役所	今年分の弁木は井川山から切出した い、島田お役所と江戸に願ひ出る	
648	289	書付を以申上候御事	(明和八年) 卯 八月二日	一通	右馬之丞、村平 右 衛門江戸御役所	弁木伐出は駿州井川山から行うについ て、道中清水川上り遅れた	
649	290	言上一件覚	(明和八年) 卯 八月	一通	右馬之丞	葛嶋渡場へ材木を出すまで、入山予定 の井川山についてこれまでの経過	
650	明和 291	差上候御請書	明和八年 卯 九月	一通	右馬之丞、 飯田御役所	御用木納め不足の弁木を大河原村百姓 山から切り出し納める	
651	292	江戸表御用弁逗留中日記	明和八年 卯 十月	一冊	前嶋兵左衛門	弁木の用件で江戸へ駆け込み訴える時 の逗留中日記	

652	293	兵左衛門江戸表御願書井同表芝御屋 飯田御役所江上候書付控え入	明和八年 卯 十一月十一日	二冊 計六通 で八通 一包	(兵左衛門)政房	弁木についで兵左衛門による江戸表へ駆 け込み訴え直訴の前後の願書書きな ど八通	
		(1)乍恐書付を以奉願上候御事	明和八年 卯 十月	一冊	右馬之丞 兵左衛 門、御奉行所様	井川山からの材木伐出願	
		(2)乍恐書付を以(言上)奉願上候(御 事)	明和八年 卯 十月二十九日	一通	右馬之丞 兵左衛 門、御奉行所様	4の下書き	
		(3)口上覚書	明和八年 卯 十月(二十九日)	一通	兵左衛門	駆け込み訴えに備えた兵左衛門の口上 準備覚書	
		(4)乍恐書付を以奉願上候	明和八年 卯 十月二十九日	一通	右馬之丞 兵左衛 門、御奉行所様	御用木弁納までの願米と弁納のための 材木を井川山から切り出す願(駆け込 み訴え直訴状)	
		(5)差上申御請書之事	明和八年 卯 十一月四日	一通	兵左衛門、 千村平右衛門御役 所	江戸奉行所へ駆け込み訴えをしたが取 り上げられず飯田役所で吟味を受け るにいて承知した	
		(6)乍恐書付を以奉願上候(御事)	明和八年 卯 十一月十五日	一冊	右馬之丞名代 兵左 衛門、飯田御役所	井川山から材木を切り出して弁木に するについて願状	
		(7)乍恐書付を以奉願上候	明和八年 卯 十一月十五日	一通	兵左衛門 飯田御役 所	右馬之丞が過急の罪に服しているがな にぞお許し願いたい	
		(8)差上候一札	(明和八年) 卯 十一月二十六日	一通	大河原村名主組頭 鷲百姓代、 飯田御役所	兵左衛門が手錠村預りに行ったことを 承知した	
653	294	(1)差上申御請書之事 (2)乍恐書付を以奉願上候	明和八年 卯 十一月四日	二通	兵左衛門、右馬之 丞・千村平右衛門江 戸御役所	大河原村弁木について江戸御奉行様 に駆け込み訴えをしたが、飯田御役所 に差し戻し吟味を受ける、一通は飯田役 所へ文書下書き	
654	明和 295	去ル子丑寅三ヶ年国役金高掛割付取 立納帳	明和八年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	明和五、六、七年分の国役金の割り当 て取立納帳	
655	296	当初御拝借米高割割付割付帳	明和八年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	明和八年分の米食米の配分	

656	297	作忍口書を以奉願上候	明和八年 卯 十一月	一通	右馬之丞 飯田御役 所	これまで勤めてきた私達が井木で困つて いろに見離すとはひどいではないかとい う一種の抗議と願ひ書き	
657	298	当卯年御年貢御樽木成勘定取立納帳	明和八年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	明和八年分の年貢取立帳	
658	299	覚	明和八年 卯 十二月二十二日	一通 二枚	中川三十郎、又兵 衛 前嶋右馬之丞	伊勢白子益川久右衛門へ金百両支払 い、その請求書の写し、覚え	
659	300	当卯御年貢皆済差引帳	明和八年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	明和八年分の年貢皆済計算帳	
660	301	去寅年送り当卯年分材木方入用四分 一家別割付取立帳	明和八年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会場	明和八年分として集める入用費の家別 割り当て取立帳	
661	302	去寅年送り当卯年分材入用并材木方 入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	明和八年 卯 十二月	一冊	大河原村勘定名主 組頭立会所	明和八年分の材入用費と材木方入用 費の割り当て取立帳	
662	303	(地図)	(明和八年 卯)	四枚		秩父中津川山と駿州大井川源流、荒 川岳、赤石岳の概略地図(明和八年御 用書物入れ袋に同封されていたもの)	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
663	安 永 1	当辰年御用方井御用木方一村中諸用 留算帳	安永元年(明和九年) 辰一月吉日	四冊	前嶋右馬之丞政俊	安永元年一月から十月までの右馬之丞による御用村用方日記	
664	2	(1)口上覚 (2)乍恐書付を以奉願上候 (3、4)信州大河原山御仕法駿州井川 山伐出し付右御用木御仕法引移し 左之通奉願上候御事	安永元年(明和九年) 辰二月	四通	右馬之丞、兵左衛門、 御奉行所	明和七年に切出した御用木弁木は早 魁出水量重宝により渡場着々遅れて 三月になつた、残下げ船運など済んだ 通知、井川山伐出願いとその切出し 方、(3、4)以下書き	
665	3	乍恐書付を以御同奉申上候御事	安永元年(明和九年) 辰三月二日	一通	右馬之丞・村平右衛門江戸御役所	去年秋に願ひ出た井川山伐出願いの件	
666	4	差上申御請書之事	安永元年 辰 三月十日	一通	右馬之丞他・村平右衛門御役所	大河原山弁木の件、明十一日に右馬之丞他二名が越前守様門前へ出頭請書	
667	5	差上申一札之事	安永元年(明和九年) 辰三月十九日	一通	右馬之丞他村役人、 御奉行所	明和元年の材木に歩減木が多数出た、 この弁木のための材木伐出について	
668	6	(1) 差上申一札之事 (2) 差上申書付 (3) 差上申書付之事	(1) 安永元年(明和九年)辰 三月十九日 (2) 安永元年三 月二十一日 (3) 安永元年三 月	三通 一包	(1) と(2)右馬之丞他、御奉行所 (3)右馬之丞他・村平右衛門江戸御役所	(2) と(3)弁木の請書 (3) は再提出版 (2)請書の写しをもって差上げることを 申し述べた書付	
669	7	差上申御請書	(安永元年) 辰三月	一通	右馬之丞・村平右衛門江戸御役所	辰年より二年ぐ弁木を納める件、駿 州の井川山から材木を切り出す願	
670	8	乍恐書付を以奉達候御事	(安永元年)辰 六月二日	一通	右馬之丞・村平右衛門江戸御役所	數本には奥書も極印もなしに送ること を知らせる	

671	安永 9	乍恐書付を以奉達候御事	安永元年 辰 六月二日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用水袋下けなどへ奔走した(江戸大 火で材木高値につき早く売りた)	
672	10	覚(材木送り状二通)	安永元年(明和九 年)辰 六月十五日	二通	中川三十郎・千村平 右衛門御役所	明和七年に切り出した材木千四十六 本と三百六本を掛塚から積み出す	
673	11	差出御請書之事	安永元年 辰 六月十八日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	御用水舟不明和七年分貸出の旨納の 積もりで二十日に見分を受ける	虫食いひと い
674	12	乍恐書付を以奉願上候御事	安永元年(明和九 年)辰 七月廿五日	一通	右馬之丞・ 御勘定所御奉行所	駿州井川山を見届けたので御用水入 用を相勤めた、その諸事計畫書	
675	13	覚	安永元年 辰 九月 廿八日から十月	一枚	湊屋九兵衛他・中川 三十郎、右馬之丞	九月二十八日から十月五日まで掛塚 湊出船材木数などの覚え三通分控	
676	14	乍恐書付を以奉達候御事	安永元年 辰 十月朔日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	安永元年九月までに舟木は旨納のつも りだが八月の大雨で納入遅れた	
677	15	大河原山敷木御材木船積覚	安永元年 辰 十月十日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	九月廿四日の湊屋九兵衛の材木積船 覚えを江戸役所に通知した	
678	16	(材木出船の覚え)	安永元年 辰 十月	一枚	湊屋九兵衛	明和八卯年七、八月と安永元年年十 月の掛塚から積み出した材木数覚え	
679	17	乍恐書付を以申上候御事	(安永元年 辰) 十一月二日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門船明御役所	十一月一日に掛塚湊を材木を積んで 江戸へ出帆したとを見届けた	
680	18	今度管狩下ケ二付御願事被仰付候二付 御断奉願上候御事	安永元年 辰 十一月四日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門船明御役所	天竜川管狩下け一件は御免とならな どについてお断りした	
681	19	乍恐書付を以奉願候	安永元年 辰 十一月四日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門船明御役所	舟納木は大雨水で運材が延引きさ れていたが一日も早く出来るように	
682	20	乍恐書付を以奉達候御事	安永元年 辰 十一月十一日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門船明御役所	舟木材木をすみやかに納入するための 渡入、網止めなど運材申し入れ	
683	21	差上申候御請書	安永元年 辰 十一月十四日	一通	兵左衛門・ 飯田御役所	材木大川渡入についてス々里と船明の 知らせがないが、十五日にする	
684	22	書簡	安永元年 辰 十一月十七日	一通	前嶋兵左衛門政房・ 前嶋右馬之丞	御用舟木の運材について葛嶋から飯田 に出向く、管狩のこと	
685	23	乍恐書付を以申上候御事	安永元年 辰 十一月廿日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門船明御役所	材木太川渡入について承知した、また 御縄み切り、川止めを願う	
686	24	(材木方御用)	安永元年 辰 十一月	五枚	右馬之丞	御用水舟運材諸事について御用留(日 記)	

687	安永 25	御殿様御借入金割付取立帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主所	久々里表の財政状態が悪化、江戸屋敷 が燃えた、などによる貸し金分担	
688	26	御殿様御借入金四分一家別割付取立 帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主所	殿様に貸した金の四分一を家別に分担	
689	27	殿様御用金請取差引帳	安永元年(明和九 年辰十二月十日)	一冊	大河原村名主勘定 場	殿様に貸した金の分担計算帳	
690	28	当辰御年貢請取差引増減帳	安永元年(明和九 年辰十二月十日)	一冊	大河原村勘定場	安永元年分の年貢計算受け取帳	
691	29	寛	安永元年辰 十二月十四日	一通	前沢村理兵衛・ 大河原村友八	仁左衛門に渡した八面を引いて残りの 米四十四俵代金二両余の受け取り	
692	30	大河原山御用木残下之事	安永元年辰 十二月二十日	二通	前嶋右馬之丞・ 大角又三郎他二名	材木残下げ数と残下げ極印の覚え一 通三枚は書式見本(ま食)	虫食いひら い
693	31	当辰年御年貢御樽木成勘定取立納帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主所	安永元年分の年貢取立て納帳	
694	32	当辰御拝借米高割割付割付帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主会所	安永元年分の米食米の分配明細	
695	33	江戸旅用金四分一高割割付取立帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主会所	江戸へ御用木返納の旅で要した費用の 分担取立帳	
696	34	江戸旅用金四分一家別帳	安永元年(明和九 年辰十二月)	一冊	大河原村名主会所	江戸へ御用木返納の旅で要した費用の 四分一は家別に分担する	
697	35	去卯年送り当辰年分村入用并材木方 入用費郷中割付取立小前掛増減帳	安永元年辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永元年分の村入用費及び材木方入 用費の分担割付取立帳	
698	36	国役川除金割付取立帳	安永元年辰 十二月	二冊	大河原村名主会所	川除工事費と国役金の分担取立帳	
699	37	(御用方諸書物帳面入)	(明和九年)安永元 年辰	一袋	前嶋右馬之丞	安永元年の御用木関係など書留帳、寛 書と書簡が数通残みまれている。	
700	38	明和九年略年代記 および 懐中御江戸之図	(安永元年) (明和九年)	印刷 二枚 一地図		目黒行人坂大火のかわら版、およびそ の大火により焼失した範囲を朱で囲ん だ江戸の地図	
701	39	山方諸用萬日記	安永二年己 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永二年一月二十三日から十二月二 十九日までの山方々日記帳	

702	安永 40	御用井村方諸用改竄日記	安永二年 巳 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永二年一月から十二月までの御用 村用方日記帳	
703	41	当已御用井村方諸用書留改竄帳	安永二年 巳 二月吉日	五冊	前嶋右馬之丞	安永二年一月から十月までの右馬之 丞による御用村用方日記	
704	42	去辰年分御蔵金百石迄分高掛取立納 帳	安永二年 巳 一月吉日	一冊	大河原名主所	安永元年分の御蔵金高掛りの割付け 取立帳	
705	43	覚	安永二年 巳 正月	二通	右馬之丞・ 船明御役所	筏送り状(材木数)	
706	44	覚	安永二年 巳 一月十四日	一通	秋葉寺・ 前嶋右馬之丞	初穂料金等の受け取り覚え	
707	45	巳二月御蔵金取立覚	(安永二年) 巳 二月十七日	一冊	安右衛門他	御蔵金の取りた帳	
708	46	(掛塚より要用書物) 覚	(安永二年) 巳 二月	七通 一包	掛塚より・ 右馬之丞	安永二年一月から二月までの掛塚から の諸書き物七通迄 弁木御用木関係	
709	47	差上申御請書之事	安永二年 巳 三月二日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	井川山から弁木納が済んだ後に御用 木を切り出す願	
710	48	覚	安永二年 巳 三月九日	一通	中川三十郎・千村平 右衛門御役所	材木仕出し覚え、安永元年、二年の四 通分の享し	
711	49	差上申書付之事	安永二年 巳 三月十八日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	遅れている弁納木を早々納入する、除 木、材木代増加は願いとおりと有難い	
712	50	乍恐書付を以御願奉申上候御事	安永二年 巳 三月十八日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	弁納御用木と數木、これまで納めた數 にいて	
713	51	乍恐書付を以御同奉申上候御事	安永二年 巳 三月二十三日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	井川山からの御用木伐出しの願、 一日も早く下知下さるよう	
714	52	(覚)	(安永二年) 巳 三月二十七日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	弁納御用木、數木の數と出船日など	
715	53	覚	(安永二年) 巳 三月二十七日	一通	右馬之丞・千村平右 衛門江戸御役所	弁木御用木および數木の納入數報告	
716	54	(1) 乍恐申上候覚 (2) 差上申御請書之事 (3) 覚	安永二年 巳 三月廿四日 三月二十八日	三通	中川三十郎・右馬之 丞・千村平右衛門御 役所	弁木材木値段の計算覚え、掛塚から の材木積み出し、材木値段の願いの覚え 書き	

717	55	寛	安永二年 巳 三月二十八日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	材木の買上げ値段、板敷などは一本 一両、などの値段ならば堪納できる	
718	安永 56	安永二年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)大河原村被官門屋不残白木吟味 證文入 差上申證文之事 (8)人馬并家数御改帳	安永二年 巳 三月 安永二年 巳 一月十一日 安永二年 巳 三月	五冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人六十六人(男二十五人、女四十一 人)、減人三十六人(男九人、女二十七 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百五十七人(男七百二十二 人、女六百三十五人) 馬数三十五匹	
719	57	寛	(安永二年)巳 三月	一通	右馬之丞	安永元年辰年、弁納御用木数の覚	
720	58	大河原山敷木御材木船積覚	安永二年 巳 四月一日	一通	湊屋九兵衛・ 前嶋右馬之丞	三月四月の船積分四百七十八本の材 木三艘の船積の覚え	
721	59	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安永二年 巳 四月一日	二通 一包	惣百姓代小代割・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代を引き受けるにあたりて 差出す一札	
722	60	(1)と(5)覚、書付 (6)差上申御請書之事	安永二年 巳 三月、四月	六通	右馬之丞・ 江戸御役所	掛塚からの材木船出についで覚え、江戸 材木蔵への納入についで	
723	61	覚、書付	安永二年 巳 三月、四月	九枚	前嶋右馬之丞	掛塚より船積した材木数の覚、書付な ど	
724	62	安永二巳年四月御普請役御回村二付 村方より指出候控絵図	安永二年 巳 四月	絵図 一枚	鹿塩村	鹿塩村山河乗落の色付き絵図、公儀普 請役回村の際に差し出した	
725	63	乍恐書付を以言上奉申上候御事	安永二年 巳 五月一日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	皆納帳面は作成に手聞取り遅れてい る、納入した材木の余木について	
726	64	売付覚	安永二年 巳 五月八日	二通	中川三十郎・ 前嶋右馬之丞	安永元年辰七月と九月に売った材木の 数などの覚え	
727	65	乍恐以書付言上奉願上候御事	安永二年 巳 五月十日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門江戸御役所	弁納木は皆納したが残木を仙取りし て売りたい、お上の利益になる	
728	66	売付覚	(安永二年)巳 五月八日	一通	中川三十郎・ 前嶋右馬之丞	桂、塩地、板材木で売れた数の知らせ	
729	67	差上申御請書之事	安永二年 巳 五月十五日	一通	右馬之丞・土村平右 衛門御役所	明和七年伐出の材木で弁木皆納した、 その残木につき願いとおり売る	

730	68	書簡	安永二年 巳 五月十六日	一通	中川兵衛、 前嶋右馬之丞	請帳の件は今月二十日頃までに出来る	
731	安永 69	差上申御請書之事	安永二年 巳 五月十七日	一通	右馬之丞 十村平右 衛門御役所	駿州井川山から御用木伐出の件、願書 は早々準備する	
732	70	乍恐書付を以奉願上候御事	安永二年 巳 五月	一通	右馬之丞 十村平右 衛門江戸御役所	明和元年御用木弁木きこひが皆納、 村困窮に付井川山御用木伐出を願う	
733	71	寛	安永二年 巳 六月廿日、七月廿日	二通	信州大河原山支配 人	掛塚湊にて御用木の運賃値段の覚え書 き亭し	
734	72	乍恐以書付奉願上候	安永二年 巳 七月五日	一通	訴人 三十郎 代庄 三郎御奉行所	中川三十郎の訴状とそれに対する右 馬之丞の返答書亭し	
735	73	差上申一札之事(差上申御請書之事)	安永二年 巳 八月二十九日	一通	右馬之丞、 御役所	井川山からの材木伐出は不調、返却願 書受け取りを承知する二通の亭し	
736	74	書簡(寛之書付)	安永二年 巳 九月廿四日	一通	兵左衛門、 右馬之丞	中川三十郎との出入り、目安の件な ど、裏面は安永三年正月の右馬之丞書 簡下書きまたは日記	
737	75	寛	(安永二年 巳) 九月二十五日	一通	庄兵衛、 馬之丞	金子の受け取り覚え	
738	76	国役金請取帳	安永二年 巳 十二月十八日	一冊	大河原村勘定場	国役金の受け取り帳	
739	77	当已御年貢差引請取帳	安永二年 巳 十二月十八日	一冊	大河原村勘定場	安永二年分の年貢計算受け取り帳	
740	78	乍恐昨八日被仰渡之趣承和奉言上候 御事 及び 寛(料料申渡し状)	安永二年 巳 十二月九日、二十日	二通 一包	右馬之丞 十村平右 衛門江戸御役所	中川三十郎との出入りについでの上、 および料料申渡し状	
741	79	去辰年送り当已年分村入用井江戸旅 金郷中割付取立小前割掛寄費帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永元年に使った村入用費と江戸への 旅金の分担増済帳	
742	80	当已御拝借米高割割付割渡帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	安永二年分の米持米の配分	
743	81	当已費銭寄七帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	安永二年分の入用費の寛	
744	82	去ル子丑寅三ヶ年国役金高割割付取 立納帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	明和五、六、七年の国役金分担、取立 納帳	

745	83	当巳年御年貢御樽木成勘定取立納帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	安永二年分の年貢取立て納帳	
746	84	当巳入用家別割帳	安永二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	安永二年分入用費の家別分担	
747	85	安永 (1)奉請取金之事(二通分一枚) (2、3)差上申御請書之事 (4)乍恐昨八日被仰渡候趣承知奉言 上候御事 (5)口演 (6)乍恐書付を以奉願上候 (7)差上申一札之事 (8)差上申御請書之事 (9)口演 (10)(日記書付)	安永二年 巳 (1)十一月 (2)十二月 (3)十二月八日 (4)十二月九日 (5)十二月十日 (6)十二月十四日 (7)十二月十八日 (8)十二月廿二日 (9、10)十二月	十通	右馬之丞 千村平右衛門江戸 御役所	中川三十郎との出入り一件の始まり、 (1)舟納木皆納入用金受け取り(2、 4)中川三十郎方へ積み返りの敷木材 木の支払いについて(5)中川三十郎との 交渉(6)御趣意を携えて取り扱願う (7)井川山からの御用木はもう必要な い(8)舟木方問屋勘定について(9、1 0)十二月八日の日記書付宛え	
748	86	覚	安永二年 巳	三冊		舟納木、安永元年辰と二年巳年分掛 塚より江戸へ入津した材木数の覚え	
749	87	書簡、書付	安永二年 巳	一通	前嶋右馬之丞	中川三十郎木場で辰年売り出した計 千四百四十二本の材木改め、裏面は書 簡、裏紙の利用	
750	88	差上申御請書之事	(安永二年)	一通	右馬之丞 千村平右 衛門御役所	舟木を培納するつもり	
751	89	山方諸用改竄日記	安永三年 午 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永三年一月から十二月までの山方 諸用方日記帳	
752	90	御用井村方諸用改竄日記	安永三年 午 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永三年一月から十二月までの御用 村用方日記帳	
753	91	去巳年分御蔵金百石巻分高掛取立納 帳	安永三年 午 一月十一日	一冊	大河原名主所	安永二年分の御蔵金高掛りの割付け 取立帳	
754	92	去巳年御蔵金請取帳	安永三年 午 一月十三日	一冊	大河原村名主所	安永二年分の御蔵金受け取帳	
755	93	(1)乍恐以書付奉申上候 (2)乍恐以書付を奉願上候御事	安永三年 午 正月十七日十八日	二通	右馬之丞 御奉行所	材木納入用金出入りの證文について おむ證文	
756	94	覚	(安永三年 午 二月十六日	一通	右馬之丞 千村平右 衛門御役所	中川三十郎との出入り吟味に付、舟木 出船届書きなどの書類の送り状	

757	95	御殿様江御用立候金子御年紙二而御返済二付去已年分割返し帳	安永三年 午二月	三冊	大河原村名主所	久々里勝手方御用により用立てた金子が返されしたので返金する	
758	安永96	安永三年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 宗門増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 大河原村被官門屋不殘白木吟味證文入 差上申證文之事	安永三年 午三月 安永三年 午一月十一日 安永三年 午三月	四冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河原村・飯田御役所	増人四十九人男十九人、女三十人、減人四十九人男二十六人、女二十三人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺	
759	97	(覺) (送り状)	(安永三年 午四月三日)	一通	右馬之丞・御勤定奉行所	安永三年までの御用木、數木升木の數、木品など報告	
760	98	(1) 差出申書付之事 (2) 差出申一札之事	安永三年 午四月二十八日	二通 一包	總百代小代判・名主組頭衆中	今年惣百姓代を引き受けるにあたりて差出す一札	
761	99	寛	安永三年 午四月	一通	右馬之丞・御奉行様	明和七年に根伐、安永元年に入津した材木、木數合千二百三十七本他	
762	100	乍恐以書付御覽奏申上候	安永三年 午五月十二日	一通	右馬之丞・御奉行様	中川三十郎との出入り一件吟味には憐憫を願う	
763	101	乍恐書付を以奉願上候	安永三年 午七月七日	一通	右馬之丞・御奉行所	右馬之丞への召し出しだが、遠国にいるので所定の日時に出現できない	
764	102	田畑荒所御吟味二付御案内野帳	安永三年 午九月一日	一冊	大河原村名主組頭	田畑荒れ所の現地調査記録	
765	103	乍恐以書付を奉願上候(二通) 差上申御請書之事(川除一件)	安永三年 午九月十九日十二月二十日	三通	大河原村名主・江戸御役所御奉行所	大風雨で出水、被害が大きい、被害地見分をお願いする、および川除一件	
766	104	当年年荒所地主之内持高十分一余改候書付	安永三年 午九月	一冊	名主右馬之丞他村役人・飯田御役所	当年に荒地となった田畑で持ち高の十分の一を越えたものの地主と高	
767	105	当年年荒所地主之内持高十分一余改候書付	安永三年 午九月	二冊	大河原村名主他村役人・飯田御役所	安永三年、田畑荒れ所の調査報告書、控とともに二冊	
768	106	(当年御用并村方諸用書留帳)	安永三年 午九、十、十一月	三冊	(前嶋右馬之丞)	江戸を出立、帰村までの日記、および帰村後の十一月までの日記	
769	107	当年年荒所見分之上改帳	安永三年 午九月	一冊	信州伊那郡大河原村	安永三年分の田畑荒れ所調査結果	

770	108	当午九月田畑荒所之内近年不起返分書上帳	安永三年 午九月	一冊	大河原村	安永三年九月現在、荒所となつてゐる田畑のうち、近年耕作しつかだ分	
771	安永109	辰巳御見取場并未御改流作場荒所御改帳	安永三年 午九月	一冊	大河原村、飯田御役所	過去二年は評定されたが、今年は荒地になつた田畑について報告	
772	110	当午年水損二付御検見田方下見合毛帳	安永三年 午九月	一冊	大河原村、飯田御役所	当年の水害と荒所になつた田畑の下見記録	
773	111	田畑荒所引高書上候小前帳	安永三年 午九月	一冊	大河原村、飯田御役所	荒所となつた田畑の減反高報告	
774	112	田畑荒所引高書上候小前帳	安永三年 午十月	一冊	大河原村、飯田御役所	荒所となつた田畑の引高報告	
775	113	当午年御年貢御樽木成勘定取立納帳	安永三年 午十一月	一冊	大河原村名主所	安永三年分の年貢取立納帳井上柳八から太郎左衛門(の書簡一通入る)	
776	114	去少子丑寅三ヶ年国役金高掛割付取立納帳	安永三年 午十一月	一冊	大河原名主会所	明和五、六、七年の国役金の分担取立帳	
777	115	田畑荒所去少子当午荒所御引改帳	安永三年 午十一月	一冊	大河原名主勘定所	荒地となつた田畑のうち明和五年と安永三年の分の減數調べ	
778	116	当午御拝借米高割割付割付帳	安永三年 午十一月	一冊	大河原村名主会所	安永三年分の米食米の分配	
779	117	安永三年四年(御用留日記帳)	安永三年十一月から四年まで	三冊	(右馬之丞)	安永三年牛から安永四年末十二月までの御用日記	
780	118	年忌以書付奉申上候	安永三年 午十二月三日	二通	右馬之丞、御奉行様	本湊町村木問屋三十郎との出入りにつき吟味願(た一通は享し)	
781	119	国役金請取帳	安永三年 午十二月十九日	一冊	大河原村勘定所	国役金の分担金受け取り帳	
782	120	当午年御年貢請取差引帳	安永三年 午十二月十九日	一冊	大河原村勘定所	安永三年分年貢の受け取り計算帳	
783	121	当午費請取差引帳	安永三年 午十二月二十八日	一冊	大河原村名主勘定所	安永三年分の入用費分担計算帳	
784	122	当午入用家別割帳	安永三年 午十二月	一冊	大河原村名主会所	安永三年分の入用費家別分担	
785	123	去已年送り当午年分科入用并江戸旅金郷中割付取立小前割取増済帳	安永三年 午十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	村入用費の分担金取立増済帳	

786	124	山方諸用改萬日記	安永四年 未 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永四年一月二十四日から三月二十 六日までの山方諸用万日記帳	
787	安永 125	御用井村方諸用改萬日記	安永四年 未 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永四年一月から五月六日までの御 用村用万日記帳	
788	126	去年年分御蔵金百石七分高掛取立納 帳	安永四年 未 一月十一日	一冊	大河原村名主所	安永三年分の御蔵金取り立て納帳	
789	127	国役金請取差引寛帳	安永四年 未 一月十三日	一冊	大河原村名主勘定 場	国役金の取立て計算帳	
790	128	古高新高大河原村小前書抜帳	安永四年 未 一月	一冊	名主所	大河原村各戸の古新高の書出し覚え、 右馬之丞古新高九十四石六升一合余	
791	129	安永四年 宗門御改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)大河原村被官門屋不残白木吟味 證文入 差上申證文之事 (9)人馬并家数御改帳	安永四年 未 三月 安永四年 未 一月十一日 安永四年 未 三月	五冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十九人(男十九人、女三十人)、 減人四十九人(男二十六人、女二十三 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百七十一人(男七百二十三 人、女六百四十八人) 馬数三十五匹	(9)には申 年から丑年 迄六年分の 惣人数の付 紙がついてい る
792	130	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安永四年 未 四月二十九日	二通 一包	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代を引き受けるにあたり 差出す一札	
793	131	先触御用	(安永四年) 未 八月六日	一通	飯田御役所・ 大河原村名主	加藤當作、井上柳八上下五人が、荒所 見分で出向く、都奈峠まで出現す。	
794	132	切替焼畑皆水荒改書上帳	安永四年 未 八月八日	一冊	大河原名主組頭	焼畑や荒れ畑になつた場所の調査書上 げ	
795	133	当未年荒所地主之内持高十分一余改 帳書付	安永四年 未 八月	一冊	大河原村名主他村 役人・飯田御役所	安永四年に荒所になつた地の地主の内 持高十分の一になつた者の調査	
796	134	当未年御年貢御樽太成勘定取立皆済 納帳	安永四年 未 十二月一日	一冊	大河原村名主所	安永四年分年貢取立納帳	
797	135	御年貢皆済改請取帳	安永四年 未 十二月十七日	一冊	大河原村名主会所	年貢受け取り皆済帳	
798	136	(国役差引請取帳)	(安永四年) 未 十二月二十三日	一冊	(大河原村名主所)	国役金の分担、取り立て帳	

799	137	当米年夫食御拝借米御改御願濟例年 之通割付割渡帳	安永四年 未 十二月二十八日	一冊	大河原村名主会所	安永四年分の夫食米の例年の通り分配 明細	
800	安永 138	去儿予年より去年年迄国役金高掛割 付取立納帳	安永四年 未 閏十二月	一冊	大河原村名主会所	明和五年から安永三年までの国役金の 分担取立納帳	
801	139	去年年送り当米年分村入用費郷中割 付取立小前割掛替濟帳	安永四年 未 閏十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永四年村入用費当年分分担取立明 細	
802	140	当米年入用家別割帳	安永四年 未 十二月	一冊	大河原名主会所	安永四年分の入用費の家別分担明細	
803	141	錢寄差引帳	安永四年 未 十二月	一冊	百姓代五郎兵衛	入用費取立寛	
804	142	御用井村方諸用改寛日記	安永五年 申 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永五年十一月から十二月までの御 用村用方日記帳	
805	143	去米年分御蔵金百石毫分高掛り金取 立納帳	安永五年 申 一月七日	一冊	大河原村名主所	安永四年分の御蔵金高掛の取立帳	
806	144	当申年御用井村方諸用留寛帳	安永五年 申 一月十一日	二冊	前嶋右馬之丞	安永五年一月から十月までの御用村 用日記	
807	145	村方大百姓譲引地所高取改帳	安永五年 申 一月、二月	一冊	大河原村名主所	売買された地所の高調査	
808	146	銘々高取中右人教纏店帳	安永五年 申 二月二日	一冊	大河原村	饗応の記録	
809	147	当申年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	安永五年 申 十一月十五日	一冊	大河原村名主所	安永五年分年貢取立納帳	
810	148	田畑譲り引取違改寛帳	安永五年 申 十一月	一冊	大河原名主所	田畑の売買寛	
811	149	宝暦七五年より本田畑御見取場切替 焼畑山林譲引地并荒所引高書出改 寛帳	(安永五年) 申 十一月	一冊	大河原村名主会所	本田畑、焼畑、売り買い地荒所などの 高見構まりなどの寛え書き、宝暦七年 から安永五年まで	
812	150	当申年国役金錢寄帳	(安永五年) 申 十二月十九日	一冊		国役金の取り立て帳	
813	151	御年貢差引受取帳	(安永五年) 申 十二月十九日	一冊	大河原村	申年の年貢取立受け取り帳	

814	152	当申年夫食御拝借米例年之通割付割渡帳	安永五年申 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永五年分の夫食米を例年のように分配する明細	
815	153	去儿屋より去未年迄国役金高掛り割付取立納帳	安永五年申 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永元年から四年までの国役金の分担取立納帳	
816	安永 154	当申年入用家別割帳	安永五年申 十二月	一冊	大河原名主会所	安永五年分の入用費の家別分担明細	
817	155	去未年送り当申年分列入用費郷中割付取立小前割掛寄済帳	安永五年申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永五年村入用費当年分担取立明細	
818	156	古高新高大河原村小前書拔高辻帳	安永五年申 十二月	四冊	大河原村名主所	高、年貢高を再調査、改定したこの覚	
819	157	御用井村方諸用改算日記	安永六年西 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永六年一月から十二月までの御用村用方日記帳	
820	158	大河原村御用村用一日覚	安永六年西 一月吉日	三冊	(右馬之丞)	安永六年一月からの御用村用日記の類	
821	159	当西年御用井村方諸用書留改算帳	安永六年西 一月吉日	一冊	前嶋右馬之丞	安永六年一月から十月までの御用村用日記帳	破損ページあり
822	160	去申年分御蔵金百石迄分高掛り金取立納帳	安永六年西 一月八日	一冊	大河原村名主所	安永五年分の御蔵金高掛の取立帳	
823	161	御蔵金銭寄帳	安永六年西 一月九日	一冊	大河原村名主所	御蔵金の取立納帳	
824	162	当西年より郷中勘定帳忘帳	安永六年西 十一月十八日	一冊	大河原村	安永六年分の年貢勘定、郷中の記録	
825	163	当西年分皆蔵金百石迄分高掛り金取立納帳	安永六年西 十一月十八日	一冊	大河原村名主所	安永六年分御蔵金の取立納帳	
826	164	当西年御年貢御榎木成勘定取立皆済納帳	安永六年西 十一月十八日	一冊	大河原村名主所	安永六年分年貢取立納帳	
827	165	当西年夫食御拝借米例年之通割付割渡帳	安永六年西 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永六年分の夫食米の分配明細	
828	166	去儿屋より申迄国役金高掛り割付取立納帳	安永六年西 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永元年から五年までの国役金の分担取立納帳	
829	167	御年貢并国役川除掛り百石迄分御蔵金取立請取皆済帳	安永六年西 十二月一日	一冊	大河原名主会所	年貢、国役金、御蔵金などの取立皆済帳	

830	168	費銭差引請取帳	安永六年 酉 十二月二十日	一冊	百姓代五郎兵衛	入用費の請取帳	
831	169	去申年送り当酉年分村入用費郷中割 付取立小前割掛増済帳	安永六年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永六年村入用費当年分分担取立明 細	
832	安永 170	当酉年入用家別割帳	安永六年 酉 十二月	一冊	大河原名主会所	安永六年分の入用費の家別分担明細	
833	171	御用井村方諸用改蓮日記	安永七年 戌 一月吉日	一冊	前嶋政房	安永七年一月から十二月までの御用 村用方日記帳	
834	172	(幸蔵書付入細改之節入用之分) (1)寛 (2)寛 (3)高沢寛 (4)他四通の幸蔵持ち畑の寛之	安永七年 戌 (1)九月(2)十一月 (3)安永五年 申 十二月四日	七通	(1)大河原村 (2)飯田御役所 (3)弥次右衛門	(1)安永七年から天明七年までの十 年の定免寛(2)同右(3)兵次郎持ち 焼畑の寛寛(4)幸蔵持ち畑の寛え	
835	173	去ル巳年より去酉年迄国役金割掛割 付取立納帳	安永七年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永二年から六年までの国役金の分担 取立納帳	
836	174	当戌年分御蔵金百二匁分高掛り金取 立納帳	安永七年 戌 十一月十日	一冊	大河原名主所	安永七年分の御蔵金の取立増済帳	
837	175	当戌年米食御拝借米例年之通割付割 渡帳	安永七年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	安永七年分の米食米の例年のおりの 分配明細	
838	176	当戌年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	安永七年 戌 十一月十日	一冊	大河原村名主所	安永七年分年貢取立納帳	
839	177	当戌年御年貢井御蔵金取立差引帳	(安永七年) 戌 十二月六日	一冊	大河原村名主会所	安永七年分の年貢と御蔵金の取り立て 計算帳	
840	178	当戌年国役金掛り取立増済帳	安永七年 戌 十二月六日	一冊	大河原村名主会所	安永七年分の国役金の取立増済帳	
841	179	去酉年送り当戌年分村入用費郷中割 付取立小前割掛増済帳	安永七年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安永七年に取り立てる村入用費の分担 取立て明細	
842	180	当戌年入用家別割帳	安永七年 戌 十二月	一冊	大河原名主会所	安永七年分の入用費の家別分担明細	
843	181	安永七、八、九年、天明元年 (御用留日記帳)	安永七年戌から天 明元年丑まで	五冊	(右嶋之丞)	御用留日記帳	
844	182	当亥年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	安永八年 亥 十一月十六日	一冊	大河原村名主所	安永八年分年貢取立納帳	

845	183	当亥年分御蔵金百石毫分高掛り金取立納帳	安永八年亥十一月十六日	一冊	大河原名主所	安永八年分の御蔵金の取立増減帳	
846	184	去ル未より去成年迄国役金高掛割付取立納帳	安永八年亥十一月十六日	一冊	大河原村名主会所	安永四年から七年までの国役金の分担取立納帳	
847	安永 185	当亥年夫食御拝借米例年之通割付割渡帳	安永八年亥十一月十六日	一冊	大河原村名主会所	安永八年分の夫食米の例年のこわりの分配明細	
848	186	国役錢寄帳	安永八年亥十一月二十五日	一冊	大河原村百姓代五郎兵衛	国役金の徴収帳	
849	187	当亥年御年貢取立差引帳	(安永八年)亥十一月二十五日	一冊		安永八年分の年貢取立て計算帳	
850	188	当亥年分村入用費郷中割付取立小前割掛増減帳	安永八年亥十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	安永八年に取り立てる村入用費の分担取立て明細	
851	189	当亥年入用家別割帳	安永八年亥十二月	一冊	大河原名主会所	安永八年分の入用費の家別分担明細	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
852	天明 1	御用井村方諸用改算日記	(安永十年)天明元 年丑一月吉日	一冊	前嶋政房	天明元年一月から十二月までの御用 村用方日記帳	
853	2	天明元年(安永十年) 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (2) 小百姓并被官印鑑相改帳 (4) 宗門増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳	(安永十年)天明元 年丑三月 天明元年丑 一月十一日 天明元年丑 三月二十三日 天明元年 丑 三月	五冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人五十人(男二十一人、女二十九 人)、減人三十七人(男十九人、女十八 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺	
854	3	(当丑年白木御吟味證文二通入) 差上申證文之事	(安永十年)天明元 年丑三月	一通	大河原村名主他、櫻 百姓、飯田御役所	御樽木はもちろん諸木もみだりに切り 出して売買しないとの誓約	
855	4	秩父中津川村より江戸帰り道中諸用 江戸入改算帳	天明元年丑 五月二十八日	一冊	前嶋右馬之丞政俊	天明元年五月二十八日出立、秩父村 を經て江戸における諸用留日記	
856	5	当丑御用留井秩父山諸用留日記覚帳	天明元年丑 五月	一冊	前嶋右馬之丞	天明元年五月の御用にて、江戸、秩父 山などにおける日記	
857	6	去儿申より去子年迄国役金高掛割付 取立納帳	天明元年丑 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	安永五年から安永九年までの国役金 割付取り立て納め帳	
858	7	当丑年扶食御拝借米例年之通割付割 渡帳	天明元年丑 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	天明元年分の扶食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
859	8	当丑年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	天明元年丑 十一月二十六日	一冊	大河原村名主所	天明元年の年貢勘定取立納帳明細	

860	天明 9	国役差引帳	天明元年 丑 十二月五日	一冊	大河原村名主会所	国役金分担明細帳	
861	10	御年貢請取差引帳	天明元年 丑 十二月五日	一冊	大河原村名主勘定 場	天明元年分年貢の受け取り計算帳	
862	11	当丑年村入用費取立差引帳	天明元年 丑 十二月十六日	一冊	大河原村百姓代五 郎兵衛	天明元年分村入用費の分担取立明細 帳	
863	12	当丑年分村入用費郷中割付取立小前 割掛清算帳	天明元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明元年分の村入用費小前割掛の明 細帳	
864	13	御用井村方諸用改萬日記	天明二年 寅 一月吉日	一冊	前嶋政房	天明二年一月から十二月までの御用 村用万日記帳	
865	14	御用留諸用書留覚帳	天明二年 寅 一月	一冊	前嶋右馬之丞	明和二年実は天明二年一月、二月十 一日、廿一日から廿八日までの日記	
866	15	去丑年新田御年貢請勘定帳	天明二年 寅 二月六日	一冊	大河原村名主会所	天明元年分、新田の年貢取立て勘定帳	
867	16	天明二年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (2) 小百姓井門屋被官印鑑相改帳 (4) 宗門増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 人馬并家数御改帳	天明二年 寅 三月 天明二年 寅 一月十一日 天明二年 寅 一月十 一日 天明二年 寅 三月	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人五十五人(男二十人、女三十五 人)、減人四十二人(男十五人、女二十 七人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千四百十九人(男七百四十二人、 女六百七十七人) 馬数三十五匹	
868	17	(寅年分門屋被官白木御吟味證文一 通入)	天明二年 寅 三月	一通	大河原村名主他、惣 百姓、飯田御役所	御樽木はもちろん諸木もふだりに切り 出して売買し、この誓約	
869	18	当寅年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	天明二年 寅 十一月二十六日	一冊	大河原村名主所	天明二年の年貢勘定取立納帳明細	
870	19	当寅年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	天明二年 寅 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	天明二年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
871	20	去儿成より去丑年迄国役金貢割付 取立納帳	天明二年 寅 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	安永七年から天明元年までの国役金 割付取り立て納め帳	

872	天明 21	為取替一札之事	天明二年 寅 十一月	二通 一包	大河原村名主他: 柄山名主他	大河原村より売り出すタビ、大豆など船渡し賃、駄賃など取り決め	
873	22	御年貢差引受取帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢計算と受け取り明細	
874	23	当寅年貢請取差引覚帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 百姓代会所	天明二年分の村貢割り当て計算帳	
875	24	国役金請取覚帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	国役金の受け取り覚書	
876	25	当寅年入用家別割帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明二年に入用した費用の家別分担	
877	26	去儿年分国役金割返帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主所	安永九年分の国役金に間違いがあつたので割り戻す	
878	27	当寅年分村入用費郷中割付取立小前 割掛差替帳	天明二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明二年分村入用費小前割掛の取立 明細帳	
879	28	御用井村方諸用改萬日記	天明三年 卯 一月吉日	一冊	前嶋政房	天明三年一月から十二月までの御用 村用万日記帳	
880	29	(○)人馬并家数御改帳	天明三年 卯 三月	一冊	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	家数二百軒 人数千四百二十二(男七百四十八 人、女六百七十四人) 馬数三十五匹	
881	30	作恐書付を以御訴訟申上候御事	天明三年 卯 八月	一通	鹿塩大河原村名主 他、飯田御役所	今年は冷害で稲穂が全く実らず難儀 している、御見分を願う	
882	31	去儿戌亥両年国役金高掛割付取立納 帳	天明三年 卯 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	安永七、八年の国役金割付取り立て納 め帳	
883	32	当卯年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	天明三年 卯 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	天明三年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
884	33	当卯年御年貢御樽米成勘定取立皆済 納帳	天明三年 卯 十二月三日	一冊	大河原村名主所	天明三年の年貢勘定取立納帳明細	
885	34	当卯国役請取帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明三年分の国役金の受け取り覚書	
886	35	御年貢差引帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明三年の年貢計算と受け取り明細	

887	天明 36	当卯重差引帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明三年分村實の計算帳	
888	37	当卯年入用家別割帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明三年に入用した實用の家別分担	
889	38	当卯年分村入用費郷中割付取立小前 割掛増減帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明三年分の村入用費小前割掛の明 細帳	
890	39	去寅年新田御年貢請勘定帳	天明三年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明三年の新田年貢の勘定帳	
891	40	当辰御用留并村用萬日記帳	天明四年 辰 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	天明四年一月から十二月までの御用 村用万日記	
892	41	印鑑帳	天明四年 辰 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門	印鑑帳、裏は天明四年から寛政六年ま での畑などの地代等記録帳	
893	42	当辰年御年貢御樽本成勘定取立増減 納帳	天明四年 辰 十一月十八日	一冊	大河原村名主所	天明四年の年貢勘定取立納帳明細	
894	43	去卯年より去卯迄国役金高割割付取 立納帳	天明四年 辰 十一月十八日	一冊	大河原村名主会所	安永八年から天明三年までの国役金 割付取り立て納め帳	
895	44	当辰年夫食俸俵米例年之通割付割渡 帳	天明四年 辰 十一月十八日	一冊	大河原村名主会所	天明四年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
896	45	当辰年より郷中勘定繰上帳	天明四年 辰 十一月十八日	一冊	大河原村	天明四年年貢勘定および繰上の記録	
897	46	一札之事	天明四年 辰 十一月十八日	一通	前嶋兵左衛門、 宿々村々衆中	兵左衛門家来五左衛門四十六男 子亀太九つ、松之介六つ西国巡礼往来一 札	
898	47	去卯年新田御年貢送り勘定帳	天明四年 辰 十一月	一冊	大河原村名主所	天明三年の新田年貢の勘定帳	
899	48	当辰御年貢取立請取帳	天明四年 辰 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	天明四年分年貢取立明細	
900	49	当辰国役金請取帳	天明四年 辰 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	天明四年分国役金分担明細	
901	50	当重差引請取帳	天明四年 辰 十二月十三日	一冊	大河原村立会所	天明四年分村貢請け取帳	

902	51	去卯送、当辰年分村入用費郷中割付 取立小高割掛普済帳	天明四年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	村入用費小高割掛の明細帳	
903	52	当辰入用家別割帳	天明四年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明四年に入用した費用の家別分担	
904	53	当已御用留井村用費日記帳	天明五年 巳 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	天明五年一月から十二月までの御用 村用方日記	
905	54	天明五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)小百姓井門屋被官印鑑相改帳 (3)宗門御改帳 (4)宗門増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)巳年白木證文一通入 差上申證文之事	天明五年 巳 三月 天明五年 巳 十一月十一日 天明五年 巳 三月	六冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増入四十五人(男十五人、女三十人)、 減入六十八人(男三十六人、女三十二 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺	
906	55	当巳年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	天明五年 巳 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	天明五年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
907	56	去儿丑より去辰迄国役金高割付取 立納帳	天明五年 巳 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	天明元年から天明四年までの国役金 割付取り立て納め帳	
908	57	去辰年新田御年貢送り勘定帳	天明五年 巳 十一月二十六日	一冊	大河原村名主所	天明四年分の新田年貢の勘定帳	
909	58	当巳年御年貢御樽木成勘定取立普済 納帳	天明五年 巳 十一月二十六日	一冊	大河原村名主所	天明五年の年貢勘定取立納帳明細	
910	59	当巳年御年貢取立差引帳	天明五年 巳 十二月六日	一冊	大河原村名主会所	天明五年分の年貢取立差引き帳	
911	60	当巳年国役差引帳	天明五年 巳 十二月六日	一冊	大河原村名主会所	天明五年分の国役金差引き帳	
912	61	当巳年貢取立差引帳	天明五年 巳 十二月十三日	一冊	大河原村名主会所 百姓代治郎三	天明五年分の村貢取立帳	
913	62	当巳年入用家別割帳	天明五年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明五年分村入用費の家別割り当て 表	

914	63	去辰送り当巳年分村入用費郷中割付取立小前割掛管済帳	天明五年 巳十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	天明五年分村入用費小前割掛の取立明細帳	
915	天明 64	当年御用留井村用萬日記帳	天明六年 午一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	天明六年一月から十二月までの御用村用万日記	
916	65	当年年夫食御拝借米例年之通割付割渡帳	天明六年 午十一月十七日	一冊	大河原村名主会所	天明六年分の夫食米を例年と同じように配分した明細帳	
917	66	去巳年新田御年貢送り勘定帳	天明六年 午十一月十七日	一冊	大河原村名主所	天明五年分の新田年貢納の勘定帳	
918	67	当年年御年貢御樽木成勘定取立管済納帳	天明六年 午十一月十七日	一冊	大河原村名主所	天明六年の年貢勘定取立納帳明細	
919	68	当年御年貢井御拝借米差引帳	天明六年 午十一月十七日	一冊	大河原村名主所	天明六年分年貢おむび夫食米の計算帳	
920	69	当年御年貢差引帳	天明六年 午十一月二十九日	一冊	大河原村名主勘定所	天明六年分年貢差引き計算帳	
921	70	当年貢差引帳	天明六年 午十二月十一日	一冊	大河原村名主会所	天明六年分の村貢会計帳	
922	71	去巳送り当午年分村入用費郷中割付取立小前割掛管済帳	天明六年 午十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	天明五年に要した村入用費小前割掛の明細帳	
923	72	当年年入用家別割帳	天明六年 午十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	天明六年分村入用費の家別割り当て分担	
924	73	当年年分国役金高掛り納取立帳	天明六年 午十二月	一冊	大河原村名主会所	天明六年分の国役金分担取り立て明細	
925	74	当未御用留井村用萬日記帳	天明七年 未一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	天明七年一月から十二月までの御用村用万日記	
926	75	去小卯より去午迄国役金高掛割付取立納帳	天明七年 未十一月二十二日	一冊	大河原村名主所	卯年天明三年から六年までの国役金割付取り立て納め帳	
927	76	当未年御年貢御樽木成勘定取立管済納帳	天明七年 未十一月二十二日	一冊	大河原村名主所	天明七年の年貢勘定取立納帳明細	
928	77	去午年新田御年貢送勘定帳	天明七年 未十一月二十二日	一冊	大河原村名主所	天明六年の新田年貢の勘定帳	
929	78	当未年扶食拝借米例年之通割付割渡帳	天明七年 未十一月二十二日	一冊	大河原村名主所	天明七年分の夫食米を例年と同じように配分した明細帳	

930	79	当米御年貢差引帳	天明七年 未 十二月二日	一冊	大河原村名主会所	天明七年分年貢差引き帳明細	
931	天明 80	当米年入用家別割帳	天明七年 未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明七年分村入用費の家別割り当て 表	
932	81	去年送り当米年分村入用費郷中割付 取立小前割掛普済帳	天明七年 未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	村入用費小前割掛の明細帳	
933	82	当米年貢差引帳	天明七年 未 十二月	一冊		天明七年分村貢差引き帳	
934	83	当申御用留并村用萬日記帳	天明八年 申 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	天明八年一月から十二月までの御用 村用万日記	
935	84	去年年新田御年貢送り勘定帳	天明八年 申 四月	一冊	大河原村名主会所	天明七年の新田年貢の勘定帳	
936	85	去年卯より去年迄国役金高掛割付取 立納帳	天明八年 申 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	天明三年から七年までの国役金割付 取り立て納帳	
937	86	当申年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	天明八年 申 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	天明八年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
938	87	当申年御年貢御樽木成勘定取立普済 納帳	天明八年 申 十一月十九日	一冊	大河原村名主所	天明八年の年貢勘定取立納帳明細	
939	88	当貢寄差引帳	天明八年 申 十二月十九日	一冊	大河原村名主勘定 場	天明八年分村貢差引き帳	
940	89	国役請取普済帳	天明八年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	国役金分担受取明細	
941	90	当申年入用家別割帳	天明八年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天明八年分村入用費の家別割り当て 明細	
942	91	去年送り当申年分村入用費郷中割付 取立小前割掛普済帳	天明八年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	村入用費小前割掛の明細帳	
943	92	当申御年貢差引請取帳	天明八年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明八年分年貢差引き請取帳明細	
944	93	(1)当申年被仰渡二付樽寄寛帳 (2)被仰渡二付貯種小前銘々寄帳	天明八年 申 十二月	二冊	大河原村名主会所	樽(上)の備蓄の明細寛々書と	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
945	寛政 1	当西御用留并村用寛日記帳	(天明九年)寛政元年 西一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政房	寛政元年一月から五月一日までの御 用村用万日記	
946	2	(御用留帳)	寛政元年 西 五月七日	一冊	(前嶋兵左衛門政 房)	寛政元年五月七日付けから八月二十 九日までの御用状などの受け渡し	
947	3	田畑荒所引高小前帳	寛政元年 西 七月	一冊	信州伊那郡大河原 村	荒れた田畑の面積と荒れた理由、およ び年貢引き量明細	
948	4	去ル辰より去申迄国役金高掛割付取 立納帳	寛政元年 西 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	天明四年から八年までの国役金割付 取り立て納帳	
949	5	当西年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	寛政元年 西 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	寛政元年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
950	6	当西年入用家別割帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政元年分村入用費の家別割り当て 明細	
951	7	去申送り当西年分村入用費郷中割付 取立小前割掛普済帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政元年分村入用費小前割掛の明細 帳	
952	8	当實寄差引帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政元年分村實の分担計算帳	
953	9	国役金差引取立帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	国役金の分担取立帳	
954	10	当西御年貢差引取立帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政元年分年貢差引き請取帳明細	虫食い有り
955	11	去申年新田御年貢送り勘定帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主所	天明八年分の新田年貢の勘定帳	
956	12	御下り穀初御願帳	寛政元年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	天明八年、寛政元年二年の二年の御 下げ渡し穀初量宛寛	

957	寛政 13	当酉被仰渡二付寄寛帳	寛政元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所、 飯田御役所	寛政元年の糠貯穀量	
958	14	当酉年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	寛政元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主所	寛政元年の年貢勘定取立納帳明細	最終部 虫食い有り
959	15	当戌年被仰渡二付寄寛帳	寛政二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所、 飯田御役所	寛政二年の糠貯穀量	
960	16	(1)高分け々之節購入用帳 (2)紹々高沢中人数懸忘帳	寛政三年 亥 二月二十五日	二冊	百姓代五郎左衛門	高分けの際に必要な経費と懐念の 寛	
961	17	田畑譲引取違り改寛帳	寛政三年 亥 二月二十五日	一冊	大河原村名主所	売買された田畑の記録	
962	18	田畑井焼畑林譲請高反別請取改帳	寛政三年 亥 二月二十五日	一冊	大河原村名主所	安永五年から寛政二年まで売買され た田畑焼畑林の高反別の改め寛	
963	19	田畑井焼畑林譲引高反別渡口帳	寛政三年 亥 二月二十五日	一冊	大河原村名主所	安永五年から寛政二年まで売買され た田畑焼畑林の引き渡し寛	
964	20	大河原村小前書抜高辻帳	寛政三年 亥 四月	一冊	大河原村名主所	小前高辻帳	
965	21	当亥年夫食御拝借米例年之通割付割 渡帳	寛政三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政三年分の夫食米を例年と同じよ うに配分した明細帳	
966	22	去儿牛より去戌迄国役金高掛割付取 立納帳	寛政三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	天明六年から寛政二年までの国役金 割付取り立て納め帳	
967	23	当亥年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	寛政三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主所	寛政三年の年貢勘定取立納帳明細	
968	24	当亥年御年貢取立差引帳	寛政三年 亥 十二月十一日	一冊	大河原村名主会所	寛政三年分の年貢取立計算帳	
969	25	当亥年国役差引帳	寛政三年 亥 十二月十一日	一冊	大河原村名主会所	寛政三年分の国役金計算帳	
970	26	当亥年被仰渡二付寄寛帳	寛政三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政三年の糠貯穀量	
971	27	当亥年入用家別割帳	寛政三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政三年分村入用費の家別割り当て 明細	
972	28	去成送り当亥年分村入用費郷中割付 取立小前割掛皆済帳	寛政三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	村入用費小前割掛の明細帳	

973	寛政 29	当子御年貢初納二納割付寛帳	寛政四年子 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	寛政四年分の年貢初納二納割り付け帳	
974	30	当子年御年貢御槽木成勘定取立皆済納帳	寛政四年子 十一月	一冊	大河原村名主所	寛政四年の年貢勘定取立納帳明細	虫食い
975	31	去儿米生残申西国役金高掛割付取立之納帳	寛政四年子 十一月	一冊	大河原村名主会所	天明七年分の国役金の残りと天明八年、寛政元年分の国役金の取立帳	
976	32	当子年夫食御押借米例年之通割付割渡帳	寛政四年子 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政四年分の夫食米を例年と同じように配分した明細帳	
977	33	当御年貢差引請取帳	寛政四年子 十二月十日	一冊	大河原村名主会所	寛政四年分の年貢差し引き受け取りの覚え	
978	34	当御年貢百姓分付請取帳	寛政四年子 十二月十日	一冊	大河原村名主会所	寛政四年分の年貢受け取り帳	虫食い
979	35	当国役金請取寛帳	寛政四年子 十二月十日	一冊	大河原村名主会所	寛政四年分の国役金受け取り帳	
980	36	子年貢割付請取帳	寛政四年子 十二月	一冊	名主会所	寛政四年分の村貢受け取り帳	
981	37	当子年被仰渡二付種寄寛帳	寛政四年子 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政四年の貯穀としての種を集めた覚え	
982	38	夫食貯種小前請取帳	寛政四年子 十二月	一冊	名主会所	貯穀としての種の受け取り覚え	
983	39	当子年入用家別割取立帳	寛政四年子 十二月	一冊	名主組頭会所	寛政四年分村入用費の家別割り当て明細	
984	40	当亥年村入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	寛政四年子 十二月	一冊	名主組頭会所	村入用費小前割掛の明細帳	

985	寛政 41	寛政五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)寛政五五年門屋被官白木證文入 差上申證文之事 (8)小割帳 (9)人馬家数御改帳	寛政五年 丑 三月 寛政五年 丑 一月十一日 寛政五年 丑 三月二十二日 寛政五年 丑 三月 (小割帳は寛政四年 予十二月)	八冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人六十三人(男三十人、女三十三 人)、減人五十七人(男二十人、女三十 七人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十八人(男六百八十二人、 女六百三十六人) 馬数三十五匹	
986	42	御年貢過納不納差引覚帳	寛政五年 丑 十一月三日	一冊	大河原村名主会所	寛政三年と四年分の年貢の内に計算 違いなど、過納不足納分の差引帳	
987	43	当丑年国役金高掛割付取立納帳	寛政五年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分の国役金割り付け取り立 て帳	
988	44	当丑年御年貢初納二納割付覚帳	寛政五年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分の年貢初納二納割り付け 帳	虫食い
989	45	田畑井焼畑持林年高取取改帳	寛政五年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政五年から文化三年までの田、畑、 焼畑、持ち林の高取帳	
990	46	当丑国役金取立差引帳	寛政五年 丑 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分の国役金取り立て帳	虫食い
991	47	当丑御年貢取立差引帳	寛政五年 丑 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分の年貢取り立て帳	虫食い
992	48	当丑年貢差引帳	寛政五年 丑 十二月三日	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分の村貢計算帳	虫食いひと い
993	49	当丑年入用家別割取立帳	寛政五年 丑 十二月	一冊	名主組頭会所	寛政五年分の入用費、家別割り付け取 り立て帳	虫食い
994	50	当丑年被仰渡二付糧寄覚帳	寛政五年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての糧を集めた覚え	虫食いひと い
995	51	当丑年村入用費郷中割付取立八前割 掛皆済帳	寛政五年 丑 十二月十二日	一冊	大河原村名主会所	寛政五年分村入用費の割付取立帳	虫食いひと い
996	52	相定申證文之事	寛政六年 寅 五月八日	一通	七左衛門 新五郎・ 徳次郎	大根畑一枚を徳次郎に渡す証文	

997	寛政53	当富御年貢取立差引帳	寛政六年 寅 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	寛政六年分の年貢取り立て帳	
998	54	当富国役金取立差引帳	寛政六年 寅 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	寛政六年分の国役金取り立て帳	
999	55	当富年国役金高掛割付取立納帳	寛政六年 寅 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政六年分の国役金割り付け取り立て帳	
1000	56	当富年御年貢初納二納金割付寛帳	寛政六年 寅 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政六年分の年貢初納二納割り付け帳	
1001	57	当富年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	寛政六年 寅 十二月	一冊	大河原村名主所	寛政六年の年貢勘定取立納帳明細	
1002	58	当富年本貫家別取立差引寛帳	寛政六年 寅 十二月十一日	一冊	名主会所	寛政六年分の入用諸費、家別取り立て寛帳	
1003	59	当富年御被仰渡二付御寄寛帳	寛政六年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての糧を集める寛帳	
1004	60	当富年入用家別割取立帳	寛政六年 寅 十二月	一冊	名主組頭会所	寛政六年分の入用費、家別割り付け取り立て帳	
1005	61	当富年村入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	寛政六年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政六年分村入用費の割付取立帳	
1006	62	(7)門屋被官共白木證文 差上申證文之事	寛政七年 卯 三月	一通	門屋被官総員連印 飯田御役所	御樽木山に関する誓約書	
1007	63	当卯年御年貢初納二納割付寛帳	寛政七年 卯 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	寛政七年分の年貢初納二納割り付け帳	
1008	64	当卯年国役金高掛割付取立納帳	寛政七年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政七年分の国役金割り付け取り立て帳	
1009	65	御年貢納入割付取立帳	寛政七年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	年貢納入用金の割付取立帳	
1010	66	当卯年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	寛政七年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	寛政七年の年貢勘定取立納帳明細	
1011	67	当卯御年貢取立皆済差引帳	寛政七年 卯 十二月二日	一冊	名主会所	寛政七年分の年貢取り立て計算帳	
1012	68	国役取立差引帳	寛政七年 卯 十二月二日	一冊	名主会所	国役金の取り立て差引き計算帳	

1013	寛政69	当卯年本貫家別取立差引寛帳	寛政七年 卯 十二月十一日	一冊	大河原村名主会所	寛政七年分の村貫、家別取り立て差し 引き計算帳	
1014	70	当卯年村入用家別割取立帳	寛政七年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政七年分の入用費、家別割り付け取 り立て帳	虫食い
1015	71	当卯年村入用費郷中割付取立小前割 掛皆済帳	寛政七年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政七年分村入用費の割付取立帳	虫食いひと い
1016	72	当卯年被仰渡二付寄寛帳	寛政七年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政七年分の貯穀としての種を集めた 覚え	虫食い
1017	73	印鑑帳	寛政八年 辰 一月吉日	一冊		印鑑帳、裏は寛政八年から文化十五 年までの畑などの地代登録帳	
1018	74	差上申謄文之事	寛政八年 辰 三月	五通	大河原村名主惣 百姓・飯田御役所	樽木山はましろん百姓持ち山からもみ だりに木を切り出さない、他関連	
1019	75	国役差引取立帳	寛政八年 辰 十二月六日	一冊		国役金差引き取り立て帳	
1020	76	御年貢差引帳	寛政八年 辰 十二月七日	一冊	名主会所	年貢の計算帳	
1021	77	当辰年本貫家別取立差引帳	寛政八年 辰 十二月十四日	一冊	大河原村名主会所	寛政八年分の村貫、家別取り立て帳	
1022	78	当辰年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	寛政八年 辰 十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政八年の年貢勘定取立納帳明細	
1023	79	御年貢納入用割付取立帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢納入用金の割付取立帳	
1024	80	当辰年国役金高掛割付取立納帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政八年分の国役金割り付け取り立 て帳	
1025	81	当辰年入用家別割取立帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政八年分の入用費、家別割り付け取 り立て帳	
1026	82	当辰年村入用費郷中割付取立小前割 掛皆済帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政八年分村入用費の割付取立帳	
1027	83	当辰年被仰渡二付寄寛帳	寛政八年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政八年分の貯穀としての種を集めた 覚え	
1028	84	(訴状写)	寛政八年	四枚		大河原村分付百姓五十三人より兵左 衛門へ立替金出入りに付き	

1029	寛政85	御年貢取立差引帳	寛政九年 巳十二月三日	一冊	名主会所	年貢取り立て計算帳	虫食いひと
1030	86	当巳年本貫家別取立差引帳	寛政九年 巳十二月十二日	一冊	名主会所	寛政九年分の村貢取り立て差し引き計算帳	虫食いひと
1031	87	当巳年被仰渡二付寄寄覚帳	寛政九年 巳十二月十二日	一冊	大河原村名主会所	寛政九年分の貯穀としての糧を集めた覚え	虫食い
1032	88	貯糧貸方覚帳	寛政九年 巳十二月	一冊		貯えてある糧を貸し与える覚え	虫食い
1033	89	当巳年御年貢初納二納割付取立帳	寛政九年 巳十二月十五日	一冊	大河原村名主会所	寛政九年分の年貢初納二納割り付け帳	虫食いひと
1034	90	当巳年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	寛政九年 巳十二月	一冊	大河原村名主所	寛政九年の年貢勘定取立納帳明細	虫食い
1035	91	御年貢納入用割付取立帳	寛政九年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政九年分年貢納入用金の割付取立帳	
1036	92	当巳年国役金高掛割付取立納帳	寛政九年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政九年分の国役金割り付け取り立て帳	
1037	93	国役取立差引帳	寛政九年 巳十二月	一冊	名主会所	国役金取り立て差し引き計算帳	虫食いひと
1038	94	当巳年入用家別割取立帳	寛政九年 巳十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政九年分の入用金を家別に割り当て取り立てるに	虫食いひと
1039	95	当巳年村入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	寛政九年 巳十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政九年分村入用費の割付取立帳	虫食いひと
1040	96	当午年御年貢初納二納割付取立帳	寛政十年 午十一月十五日	一冊	大河原村名主会所	寛政十年分の年貢初納二納割り付け帳	虫食いひと
1041	97	当午年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	寛政十年 午十一月	一冊	大河原村名主所	寛政十年の年貢勘定取立納帳明細	虫食い
1042	98	御年貢取立差引帳	寛政十年 午十二月十七日	一冊	名主会所	寛政十年分年貢取り立て計算帳	
1043	99	当午国役金取立差引帳	寛政十年 午十二月十七日	一冊	名主会所	寛政十年分の国役金取り立て差し引き計算帳	虫食い
1044	100	当午本貫家別差引帳	寛政十年 午十二月二十二日	一冊		寛政十年分の村貢家別計算帳	虫食いひと

1045	寛政101	当午年国役金高掛割付取立納帳	寛政十年 午十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政十年分の国役金割り付け取り立て帳	虫食いひと
1046	102	御扶持米代并薪代割渡帳	寛政十年 午十二月	一冊	名主会所	扶持米代と薪代を割り渡す覚え	
1047	103	御年貢納入用割付取立帳	寛政十年 午十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政十年分年貢納入用金の割付取立帳	虫食い
1048	104	当午年入用家別割取立帳	寛政十年 午十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政十年分の入用金を家別に割り当て取り立てる	虫食い
1049	105	当午年村入用費郷中割付取立小前割掛岩渡帳	寛政十年 午十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政十年分村入用費の割付取立帳	虫食い
1050	106	当午年被仰渡二付樽寄覚帳	寛政十年 午十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政十年分の貯穀としての樽を集めた覚え	虫食い
1051	107	当未年御年貢初納二納割付取立帳	寛政十一年 未十一月十五日	一冊	大河原村名主会所	寛政十一年分の年貢初納二納割り付け帳	虫食い
1052	108	御年貢納入用割付取立帳	寛政十一年 未十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政十一年分年貢納入用金の割付取立帳	虫食い
1053	109	当未年国役金高掛割付取立納帳	寛政十一年 未十一月	一冊	大河原村名主会所	寛政十一年分の国役金割り付け取り立て帳	
1054	110	当未年御年貢御樽不成勘定取立岩渡納帳	寛政十一年 未十一月	一冊	大河原村名主所	寛政十一年の年貢勘定取立納帳明細	
1055	111	御年貢取立差引帳	寛政十一年 未十二月九日	一冊	名主会所	寛政十一年分年貢取り立の計算帳	
1056	112	当未国役金取立差引帳	寛政十一年 未十二月九日	一冊	名主会所	寛政十一年分の国役金取り立て差し引き計算帳	虫食い
1057	113	当未年費差引帳	寛政十一年 未十二月十六日	一冊	大河原村名主会所	寛政十一年分の村費差し引き取り立て帳	
1058	114	当未年薪代四分一家別割渡帳	寛政十一年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政十一年分の薪代の四分の一は家別に配分する	
1059	115	当未年薪代四分三高当り郷中割渡帳	寛政十一年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政十一年分の薪代の四分の三は高当りで配分する	
1060	116	当未年入用家別割取立帳	寛政十一年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	寛政十一年分の入用金を家別に割り当て取り立てる	

享和

整理番号	年号別番号	題目	年月日	数量	筆者 差出人・ 受取り人	主内 容	備考
1064	享和 1	享和元年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)白水邊文門屋被官共より取候分 差上申證文之事 (8)去申年村入用割合帳 (9)家数人馬御改帳	(寛政十三年)享和 元年 酉 三月 寛政十三年 酉 一月十一日 享和元年 酉 三月二十六日 享和元年 酉 三月	八冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人三十七人(男十五人、女二十二 人)、減人三十七人(男十三人、女二十 四人) 威士鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十人(男七百十人、女六百 人) 馬数三十五匹	虫食いあり
1065	2	当酉年御年貢初納二納割付取立帳	享和元年 酉 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	享和元年分の年貢初納二納割り付け 帳	

1061	寛政 117	当未年村入用費郷中割付取立小前割 掛皆済帳	寛政十一年 未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	寛政十一年分村入用費の割付取立帳	
1062	118	当未年被仰渡二付寄費帳	寛政十一年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	寛政十一年分の貯穀としての料を集め た覚え	
1063	119	覚(香松寺御開山忌井……)	寛政十二年 申 十二月十一日	一冊	百姓代	香松寺の開山忌ぐ一軒につき十四文を 徴収した覚え	

1066	享和 3	御年貢納入用割付取立帳	享和元年 酉 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分年貢納入用金の割付取立帳	
1067	4	当酉年国役金高掛割付取立納帳	享和元年 酉 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分の国役金割り付け取り立て帳	
1068	5	当酉年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	享和元年 酉 十一月	一冊	大河原村名主所	享和元年の年貢勘定取立納帳明細	
1069	6	当酉国役金取立差引帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分の国役金取り立て差引き計算帳	
1070	7	当酉御年貢取立差引帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分年貢取り立て計算帳	
1071	8	当酉年入用家別割取立帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和元年分の入用金を家別に割り当て取り立てる	
1072	9	当酉年村入用費郷中割付取立小前割掛皆済帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和元年分村入用費の割付取立帳	
1073	10	当酉年薪代四歩一家別割渡帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和元年分の薪代の四分の一は家別に配分する	
1074	11	当酉年薪代四分三高当り郷中割渡帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和元年分の薪代の四分の三は高当りで配分する	
1075	12	当酉年費差引帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分の村費差し引き取り立て帳	
1076	13	当酉年被仰渡二付襷寄賞帳	享和元年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和元年分の貯穀としての襷を棄めた覚え	
1077	14	覚	享和元年 酉	一枚		何かの入用物品盒子之覚え書き	

1078	享和 15	享和二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山御證文一通門屋被官共 分 差上申證文之事 (8)去西五村入用割合帳 (9)家数人馬御改帳合帳	享和二年 戌 三月 享和二年 戌 一月十一日 享和二年 戌 三月二十二日 享和二年 三月	八冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十四人(男二十二・女二十二 人)・減人五十人(男二十六・女二十 四人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百四人(男七百六・女五百 九十八人) 馬数三十五匹	
1079	16	当戌年御年貢初納二納割付取立帳	享和二年 戌 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の年貢初納二納割り付け 帳	
1080	17	当戌年国役金高掛割付取立納帳	享和二年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の国役金割り付け取り立 て帳	
1081	18	御年貢納入用割付取立帳	享和二年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分年貢納入用金の割付取立 帳	
1082	19	貯榑小前割付取立御預り帳	享和二年 戌 十一月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての榑を割り当てて集め預か た覚え	
1083	20	当戌年御年貢御榑木成勘定取立増減 納帳	享和二年 戌 十一月	一冊	大河原村名主所	享和二年の年貢勘定取立納帳明細	
1084	21	当戌年国役金取立差引帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の国役金取り立て差し引 き計算帳	
1085	22	当戌年薪代四歩一家別割渡帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の薪代の四分の一は家別に 配分する	
1086	23	当戌年薪代四分三高当り郷中割渡帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の薪代の四分の三は高当り で配分する	

1087	24	当成年費差引帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の村費差し引き取り立て 帳	
1088	25	当成年村入用家別割取立帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分の入用金を家別に割り当 て取り立てる	
1089	26	当成年村入用費郷中割付取立八前割 掛岩済帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和二年分村入用費の割付取立帳	
1090	27	当成年費取立差引帳	享和二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和二年分年費取り立て計算帳	
1091	28	宗門送り一礼之事	享和三年 亥 一月	一通	富田村永泉寺・大河 原村觀照寺	富田村 ちよが大河原村尊藏の女房 に名のか宗門送る	
1092	29	宗門増減下改帳	享和三年 亥 一月十一日	一冊	名主会所	増人三十七人、減人三十四人、差引三 人増	
1093	30	印鑑帳	享和三年 亥 三月十八日	一冊	大河原村名主所	印鑑の新規届けおよび改めの届け	
1094	31	享和三年 宗門御改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御樽木山御證文一通門屋被官共 分 差上申證文之事 (8) 去成年村入用割合帳 (9) 家数人馬御改帳	享和三年 亥 三月 享和三年 亥 一月十一日 享和三年 亥 三月十八日 享和三年 亥 三月	六冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人三十七人(男九人、女二十八人)、 減人三十四人(男十九人、女十五人)、 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百七人(男六百九十六人、女 六百十一人) 馬数三十五匹	
1095	32	当成年御年貢初納二納割付覚帳	享和三年 亥 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の年貢初納二納割り付け 帳	
1096	33	当成年国役金高掛割付取立納帳	享和三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の国役金割り付け取り立 て帳	
1097	34	当成年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	享和三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主所	享和三年の年貢勘定取立納帳明細	虫食いひと い
1098	35	御年貢納入用割付取立帳	享和三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分年貢納入用金の割付取立 帳	

1099	36	新代引残金改帳	享和三年 亥 十二月十七日	一冊	名主会所	新代を計算し、残り金の改帳	
1100	享和 37	当亥御年貢取立差引帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分年貢取り立て差し引き計 算帳	
1101	38	当亥年国役金取立差引帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の国役金取り立て差し引 き計算帳	
1102	39	当亥年村入用家別割取立帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の入用金を家別に割り当 て取り立てる	
1103	40	当亥年村入用費郷中割付取立小前割 掛岩渡帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	享和三年分村入用費の割付取立帳	
1104	41	当亥年薪代四歩一家別割渡帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の薪代の四分の一は家別に 配分する	
1105	42	当亥年薪代四分三高当郷中割渡帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の薪代の四分の三は高当り で配分する	
1106	43	貯槽小前割付取立御預帳	享和三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての槽を割り当てて集め預か た覚え	
1107	44	当亥年貢差引帳	享和三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	享和三年分の村貢差し引き取り立て 帳	

整理番号	年房別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
1108	文化 1	当子御用留并村用萬日記帳	(享和四年)文化元年 予一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化元年(享和四年)一月から九月までの御用村用万日記	虫食いひどい
1109	2	文化元年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)去亥免村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化元年(享和四年)予三月 文化元年予 一月十一日 文化元年予 三月二十三日 文化元年 予 三月	八冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人三十八人(男十六人、女二十二人)、減人四十四人(男十五人、女二十九人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百一人(男六百九十六人、女六百五人) 馬数三十五匹	
1110	3	覚	文化元年予 三、四、八月	六通	各村々	飯田お役所からの廻状など受け取り覚え	
1111	4	差出申書付之事	文化元年予 八月十一日	三通 一包	重蔵、甚助、新蔵 他、名主他村役人	重蔵、甚助、新蔵それぞれの俸たちが御樽木山で無断伐採した始末書	
1112	5	安永新田御検見合毛帳	文化元年予 八月	一冊	大河原村: 飯田御役所	安永新田の検見を名主、組頭、地主立会て検見した目録	
1113	6	飯田御役所より御代官様御廻村二付 諸入用覚帳	文化元年予 八月	一冊		飯田御役所代官が来村した際の入用費の覚え	

1114	文化 7	式番御用留井村用寛日記帳	文化元年 子 九月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政芳	文化元年九月二十七日から十二月ま での御用村用芳日記	虫食い
1115	8	覚	文化元年 子 十月、十二月	三通	湯浅貞左衛門、井上 補助・大河原村名主	国役金、年貢納入用などの金受け取 り覚え	
1116	9	当子御年貢初納二納割付覚帳	文化元年 子 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の年貢の割り付け	
1117	10	当子年御年貢御樽本成勘定取立増済 納帳	文化元年 子 十一月	一冊	大河原村名主所	文化元年分の年貢の取り立て帳	虫食いやや ひび
1118	11	御年貢納入用割付取立帳	文化元年 子 十一月	一冊	大河原村名主会所	年貢の割り付け取り立て帳	
1119	12	当子年国役金高掛割付取立納帳	文化元年 子 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の国役金の割り付け取り 立て帳	
1120	13	当子年御年貢差引帳	文化元年 子 十二月七日	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の年貢計算帳	
1121	14	御□金差引覚	(文化元年) 子 十二月九日	一冊	立会兵左衛門他	諸費差し引き計算帳	虫食い
1122	15	覚	文化元年 子 十二月二十三日	一通	市岡左藏、湯浅貞左 衛門・大河原村名主	御用調達金九両の受け取り	
1123	16	当子年薪代四分三毫当郷中割渡帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分薪代の分配割渡し帳	
1124	17	当子年貢差引勘定帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の年貢計算帳	虫食いひと い
1125	18	御用金四分一割合家別取立帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	御用金の四分の一は家数二百五十軒で 分担	虫食い
1126	19	御用金四分三割合意当(取立)帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	御用金の四分の三は高に応じて負担取 り立てる	虫食いひと い
1127	20	当子年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化元年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1128	21	香松寺庫下普請金割合家別掛取立帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	香松寺の庫裏の普請費用を家別に分 担、取り立てる	虫食いひと い
1129	文化 22	当子年薪代四分の一家別割渡帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の薪代の四分の一は家別に 分配する	虫食いひと い

1130	23	当子年国役金取立差引帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の国役金の取り立て計算帳	虫食い
1131	24	貯槽小荷割付取立御預帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀とその槽の取り集の預り帳	虫食いひどい
1132	25	当子年村入用家別割取立帳	文化元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化元年分の村入用費を家別に負担、取り立てる	虫食いひどい
1133	26	文化二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)去子年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化二年 丑 三月 文化二年 丑 一月十一日 文化二年 丑 四月五 日 文化二年 三月 丑	八冊 一通 一袋	信濃国伊那郡大河 原村; 飯田御役所	増人四十八人(男二十四人、女二十四人)、減人三十二人(男十六人、女十六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十八人(男七百四人、女六百十四人) 馬数三十五匹	
1134	27	二番御用留并村用日記帳	文化二年 丑 十一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化二年十一月から十二月の御用村用日記	
1135	28	当丑年国役金高掛割付取立納帳	文化二年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の国役金の取り立て計算帳	
1136	29	御年貢納入用割付取立帳	文化二年 丑 十一月	一冊	大河原村名主会所	年貢の割り付け取りたて帳	
1137	30	当丑年御年貢御樽木成勘定取立増済納帳	文化二年 丑 十一月	一冊	大河原村名主所	文化二年分の年貢の取りたて帳	
1138	31	当丑御年貢差引帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の年貢計算帳	
1139	文化 32	当丑年国役金取立差引帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の国役金の取り立て帳	

1140	33	当丑年村入用家別割取立帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	
1141	34	当丑年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化二年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1142	35	御用金差引帳	文化二年 丑 十二月	一冊		御用金負担の計算帳	虫食い
1143	36	御用金四分一割合家別取立帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	御用金の四分の一は家別に負担、取り 立てる	
1144	37	御用金四分三割合高当取立帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	御用金の四分の三は高に応じて負担取 り立てる	
1145	38	御材木一件諸入用家別割帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	駿府寒間造営の御用材伐出に要した 諸入用費を家別に負担する	虫食い
1146	39	当丑年貢差引勘定帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の村貢の計算帳	虫食い
1147	40	貯糶小前割付取立御預帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての糶を取り集め預かりの覚	
1148	41	当丑年薪代四分一家別割渡帳	文化二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1149	42	当寅年御用留井村用萬日記帳	文化三年 寅 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政芳	文化三年一月から十二月までの御用 村用万日記	
1150	43	文化三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去丑年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳帳	文化三年 寅 三月 文化三年 寅 一月十一日 文化三年 寅三月十 二日 文化三年 寅 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人五十七人(男二十三、女三十四 人)、減人六十人(男二十三、女三十 七人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数三百十四人(男七百三人、女六 百十一人) 馬数三十五匹	
1151	文化 44	差出申書付之事	文化三年 寅 四月七日	一通	木地師庄兵衛他三 名主他村役人	木地師が新ヶ沢で仕事をすることについて 運上倉の決まりなど約束する	

1152	45	久々里表御頼金差引帳	文化三年 寅 六月二十七日	一冊	名主会所	久々里表へ融通するお金の分担計算帳	
1153	46	江戸芝御屋敷御頼焼二付御頼金四分 三高当取立割合帳	文化三年 寅 六月吉日	一冊	大河原村名主所	文化三年春の江戸大火の際、寺村様のお屋敷が類焼、融通金の分担取り立て	
1154	47	江戸芝御屋敷御頼焼二付御頼金四分 一家別割割合取立帳	文化三年 寅 六月吉日	一冊	大河原村名主所	文化三年春の江戸大火の際、寺村様のお屋敷が類焼、融通金の分担取り立て	
1155	48	請取申金子之事	文化三年 寅 七月一日	一通	湯浅貞左衛門、 大河原村名主	江戸表お屋敷類焼に付、借金としての金子受け取り	
1156	49	(1)売渡申社木證文之事 (2)寛 (3)(4)売渡申社木證文之事 (5)御用状	(1)文化三年寅七 月九日(2)子九月二 十一日(3・4)文化 三年寅九月廿四日 (5)寛十月六日	五通	(1)大河原村 (5)飯田御役所、 (1)4)大乗院門 跡、(5)鹿塩、大河 原村名主	南部春日社造管用料を大河原村社木 から製材、売り渡す樹種、材の大き さなどの寛(5)の御用状は川下げに ついて	
1157	50	寛	文化三年 寅 十月、十一月	三通 一包	湯浅貞左衛門、 大河原村名主	国役金、年貢納入用金などの受け取り 寛え	
1158	51	当寅御年貢初納二納割付寛帳	文化三年 寅 十一月二十六日	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の年貢割り付け寛え	
1159	52	御年貢納入用割付取立帳	文化三年 寅 十一月	一冊	大河原村名主会所	年貢の割り付け取り立て帳	
1160	53	当寅御年貢御榎木成勘定取立皆済 納帳	文化三年 寅 十一月	一冊	大河原村名主所	文化三年分の年貢の取り立て帳	
1161	54	当寅年国役金高掛割付取立納帳	文化三年 寅 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の国役金の取り立て計算帳	
1162	55	寛	(文化三年)寅 十二月二日	一通	鹿塩村名主、 大河原村名主	触書と廻状、書状の受け取り	文化三年の 袋入り文 書
1163	56	差出申證文之事	文化三年 寅 十二月九日	一通	半左衛門他、 名主他村役人衆中	新ヶ沢で停止木であるを頼みず伐採し た、今後このようなことをしない	
1164	57	奉差上書付	(文化三年)寅 十二月十五日	一通	名主兵左衛門他村 役人	公儀より切を囲い込む者は差出すよう 仰せだが当村には囲う者はいない	
1165	58	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文化三年 寅 十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代、小代割、 名主細頭衆中	来年惣百姓代を任するにあたり差出 す一札	

1166	文化 59	当當年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化三年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1167	60	当當年村入用家別割取立帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	
1168	61	当當年薪代四分一家別割渡帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1169	62	当當年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の薪代のうち四分の三は高 当たりで分配する	
1170	63	当當年貫差引勘定帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の村貫計算帳	
1171	64	当當年御年貫差引帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の年貫計算帳	
1172	65	当當年国役金取立差引帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化三年分の国役金の取り立て帳	
1173	66	貯糟小前割付取立御預帳	文化三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての糟を取り集め預かりの覚	
1174	67	当卯年御用留井村用萬日記帳	文化四年 卯 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化四年一月から十一月までの御用 村用万日記	虫食いひと い
1175	68	乍恐以書付奉願上候	文化四年 卯 一月	一通 二枚	大河原、鹿塩村名 主、飯嶋御役所	桧、榎を加え諸木木数八百五十本を 春日御造営御用木として売り出した	
1176	69	(1)差上申一札之事 (2)差上申請取之事 (3)差上申一札之事 (4)一札之事	文化四年 卯 一月	二通 一包 計 四通	(1、4)名主兵左衛 門、(2、3)由蔵、 (1)吉田御役人、 (2、3)兵左衛門 (4)村々名主	由蔵が上京するにつき漆書き、社木代 金二両二分のうち二両の受け取り、お 家長久安事を祈ると、由蔵名義の往 来一札	
1177	70	覚	文化四年 卯 二月廿五日	一通	井上番助、 大河原村名主中	湯浅兵左衛門上下二人、井上番助上 下二人が廻村する柄山峠まで出迎える	
1178	71	御役所より御役人様御廻村諸入用帳	文化四年 卯 二月廿六日	一冊	名主会所	飯田お役所から役人が廻村した際の諸 費入用帳	
1179	72	御吟味二付申上候口書	文化四年 卯 二月	一通	大河原村名主兵左 衛門、飯田御役所	これまで質屋商売も行ってきたが実加 永は減じて上納したい	

1180	文化 73	文化四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去黨井村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化四年 卯 三月 文化四年 卯 一月十一日 文化四年 卯三月十 六日 文化四年 卯 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十七人(男二十三入、女二十四 入)・減人四十七人(男二十二入、女二 十五入) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十四人(男七百四人、女六 百十人) 馬数三十五匹	
1181	74	(1)差出申一札之事 (2)覚	(1)文化四年 卯二 月(2)卯三月 三月二十日	二通 一包	大河原村役人・ 湯浅貞左衛門	久々里入用調達金九両と二十七両を 上納の引き受けと上納予定	
1182	75	覚	文化四年 卯 三月二十日	二通	大河原村名主・ 飯田御役所	米一巻を囲い米とする覺書と、調達金 九両の受け取り覚え	
1183	76	調達金四分三割合高当取立帳	文化四年 卯 三月	一冊	大河原村名主会所	調達金の四分の三は高当たりで取り立 てる	
1184	77	調達金四分一割合家別取立帳	文化四年 卯 三月	一冊	大河原村名主会所	調達金の四分の一は家別に取り立てる	
1185	78	一札之事往来一札	文化四年 卯 四月	一通	前嶋兵左衛門・ 村々名主中	当村角左衛門が金毘羅参りをするにつ き、通行や何事かめるときは頼む	
1186	79	(訴状)	文化四年 卯 五月	一通	富士浅間御師三浦 外記他・寺社奉行所	富士信仰登山につき、北口川口村へ諸 事取り仕切ってきた、陸軍に付き訴訟	
1187	80	廻状 急御用	文化四年 卯 十月二十二日	一通	井上重助・ 八手村他四村	本新田畑惣々高反別帳を急ぎまとめて 提出せよ、明二十三日届けよ	文化四年 袋入り文 書
1188	81	書簡	文化四年 卯 十月二十二日	一通	中坪村役人・ 鹿埜、大河原村役人	江戸からの役人方が今晚小野村につ く、稲株の件は手配しよとぞ届く	文化四年 袋入り文 書
1189	82	書簡	文化四年 卯 十月二十二日	一通	中坪村白山吉左衛 門・松下市左衛門	稲株代などの知らせと、江戸からの役 人衆が到着する通知	文化四年 袋入り文 書

1190	83	書簡	文化四年 卯 十月二十三日	一通	鹿嶋村大嶋彦左衛門・前嶋兵左衛門	江戸から役人が明日小野村に到着する知らせ、および川長出木のこと	文化四年 袋入り文書
1191	84	書簡	文化四年 卯 十月二十三日	一通	鹿嶋村大嶋彦左衛門・前嶋兵左衛門	流起返り場所・拜惜米のこと・福与、中坪出役のことなどの知らせ	文化四年 袋入り文書
1192	85	書簡	文化四年 卯 十月二十六日	一通	福与村名主・大河原村名主	先日の特検米の際の諸入用費を村割分担した明細の通知	文化四年 袋入り文書
1193	86	(1) 秤勘改二付村高家数并新古御改 秤所持書上帳 (2) 以書付奉願上帳	文化四年 卯 十月	一冊 一通	(1) 大河原村 (2) 大河原村他五村・(2) 佐々木	この度信濃国の宿々、村々にある秤の検査をするまことにちたことと、大河原村内の秤の調査の結果の覚え	
1194	87	覚	文化四年 卯 十月、十一月	三通	市岡佐蔵・大河原村名主	国役金・納入用金の受け取りと年貢・納などの納入期限の通知覚え	
1195	88	覚	(文化四年) 卯 十一月六日	一通	中坪村名主・名主衆中	金子受け取り覚え	文化四年 袋入り文書
1196	89	当卯御年貢初納二納割付覚帳	文化四年 卯 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の年貢割り付け覚え	虫食いひどい
1197	90	高訳証文数改帳	文化四年 卯 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	高訳の証文数とその他雜費覚え帳	虫食い
1198	91	本新田畑并切替焼畑高訳帳渡口之分	文化四年 卯 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑や焼畑の高の記録	虫食い
1199	92	本新田畑并切替焼畑受取帳	文化四年 卯 十一月十九日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑などの地所の高と地主の変更記録	虫食い
1200	93	本新田畑小前高辻帳	文化四年 卯 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑の年貢の割り付け	
1201	94	当卯年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	文化四年 卯 十一月	一冊	大河原村名主所	文化四年分の年貢の取り立て帳	虫食い
1202	95	差出申書付之事	文化四年 卯 十一月	一通	寺沢山木地師・御役人中	伐越しがあつたことは心得違いて、今後は元締め命により繰り返さない	
1203	96	差出申書付之事	文化四年 卯 十一月	一通	下津山木地師・佐蔵・他御役人中	伐越しがあつたことは心得違いて、今後は元締め命により繰り返さない	

1204	97	(1)差出申書付之事 (2、3)差出申一札之事	文化四年 卯 十二月二十三日	三通 一包通	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差出す一札	
1205	98	差出申一札之事	文化四年 卯 十二月	一通	与五兵衛他・ 名主組頭衆中	与五兵衛不埒につき証文一札	
1206	99	当卯年貢差引勘定帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の村貢計算帳	虫食い
1207	文化 100	当国役金差引帳	文化四年 卯 十二月	一冊	名主会所	文化四年分の国役金計算帳	
1208	101	当卯御年貢差引帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の年貢計算帳	
1209	102	当卯年国役金高掛割付取立納帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の国役金の取り立て計算帳	虫食い
1210	103	当卯年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化四年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	虫食い
1211	104	貯糟小前割付取立御預帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての糟を取り集め預かりの覚	虫食い
1212	105	当卯年薪代四分一家別割渡帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	虫食いひと い
1213	106	当卯年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化四年分の薪代のうち四分の三は高 当たりで分配する	虫食い
1214	107	当辰年御用留井村用萬日記帳	文化五年 辰 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化五年一月から十月までの御用村 用万日記	
1215	108	差出申書付之事	文化五年 辰 一月	一通	今右衛門他・ 御名主中	孫左衛門、みぎ夫婦は双方納得の工夫 辨れする	

1216	109	文化五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去卯并村入用割合帳 (9)家人馬數御改帳	文化五年 辰 三月 文化五年 辰 一月十一日 文化五年 辰 三月 十 七日 文化五年 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人六十三人(男二十八人、女三十五人)、減人四十九人(男二十一人、女二十八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百二十八人(男七百十二人、女六百十六人) 馬数三十五匹	
1217	110	差出申御請書之事	文化五年 辰 三月	一通	大河原村他九カ村・ 飯田御役所	定免切替だが、去年の大晦による荒所などで困窮、定免を低くしてほしい	
1218	111	(1)卯年免定之事 (2)掛札	文化四年卯十月 文化五年 辰 三月	二通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	文化四年分の免状と掛札	
1219	文化 112	(御樽木山境之事)	文化五年 辰 四月七日	一通	文五左衛門他	木地師(榎村)のうちの樽木山との境を確認する(下書きまたは書き損じ)	
1220	113	書簡	文化五年 辰 四月、五月	四通	鹿場村名主他・ 大河原村名主	定免切替吟味の出役について、拝借米についてなど知らせ	
1221	114	作忍以書付奉願上候御事	文化五年 辰 五月	一通	鹿場村、大河原村村 役人・飯田御役所	御樽木僮段について往古のように願う、これまでの樽木僮段	
1222	115	朝鮮人來聘付国役高掛金	文化五年 辰 七月一日	一通	御役所・ 十一カ村	朝鮮使節が対州まで來聘したの経費を国役金として集める、大河原分	
1223	116	御用書付	文化五年 辰 五月、七月	二通	飯田御役所・ 大河原村名主	兵左衛門等ら林の概五百本を仕出せるか、春日御用木の川下げの申し付け	
1224	117	差上申御請書之事	文化五年 辰 七月	一冊	十カ村村役人・ 飯田御役所	定免切替に付き再吟味を受けることについて請け書	
1225	118	差出申書付之事	文化五年 辰 七月	一通	助左衛門、為藏・ 名主組頭衆中	木地師として渡世したい、使える木種、運上金などの約束の書付	
1226	119	寛	文化五年 辰 八月八日	一通	前嶋兵左衛門・ 尾州御懸所三宅三左衛門	山代金二百五十両の内、五十両受け取りだ	

1227	120	口達(書付)	(文化五年 辰) 八月二十六日	一通	地役安兵衛・ (鹿塩 大河原村)	金子分担の知らせ	
1228	121	覚	文化五年 辰 八月	一通	市岡弥之助・ 大河原村名主	朝鮮人來聘につき高役金の受け取り覚 え	
1229	122	作恐以書付奉願上候	文化五年 辰 九月	一通	大河原村名主他・ 飯田御役所	今年は田畑不作、特に畑方は収獲皆無 なるが賄給は御免に願う	
1230	123	(1) 卯年御年貢御勘定目録 (2) 覚 (3) 覚	文化五年 辰 六月 辰 七月 文化五年 辰 十月	三通 一包	大河原村名主兵左 衛門他他村村役人・ 飯田御役所	(1) 文化四年分の年貢勘定目録 (2) 国役普掛金の受け取り (3) 年貢、納入用金などの覚え	
1231	124	作恐以書付奉願上候御事	文化五年 辰 十月	一通	鹿塩、大河原村名主 他・飯田御役所	米食米拝借について他村と利害反し、 二村だけで願いた	
1232	125	覚	文化五年 辰 十月、十二月	三通	飯田御役所・ 大河原村、鹿塩村	年貢納入用金の受け取り覚えと、年貢 二納、小物成などを納入期限の知らせ	
1233	126	式番御用留井村用費日記帳	文化五年 辰 十月吉日	一冊	前嶋玄左衛門	文化五年十月から十二月までの御用 村用方日記	
1234	文化 127	当辰御年貢初納二納割付覚帳	文化五年 辰 十一月二十日	一冊	大河原村名主所	文化五年分の年貢割り付け覚え	
1235	128	差出申書付之事	文化五年 辰 十一月二十一日	一通	久左衛門他・ 名主組頭惣百姓代	渡世の作間に櫛木を取りたい、運上金 のはか、他種の木は切らない	
1236	129	書簡	文化五年 辰 十一月	四通	南山、如々須、清内 路・大河原、鹿塩村	南山、如々須、清内路各村は連名で夫 食米拝借の願はしな断り書簡	文化五年 袋入り文 書
1237	130	当辰年国役金高掛割付取立納帳	文化五年 辰 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の国役金の取り立て計算帳	
1238	131	当辰年御年貢御榎木成勘定取立増済 納帳	文化五年 辰 十一月	一冊	大河原村名主所	文化五年分の年貢の取りたて帳	
1239	132	(1) 差出申書付之事 (2) 差出申一札之事	文化五年 辰 十二月二十二日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差出申一札	
1240	133	当辰年事差引勘定帳	文化五年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の村貢計算帳	
1241	134	当辰年薪代四分一家別割渡帳	文化五年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	

1242	135	当辰年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化五年辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の薪代のうち四分の三は高 当たりで分配する	
1243	136	当国役金差引帳	文化五年辰 十二月	一冊	名主会所	文化五年分の国役金計算帳	
1244	137	当辰御年貢差引帳	文化五年辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の年貢計算帳	
1245	138	当辰年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化五年辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化五年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	虫食いひと い
1246	139	当辰年村入用家別割取立帳	文化五年辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化五年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	
1247	140	乍恐以書村奉願上候御事	(文化五年辰)	一通		定免切替に付き引き下げの願	文化五年 袋入り文 書
1248	141	当已年御用留并村用萬日記帳	文化六年巳 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化六年一月から十二月までの御用 村用万日記	
1249	142	人別請取一札之事	文化六年巳 二月	二通	和田村名主与五兵 衛名主兵左衛門	大河原村府次右衛門弟磯吉が当利平 助の養子に来る、送り状を受け取った	
1250	文化 143	文化六年宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去辰年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化六年巳 三月 文化六年巳 一月十一日 文化六年巳三月十 二日 文化六年 巳三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人四十九人(男二十四人、女二十五 人)、減人四十八人(男二十三、女二 十五人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百軒 人数三百二十九人(男七百十二人、 女六百七十七人) 馬数三十五匹	
1251	144	乍恐以書付奉願上候	文化六年巳 三月	一通	兵左衛門、村木問屋 新左衛門、飯嶋役所	春日造管御用木に檢他諸木八百五十 本を新左衛門に売り川下げをする	
1252	145	(文化五年辰年免定并掛札) (1)辰年免定之事 (2)掛札	(1)文化五年辰十 月(2)文化六年巳 五月	二通 一包	飯田御役所、 大河原村名主	文化五年分の年貢と掛札	

1253	146	辰年御年貢御勘定目録	文化六年 巳 六月	一通	大河原村名主兵左衛門他、飯田御役所	文化五年分の年貢勘定目録	
1254	147	書簡	(文化六年) 巳 八月四日	一通	中井新左衛門、兵左衛門	手先の者、史八と藤助を派遣して持ち山など拝見させたに感謝	文化六年 袋入り文 書
1255	148	御用書付	文化六年 巳 八月廿七日	一通	飯田御役所、大河原村名主	御柳木山、内山共、もう一度見分、江戸から荻原市左衛門が行く	
1256	149	覚	(文化六年) 巳 三・五・八、九月	四通	加々須村、鹿塩村、大河原村名主	お触れ、御用状などの受け取り覚え	
1257	150	(白沢一件二付峠村より取候書付) 差出し申一札之事	文化六年 巳 十月	一通	峠村名主直藏、大河原村名主	白沢権現他の件を断りもなく行つたことば申し訳ない	
1258	151	書簡	(文化六年) 巳 十一月八日	一通	尾川村名主、大河原、鹿塩両村名主	拝借米を奥五カ村が送れないので、両村だけで榎本納する件、近々内談	文化六年 袋入り文 書
1259	152	当巳御年貢納二納割付覚帳	文化六年 巳 十一月十四日	一冊	大河原村名主所	文化六年分の年貢割り付け覚え	
1260	文化 153	郷中高沢入用井応勘定諸入用覚帳	文化六年 巳 十一月二十三日	一冊	大河原村名主所	村内の高沢、その他郷応諸入用の覚え	虫食い
1261	154	当巳年御年貢御榎本成勘定取立増済納帳	文化六年 巳 十一月	一冊	大河原村名主所	文化六年分の年貢の取り立て帳	虫食い
1262	155	当巳年国役金高掛割付取立納帳	文化六年 巳 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の国役金の取り立て計算帳	
1263	156	本新田畑并焼畑高分渡口帳	文化六年 巳 十一月	一冊	大河原村名主所	本田、新田、焼畑などの売買の記録	虫食い
1264	157	本新田畑并焼畑高分請取口改帳	文化六年 巳 十一月	一冊	大河原村名主所	本田、新田、焼畑などの売買の記録	
1265	158	覚	文化六年 巳 六・八・十、十一月	五通	飯田御役所、大河原村名主	年貢納入用金、国役金、朝鮮国役金、の受け取りと年貢二納金期限通知	
1266	159	書簡	(文化六年) 巳 十二月三日	一通	松尾丈助大管理兵衛前嶋兵左衛門他	白沢一件について、借地とはどうかという話になっている	文化六年 袋入り文 書
1267	160	国役金朝鮮人国役金差引帳	文化六年 巳 十二月十一日	一冊	名主所	朝鮮からの使節来聘に付き、国役金分担、計算帳	虫食い

1268	161	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文化六年 巳 十二月二十二日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主細頭系中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1269	162	朝鮮人來聘二付国役高掛金割付取立帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主所	朝鮮からの使節來聘に付き、国役金分 担、取り立て帳、文化五、六年分	
1270	163	当巳年村入用家別割取立帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	
1271	164	当巳年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化六年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1272	165	当巳年貢差引勘定帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の村貢計算帳	
1273	166	当巳御年貢差引帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の年貢計算帳	
1274	167	当巳年薪代四分一家別割渡帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	虫食い
1275	168	当巳年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化六年分の薪代のうち四分の三高 当たりで分配する	虫食い
1276	文化 169	貯槽小前割付取立御預帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての槽を取り集め預かりの覚	
1277	170	本新田畑小前高辻帳	文化六年 巳 十二月	一冊	大河原村名主所	本新田畑、新田などの高の覚え	虫食いひと い
1278	171	書簡	(文化六年) 巳	十通	鹿塩村宮下文左衛 門前嶋兵左衛門	御用諸事連絡の書簡、十通一括	文化六年 袋入り文 書
1279	172	(1)当年御用留井村用萬日記帳 (2)式番御用留井村用萬日記帳	文化七年 午 一月吉日	二冊	前嶋兵左衛門政秀	文化七年一月から十二月までの御用 村用万日記	
1280	173	覚	文化七年 午 十月	一通	飯田御役所、 大河原村名主	去年と同じに定免であること、文化七年 午年御取置覚書	
1281	174	村送状之事	文化八年 未 一月	一通	中山村名主勘蔵、 大河原村名主中	倉之丞は大河原村権九郎方へ引越し たので宗門人別送る	
1282	175	預り申金予証文之事	文化八年 未 二月	一通	兵左衛門、 半三	十両の預かり証文	

1283	176	書簡	文化八年未 二月八月	二通	井上重助、 兵左衛門	調達金二十両、朝鮮米聘国役金、熊野 勸進金の受け取り書付を送った	虫食い、 文化八年 袋
1284	177	差出申証文之事	文化八年未 三月	一通	豊兵衛、佐藤、 名主組頭百姓代中	上沢に住む、運上金年に三両、御樽木 山に入らない、松樹などは切らない	
1285	178	文化八年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳帳 (2) 印鑑帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御樽木山證文門屋被官分 差出申証文之事 (8) 去年年村入用割合帳 (9) 家人馬数御改帳帳	文化八年未 三月 文化八年未 一月十一日 文化八年未 三月廿四日 文化八年 未 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人四十四人(男十九人、女二十五 人)、減人五十八人(男二十八人、女三 十人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百七十七人(男七百五人、女六 百十二人) 馬数三十五匹	(3) 宗門御 改帳 がない
1286	179	書簡	(文化八年未 四月、五月)	二通	肥前諫早天祐寺、 前嶋兵左衛門他	当地正覚寺の天然和尚御遷化につき後 住の件	文化八年 袋入り文 書
1287	180	書簡	文化八年未 四月廿六日	一通	井上重助 鹿塩大河 原村名主中	御用急、四月二十六日から八日の殿様 宿泊地とお目見えの出来る日の通知	文化八年 袋入り文 書
1288	文化 181	書簡	文化八年未 四 月六月、七月	五通	鹿塩村宮下文左衛 門前嶋兵左衛門	四月六日、廿六日、六月十三日、廿六 日、七月廿六日付け諸事御用連絡	虫食い、文 化八年袋 入
1289	182	宿割覚	(文化八年未 四月)	一通	奥田角兵衛	久々里殿様の宿泊本陣付け諸用人の 宿割り覚え	文化八年の 袋入り文 書
1290	183	差出申一札之事	文化八年未 四月	一通	大河原村名主他、千 村平右衛門御役人	久々里の殿様が二通行の節に出した、 村方が守るべき諸事を述べた一札	
1291	184	千年御年貢勘定目録	文化八年未 六月	一通	大河原村名主兵左 衛門、飯田御役所	文化七年分の年貢勘定目録	
1292	185	覚	文化八年未 六月十月	二通	(飯田御役所)、 大河原村	年貢納入金額の覚えと納入期限の通知	

1293	186	覚	文化八年未 八月二十五日	一通	井上重助・ 大河原村名主	熊野御免勘化金の受け取り	文化八年 袋入り文 書
1294	187	覚	文化八年未 八月、十月、十一月	三通	市岡盛之助・ 大河原村名主	朝鮮人來聘国役金、国役金、年貢納入 用金の受け取り覚え	虫食い
1295	188	(文化八年御取置覚書) 覚	文化八年未 十月	一通	飯田御役所・ 大河原村名主	年貢はこれまの免状のとおりである と覚え	
1296	189	当未年御年貢初納二納割付覚帳	文化八年未 十一月	一冊	大河原村名主所	文化八年分の年貢割り付け覚え	虫食いひと い
1297	190	(一)差出申書付之事 (二)差出申一札之事	文化六年巳 十二月二十二日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1298	191	当未年新代四分一家別割渡帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化八年分の新代のうち四分の一は家 別に分配する	虫食いひと い
1299	192	当未年新代四分三高当郷中割渡帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化八年分の新代のうち四分の三は高 当たりで分配する	虫食い
1300	193	当未年国役金高掛割付取立納帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化八年分の国役金の取り立て計算帳	虫食いひと い
1301	194	当未年より郷中勘定纏忘帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村	文化八年から文政五年までの纏忘帳	
1302	195	貯蔵小前割付取立御預帳	文化八年未 十二月	一冊	(大河原村名主所)	貯蔵としての櫛を取り集め預かりの覚	
1303	196	当未年御年貢御櫛木成勘定取立皆済 納帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主所	文化八年分の年貢の取り立て帳	虫食い
1304	文化 197	当未年村入用家別割取立帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化八年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	虫食い
1305	198	当未年貢差引帳	文化八年未 十二月	一冊	名主会所	文化八年分の村貢計算帳	
1306	199	当未年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化八年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1307	200	朝鮮人來聘二付国役高掛金割付取立 帳	文化八年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	朝鮮からの使節來聘に付き、国役金分 担、取り立て帳、文化八年分	虫食い

1308	201	国役金朝鮮人国役金差引帳	文化八年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	朝鮮からの使節来聘に付き、国役金分担、計算帳	虫食い
1309	202	当未御年貢差引帳	文化八年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	文化八年分の年貢計算帳	虫食いひどい
1310	203	覚	文化八年 未	六通	鹿嶋村、大河原村	御用状や人相書きが正確に受け取つた覚え	虫食い
1311	204	差出申證文之事	文化八年 未	一通	惣百姓代岡吉他、名主組頭衆中	文字金二十両の差出し證文、殿様参府に要する金で差当り上納できる	虫食いひどい
1312	205	当申年御用留并村用日記帳	文化九年 申一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政芳	文化九年一月から十二月までの御用村用方日記	
1313	206	文化九年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋鉾官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分差上申證文之事 (8)去未年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化九年 申三月 文化九年 申一月十一日 文化九年 申三月二十七日 文化九年 申三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人五十五人(男二十八人、女二十七人)、減人六十四人(男二十八人、女三十六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百八人(男七百五人、女六百三人) 馬数三十五匹	
1314	207	乍恐以書付奉願上候御事	文化九年 申四月	一通	大河原村名主兵左衛門、飯田御役所	御樽木山境で盗伐があつて困る、近隣村々へ取り締まりを願つてほしい	
1315	208	添触	(文化九年) 申六月二十三日	一通	井上重助、十一力村名主	飯田今宮八幡宮普請金入用として勸化の触れ	文化九年 袋入り文書
1316	文化 209	(1)覚 (2)書簡	文化九年 申六月廿六、廿八日	二通	升目東、大河原村令右衛門他役人中	盗賊を捕らえたところ大河原村で十二の品を売た、内々返却された	
1317	210	(1)未年御年貢御勘定目録 (2)覚	文化九年 申六月	二通 一包	大河原村名主兵左衛門、飯田御役所	文化八年分の年貢勘定目録と増減算書	
1318	211	覚	(文化九年) 申八月、十月	二通	鹿嶋村名主、大河原村名主	御用状、御触書の受け取り状	文化九年の 袋入り文書

1319	212	寛	文化九年申 九月十月十一月	四通	市岡盛之助・ 大河原村名主	朝鮮国役金、国役金、年貢納入用金の 受け取りと年貢二納などの納入期限	
1320	213	当申年御年貢初納二納割付寛帳	文化九年申 十一月十四日	一冊	大河原村名主所	文化九年分の年貢割り付け覚え	
1321	214	(書付)	(文化九年)申 十一月十五日	一通	井上書助・ 大河原村名主	湯浅貞左衛門と井上嘉二郎が隠居し、 それぞれ鍵治・佐藏が家督を継ぐ	文化九年 書入り文
1322	215	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事 (3)相定申證文之事	文化九年申 十二月十九日 十二月二十日	三通	惣百姓代・小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代・小代判を引き受けるに あたり差し出す一札、一通は別様下書 きか	
1323	216	当申年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主所	文化九年分の年貢の取り立て帳	
1324	217	当申年御年貢差引帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の年貢差し引き計算帳	
1325	218	当申年村入用家別割取立帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	
1326	219	国役金朝鮮人国役金差引帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	朝鮮からの使節来聘に付き、国役金分 担、計算帳	
1327	220	朝鮮人來聘付国役金掛割付取立帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	朝鮮からの使節来聘に付き、国役金分 担、取り立て帳、五至目最終年	
1328	221	当申年国役金高掛割付取立納帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の国役金の取り立て計算帳	
1329	222	当申年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化九年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1330	223	当申年貢差引帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の村貢計算帳	
1331	224	貯糧小前割付取立御預帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての糧を取り集め預かりの覚	
1332	文化 225	当申年薪代四分一家別割渡帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1333	226	当申年薪代四分三當郷中割渡帳	文化九年申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化九年分の薪代のうち四分の三は郷 中あたりで分配する	

1334	227	御樽木山木品生木書上帳	文化九年 申	一冊	大河原村名主兵左衛門他、飯田御役所左	文化九年、御樽木山木品木教書上付帳	
1335	228	当酉年御用留井村用萬日記帳	文化十年 酉 一月吉日	二冊	前嶋兵左衛門政秀	文化十年一月から十月まで、十一月より来日までの御用利用方日記	
1336	229	文化十年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分差上申證文之事 (8)去申年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳帳	文化十年 酉 三月 文化十年 酉 一月十一日 文化十年 酉三月十日 九日 文化十年 酉 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人六十二人(男三十二人、女三十二人)、減人五十八人(男三十六人、女二十二二人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十一人(男七百一人、女六百十人) 馬数三十五匹	
1337	230	覚	(文化十年) 酉 二月、三月	二通	鹿塩村名主、大河原村名主	御用状、御触書の受け取り状	文化十年 袋入り文書
1338	231	書簡	(文化十年) 酉 三月三日	一通	鹿塩村名主、大河原村名主	鹿塩村からは専兵衛が出役するの、詳細は町宿で	文化十年 袋入り文書
1339	232	覚	(文化十年) 酉 三月九日	一通	井上嘉一郎、大河原村名主	柄山峠まで駕籠と分持人足を連れて出迎えよ	文化十年 袋入り文書
1340	233	書簡	(文化十年) 酉 三月十九日	一通	井上青助、大河原村名主組頭	嘉一郎居宅が大破、普請しているが金子五両を用立てもらえないか	文化十年 袋入り文書
1341	234	書簡	(文化十年) 酉 三月二十五日	二通	井上嘉一郎、大河原村名主兵左衛門	貯糟帳面のこと小帳にしたため、奥印は兵左衛門一印で、出立日時の通知	文化十年 袋入り文書
1342	235	覚	(文化十年) 酉 三月廿九日	一通	湯浅健治	大河原村名主より、漢紙一つの届け物を受け取った	文化十年 袋入り文書

1343	文化 236	口上覚	文化十年 西 三月	一冊	津嶋神官御師	惜金ならず、八分は返済できに、公方 様厄年の祈りを行ふので寄進願う	
1344	237	定免切替付村々吟味請書	文化十年 西 三月	一冊	大河原村他八力村、 飯田御役所	近年災害多いのでこれまでの定免より 低くして、十年奉にしよう	
1345	238	井上嘉二郎様御廻村諸入用覚帳	文化十年 西 三月	一冊	名主所	井上様廻村の際諸入用費覚え	
1346	239	(1)差上申請書之事 (2)差出申一札之事	文化十年 西 五月	二通	大河原村他六力村	御樽木山と御林境目で諸木盗伐があ るのを見回ることを承知した	
1347	240	(文化九年申検見取覚書并掛札) (1)覚 (2)掛札	(1)文化九年申十 月(2)文化十年西 五月	二通 一包	飯田御役所、 大河原村名主	文化九年の田畑見取り年貢高の免定と 掛札	
1348	241	書簡	(文化十年) 西 六月五日	一通	近藤嘉兵衛、宮下五 郎左衛門、兵左衛門	年貢増永のようだが、今年三月以来の お願いなのですぐに請けられない	文化十年 袋入り文 書
1349	242	(1)申年御年貢御勘定目録 (2)覚	文化十年 西 六月	二通	大河原村名主兵左 衛門、飯田御役所	文化九年分の年貢勘定目録と、年貢、 未進金額の覚え	
1350	243	書簡(差)	(文化十年) 西 七月十一日	一通	名主兵左衛門、 井上青助	当春に仰せ出された金五の件と、御樽 木山請け印の事	
1351	244	一札	文化十年 西 七月	四通	大河原村名主兵左 衛門、飯田御役所	村から役所、御樽木山までの道のり、 周辺境の村々覚を見本下書き控	
1352	245	(御願一件小前連印帳) 乍恐以書付奉願上候	文化十年 西 七月	一冊	鹿塩、大河原村名主 所、飯田御役所	鹿塩大河原村は困窮している、年貢は 享保年間割合、又は材木納で願う	
1353	246	(此度差上願書書控) 乍恐以書付奉願上候	文化十年 西 三月、七月	一通 二枚	大河原鹿塩村村役 人、飯田御役所	奥五力村と違ひ、鹿塩大河原村は年貢は 享保年間の割合、又は材木納で願う	
1354	247	乍恐以書付奉願上候	文化十年 西 九月	二通	(大河原鹿塩村、 飯田御役所)	御樽木山盗伐で見回っているが、農作の 間で難渋している手当てがほしい	
1355	248	覚	文化十年 西 十月晦日	二通	湯浅鍵治、 大河原村名主	西野嘉内(の)酒代一両の受け取り、お よび一両の十力村分担計算覚え	
1356	249	差上申渡文之事	文化十年 西 十月	一通	十力村、 飯田御役所	定免切替、今年から七カ年定免はこれ までとおり、災害などの減免がある	
1357	250	覚	文化十年 西 十月、十一月十八日	二通	湯浅鍵治、 大河原村名主	国役金と納入用金の受け取り覚え	

1358	文化 251	本新田畑并焼畑高沢渡口改帳	文化十年 西 十一月廿八日	一冊	大河原村名主所	田畑、焼畑など譲渡したもの高沢、渡 し方	
1359	252	本新田畑并焼畑高沢請取口改帳	文化十年 西 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	田畑、焼畑など譲渡したもの高沢、受 け取り方	
1360	253	本新田畑小前高辻帳	文化十年 西 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	本新田、畑の銘々高辻帳	虫食い
1361	254	当酉年御年貢御樽本成勘定取立増済 納帳	文化十年 西 十一月	一冊	大河原村名主所	文化十年分の年貢の取り立て帳	虫食い
1362	255	小嶋市右衛門様御廻村御留入用帳	文化十年 西 十一月	一冊	大河原村名主組頭 惣百姓代会所	小嶋様廻村の際諸入用費覚え	
1363	256	郷中高沢諸入用割合帳	文化十年 西 十二月七日	一冊	大河原村名主所	村内各人の高沢諸入用費の覚え	
1364	257	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文化十年 西 十二月二十四日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1365	258	当酉年国役金高掛割付取立納帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十年分の国役金の取り立て計算帳	
1366	259	当酉年村入用郷中割付取立小前割掛 管済帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十年分の村入用費の割り付け取 り立て帳	
1367	260	当酉年村入用家別割取立帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十年分の村入用費を家別に負担、 取り立てる	虫食い
1368	261	御年貢年々くり割返帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化二年から当年まで年貢を集めた 際に端金をまもめて返金する	虫食い
1369	262	御用金家別御年貢本貫新代家別家別 割返しのり割返し差引書渡帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	御用金、年貢、村費、新代、年貢残金、 などを割り返すための計算帳	虫食い
1370	263	当酉年新代四分一家別割渡帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十年分の新代のうち四分の一は家 別に分配する	
1371	264	当酉年新代四分三高当郷中割渡帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十年分の新代のうち四分の三は高 当りて分配する	
1372	265	御用金四分一家別取立帳	文化十年 西 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	四十両の御用金、四分一の十両は家別 に取り立てる	
1373	266	御用金四分三高当割付取立帳	文化十年 西 十二月	一冊	大河原村名主所	殿様勝手不如意に付四十両の御用金、 四分三は高当りて取り立てる	

1374	文化 267	貯糧小前割付取立御預帳	文化十年 酉 十二月	一冊	大河原村	文化十年分の貯穀として糧を取集めて 預かる	
1375	268	当酉年国役金差引帳	文化十年 酉 十二月	一冊	大河原村名主所	文化十年分の国役金計算帳	虫食い
1376	269	当酉年御年貢差引帳	文化十年 酉 十二月	一冊	大河原村名主所	文化十年分の年貢計算帳	
1377	270	實差引帳	文化十年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十年分の村實差し引き計算帳	
1378	271	乍恐以追訴奉願上候	文化十年 酉	一通	鹿塩、大河原村、 (飯田御役所)	三月の願いに関わらず同じ定免だが、 両村だけは往古の樽木值段で願う	
1379	272	村中連印之事	文化十年 酉	一通	鹿塩村惣百姓連印	近年特に鹿塩増え諸作不調、他の五カ 村よりも困窮、樽木值段引き下げ願 う	
1380	273	当戌年御用留井村用萬日記帳	文化十一年 戌 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門政秀	文化十一年一月から十二月までの御 用村用万日記	
1381	274	文化十一年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去酉年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化十一年 戌 三月 文化十一年 戌 一月十一日 文化十一年 戌 三月 二十四日 文化十一年 戌 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人四十六人(男二十人、女二十六 人)、減人四十五人(男十九人、女二十 六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百十二人(男七百二人、女六 百十人) 馬数三十五匹	
1382	275	乍恐以書付奉願上候	文化十一年 戌 四月	一通	大河原村、鹿塩村名 主、飯田御役所	御樽木值段の引き下げについて去年九 月の願書、追訴二通を取り下げた	
1383	276	書簡	(文化十二年) 戌 五月四日	一通	松下五郎左衛門、 前嶋富之丞	兵左衛門様病氣中見舞い、殘金の件依 頼	文化十一 年袋入り 文書

1384	277	(文化十四年免定并掛札) (1)西年免定之事 (2)掛札	(1)文化十年酉十月 月(2)文化十一年 戌五月	二通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主組頭 惣百姓代中	文化十年分の年貢免状と掛札	
1385	文化 278	(1)西年御年貢御勘定目録 (2)覚	文化十一年 戌 六月	二通 一包	大河原村名主他・ 飯田御役所	文化十年分の年貢勘定目録と年貢高の 覚え書き	
1386	279	書簡	(文化十二年) 戌 八月四日	一通	井上重助・ 大河原村役人中	三州山師佐兵衛が大河原村御林の見 分を許可されたのに添え状をつける	
1387	280	書簡	(文化十二年) 戌 九月四日	一通	井上重助・ 大河原村役人中	大河原村次郎八が葦刈場の件で訴え、 内々で済ましたほうが良い	文化十一 年袋入り 文書
1388	281	覚	文化十一年 戌 十月廿四、廿五日	二通	市岡蘇之助・ 大河原村名主	国役金の受け取り状と二納、納入用 金の納入期限の通知	
1389	282	当戌年御年貢初納二納割付覚帳	文化十一年 戌 十一月十四日	一冊	大河原村名主所	文化十一年分の年貢初納二納割り付 け覚え	
1390	283	当戌年御年貢御榑木成勘定取立皆済 納帳	文化十一年 戌 十一月	一冊	大河原村名主所	文化十一年分の年貢の取り立て帳	
1391	284	焼畑引分々候節熟談書付 (相定書付之事)	文化十一年 戌 十一月	一冊	兵左衛門他村中総 印	焼畑の場所が荒地にふたのは葦刈が原 因として禁じたとによる争い	
1392	285	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文化十一年 戌 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1393	286	御年貢ほり帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢を納めた際に出た、小額の残金を 割り返す	
1394	287	当戌年国役金高掛割付取立納帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の国役金の取り立て計算 帳	
1395	288	当戌年薪代四分一家別割渡帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の薪代のうち四分の一は 家別に分配する	
1396	289	当戌年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の薪代のうち四分の三は 高当たりで分配する	
1397	290	当戌年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十一年分の村入用費の割り付け 取り立て帳	
1398	291	当戌年村入用家別取立帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の村入用費を家別に貢 担、取り立てる	

1399	292	当成年御年貢差引帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の年貢差し引き計算帳	
1400	293	当成年国役金差引帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十一年分の国役金差し引き計算帳	
1401	文化 294	實差引帳	文化十一年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十一年分の村實差し引き計算帳	
1402	295	当亥年御用留井村用萬日記帳	文化十二年 亥 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門	文化十二年一月から十二月までの御 用村用万日記	
1403	296	送一札之事	文化十二年 亥 二月	二通	名主兵左衛門・ 長岡村名主衆中	与蔵男・金兵衛の宗門人別を送る、 一通は下書き	
1404	297	送一札之事	文化十二年 亥 二月	一通	名主兵左衛門・ 滝口村又兵衛	七左衛門女子 なす が縁付く、宗門 人別送る	
1405	298	(文化十一成年免定并掛札) (1) 寛 (2) 掛札 (3) 寛	(1) 文化十一年 戌 十月 (2) 文化十二 年 亥五月 (3) 文化 十二年 亥六月	三通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	文化十一年分の年貢、免定の寛えど、 掛札、年貢額の寛え	
1406	299	文化十二年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (2) 印鑑帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御榎木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8) 去戌年村入用割合帳 (9) 家人馬數御改帳	文化十二年 亥 三月 文化十二年 亥 一月十一日 文化十二年 亥 三月十二日 文化十二年 亥 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十人(男十九人、女二十一人)、 減人三十四人(男十三人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百軒 人數千三百十八人(男七百八人、女六 百十人) 馬數三十五匹	
1407	300	去戌年御年貢勘定目録	文化十二年 亥 六月	一通	大河原村名主兵左 衛門・飯田御役所	文化十一年分の年貢勘定目録	
1408	301	御内用井戸郷右衛門様市岡麻之助様 御留り賄帳	文化十二年 亥 九月	一冊	大河原村会所	井戸・市岡両役人が来村、宿泊の際の 賄い帳	
1409	302	調達金覚帳	文化十二年 亥 九月	一冊	大河原村名主兵左 衛門他・飯田御役所	六十両三分余りの調達金を取集めて上 納する	

1410	303	寛	文化十二年 亥 十月、十一月	五通	飯田御役所、 大河原村名主	国役金、納入用金、日光法会国役金、 の受け取りと二納年貢納入期限通知	
1411	文化 304	当亥年御年貢初納二納割付寛帳	文化十二年 亥 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の年貢初納二納割り付 け寛え	
1412	305	本新田畑并焼畑高沢渡口改帳	文化十二年 亥 十二月四日	一冊	大河原村名主所	田畑、焼畑など譲渡したものの高沢、渡 し方	
1413	306	本新田畑并焼畑高沢請取口改帳	文化十二年 亥 十二月四日	一冊	大河原村名主所	田畑、焼畑など譲渡したものの高沢、受 け取り方	
1414	307	当亥年国役金差引帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の国役金差引き計算帳	
1415	308	当亥年国役金高掛割付取立納帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の国役金の取り立て計算 帳	
1416	309	当亥年御年貢差引帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の年貢差引き計算帳	
1417	310	当亥年薪代四分一家別割渡帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の薪代のうち四分の一は 家別に分配する	
1418	311	当亥年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の薪代のうち四分の三は 高当たりで分配する	
1419	312	当亥年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主所	文化十二年分の年貢の取り立て帳	
1420	313	實差引帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十二年分の村實差し引き計算帳	
1421	314	貯樽小前割付取立御預帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村	文化十二年分の貯穀として樽を取集め て預かる	
1422	315	当亥年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十二年分の村入用費の割り付け 取り立て帳	
1423	316	当亥年村入用家別割取立帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十二年分の村入用費を家別に負 担、取り立てる	虫食い
1424	317	調達金差引改帳	文化十二年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	調達金の会計帳	
1425	318	当子年御用留井村用萬日記帳 おむ 御川触	文化十三年 子 一月吉日	三冊	前嶋兵左衛門	文化十三年一月から九月、十月から 十二月の御用村用万日記と御川触れ	

1426	319	(土地譲渡証文)下書き	文化十三年 予 二月何日	二枚	孫治	土地譲り渡し証文の下書き	
1427	文化 320	文化十三年 宗門御改帳 (1)宗門庫減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)漕減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)去年年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化十三年 予 三 月 文化十三年 予 一月十一日 文化十三年 予 三月二十三日 文化十三年 予 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人六十七人(男三十人、女三十七人)、減人六十六人(男三十二人、女三十四人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数十三百十九人(男七百六人、女六百十三人) 馬数三十五匹	
1428	321	郷潮薪割付寛帳	文化十三年 予 五月	一冊	大河原村会所	郷潮薪八人一組割合の名簿	
1429	322	御用加藤勤左衛門様御泊り願帳	文化十三年 予 七月	一冊	大河原村名主会所	加藤勤左衛門が御用で宿泊した際の諸 費願帳	
1430	323	当子年御年貢初納二納割付寛帳	文化十三年 予 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の年貢初納二納割り付 け寛え	
1431	324	当子年国役金差引帳	文化十三年 予 十一月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の国役金差引き計算帳	
1432	325	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文化十三年 予 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判: 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1433	326	当子年山代金四分一家別割渡帳	文化十三年 予 十二月二十七日	一冊	大河原村名主会所	内山で得た収入の四分の二は家別に分 配する、二百九十四軒、一軒二両余	
1434	327	当子年山代金四分三高当郷中割渡帳	文化十三年 予 十二月二十七日	一冊	大河原村名主会所	内山で得た収入の四分の一は高当たり で分配する	虫食いひと い
1435	328	当子年山代金差引帳	文化十三年 予 十二月二十八日	一冊	大河原村名主会所	内山で得た収入の差引計算帳	
1436	329	實差引寛帳	文化十三年 予 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の利實差し引き計算帳	虫食い
1437	330	当子年薪代四分一家別割渡帳	文化十三年 予 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の薪代のうち四分の一は 家別に分配する	虫食いひと い

1438	331	当子年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の薪代のうち四分の三は 高当たりで分配する	虫食いひと い
1439	文化 332	時種小前割付取立御預帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村	文化十三年分の時穀として種を取集め て預かる	
1440	333	当子年村入用郷中割付取立小前割掛 普済帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十三年分の村入用費の割り付け 取り立て帳	
1441	334	当子年村入用家別割取立帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の村入用費を家別に負 担取り立てる	
1442	335	当子年御年貢差引帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の年貢差引き計算帳	虫食いひと い
1443	336	当子年御年貢御樽木成勘定取立普済 納帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主所	文化十三年分の年貢取立帳	虫食い
1444	337	当子年国役金高掛割付取立納帳	文化十三年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十三年分の国役金の取り立て計算 帳	
1445	338	申渡	文化十三年 子	一通	飯田御役所・ 大河原村名主代理	最近各村の社人や神職達は支配役所 に知らせず吉田御役に出るのは不埒	
1446	339	乍恐以事付奉願上候御事	文化十四年 丑 一月	一通	名主兵左衛門他・ 飯田御役所	大河原御樽木山から諸木を切出した が、石打ち木等捨て木の払い下け願	
1447	340	書簡	(文化十四年) 丑 二月十一日	一通	井上甫助六郎左衛 門・兵左衛門	惣兵衛の件、老いともにも内々話して ある、今後さらに考える	文化十四 年袋入り 文書
1448	341	文化十四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)去子年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文化十四年 丑 三月 文化十四年 丑 一月十一日 文化十四年 丑 三月十日 文化十四年 丑 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十二人(男三十人、女二十二 人)、減人三十二人(男十八人、女十四 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百三十九人(男七百十九人、 女六百二十人) 馬数三十五匹	
1449	342	差上申一札之事	文化十四年 丑 三月	四通	(長右衛門)・ 兵左衛門	兄惣左衛門が寛政四年に主人に対し て不埒な行動をした、写しと下書き	

1450	343	相定申書付之事	文化十四年 丑 三月	一通	名主兵左衛門他	内山から諸木を伐出して売る、代金百両のうち五十両を受け取った	
1451	文化 344	(文化十三年免定并掛札) (1) 寛 (2) 掛札 (3) 寛札	(1) 文化十三年子 十月 (2) 文化十四年 丑 五月	三通 一包	飯田御役所、 大河原村名主	文化十三年分の免定と掛札、年貢扶持米代の金額覚え	
1452	345	寛	文化十四年 丑 五月廿四日	一通	鹿嶋村名主、 大河原村名主	お役所からの廻状の受け取り状	
1453	346	寛、廻状(写)	文化十四年 丑 五月廿四日	一通	大河原村名主、 加々須村名主衆中	廻状の受け取り寛と廻状の写し、一ツ橋大納言死去に付き御定式につき	
1454	347	子年御年貢御勘定目録	文化十四年 丑 六月	一通	名主兵左衛門他、 飯田御役所	文化十三年分の年貢勘定目録	
1455	348	新田御改湯浅鍵治様市岡寛蔵様井上 補助様御出役諸賄入用帳	文化十四年 丑 八月十六日	一冊		湯浅鍵治他二名が出役中の諸賄入用費の覚え	
1456	349	御廻状請取寛(四通) 書簡(五通)	文化十四年 丑 九月から十一月	九通	諸人、 名主兵左衛門	普請役、国役廻状の受け取りと諸用向き書簡	
1457	350	(一札) (1) 差出申一札之事 (2、3) 寛	(1) 文化十四年 丑 三月 (2) 文化十四 年 丑 十月十六日	三通 一包	大田屋佐兵衛、茶屋 和助、 大河原村名主中	権は切出さふい、境目の件は指図の通り守るなどの約束覚え、金予五十両、一両二分の受け取り	
1458	351	信州伊那郡大河原山会所荷物留帳	文化十四年 丑 十月	一冊	御用水会所、 前嶋兵左衛門	会所荷物の預り証	
1459	352	寛	文化十四年 丑 十月、十一月	四通	湯浅鍵治、 大河原村名主	国役金、日光国役金、納入用金の受け取り寛と、二納納入用金の納入期限	
1460	353	(書付写し)	文化十四年 丑 十一月	一通		大河原村村内青木川、本谷、釜沢谷各地内山、御榎木出の名称	
1461	354	差出申一札之事	文化十四年 丑 十一月	一通	百姓勇蔵 大河原村 名主兵左衛門	御用水を本流れ木同様拾って処分したことは不埒であった	
1462	355	(1) 差出申書付之事 (2) 差出申一札之事	文化十四年 丑 十二月二十日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主細頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたり差し出す一札	
1463	356	当丑年御年貢御榎木成勘定取立皆済 納帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主所	文化十四年分の年貢の取り立て帳	
1464	357	實差引寛帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の料實差し引き計算帳	

1465	358	当丑御年貢差引帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の年貢差し引き計算帳	
1466	文化 359	当丑年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文化十四年分の村入用費の割り付け 取り立て帳	
1467	360	当丑年村入用家別割取立帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の村入用費を家別に負 担し取り立てる	
1468	361	当丑御年貢差引帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の年貢差し引き計算帳	
1469	362	嶋川原新田御年貢取立帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の嶋川原新田年貢の取 り立て帳	
1470	363	当丑年国役金差引帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の国役金差引き計算帳	
1471	364	当丑年国役金高掛割付取立納帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の国役金の取り立て計算 帳	
1472	365	当丑年薪代四分一家別割渡帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の薪代のうち四分の一は 家別に分配する	
1473	366	当丑年薪代四分三高当郷中割渡帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の薪代のうち四分の三は 高当たりで分配する	虫食い
1474	367	当丑年山代金四分一家別割渡帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	内山で得た収入の四分の一は家別に分 配する	
1475	368	当丑年山代金四分三高当郷中割渡帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	内山で得た収入の四分の一は高当たり で分配する	
1476	369	当丑年山代金差引帳	文化十四年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文化十四年分の薪代と内山で得た収入 の差引計算帳	

整理番号	年号別番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
1477	文政 1	当富年御用留井村用萬日記帳	(文化十五年)文政 元年寅 一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門正弼	文政元年(文化十五年)一月から十二 月までの御用村用万日記	
1478	2	文化十五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)去丑丑年村入用割合帳 (9)家人馬数御改帳	文政元年(文化十五 年)寅 三月 文政元年(文化十五 年)寅 二月十一日 文政元年(文化十五 年)寅 三月 文政元年(文化十五 年)寅 三月 文政元年(文化十五 年)寅 三月 三月	九冊 一袋	信濃 国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人五十六人(男二十四人、女三十二 人)、減人五十一人(男二十人、女三十 一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百四十四人(男七百二十二 人、女六百二十二) 馬数三十五匹	
1479	3	印鑑帳	文政元年 寅 三月吉日	一冊	前嶋正弼	印鑑帳、実は畑などの地代等記録、文 政二年から天保七年まで	表紙文字 消えそう
1480	4	丑年御年貢御勘定目録	(文化十五年)文政元 年 寅 六月	一通	大河原村名主兵左 衛門、飯田御役所	文化十四年分の年貢勘定目録	虫食いひど い
1481	5	(文化十四丑年免定并掛札) (1)寛 (2)掛札 (3)寛 (4)寛 (5)寛	(1)文化十四年丑 十月(2)文政元年 寅五月(3)寅六月 (4)文政元年寅十 月廿七日(5)文政 元年寅十一月十七 日	五通 一包	飯田御役所: 大河原村名主	免定、掛札、年貢、返納などの受け取 り、寛、国役金、納入用金の受け取り	

1482	文政 6	寛	丑十二月廿三日 (文政元年)寅十月	三通 一包	井上嘉一郎、湯浅健 治、大河原村名主	文化十四年燕尾金子の受け取り寛二 通、文政元年納入用金納入期限通知	文化十五 年袋入り 文書
1483	7	当富年御年貢初納二納割付寛帳	文政元年 寅 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の年貢初納二納割り付け 帳	
1484	8	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政元年 寅 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1485	9	当富年村入用家別割取立帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の村入用費、家別取り立て 帳	
1486	10	当富年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政元年分の村入用費の取り立て帳	
1487	11	当富年薪代四分一家別割渡帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の薪代の四分の一は家別に 分配する	
1488	12	当富年薪代四分三高当り郷中割渡帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の薪代の四分の三は高当た りて分配する	
1489	13	實差引改帳	文政元年 寅 十二月	一冊	名主会所	村實の改帳	
1490	14	鳥川原新田御年貢取立帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の鳥川原新田の年貢取り 立て帳	
1491	15	当富年御年貢御樽大成勘定取立皆済 納帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主所	文政元年分の年貢取り立て帳	
1492	16	当富年新田御年貢差引帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の新田年貢差し引き計算 帳	
1493	17	当富年御年貢金差引帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の年貢差し引き計算帳	
1494	18	当富年国役金差引帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の国役金差引き計算帳	
1495	19	当富年国役金高掛割付取立納帳	文政元年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政元年分の国役金取立帳	
1496	20	流作起退御年貢取立帳	文政元年 寅 十二月	一冊	名主会所	災害で流作となった田を耕作しなまし た分について年貢取り立て	

1497	21	寛	(文政元年) 寅 十二月	一通	名主勘定場、兵左衛門被官中兵衛後家	焼畑年貢と山水四分一の岸邊覚え	
1498	22	文政 22	当卯御用留井村用日記帳	一冊	前嶋兵左衛門正綱	文政二年一月から十二月までの御用村用方日記	
1499	23		台所諸賄帳	一冊	大河原村前嶋氏五太刀	前嶋家台所ほかない帳	
1500	24		文政二年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (2) 印鑑帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御榎木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8) 去當年村入用割合帳 (9) 家人馬数御改帳	文政二年 卯 三月 文政二年 卯 一月吉日 文政二年 卯 三月 文政二年 卯 三月	九冊 一袋 信濃国伊那郡大河原村、 飯田御役所	増人七十人(男三十二人、女三十八人)、減人四十六人(男二十三、女二十三) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百六十八人(男七百三十一人、女六百三十七人) 馬数三十五匹	
1501	25		井上重助様御廻村諸入用帳	一冊	大河原村名主会所	宗門、御榎木山、起こし返り改めのため井上重助廻村の際の諸入用帳	
1502	26		内清儀定為取替書付	一冊	大河原村、鹿塩村、願人惣代他名主衆	大河原、鹿塩両村に鹿塩村彦兵衛に借金するもの有り、返納は土地とする	
1503	27		(1) 取替申一札之事 (2) 絵図新ヶ沢之内(ばくろ岩より) 本台南又沢奥お祈通 (3) 差出申書付之事	文政二年 卯 四月 一通 二通 一通 一通	大河原村名主兵左衛門他、 小野村、左衛門、判蔵	文化年間(諸)木伐出後の木本を取る件について小野村との取り決め、伐出地の新ヶ沢の絵図	
1504	28		(1) 寛 (2) 掛札 (3) 覚え	(1) 文政元年 寅十月 (2、3) 文政二年 卯 五月	飯田御役所、 大河原村名主	文化元年分の免定と掛札、納入用金額の覚え	
1505	29		組下人足帳	一冊	前嶋兵左衛門	何らかの仕事の組下人足の名簿、各耕地別	
1506	30		寅年御年貢御勘定目録	一通	大河原村名主他村役人、飯田御役所	文政元年分の年貢勘定目録	

1507	31	寛	文政二年 卯 三月から十月	四通	鹿塩村、小川村、 加々須村、大河原村	役所からの廻状などの受け取り寛え	
1508	文政 32	(大河原・鹿塩村村民名書出し)	文政二年 卯 八月	一通		金子借用証の一部か？鹿塩村本人彦 兵衛の名がある	虫食い
1509	33	一札之事	文政二年 卯 九月	一通	前嶋兵左衛門・ 宿々村々名主衆中	庄作、やす、亀次郎三名、六歳の亀次 郎眼病治療に向く通行一札	
1510	34	井上嘉一郎様御樽木山御見分并御入 湯入用帳	文政二年 卯 九月	一冊	大河原村名主組頭 会所	井上嘉一郎による御樽木山見分と入 湯ぐました諸入用費の寛え	
1511	35	一札之事	文政二年 卯 十月十三日	一通	名主前嶋兵左衛門・ 宿々村々衆中	西国巡礼と金毘羅参りを行つので往来 一札、二組の夫婦のための二件写し	
1512	36	寛	文政二年 卯 十月、十一月	三通	湯浅健治 大河原村名主	国役金・納入用金の受け取りと三納年 貢などの納入期限の通知寛	
1513	37	当卯年御年貢初納二納割付寛帳	文政二年 卯 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の年貢初納二納割り付け 帳	
1514	38	当卯年国役金高掛割付取立納帳	文政二年 卯 十一月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の国役金取り立て帳	
1515	39	貯樽小前割付取立御預帳	文政二年 卯 十一月	一冊	大河原村	貯穀としての樽を取集め預かる寛え	
1516	40	当卯年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	文政二年 卯 十一月	一冊	大河原村名主所	文政二年分の年貢取り立て帳	
1517	41	寛	(文政二年) 卯 十一月	一通	井上重四郎・ 大河原村名主	井上金四郎を井上嘉一郎と改名した	
1518	42	書簡	文政二年 卯 十二月十三日	一通	小嶋島助・ 前嶋兵左衛門	質物として田畑を置く証文について	
1519	43	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政二年 卯 十二月十八日	二通 一包	惣百姓代・小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代・小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1520	44	寛	(文政二年) 卯 十二月	六通	名主勘定場・ 兵左衛門他	焼畑年貢・山永四分の一等の普済寛え	
1521	45	当卯年新田御年貢差し引帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の新田年貢差し引き計算 帳	
1522	46	当卯年国役金指引帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の国役金差引き計算帳	

1523	47	当卯年本貫調達金割返差引帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	文政二年分の本貫と調達金の返金計算帳	
1524	文政 48	当卯年御年貢差引帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の年貢差し引き計算帳	虫食い
1525	49	嶋河原新田御年貢取立帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の嶋川原新田の年貢取り立て帳	虫食い
1526	50	当卯年村入用家別割取立帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の村入用費家別取り立て帳	虫食い
1527	51	当卯年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政二年分の村入用費の取り立て帳	
1528	52	当卯年薪代四分一家別割渡帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の薪代の四分の一は家別に分配する	
1529	53	当卯年薪代四分三高当り郷中割渡帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政二年分の薪代の四分の三は高当りて分配する	
1530	54	薪代割返指引帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	文政二年分の薪代割返し計算帳	
1531	55	調達金御利足四分一家別割返帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	調達金の利息の四分の一は家別に分配する	虫食い
1532	56	調達金御利足四分三高当割返帳	文政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	調達金の利息の四分の一は高当りて分配する	虫食いひと い
1533	57	(1)当辰御用留井村用日記帳 (2)二番当辰御用留井村用日記帳	文政三年 辰 一月吉日 十二月吉日	二冊	前嶋兵左衛門正弼 前嶋右馬之丞	文政三年一月から十月までの御用村用方日記二番は続き十二月まで、共に兵左衛門が江戸に行つたことによりほとんど右馬之丞の筆	
1534	58	(1)借用申金子證文之事 (2)一札之事	文政三年 辰 一月二十三日	二通	兵左衛門、 金主兼中	文字金十両の借用書、兵左衛門は江戸に居るので辨村次第押印する一札	
1535	59	寛	文化三年 辰 六月十九日	一通	鹿塩村名主、 大河原村名主	金子受け取り寛え	虫食い
1536	60	廻状	文政三年 辰 十月十日	一通	井上金四郎、 大河原、鹿塩村名主	子玉明神社造営勸化について、近日向村へ出向くこと	
1537	61	寛	(文政三年)辰 十月十三日	一通	加々須村名主勝氏、 大河原村名主	廻状の受け取り	

1538	62	市岡様之助様井上金四郎様御出役中 諸入用帳	文政三年 辰 十一月一日	一冊	大河原村名主会所	市岡、井上両役人の出役中、諸入用 帳	
1539	63	文政 (1)書簡 (2)寛	文政三年 辰 十一月三日	二通 一包	鹿嶋村会所、 大河原村名主衆中	井上金四郎からの御用状受け取り えと、明日井上様より米利の知らせ	年号村日 記にて確認
1540	64	本新田畑并焼畑高沢諸取口寛帳	文政三年 辰 十一月二十日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の高沢受け取り口の え	
1541	65	本新田畑并焼畑高沢渡し口寛帳	文政三年 辰 十一月二十四日	一冊	大河原村名主会所	田畑や焼畑地の売買の寛え書き	
1542	66	(諸取帳) 永栄講連印帳	文政三年 辰 十一月	一冊	大河原村	永栄講を飯田役所が發起したて加入 し名主はじめ村役人が連印加入	
1543	67	本新田畑小前高辻帳	文政三年 辰 十一月	一冊	大河原村名主所	本新田畑の高辻帳	虫食いひと い
1544	68	高沢入用并養心寛帳	文政三年 辰 十二月	一冊	名主所	高沢入用と養心帳	
1545	69	送り一札之事	文政三年 辰 十二月	一通	名主兵左衛門、 古町村庄屋	当村伊左衛門男字十六歳を古町村庄右 衛門の養子とする、宗門人別送る	
1546	70	当已御用留井村用日記帳	文政四年 巳 一月 吉日 十月吉日	二冊	前嶋兵左衛門正卿	文政四年一月から十月まで、十月から 十二月までの御用村用方日記	
1547	71	送り一札之事	文政四年 巳 一月	一通	名主前嶋兵左衛門、 知久町村庄屋	当村才三郎男字栄作二十五歳は知久 町十蔵の養子となる、宗門人別送る	
1548	72	送り一札之事	文政四年 巳 一月	一通	名主前嶋兵左衛門、 知久町村庄屋	当村才三郎男字栄作二十五歳は知久 町十蔵の養子となる、宗門人別送る	
1549	73	文政四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 券上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	文政四年 巳 三月 文政四年 巳 一月吉日 文政四年 巳 三月 文政四年 巳 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人四十六人(男二十一人、女二十六 人)、減人四十八人(男二十六人、女二 十二人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百軒 人数千三百七十人(男七百三十人、女 六百四十人) 馬数三十五匹	

1550	74	(1)底年決定之事 (2)掛札	(1)文政三年辰十月 (2)文政四年巳五月	二通 一包	飯田御役所、 大河原村、	文政三年分の定免と掛札	
1551	75	覚	文政四年巳 一四五月	三通	鹿塩、峠、加々須 村、前嶋兵左衛門村	廻状の受け取り覚二通と、金五両の受け取り	
1552	76	書簡	文政四年巳 五六月	七通	鹿塩、上総、小野、 中坪村、兵左衛門村	御公役井上金四郎廻村、樽木山見分 などにつき村々相互連絡	
1553	77	御樽木山御見分御願方入用帳	文政四年巳 六月二十日	一冊	(大河原村)	勘定方根岸、支配方井上両役人による 御樽木山見分の際の話入用書簡帳	
1554	78	(御林帳、下書き)	文政四年巳 六月	一通	大河原村、 (飯田御役所)	「信州伊那郡大河原村御林帳の下書き」(飯田市史博398文政56)	
1555	79	(1)底年御年貢勘定目録 (2)覚	文政四年巳 七月	二通 一包	大河原村名主他村 役人、飯田御役所	文政三年分の年貢勘定目録と納入金 額覚え	
1556	80	一札之事	文政四年巳 十一月八日	一通	名主前嶋兵左衛門、 宿々村々衆中	喜代蔵二十五歳、西国巡礼と金毘羅 山に参る、往来一札	
1557	81	当巳年御年貢初納二納割付覚帳	文政四年巳 十一月十四日	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の年貢初納二納割り付け 帳	
1558	82	覚	文政四年巳 十一月十六日	一通	湯浅健治、 大河原村名主	納入用金と国役金の受け取り覚え	
1559	83	当巳年御年貢御樽木成勘定取立増済 納帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主所	文政四年分の年貢取り立て帳	
1560	84	嶋河原新田御年貢差引帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の嶋河原新田年貢差し引 き計算帳	
1561	85	当巳年御年貢差引帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の年貢差し引き計算帳	
1562	86	当巳年夫錢取立御利足割渡薪代割渡 指引帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主所	文政四年分の夫錢、調達金、利足、薪代 割渡し金の差し引き計算帳	
1563	87	当巳年国役金指引帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の国役金差引き計算帳	
1564	88	当巳年国役金高掛割付取立納帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の国役金取立帳	
1565	89	嶋河原新田御年貢取立帳	文政四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の嶋河原新田年貢取り立 て帳	

1566	90	調達金御利足四分一家別割返帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	調達金の利息の四分の一は家別に分配する	
1567	文政91	調達金御利足四分三高当割返帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	調達金の利息の四分の一は高当たりで分配する	
1568	92	当已年村入用家別割取立帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の村入用費家別取り立て帳	
1569	93	当已年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	文政四年分の村入用費取り立て帳	
1570	94	貯積小前割付取立御預帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村	貯穀としての積を集めて預かる覚え	
1571	95	当已年薪代四分一家別割渡帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の薪代の四分の一は家別に分配する	
1572	96	当已年薪代四分三高当り郷中割渡帳	文政四年 巳十二月	一冊	大河原村名主会所	文政四年分の薪代の四分の三は高当たりで分配する	
1573	97	当年御用留并村用日記帳	文政五年 午一月吉日	一冊	前嶋兵左衛門正弼	文政五年一月から十二月までの御用村用方日記	
1574	98	送一札之事	文政五年 午一月	一通	大河原村前嶋兵左衛門・飯田城下庄屋	当村オ三郎の伴衆助二十六才を飯田城下乙八の養子とする。宗門人別送る	
1575	99	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政五年 午一月	二通 一包	惣百姓代、小代判、名主組頭衆中	今年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたり差し出す一札	
1576	100	文政五年宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分差上申證文之事 (8)家人馬數御改帳	文政五年 午三月 文政五年 午一月吉日 文政五年 午三月 文政五年 午三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人四十一人(男二十人、女二十一人)、減人四十二人(男十四人、女二十八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百軒 人數千三百六十九人(男七百三十六人、女六百三十三人) 馬數三十五匹	
1577	101	(1)寛 (2)掛札 (3)寛	(1)文政四年巳十月 (2)文政五年午六月 (3)午六月	三通 一包	飯田御役所、大河原村名主	安政四年分の見取り年貢高、掛札、及び年貢、返納金などの覚え	

1578	文政 102	巳年御年貢御勘定目録	文政五年 午 六月	一通	大河原村名主他村 役人、飯田御役所	文政四年分の年貢勘定目録	
1579	103	作忍以書付奉願上候	文政五年 午 十月	一通	大河原村浪右衛門、 飯田御役所	産神顯訪明神社が壊れた、困窮のため 修復出ます、木を売って費用にしたい	
1580	104	作忍以書付奉願上候	文政五年 午 十月	一通	島川原田惣代、岡吉 他、飯田御役所	嶋川原新田は常に川除が必要で、自費 請した、年貢を引いてほしい	
1581	105	寛	文政五年 午 十月、十一月	二通	市岡寛藏、 大河原村名主	国役金と納入用金の受け取り覚え	
1582	106	作忍以書付奉願上候御事	文政五年 午 十一月	一通	十一カ村、 飯田御役所	貯穀はネズミや虫が湧いて困るので米、 麦、小麦の新穀に替えて	
1583	107	当午年御年貢初納二納割付取立帳	文政五年 午 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	文政五年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	虫食い
1584	108	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政五年 午 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1585	109	嶋川原新田畝歩訳帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	嶋川原の新田の面積記録	
1586	110	当午年御年貢御樽木成勘定取立皆済 納帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	文政五年分の年貢取り立て帳	
1587	111	当午年嶋川原新田御年貢差引帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の嶋川原新田年貢差し引 き計算帳	
1588	112	当午年嶋川原新田御年貢取立帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の嶋川原新田年貢取り立 て帳	
1589	113	当午年御年貢差引帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の年貢差し引き計算帳	
1590	114	当午年国役金指引帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の国役金差引き計算帳	
1591	115	当午年国役金高掛割付取立納帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の国役金取立帳	
1592	116	当午年村入用家別割取立帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の村入用費家別取り立て 帳	
1593	117	当午年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政五年分の村入用費の取り立て帳	

1594	文政 118	調達金御利足四分一家別割返帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	調達金の利息の四分の一は家別に分配する	
1595	119	調達金御利足四分三高当割返帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	調達金の利息の四分の一は高当たりで分配する	
1596	120	当午年薪代四分一家別割渡帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の薪代の四分の一は家別に分配する	
1597	121	当午年薪代四分三高当り郷中割渡帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政五年分の薪代の四分の三は高当たりで分配する	
1598	122	当午年未銭取立御利足割渡薪代割渡 指引帳	文政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	文政五年分の未銭、調達金利足、薪代割渡し金の差し引き計算帳	
1599	123	当未年御用村用記録	文政六年 未 一月 吉日 八月吉日	二冊	前嶋兵左衛門正房	文政六年一月から七月、七月から十二月までの御用村用方日記	
1600	124	乍恐以書付奉願上候御事	文政六年 未 二月	一通	兵左衛門被官清兵衛他、飯田御役所	清兵衛俸清七は勘当されていたが、後庵し大工修業を戻らうと望んでいる	
1601	125	文政六年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (2) 印籠帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8) 家人馬数御改帳	文政六年 未 三月 文政六年 未 一月吉日 文政六年 未 三月 文政六年 未 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、 飯田御役所	増人六十四人(男三十人、女三十四人)、減人七十八人(男三十三人、女四十五人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十五軒 人数千三百五十五人(男七百三十三人、女六百二十二人) 馬数三十五匹	
1602	126	送一札之事	文政六年 未 三月十三日	一通	名主兵左衛門、 溝口村名主	当村鐵左衛門妹しと二十六才と同一母きく六十八才は溝口村に引越す	
1603	127	送一札之事	文政六年 未 四月三日	一通	名主兵左衛門、 市瀬村名主直七	当村百姓奈川七十二才は市瀬村へ引越す、宗門人別送る	
1604	128	差上申書付之事	文政六年 未 四月	一通	大河原鹿場村名主 源三郎、飯田御役所	御草請役が廻村するとの事だが、農業に障る季節につき、日延願う	
1605	129	差出申内済證文之事	文政六年 未 五月廿日	一通	仙之助他、 太郎左衛門他多数	小間物などを販売してきた仙之助は江戸へ出た、売掛金を受け取った	

1606	文政 130	(1)覚 (2)掛札	(1)文政五年午十 月(2)文政六年未 五月	二通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	文政五年分の免定と掛札	
1607	131	(1)午年御年貢御勘定目録 (2)覚	文政六年 未 六月	二通 一包	名主兵左衛門他村 役人・飯田御役所	文政五年分の年貢勘定目録と年貢額 の覚え	
1608	132	作忍以書付奉願上候御事	文政六年 未 六月	一通	十一カ村・ 飯田御役所	貯穀を新穀に替えたい、その際米、麦、 小麦を問わば貯穀したい	
1609	133	差出申書付之事	文政六年 未 七月	一通	總之迄他・ 村役人衆中	無断で榎大木を切ったことは不埒だろ う、内緒で済ますとありがたい	
1610	134	御礼二付以書付奉申上候	(文政六年) 未 八月	一冊	大河原、鹿堤村役 人・飯田御役所	柄山を経て産物を売買するに際して物 資流通の仕方	文政六年 袋入り文 書
1611	135	作忍以書付奉願上候	文政六年 未 十月廿三日	一通	名主兵左衛門他・ 飯田御役所	内山の神場沢の瀬が枯れ今度の大雨で 倒れた、売りたいので払い下げ願う	
1612	136	覚	文政六年 未 十月、十一月	三通	湯浅鍵治・ 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取りと、二納 年貢など納入期限の通知覚え	
1613	137	書簡	(文政六年) 未 十一月廿四日	一通	井上金四郎・ 名主兵左衛門	上田、下田、畑の見取り場の区別石高 の知らせ	文政六年の 袋入り文 書
1614	138	当米年御年貢初納二納割付取立帳	文政六年 未 十月、十一月吉日	一冊	大河原村名主所	文政六年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	
1615	139	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政六年 未 十二月二十三日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1616	140	郷中勘定饗応帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村	饗応に要した費用などの覚え	
1617	141	当米年御年貢御榎木成勘定取立皆済 納帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主所	文政六年分の年貢取り立て帳	
1618	142	戌御改流作場去去年御年貢不納取立 帳	文政六年 未 十二月	一冊	名主所	文化十一年の流作場のうち、文政五年 分年貢が未納くあつた分の取立帳	
1619	143	嶋河原新田御年貢去不納取立帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	嶋河原新田年貢の内、文政五年分未 納であつたものの取り立て帳	
1620	144	当米年御年貢差引帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の年貢差し引き計算帳	

1621	145	当未年国役金指引帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の国役金差引き計算帳	
1622	文政 146	当未年国役金高掛割付取立納帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の国役金取立帳	
1623	147	当未年村入用家別割取立帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の村入用費、家別取り立て帳	
1624	148	当未年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	文政六年分の村入用費の取り立て帳	
1625	149	当未年薪代四分一家別割渡帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の薪代の四分の一は家別に分配する	
1626	150	当未年薪代四分三高当り郷中割渡帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政六年分の薪代の四分の三は高当りて分配する	
1627	151	貯槽小前割付取立御預帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての槽を集めて預かる覚え	
1628	152	当未年夫錢取立薪代割渡指引帳	文政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主所	文政六年分の夫錢、薪代割渡し金の差引き計算帳	
1629	153	当申年御用村用記録	文政七年 申 一月吉日、十二月	二冊	前嶋(兵左衛門)八郎九郎正弼	文政七年一月から十一月、十二月から十二月までの御用村用方日記	虫食い
1630	154	一札	文政七年 申 一月	一通	大河原村組頭傳左衛門、飯田御役所	熊の皮御用だが持ち合わせの者はいないのでお断りしたい	
1631	155	文政七年宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)印鑑帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	文政七年 申 三月 文政七年 申 一月十一日 文政七年 申 三月 文政七年 申 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人六十七人(男三十人、女三十七人)、減人六十八人(男二十九人、女三十九人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百五十五軒 人數千三百五十四人(男七百三十四人、女六百二十人) 馬數三十五匹	
1632	156	寛	文政七年 申 四月三日	一通	井上金四郎、大河原村名主	御役所普請金を受け取った	
1633	157	乍恐以書付奉願上候御事	文政七年 申 四月	一通	佐次右衛門、飯田御役所	佐次右衛門地内に有る榎木を計七本、作付けの障りになる、切つて売りたい	

1634	158	乍恐以書付奉願上候	文政七年 申 四月	一通	大河原村名主・ 御役所	大河原村内山より二年間、唐櫓から 小白木の仕出しをした、一通は下書 き	
1635	文政 159	乍恐以口上書御届奉申上候	文政七年 申 四月	一通	大河原村名主八郎 九郎・飯田御役所	大河原村名主兵左衛門(正卿)を八郎 九郎と改名する	
1636	160	(1)寛 (2)掛札 (3、4)寛(書付)	(1)文政六年未十 月(2)文政七年申五 月(3)文政七年申 七月(4)一	四通 一包通	飯田御役所・ 大河原村名主	文政七年の年貢のための文政六年分の 見取り年貢高と掛札、新田年貢、年貢 高などの寛え書きはけ	
1637	161	未年御年貢御勘定目録	文政七年 申 七月	一通	名主八郎九郎他村 役人・飯田御役所	文政六年分の年貢勘定目録	
1638	162	乍恐以書付奉願上候	文政七年 申 七月	一通	大河原村東之助他・ 飯田御役所	東之助氏神天狗の森に榎の老木一本有 り、切て売りたい、	
1639	163	未年嶋川原新田御年貢差引帳	文政七年 申 八月八日	一冊	大河原村名主会所	文政六年分嶋川原新田の年貢、差引 き計算帳	
1640	164	未年嶋川原新田御年貢取立帳	文政七年 申 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政六年分嶋川原新田の年貢、取り立 て帳	
1641	165	乍恐以書付奉願上候御事	文政七年 申 八月	一通	大河原村名主八郎 九郎・飯田御役所	百姓入会山から樅、榎、唐櫓、白櫓、 黒松を切り出し、川下げ、売りたい、	
1642	166	寛	文政七年 申	一通	農州司見郡中切村・ 御役人衆中	岩仙寺普請につき寄進、一面二分の受 け取り	
1643	167	乍恐以書付奉願上候	文政七年 申 十月	一通	大河原村惣之丞・ 飯田御役所	産神熊野権現社大破につき修復のため 社内杉一本を二両で売りたい、	
1644	168	差上申御證文之事	文政七年 申 十月	一通	十力村村役人・ 飯田御役所	新田の免について再吟味の結果を承知 した、二年定免、川下げ引き高の事	
1645	169	寛	文政七年 申 十月、十一月	三通	市岡寛藏・ 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取りと年貢二 納金などの納入期限の通知	
1646	170	寛	文政七年 申 十一月	一通	飯田御役所・ 大河原村	文政七年貯穀の寛え	
1647	171	当申年御年貢初納二納割付取立帳	文政七年 申 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	文政七年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	
1648	172	当申年御年貢御榎木成勘定取立増済 納帳	文政七年 申 十一月	一冊	大河原村名主所	文政七年分の年貢取り立て帳	

1649	173	当申年国役金高掛割付取立納帳	文政七年 申 十一月	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の国役金取立帳	
1650	文政 174	当申年国役くし引帳	文政七年 申 十二月三、四日	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の国役金差引き計算帳	
1651	175	当申年御年貢差引帳	文政七年 申 十二月三、四日	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の年貢差し引き計算帳	
1652	176	当申年去銭取立新代割渡差引帳	文政七年 申 十二月十一日	一冊	大河原村名主所	文政七年分の去銭、新代割渡し金の差し引き計算帳	
1653	177	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政七年 申 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1654	178	指出一札之事	文政七年 申 十二月	一通	葛嶋源五郎、大河原 村重三郎、名主	大河原村内山代金六十八両の金主方 に差し支えあり、来春まで日延する	
1655	179	(1)貯穀引替之義二付御請書 (2)貯穀小前割付御預帳書式見本	文政七年 申 十二月	二枚	大河原村名主八郎 九郎他、飯田御役所	去年願った通り年々米麦小麦の新穀と 取り替えて貯穀する、一通は見本	
1656	180	当申年村入用家別割取立帳	文政七年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の村入用費、家別取り立て 帳	
1657	181	当申年村入用郷中割付取立小前割掛 管清帳	文政七年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政七年分の村入用費の取り立て帳	
1658	182	当申年薪代四分一家別割渡帳	文政七年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の薪代の四分の一は家別に 分配する	
1659	183	当申年薪代四分三高当郷中割渡帳	文政七年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政七年分の薪代の四分の三は高当た りて分配する	
1660	184	貯穀小前割付取立御預帳	文政七年 申 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての糧を集めて預かる覚え	
1661	185	当酉年御用村用記録	文政八年 酉 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	文政八年一月から十二月までの御用 村用方日記	
1662	186	差出申一札之事	文政八年 酉 一月	一通	栄吉他、 八郎九郎	八右衛門後家の婿養子になるにあたり て身元、宗門調へに答ふその説明	
1663	187	組下人足帳	文政八年 酉 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	何らかの仕事の組下人足の名簿、各耕 地別	

1664	文政 188	文政八年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (2)印鑑帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	文政八年 西 三月 文政八年 西 一月十一日	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十七人(男二十二・女三十五 人)・減人三十九人(男十三・女二十 六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百七十二人(男七百四十三 人、女六百三十九人) 馬数三十五匹	
1665	189	為御樽木山見分宗門御改市岡寛蔵様 井上金四郎様御出役中諸入用帳	文政八年 西 四月三日	一冊	名主会所	御樽木山見分、宗門改めのため市岡、 井上両役人へ出役の際の諸入用帳	
1666	190	(文政七申年定并掛札) (1)覚 (2)掛札 (3)覚	(1)文政七年申十月 (2)文政八年西五 月(3)文政八年西 六月	三通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	申より西まゝ二年の定免、見取り年貢 高、年貢納入用金高の覚え	
1667	191	(文政七申年御年貢勘定目録) 申年御年貢勘定目録	文政八年 西 六月	一通	大河原村名主八郎 九郎・飯田御役所	文政七年分の年貢勘定目録	
1668	192	乍恐以書付奉願上候御事	文政八年 西 六月	一通	十一カ村名主組頭・ 飯田御役所	久々里表勝手不如意により御用金仰 せ付け、年貢金引当に惜り入れぬ事	
1669	193	覚	(文政八年) 西 八月	一通	(飯田御役所・ 大河原村)	文化十四年丑年、文政五年丑年の見 取り年貢高の覚え	文政十四 年袋入り 文書
1670	194	申年嶋川原新田御年貢指引帳	文政八年 西 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政七年分嶋川原新田の年貢、差し引 き計算帳	
1671	195	申年嶋川原新田御年貢取立帳	文政八年 西 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政七年分嶋川原新田の年貢、取り立 て帳	
1672	196	覚	文政八年 西 十月十九日	一通	大河原村八郎九郎・ 高遠町与兵衛	当村百姓入会山から角材を仕出した 代金の受け取り覚え	文政九年 袋入り文 書
1673	197	覚	文政八年 西 十一月十七日	三通	湯淺健治・ 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取りと、年 貢、納入用金の納入期限の通知	

1674	198	当酉年御年貢初納二納割付取立帳	文政八年 西 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	文政八年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	
1675	文政 199	作恐以追訴奉願上候御事	文政八年 西 十一月	一通	十一カ村名主組頭、 飯田御役所	久々里煮の借金の件、夫食にも難儀し てゐるを宛願いたし	
1676	200	作恐以書付奉願上候御事	文政八年 西 十一月	一通	十一カ村名主組頭、 飯田御役所	貯穀として糠を大麥小麥米と替えた が、凶作に付残らず夫食に使いたし	
1677	201	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政八年 西 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1678	202	当酉年村入用家別割取立帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の村入用費、家別取り立て 帳	
1679	203	当酉年村入用郷中割付取立小前割掛 管清帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政八年分の村入用費の取り立て帳	
1680	204	当酉年国役金高掛割付取立納帳	文政八年 西 十一月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の国役金取立帳	
1681	205	当酉年国役差引帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の国役金差引き計算帳	
1682	206	当酉年夫錢取立新代割渡差引帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の夫錢、新代割渡し金の差 し引き計算帳	
1683	207	当酉年新代四分一家別割渡帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の新代の四分の一は家別に 分配する	
1684	208	当酉年新代四分三高当郷中割渡帳	文政八年 西 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の新代の四分の三は高当た りで分配する	
1685	209	作恐以書付奉願上候御事	文政九年 戌 二月	一冊	預かり所十一カ村、 飯田御役所	文政八年は近年になく凶作に付困窮、 貯穀を拝借したし	虫食い
1686	210	文政九年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	文政九年 戌 三月 文政九年 戌 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人四十六人(男二十二人、女二十四 人)、減人五十人(男二十二人、女二十 八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百六十八人(男七百四十三 人、女六百二十五人) 馬数三十五匹	

1687	211	差出申一札之事	文政九年 戌 三月	一通	惣百姓代に兵衛他、 五左衛門	百二十六坪半を屋敷場所として借り 受ける	
1688	文政 212	印鑑帳	文政九年 戌 三月	一冊	大河原村名主所	文政九年戌から安政五年午まで届け られた印鑑変更など	虫食い
1689	213	嶋川原新田譲引反別証帳	文政九年 戌 七月吉日	一冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の内、譲り渡された分の 面積	
1690	214	酉年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	文政九年 戌 七月吉日	一冊	大河原村名主所	文政八年分の年貢取り立て帳	
1691	215	酉年嶋川原新田御年貢取立帳	文政九年 戌 七月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の嶋川原新田年貢取り立 て帳	
1692	216	為内山御見分角材為仕出歴三付市岡 寛蔵様井上金四郎様御出役中諸入用	文政九年 戌 八月三日	一冊	名主会所	内山見分と角材仕出しのため、市岡、 井上両役人出役中の諸入用費の覚え	
1693	217	酉年嶋川原新田御年貢指引帳	文政九年 戌 八月 二十七日、二十八日	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の嶋川原新田年貢、差し引 き計算帳	
1694	218	酉年御年貢指引帳	文政九年 戌 八月 二十七日、二十八日	一冊	大河原村名主会所	文政八年分の年貢、差し引き計算帳	
1695	219	乍恐以追訴奉願上候御事	(文政九年) 戌	一通	(八郎九郎、 飯田御役所	入会山から縦他の角材を切り出し、売 る相手不都合に付、他に売りたい	
1696	220	差出申一札之事	文政九年 戌 八月	一通	木曾原野村惣蔵他、 大河原村役人衆	入会薪山から約束した木品以外の槌、 櫓、黒部を切り出してしまふ弊ひ状	
1697	221	覚	文政九年 戌 十月、十一月	二通	市岡寛蔵、 大河原村名主	文政九年分の国役金、納入用金の受け 取り	
1698	222	(貯穀拝借願書三付御請證文) 差上申御請證文之事	文政九年 戌 十一月	一冊	御預所十一力村、 飯田御役所	文政八年の凶作にござ、大麦小麦、米 の貯穀を拝借する	
1699	223	差上申御請證文之事	文政九年 戌 十一月	一冊	御預所十一力村、 飯田御役所	安永九年新田年貢切替にござ、当年か ら三年間の定金(御請證文)	
1700	224	御口米一件御願出役中日記帳	文政九年 戌 十一月	一冊	大河原村出役十八 郎左衛門	口米の件で飯田役所へ出張したときの 日記	
1701	225	当戌年御年貢初納二納割付取立帳	文政九年 戌 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	文政九年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	
1702	226	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政九年 戌 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	

1703	227	当成年村入用家別割取立帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政九年分の村入用費、家別取り立て帳	
1704	文政 228	当成年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政九年分の村入用費の取り立て帳	
1705	229	当成年国役金高掛割付取立納帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政九年分の国役金取立帳	
1706	230	当成年夫銭取立新代割返差引帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政九年分の夫銭、新代割渡し金の差 し引き計算帳	
1707	231	当成年薪代四分一家別割渡帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政九年分の薪代の四分の一は家別に 分配する	
1708	232	当成年薪代四分三高当郷中割渡帳	文政九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政九年分の薪代の四分の三は高当た りて分配する	
1709	233	当成年国役金貯穀代指引帳	文政九年 戌 十二月	一冊	大河原名主会所	文政九年分の国役金と貯穀代、差し引 き計算帳	
1710	234	貯穀小前割付御預帳	文政九年 戌 十二月	一冊	大河原村	貯穀として高一石に付大麥一合五夕 を集めて預かる	虫食い
1711	235	(1)天明八申年より貯穀御預帳 (2)貯種大麥引替付調勘定	文政九年 戌 十二月	二冊 合冊	大河原村名主所	(1)天明八年から弘化三年までの貯穀 量の覚え、および貯麦代買付井利足勘 定などの覚え、(2)貯穀は種ではなく 大麥にした覚え	虫食い
1712	236	覚え(書付)	(文政九年 戌)	一通		田畑年貢高、引き高の覚え書付	文政九年 袋入り文 書
1713	237	当亥御用村用記録	文政十年 亥 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	文政十年一月から十二月までの御用 村用万日記	

1714	238	文政十年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	文政十年 亥 三月 文政十年 亥 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人三十九人(男十三人、女二十六人) 減人三十八人(男十七人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百六十九人(男七百三十九人、女六百三十人) 馬数三十五匹	
1715	239	(定免切替二付村々吟味請書控) 差上申御請書之事	文政十年 亥 三月	一冊	大河原村他九カ村・ 飯田御役所	定免切替に付吟味を受ける、定免を少々引き下げることを願う	
1716	文政 240	戌年嶋川原新田御年貢取立帳	文政十年 亥 閏六月	一冊	大河原村名主所	文政九年分の嶋川原新田の年貢取立帳	
1717	241	戌年御年貢御榑木成勘定取立皆済納帳	文政十年 亥 閏六月吉日	一冊	大河原村名主所	文政九年分の年貢取りたて帳	
1718	242	戌年御口米代小前取立皆済井… 諸入用勘定小前取立帳	文政十年 亥 閏六月吉日	一冊	大河原村名主所	文政九年分口米代と口米代御免の願い、役所に出向いた際の入用費取立	
1719	243	戌年御口米代井… 諸入用取立勘定指引帳	文政十年 亥 八月吉日	一冊	大河原村名主所	文政九年分口米代と口米代御免の願い、役所に出向いた際の入用費計算	
1720	244	戌年本御年貢嶋川原新田御年貢差引帳	文政十年 亥 八月吉日	一冊	大河原村名主所	文政九年分の嶋川原新田の年貢会計帳	
1721	245	(勸化)	文政十年 亥 十月二十五日	一冊	飯田御役所・ 十一カ村	多田院仏閣など大破につき修理勸化の触れ	文政十年 袋入り文 書
1722	246	(荒所御取廻二付御請証文) 差上申御請書之事	文政十年 亥 十月	一冊	御預所七カ村・ 飯田御役所	荒所を来年までに調へることを請ける	
1723	247	(安より丑迄三年定免御請証文) 差上申證文之事	文政十年 亥 十月	一冊	御預所十カ村・ 飯田御役所	今年から三年間定免とし、荒所が持高十分の一を繰り下るとは減免のこと	
1724	248	差上申御請書之事	文政十年 亥 十月	一通	大河原村八郎九郎・ 飯田御役所	質屋商売を行うについて今年は年季なの増水、十年季を請ける	
1725	249	覚	文政十年 亥 十月、十一月	三通	湯浅健治・ 大河原村名主	文政十年分国役寛勘金納入用金への受け取りと年貢二納など納入期限	

1726	250	当亥年御年貢初納二納割付取立帳	文政十年 亥 十月 十一月	一冊	大河原村名主所	文政十年分の年貢初納二納割り付け 取り立て帳	
1727	251	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政十年 亥 十二月 二十一日	二通 一包	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代小代判を引き受けるに あたり差し出す一札	
1728	252	当亥年国役金高掛割付取立納帳	文政十年 亥 十二月 吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の国役金取り立て帳	
1729	253	当亥年夫銭取立新代割返指引帳	文政十年 亥 十二月 吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の夫銭と新代割り返しの差 し引き計算帳	
1730	254	当亥年薪代四分一家別割渡帳	文政十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の薪代の四分の一は家別に 分配する	
1731	255	当亥年薪代四分三高当郷中割渡帳	文政十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の薪代の四分の三は高当た りて分配する	
1732	文政 256	当亥年国役金貯穀代指引帳	文政十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十年分国役金と貯穀代の差し引 き計算帳	
1733	257	当亥年村入用家別取立帳	文政十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の村入用費家別取り立て 帳	
1734	258	当亥年村入用郷中割付取立小前割掛 皆清帳	文政十年 亥 十二月 吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政十年分の村入用費の取り立て帳	
1735	259	貯穀小前割付御預帳	文政十年 亥 十二月	一冊	大河原村	貯穀として妻を集めく預かる宛え	
1736	260	伊雑皇大神宮御祭礼入用帳	文政十年 亥	一冊	大河原村	神宮祭礼に際し諸費入用帳	
1737	261	(1)当子年御用村用記録 (2)式番当子年御用村用記録	文政十一年 子 一月 吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弼	文政十一年一月から十二月までの御 用村用万日記	
1738	262	文政十一年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (2)宗門御改帳 (3)増減御改帳 (4)門屋被官五人組帳 (5)銃砲御改帳 (6)御構木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (7)家人馬数御改帳	文政十一年 子 三月 文政十一年 子 一月 吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人六十五人(男二十七人、女三十八 人)、減人七十五人(男三十八人、女三 十七人) 威し銃砲十九挺、獵師銃砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百五十九人(男七百二十八 人、女六百三十一人) 馬数三十五匹	

1739	263	荒所為見分御足輕伊助殿罷来候節諸 入用帳	文政十一年 予 五月二十四日	一冊	百姓代	荒所見分のなみ果村した足輕伊助の還 留申入用費の覚え	
1740	264	湯淺鍵治様井上金四郎様御出役中諸 入用帳	文政十一年 予 六月二十五日	一冊	名主会所	荒所と重部一件について御樽木山見分 のため両役人出役申諸入用帳	
1741	265	亥年嶋川原新田御年貢取立帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主会所	文政十年分の嶋川原新田の年貢取立 帳	
1742	266	亥年御口米小前取立皆済帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	文政十年分の口米代金取り立て帳	
1743	267	亥年御口米代取立勘定差引帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	文政十年分の口米代金取り立て帳	
1744	268	亥年本御年貢嶋川原新田御年貢差引 帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	文政十年分の嶋川原新田の年貢会計 帳	
1745	文政 269	嶋川原新田譲引反別沢帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の内、譲り渡された分の 面積	
1746	270	本新田畑井焼畑高沢渡口寛帳	文政十一年 予 六月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の高の寛え渡し口	
1747	271	本新田畑井焼畑高沢諸取口寛帳	文政十一年 予 六月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の高の寛え、受け取り 口	
1748	272	御年貢埃割返帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	年貢のうち余りの少額を割り返す	
1749	273	嶋川原新田譲引反別沢帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の売買、反別の寛え	
1750	274	高沢入用割付取立帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主会所	文政三年から十年まで高沢の入用金の 割付取立帳	
1751	275	亥年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	文政十一年 予 六月吉日	一冊	大河原村名主所	文政十年分の年貢取り立て帳	
1752	276	当子年薪代四分一家別渡帳	文政十一年 予 六月	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の薪代の四分の一は家別 に割渡す	
1753	277	(1)荒所小前帳 (2)本新田畑荒所引高小前帳	文政十一年 予 六月、八月	二冊	大河原村、 飯田御役所	荒所の場所、地主、広さなどの覚えと年 貢引き高帳	
1754	278	田畑荒所小前帳	文政十一年 予 七月	一冊	大河原村	荒所とちた田畑のなご、高、持ち主の 書き出し	

1755	279	荒所為御見分市岡寛藏様井上金四郎様御出役御逗留中入用附帳	文政十一年 予 八月十六日	一冊	大河原村名主所	荒所見分のなま市岡、井上両役へ出役中の諸入用附帳	
1756	280	御神楽殿再建并永代大々講講中寄付書扱帳	文政十一年 予 八月	一冊	御神楽殿世話人	神楽殿再建と大々講の寄付者名簿	
1757	281	当子年薪代四分三高当郷中割渡帳	文政十一年 予 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の薪代の四分の三は高当たりで割渡す	
1758	282	当子年御年貢初納二納割付取立帳	文政十二年 予 十月十一月	一冊	大河原村名主所	文政十一年分の年貢割り付け取り立て帳	
1759	283	覚	文政十二年 予 十一月、十二月	三通	市岡寛藏 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取り覚えど、年貢二納などの納入期限の通知	
1760	284	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文政十二年 予 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたり差し出す一札	
1761	文政 285	当子年国役金高掛割付取立納帳	文政十二年 予 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の国役金取り立て帳	
1762	286	当子年村入用家別取立帳	文政十一年 予 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の村入用費の家別取り立て帳	
1763	287	当子年夫錢取立御年貢埃割返薪代割返指引帳	文政十一年 予 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の夫錢、年貢割り返し、薪代割り返しなどを差し引き計算帳	
1764	288	当子年国役金高掛金差引帳	文政十二年 予 十二月	一冊	大河原村名主所	文政十一年分の国役金会計帳	
1765	289	当子年村入用郷中割付小前割掛皆済帳	文政十一年 予 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政十一年分の村入用費取立帳	
1766	290	御年貢曝零改帳	文政十一年 予 十二月	一冊	大河原村名主所	文政十年分の年貢返金分の改帳	
1767	291	(1)当丑年御用村用記録 (2)当丑年二番御用村用記録	文政十二年 丑 一月吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弔	文政十二年一月から十二月までの御用村用万日記(八郎九郎二十九歳)	
1768	292	一札之事	文政十二年 丑 一月	一通	名主前嶋八郎九郎 宿々村々衆中	久左衛門六十五歳金毘羅大権現代参、往来一札	

1769	293	文政十二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御轉木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	文政十二年 丑 三月 文政十二年 丑 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人三十九人(男二十二、女十七 人)、減人四十一人(男十六、女二十 五人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百五十五軒 人數千三百五十七人(男七百三十四 人、女六百三十三人) 馬數三十五匹	
1770	294	子年御生貢御轉木成勘定取立皆済納 帳	文政十二年 丑 七月吉日	一冊	大河原村名主所	文政十一年分の年貢取り立て帳	
1771	295	子年御口米代小前取立皆済帳	文政十二年 丑 七月吉日	一冊	大河原村名主所	文政十一年分の口米代の取り立て帳	
1772	296	子年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	文政十二年 丑 七月	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の嶋川原新田の年貢取 立帳	
1773	297	子年御口米代取立差引帳	文政十二年 丑 八月	一冊	大河原村名主会所	文政十一年分の口米代の取り立て計算 帳	
1774	文政 298	子年本年貢嶋川原新田御年貢差引帳	文政十二年 丑 八月	一冊	大河原村名主所	文政十一年分の年貢会計帳	
1775	299	一礼之事	文政十二年 丑 九月五日	一通	名主前嶋八郎九郎・ 宿々村々衆中	直次郎他四名、金毘羅大権現と伊勢 参宮に出づ、往来一礼	
1776	300	(安永九子新田定免切替御請證文) 差上申御請證文之事	文政十二年 丑 九月	一冊	御預所十力村・ 飯田御役所	定免切替の請書、荒所が持ち高の十分 の一を超えた田減免	
1777	301	御用遠廻村止宿諸入用帳	文政十二年 丑 十月五日	一冊	大河原名主所	タタ里表からつこうで五千人講につい て、廻料した人々の宿宿入用費	
1778	302	当子年御生貢初納二納割付取立帳	文政十二年 丑 十月十一月	一冊	名主所	文政十二年分の年貢割り付け取り立 て帳	
1779	303	覚	文政十二年 丑 十一月十六日	五通	湯浅健治・ 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取り覚え、二 納金、口米代金などの納入期限通知	
1780	304	(1)差出申書付之事 (2)差出申一礼之事	文政十二年 子 十二月二十二日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主細頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたり差し出す一礼	
1781	305	本新田畑小前高辻帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主所	大河原村小前高辻帳	

1782	306	当丑年国役高掛金差引帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の国役金会計帳	
1783	307	当丑年薪代四分一家別割渡帳	文政十二年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の薪代のうち四分の一は家別に分配する	
1784	308	当丑年薪代四分三高当郷中割渡帳	文政十二年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の薪代のうち四分の三は高当たりで分配する	
1785	309	当丑年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文政十二年分の村入用費取立帳	
1786	310	貯穀小前割付御預帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村	貯穀として大麥を高当たりで割り当て集めて預かる	
1787	311	市岡様御頼金四分一家別取立帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主所	市岡様に用立て金の四分の一は家別に分担	
1788	312	市岡様御頼金四分三高当郷中割掛取立帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主所	市岡様に用立て金の四分の三は高当たりで分担割り当てる	
1789	313	当丑年村入用家別取立帳	文政十二年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の村入用費の家別取りたく帳	
1790	文政 314	当丑年国役金高掛割付取立納帳	文政十二年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の国役金取り立て帳	
1791	315	当丑年夫錢取立市岡様御頼金貯穀代取立薪代割渡差引帳	文政十二年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の夫錢その他諸経費などの差引計算帳	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
1792	天保 1	当富年御用村用記録	天保元年(文政十三 年)寅 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	天保元年一月から十二月までの御用 村用万日記	
1793	2	一札之事	天保元年(文政十三 年)寅 一月	一通	名主前嶋八郎九郎・ 村々宿々衆中	当村符次右衛門が伊勢参宮する、関 所、船渡しなど、往来一札	
1794	3	文政十三年 (5)五人組書上帳 (7)御樽木山證文 差上申證文之事	天保元年(文政十三 年)寅 三月	二冊	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	門屋被官五人組帳と御樽木山證文一 通 門屋被官分差上申證文之事の下書 き	
1795	4	塩泉院大般若経勸化帳	天保元年(文政十三 年)寅 三月	二通		大河原村各耕地の主な人々による塩泉 院の寄進の覚え、一通は下書き	
1796	5	(1)添往来之事 (2)書付(三通)	天保元年(文政十三 年)寅 五月九日	四通	又兵衛地、小山田村 から大河原村迄	七郎右衛門が伊勢、金毘羅、西国廻り で病氣、世話にちた人々の名前	
1797	6	丑年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保元年(文政十三 年)寅 六月	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の嶋川原新田年貢取り 立て帳	
1798	7	(丑年本年貢帳並)丑年御年貢御樽木 成勘定取立皆済納帳	天保元年(文政十三 年)寅 六月	一冊	大河原村名主所	文政十二年分の年貢勘定取り立て帳	
1799	8	丑年御口米小箭取立皆済帳	天保元年(文政十三 年)寅 六月	一冊	大河原村名主所	文政十二年分の口米代取り立て帳	
1800	9	一札之事	天保元年(文政十三 年)寅 十一月	一通	名主前嶋八郎九郎・ 村々宿々衆中	当村周助四十三歳、みき三十三歳、金 毘羅大権現と西国巡礼、往来一札	
1801	10	書簡	天保元年 寅 十二月十日	一通	大嶋彦兵衛、宮下松 三郎・前嶋八郎九郎	川又橋小除、下の橋の件はお断りした い	
1802	11	丑年本御年貢嶋川原新田御年貢差引 帳	天保元年(文政十三 年)寅 十二月	一冊	大河原村名主所	文政十二年分の本年貢と嶋川原新田 年貢の差引計算帳	

1803	天保 12	五年御口米代取立差引帳	天保元年(文政十三 年)寅十二月	一冊	大河原村名主会所	文政十二年分の口米代金取り立て計 算帳	
1804	13	当卯年御用村用記録	天保二年 卯 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弔	天保二年一月から八月までの御用村 用方日記	
1805	14	覚	天保二年 卯 二月十六日	二通	大河原村八郎九郎 白沢直六	酒造米と酒高、桶数についての覚え、鹿 塩村彦兵衛出遣分	
1806	15	作忍以書付奉願上候	天保二年 卯 二月	一通	鹿塩村彦兵衛、 飯田御役所	大河原村八郎九郎方へ酒を出遣した	
1807	16	作忍以書付奉願上候	天保二年 卯	一通	大河原村八郎九郎、 飯田御役所	鹿塩村彦兵衛より一石二斗を使って酒 つくりをした	
1808	17	作忍以書付奉願上候	天保二年 卯 二月	一通	大河原村初右衛門、 飯田御役所	産神山神森にある榎を一本、風折れ木 にちた神社再建のため売りたい	
1809	18	天保二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋継官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	天保二年 卯 三月 一月吉日	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人四十六人男二十四人、女二十二 人、減人四十人男二十人、女二十 一人 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百三十五人(男七百十八人、 女六百十七人) 馬数三十五匹	
1810	19	書簡	天保二年 卯 三月、六月	四通	井上金四郎、 名主八郎九郎	廻村予定の知らせ、黒部一件、七左衛 門が世話になつた件、十月の廻村の件	
1811	20	為宗門御改井上金四郎様御出役中入 用帳	天保二年 卯 四月二日	一冊	大河原村名主会所	四月二日から五日まで、宗門改めに出 役の井上様在中の入用帳	
1812	21	為取替申一札之事	天保二年 卯 六月	二通	松五郎ほか 大河原村名主	大河原村売り出す産物、下里より買い 上げる米など荷継ぎについて協約	
1813	22	覚	天保二年 卯 六、九、十月	三通	鹿塩村名主他、 大河原村名主中	御用書付、年貢初納触書などの受け取 り	
1814	23	柄山荷継一件諸印帳	天保二年 卯 七月	一冊	利右衛門後家他多 数、名主組頭衆中	六月に取り交わした大河原村と柄山 間の荷継ぎについての協約諸印帳	
1815	24	覚	(天保二年) 卯 八月	一通	大河原村他、 飯田御役所	天保元年中の出役井持米と佐久間船 頭に下された米を受け取った	

1816	天保 25	式番当年御用村用記録	天保二年 卯 八月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	天保二年八月から十二月までの御用 村用方日記	
1817	26	(1)久々里殿様御巡村二付諸入用 勘定帳 (2)久々里殿様御順村二付借り物 損料帳	天保二年 卯 十月廿四日	二冊	大河原村名主会所	久々里の殿様順村宿泊のときに必要た づな諸雜費と夜具、ふすまなど借り物の 損料覚え	
1818	27	殿様御巡村付利々江被仰渡御請書	天保二年 卯 十月	二冊	大河原村名主他、十 村平左衛門御役人	殿様巡村の際に仰せ付けの公儀法度 や作法を守る事の請け書、写し	
1819	28	乍恐以書付奉願上候御事	天保二年 卯 十月	一通	大河原村、鹿塩村、村 役人、飯田御役所	殿様代替りて順村することは承知た が馬や籠は險阻な邊ゆゑの断りた	
1820	29	覚	天保二年 卯 十一月八日	四通	湯浅鐵治、 大河原村	国役金、納入用金の受け取り覚えと納 入期限通知	
1821	30	当卯年御年貢初納二納割付取立帳	天保二年 卯 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	天保二年分の年貢割り付け取り立て 帳	
1822	31	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保二年 卯 十二月十八日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたる差し出す一札	
1823	32	高野山松之坊勸化寄付帳	天保二年 卯 十二月	一冊	大河原村	文蔵と湯平地区の高野山への寄付	
1824	33	当卯年国役金高掛割付取立納帳	天保二年 卯 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の国役金取り立て帳	虫食い
1825	34	当卯年柄山荷継北條影連并諸入用帳	天保二年 卯 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	黒部板伐出しと柄山一件などの入用帳	
1826	35	当卯年国役金夫錢貯穀代取立差引帳	天保二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の国役金などの他の取り立て 会計帳	
1827	36	貯穀小前割付御預帳	天保二年 卯 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての大麦を割り当て集めて預 かる	虫食いひと い
1828	37	当卯年村入用家別取立帳	天保二年 卯 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の村入用費の家別取り立て 帳	虫食い
1829	38	当卯年村入用郷中割付取立小前割掛 皆清帳	天保二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保二年分の村入用費取り立て帳	
1830	39	当卯年薪代運上調帳	天保二年 卯 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の薪代を運上するについて 調書	虫食い

1831	天保 40	覚(二通) 書簡(二通)	天保二年 卯	四通	大草村他: 八郎九郎	金子と書付受け取り覚など	
1832	41	(1)当辰年御用村用記録 (2)式番丑辰年御用村用記録	天保三年 辰 一月吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弼	天保三年一月から十二月までの御用 村用万日記	
1833	42	送一札之事	天保三年 辰 一月	一通	名主前嶋八郎九郎: 飯田城下年寄、庄屋	当村徳十伴(茶次)半三郎二十四才、 飯田城下半四郎の養子になる、宗門人 別送る	
1834	43	作恐以書付奉願上候	天保三年 辰 二月	一通	大河原村他ハカ村: 飯田御役所	安永新田定免切替になり、増米すべき との仰せたがこれほど同様に願う	
1835	44	送一札之事	天保三年 辰 二月	一通	供野村庄屋: 大河原村庄屋衆中	よしの二十三才、大河原村庄九郎の侍 民蔵の妻になく、宗門人別送る	
1836	45	天保三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	天保三年 辰 三月 天保三年 辰 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人四十九人(男二十四人、女二十五 人)、減人五十三人(男二十三人、女三 十人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十五軒 人数千三百三十一人(男七百十九人、 女六百十二人) 馬数三十五匹	
1837	46	差出申書付之事	天保三年 辰 三月	一通	九郎左衛門他多数: 御役人衆中	上蔵新田を開きたい、御役所に願ひ出 てほしい	
1838	47	作恐以書付奉願上候御事	天保三年 辰 四月	一通	名主八郎九郎他: 飯田御役所	唐檜、白檜、唐松、黒部、榎を百姓入 会山から板割りで出したい、	
1839	48	覚	天保三年 辰 五、六、十月	三通	加々須村名主他: 大河原村名主中	御用書付の受け取り、中屋文蔵人足の 件	
1840	49	切替焼畑之内年々作付相成候分改野 帳	天保三年 辰 六月二十三日	一冊	大河原村惣役人	切替焼畑のうち毎年耕作している分の 調書	
1841	50	作恐以書付奉願上候	天保三年 辰 六月	一通	大河原村名主他: 飯田御役所	焼畑の内、年々作付けをしている所で も悪地で、毎年の意改むに上ほしい、	
1842	51	小嶋市右衛門様井渡辺定五郎様御廻 村御泊諸賄帳	天保三年 辰 七月十三日	一冊	百姓代伊左衛門	小嶋、渡辺両役人が廻村宿泊した際の 諸入用賄帳	

1843	天保 52	卯年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	天保三年 辰 七月吉日	一冊	大河原村名主所	天保二年分の年貢取り立て帳	
1844	53	卯年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保三年 辰 七月	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の嶋川原新田の年貢取り立て帳	
1845	54	卯年御口米代小前取立皆済帳	天保三年 辰 七月	一冊	大河原村名主所	天保二年分の口米代の取り立て帳	
1846	55	(書付亨し一通)	天保三年 辰 八月十日	二通	飯田御役所・ 小川村他十力村	国役金の掛け率の通知と駿州草薙明神社大塚につき再建勧化の巡行御免	
1847	56	覚	天保三年 辰 九月 三日から十一日	五通	様々・ 前嶋八郎九郎	九月三日から十四日使いの者飯田役所の際の諸用支払い受け取り	
1848	57	乍恐以書付奉願上候	天保三年 辰 九月	一通	名主八郎九郎ほか・ 飯田御役所	百姓入会山から小白木伐出を許可されたが、値下がりにより来年末まで延期	
1849	58	(御触書之写し)	天保三年 辰 十月二十五日	一冊	飯田御役所・ 十一力村名主	綿羊を望みの者あれば申し出よ	
1850	59	差上申御請證文之事	天保三年 辰 十月	一冊	大河原村他九力村 名主・飯田御役所	天保三年から五力年の新田定免の請証文	
1851	60	覚	天保三年 辰 十一月六日、十六日	三通	市岡寛藏・ 大河原村名主	天保三年分国役金、入用金の受け取り、年貢などの納入期限の通知	
1852	61	当辰年御年貢初納二納割付取立帳	天保三年 辰 十一月十一月	一冊	大河原村名主所	天保三年分の年貢割り付け取り立て帳	
1853	62	(1)御尊三付乍恐以上書奉申上候 (2)書簡	天保三年 辰 十一月	二通	名主八郎九郎他二 名・飯田御役所	千村家の御樽木山利用諮問に対する回答と、材木伐出の際の裏面工作を記した無記名無印の煙草書簡の控	
1854	63	金子借用申證文之事	天保三年 辰 十一月	二通	大河原村香松寺ほか 林村伴右衛門	四十両の借用證文・担保田畑なら記入されている、一通は田畑反別	
1855	64	覚	(天保三年) 辰 十二月十一日	一通	大河原村名主会所・ 松本島々	小白木運上金の受け取り覚書(写)	天保三年の 袋入り
1856	65	(1)差出申書付之事(二通) (2)差出申し礼之事	天保三年 辰 十二月二十一日	三通 一包	惣百姓代・小代判・ 名主細頭衆中	来年惣百姓代・小代判を引き受けるにあたり差し出す一札	
1857	66	書簡	天保三年 辰 十二月二十四日	一通	大嶋彦兵衛他・ 前嶋八郎九郎他	井上横引越しについて頼いを村々で出す件	

1858	67	中遣一件諸入用調勘定帳	天保三年 辰 十二月	一冊	会所	中遣作りの一件で要した諸費用の覚え	
1859	68	当辰年国役高掛割付取立納帳	天保三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の国役金取り立て帳	
1860	69	当辰年新代四分一家別割渡帳	天保三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	天保三年分の新代のうち四分の一は家別に分配する	
1861	70	当辰年薪代四分三高当郷中割渡帳	天保三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の新代のうち四分の三は高当りで分配する	
1862	71	当辰年国役高掛金差引帳	天保三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の国役金会計帳	
1863	72	当辰年夫錢取立貯穀取立新代割渡差引帳	天保三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の夫錢など諸費差引計算帳	
1864	73	当辰年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	天保三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保三年分の村入用費取り立て帳	
1865	74	当辰年村入用家別取立帳	天保三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の村入用費の家別取り立て帳	
1866	75	貯穀小前割付御預帳	天保三年 辰 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての大麦を割り当て集めて預かる	
1867	76	去卯年嶋川原新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	天保三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保二年分の嶋川原新田年貢、本年貢、口米代の取り立て会計帳	虫食い
1868	77	口上覚	天保三年 辰	一通	信州善光寺如来尊 念仏講中	当山如来尊では諸勸化は止めている、勸化がまじき事を取り合わせよう	
1869	78	元善光寺如来永代常念仏化縁簿	天保三年 辰	一冊	坐光寺世話人長作	坐光寺元善光寺よりの永代念仏料などの覚え	
1870	79	覚	天保三年 辰	一通		大豆や米などの量と相当代金が記されてくらきへの寄進の寺領生産高	
1871	80	覚、書簡	天保三年 辰	三十 六	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り、書簡	
1872	81	覚、書簡	天保二年 卯 天保三年 辰	五十 一	様々、 前嶋八郎九郎	要用書簡、覚、書付	
1873	82	(1)当巳年御用村用記録 (2)武蔵当巳年御用村用記録	天保四年 巳 一月吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弼	天保四年一月から十二月までの御用村用方日記	

1874	83	送一札之事	天保四年 巳 一月	一通	名主八郎九郎： 名古村名主佐兵衛	当村符久松改名堂三郎三十八才名 古村弥助の養子にむろ、宗門人別送る	
1875	84	乍恐以書付奉願上候御事(一通) 覺書付(二通)	天保四年 巳 一月	三通	八力村名主	井上權に不正なことは無いので飯田御 役所に留まら願、相談費分担覚え	
1876	85	乍恐口上書之覺	天保四年 巳 二月七日	一通	(八郎九郎)。 (市岡權)	久々里表の勝手向き不如意に付御用 金の仰せだが断りた、書簡權口上書	
1877	86	差上申御請書之事	天保四年 巳 二月	一冊	十力村名主ほか。 飯田御役所	定免切替が行われるについて吟味を受 ける請書	
1878	87	差出申一札之事	天保四年 巳 三月二日	一通	奈川村仙頭惣代。 大河原村名主中	去年中に木取りした權が山中に残って いるので早々に入山したい	
1879	88	八郎九郎名古屋留守中御用村用記録 帳	天保四年 巳 三月吉日	一冊	六郎左衛門	八郎九郎が留守中、三月二十四日か ら四月十一日までの日記	
1880	89	天保四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	天保四年 巳 三月 天保四年 巳 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村： 飯田御役所	増人六十八人(男二十九人、女三十九 人)、減人六十三人(男三十三人、女三十 一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百五十五軒 人數三百三十六人(男七百十五人、 女六百二十一人) 馬數三十五匹	
1881	90	乍恐以書付奉願上候御事	天保四年 巳 六月	一通	大河原村名主。 飯田御役所	近年打ち続く不作に付困窮しているの で、唐櫓はじめ諸木切り出した	
1882	91	辰年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	天保四年 巳 八月	一冊	大河原村名主所	天保三年分の年貢取り立て帳	
1883	92	辰年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保四年 巳 八月	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の嶋川原新田の年貢取り 立て帳	
1884	93	辰年御口米代小前取立皆済帳	天保四年 巳 八月	一冊	大河原村名主所	天保三年分の口米代の取り立て帳	
1885	94	山為御見分市岡寛藏權渡辺定五郎様 御出役御逗留中入用諸帳	天保四年 巳 九月七日	一冊	大河原村名主所	市岡、渡辺両役人他四名が小白木伐 出に、山見分の際の入用費諸帳	
1886	95	差出申證文之事	天保四年 巳 九月二十日	一通	浪右衛門ほか。 御名主中	焼畑休み地を専六方へ譲るとについて 書付證文	

1887	96	当巳年御年貢初納二納割付取立帳	天保四年巳 十月十一月	一冊	大河原村名主所	天保四年分の年貢割り付け取り立て帳	
1888	天保 97	(1)御書 (2)一札	天保四年巳 十月	二通	川根村お満寺・ 大草村常和泉寺	大河原村香松寺を当寺代にする件	
1889	98	(1)一札 (2)御請證一札	天保四年巳 十月	二通	榛原郡川根お満寺・ 香松寺	香松寺門役の件	
1890	99	寛 書簡	天保四年巳 十月、十一月	三通	湯浅健治・ 大河原村名主	天保四年分の国役金、納入用金の受け取りと二納金などの納入期限通知	
1891	100		天保四年巳 十一月二十二日	一通	定五郎・ 前嶋八郎九郎	米の売り買い仕切りの知らせタシボ と紫花のつる草絵入書簡紙が珍し	
1892	101	指上申御請證文之事	天保四年巳 十一月	一冊	御預所十力村・ 飯田御役所	定免切替の請書、大河原村は五年季で 荒所が十分の一になたら減免	
1893	102	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保四年巳 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたら差し出す一札	
1894	103	去辰年嶋川原新田御年貢本御年貢御 口米代取立差引帳	天保四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保三年分の嶋川原新田年貢、本年 貢口米代の取り立て会計帳	
1895	104	当巳年薪代四分一家別割渡帳	天保四年巳 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	天保四年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1896	105	当巳年薪代四分三意当郷中割渡帳	天保四年巳 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の薪代のうち四分の三は高 当りで分配する	
1897	106	当巳年村入用家別取立帳	天保四年巳 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の村入用費の家別取り立て 帳	
1898	107	当巳年村入用郷中割付取立小前割掛 皆清帳	天保四年巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保四年分の村入用費取り立て帳	
1899	108	当巳年国役金高掛割付取立納帳	天保四年巳 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の国役金取り立て帳	
1900	109	当巳年国役金夫銭取立薪代割返し差 引帳	天保四年巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の国役金、夫銭の取り立て 薪代割返しの差引き帳	
1901	110	(小除下橋場所) 絵図	天保四年巳	絵図 一枚		桶谷、上蔵、釜沢あたりの橋のある場 所絵図	
1902	111	寛、書簡	天保四年巳	十七 通	様々・ 前嶋八郎九郎	諸々受け取り寛之書簡	

1903	112	寛、書簡	天保四年 巳	十四通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り寛、書簡(多色刷り母 子授乳の図絵のある京都お草子袋を利 用した整理袋)	
1904	天保 113	寛、書簡	天保四年 巳	五十七通	様々、 前嶋八郎九郎	ほとんど八郎九郎宛ての書簡、稼束に かわるごとく米不作米買い入れのこ とを日常書簡、諸々受け取り寛え	
1905	114	書簡	天保三年 辰 天保四年 巳	四十 九通	様々、 前嶋八郎九郎	天保三、四年主に八郎九郎宛への要用 書簡	
1906	115	当午年御用村用記録	天保五年 午 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	天保五年一月から十二月までの御用 村用方日記	
1907	116	乍恐以書付奉願上候御事	天保五年 午 二月	一通	十一カ村、 飯田御役所	天保四年の稀なる凶作につき暗敷を下 さるよう願う	
1908	117	天保五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榎木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	天保五年 午 三月 天保五年 午 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人三十一人(男十八人、女十三人)、 減人二十九人(男十三人、女十六人) 威し鉄砲十九挺 獵師鉄砲十二挺 家数二百五十五軒 人数三百三十八人(男七百二十人、 女六百十八人) 馬数三十五匹	
1909	118	(1)差上申一札之事 (2)以書付奉願候 (3)乍恐以書付奉願上候	天保五年 午 四月(二十一日)	三通 二包	新蔵ほか、八郎九 郎・八郎九郎、飯田 御役所	新蔵併乙蔵、近年不埒につき勘当	
1910	119	村々申渡大意	(天保五年)午 五月	一冊		享保以来殿様廻村は無いが、今度名代 が廻村する、申し渡しの主旨数々	天保五年 袋入り文 書
1911	120	殿様為御名代神公俊助様頼頼助様 御巡村三付入用帳	天保五年 午 六月朔日	一冊	大河原村名主会所	殿様名代として神公、頼頼両役人來村 の際の入用費の寛え	
1912	121	(手配人相書)	(天保五年)午 六月	一冊	飯田御役所、 十一カ村	遠州与四郎が親を傷つけ死に至らしめ た、与四郎の人相を配書さ	
1913	122	(廻状)	天保五年 午 六月	一冊	飯田御役所、 十一カ村	近年遭作にき果穀払底なので遭害石 高を減らすと	

1914	123	指上申請證文之事	天保五年 午 六月	一冊	十一カ村： 飯田御役所	貯穀の押違願いかなでの請證文、天 保四年の凶作に付	
1915	124	寛	(天保五年 午 六月	一通	大河原村八郎九郎、 飯田御役所	天保四年中の御出役持米を受け取 た	天保五年の 袋入り文 書
1916	天保 125	島川原新田譲引反別訳帳	天保五年 午 八月	一冊	大河原村名主所	島川原新田の荒賣の調書	虫食い
1917	126	本新田畑井焼畑高沢渡口寛帳	天保五年 午 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の高の寛え、渡し口	
1918	127	本新田畑井焼畑高沢請取口寛帳	天保五年 午 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の高の寛え、請取り口	
1919	128	巳年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	天保五年 午 八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保四年分の年貢取り立て帳	
1920	129	巳年御口米代小前取立皆済帳	天保五年 午 八月	一冊	大河原村名主所	天保四年分の口米代の取り立て帳	
1921	130	巳年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保五年 午 八月	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の嶋川原新田の年貢取り 立て帳	
1922	131	嶋川原新田譲引反別訳帳	天保五年 午 八月	一冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の内、譲り渡した分の面 積など寛	
1923	132	当年生御年貢初納二納割付取立帳	天保五年 午 十月吉日	一冊	大河原村名主所	天保五年分の年貢割り付け取り立て 帳	
1924	133	寛	天保五年 午 十一月二十日	二通	市岡寛藏、 大河原村名主	国役金、納入用金受け取り	
1925	134	乍恐以書付奉願上候	天保五年 午 十一月	一通	名主八郎九郎、 飯田御役所	中尾耕地茶屋堂にある杉一本が大風 で倒れた板にして割り渡したい	
1926	135	乍恐以書付奉願上候	天保五年 午 十一月	一通	大河原村名主他村 役人・飯田御役所	久々里御用金は天保四年の凶作によ り困窮しているからお断りしたい	
1927	136	(一)差出申書付之事 (二)差出申上礼之事	天保五年 午 十二月十八日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主細頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたって差し出す一札	
1928	137	去巳年新田御年貢本御年貢御口米代 取立差付帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保四年分の嶋川原新田年貢、本年 貢、口米代の取り立て会計帳	

1929	138	当午年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保五年分の村入用費取立帳	
1930	139	当午年村入用家別取立帳	天保五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保五年分の村入用費の家別取り立て 帳	
1931	140	当午年国役金高掛割付取立納帳	天保五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保五年分の国役金取り立て帳	虫食い
1932	天保 141	貯穀小前割付御預帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての小麦を割り当てる集めて預 かる	
1933	142	当午年薪代四分一家別割渡帳	天保五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	天保五年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1934	143	当午年薪代四分三高当郷中割渡帳	天保五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保五年分の薪代のうち四分の三は高 当りで分配する	虫食い
1935	144	当午年国役金夫銭取立御年貢疋零新 代割返差引帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保五年分の国役金、夫銭の取り立て 年貢、薪代割返し、差引き帳	
1936	145	高取入用割付取立帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	高取入用金と諸費の取り立て帳	
1937	146	御年貢疋零割渡帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	文政十年から天保三年までの年貢の返 金を割り渡す	
1938	147	御年貢疋零改帳	天保五年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	天保四年から弘化四年分までの年貢 返金分の割り渡し、嘉永四年割返し	
1939	148	覚、書簡	天保五年 午	十八 通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り覚、書簡	
1940	149	覚、書簡	天保五年 午	三十 三通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り覚、書簡	
1941	150	当未年御用村用記録	天保六年 未 一月吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弔	天保六年一月から十二月までの御用 村用方日記	
1942	151	年忍以書付奉願上候	天保六年 未 一月	一通	名主八郎九郎、 飯田御役所	酒造り米百石にしたいので許可願いた い、冥加金も下知通り上納する	

1943	152	天保六年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 券上申證文之事 (8)家人馬數御改帳	天保六年 未 三月 天保六年 未 一月吉日	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十人(男二十人、女三十人)、減 人三十八人(男十五人、女二十三人) 威し鉄砲十九挺 獵師鉄砲十二挺 家数二百五十五軒 人数千三百五十人(男七百二十五人、 女六百二十五人) 馬数三十五匹	
1944	153	指上申御請證文之事	天保六年 未 四月	一通	名主八郎九郎・ 飯田御役所	酒造株持借ありがたひ、百石を運送す るが株金十両納入した	
1945	天保 154	乍恐以書付奉願上候	天保六年 未 五月	一通	名主八郎九郎 他・ 飯田御役所	近年の不作で困窮している、小白木を 上神林村庄三郎に売るので許可願う	
1946	155	貯穀小前割付御預帳	天保六年 未 六月	一冊	大河原村名主会所	貯穀としての大麦を割り当て集めて預 かる	
1947	156	寛	(天保六年)未 七月二十日	二通	京都西八条御社役 人御役人衆中	勸化寄付金の受け取り書	
1948	157	印鑑帳	天保六年 未 八月吉日	一冊	前嶋政美	天保七年から嘉永二年までの畑などの 地代等記録帳	
1949	158	牛年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	天保六年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保五年分の年貢取り立て帳	虫食い
1950	159	牛年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保六年 未 八月	一冊	大河原村名主所	天保五年分の嶋川原新田の年貢取立 帳	
1951	160	牛年御口米代小前取立皆済帳	天保六年 未 八月	一冊	大河原村名主所	天保五年分の口米代の取り立て帳	
1952	161	曆を見て毎年の吉年凶年を知る法 占天氣	天保六年 未 九月に享す	一冊	前嶋正彌	曆法と天氣占を記述、唐書、田家、五 行など古老の俗説などを天氣占い	
1953	162	当未年御年貢初納二納割付取立帳	天保六年 未 十月吉日	一冊	大河原村名主所	天保六年分の年貢割り付け取り立て 帳	
1954	163	寛	天保六年 未 十月、十二月	二通	湯浅健治・ 大河原村名主	国役金、納入用金の受け取り	
1955	164	仙石家来着	天保六年 未 十二月九日	一通		但馬出石藩の御家騒動が奥書、家老仙 石左京以下関与者の処分書付享し	虫食いひと い

1956	165	(1)差出申書付之事 (2)差出申一礼之事	天保六年 未 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭系中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あだて差し出す一礼	
1957	166	当未年国役金高掛割付取立納帳	天保六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の国役金取り立て帳	
1958	167	去年年新田御年貢本御年貢御口米代 取立差引帳	天保六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保五年分の嶋川原新田年貢、本年 貢、口米代の取り立て会計帳	
1959	168	当未年国役金夫銭取立新代割返し差 引帳	天保六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の国役金、夫銭の取り立て 薪代割返し差引き帳	
1960	169	当未年薪代四分一家別割渡帳	天保六年 未 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の薪代のうち四分の一は家 別に分配する	
1961	天保 170	当未年薪代四分三高当郷中割渡帳	天保六年 未 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の薪代のうち四分の三は高 当りで分配する	
1962	171	当未年村入用家別取立帳	天保六年 未 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の村入用費の家別取り立て 帳	
1963	172	当未年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保六年 未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保六年分の村入用費取り立て帳	
1964	173	当申年御用村用記録	天保七年 申 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正勝	天保七年一月から十二月までの御用 村用方日記	
1965	174	天保七年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	天保七年 申 三月 天保七年 申 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十七人(男三十二人、女三十五 人)、減人七十一人(男三十四人、女三 十七人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数三百三十六人(男七百十三人、 女六百二十三人) 馬数三十五匹	
1966	175	覺(書付)	(天保七年)申 四月七日	二通	二保東村光明寺・ 大河原村御役人	渡辺様からも御内意の光明寺御免勸 化、寄進の受け取りと書付	
1967	176	乍恐以書付奉願上候	天保七年 申 四月	一通	大河原村名主他・ 飯田御役所	近年打ち続く不作で困窮、唐櫓と白 櫓で小白木をく会山から切り出した、	
1968	177	乍恐以書付奉願上候御事	(天保七年)申 四月	一通	(八郎九郎他)・ (飯田御役所)	連年の凶作で困窮している、唐櫓と白 櫓からの小白木松下げ願う	

1969	178	(1)覚 (2)掛札 (3)覚	(1)天保六年未十月 (2)天保七年申五月 (3)申七月	三通 一包通	飯田御役所・ 大河原村名主	天保六年分の年貢高、掛札の覚え、宛定	
1970	179	未年御年貢御勘定目録	天保七年申七月	一通	八郎九郎他村役人・ 飯田御役所	天保六年分の年貢勘定目録	
1971	180	未年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	天保七年申八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保六年分の年貢取り立て帳	
1972	181	未年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保七年申八月	一冊	大河原村名主所	天保六年分の嶋川原新田の年貢取り立て帳	
1973	天保 182	未年御口米代小前取立皆済帳	天保七年申八月	一冊	大河原村名主所	天保六年分の口米代の取り立て帳	
1974	183	差出申一札之事	天保七年申十月	一通	奈川村次右衛門他 二名・大河原村役人	入会山から唐櫓、白櫓の小白木以外の 木品を切つてしまつた詫言状	
1975	184	覚	天保七年申十一月十七日	三通	市岡寛藏・ 大河原村名主	国役金・納入用金の受け取りと、納入 期限などの通知覚え	
1976	185	香松寺借用調書	天保七年申十一月廿四日	二枚 一包	村役人と世話人立 ち合ひ	香松寺方々様借金の調査覚え	
1977	186	当申年御年貢初納二納割付取立帳	天保七年申十一月吉日	一冊	大河原村名主所	天保七年分の年貢割り付け取り立て 帳	
1978	187	書簡	(天保七年)申十一月、十二月	三通	前沢弥一右衛門・ 前嶋八郎九郎	金子用立てまゝについて	天保七年 袋入り文 書
1979	188	申渡	天保七年申十二月九日	一冊	南山治太夫他・ 飯田御役所	酒つくりは凶作なのすづて止めること になつた	
1980	189	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保七年申十二月二十三日	三通 一包通	惣百姓代・小代判・ 名主細頭衆中	来年惣百姓代・小代判を引き受けるに あつて差し出す一札	
1981	190	乍恐以書付奉願上候御事	天保七年申十二月	一通	十一力村村役人・十 村平右衛門御役所	当年は不作で、再度検見の上、年貢引 きを願う	
1982	191	乍恐以書付奉願上候御事	天保七年申十二月	一通	八郎九郎・ 飯田御役所	酒造は凶作につきすづて止めになつた が、秋には込んだ分を売りたい	
1983	192	当申年国役金高掛割付取立納帳	天保七年申十二月	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の国役金取り立て帳	

1984	193	去年年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	天保七年申十二月	一冊	大河原村名主会所	天保六年分の嶋川原新田年貢、本年貢、口米代の取り立ての会計帳	
1985	194	当申年国役金夫銭取立新代割返差引帳	天保七年申十二月	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の国役金、夫銭の取り立て新代割返の差引き帳	
1986	195	当申年村入用家別取立帳	天保七年申十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の村入用費の家別取り立て帳	
1987	196	当申年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	天保七年申十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	天保七年分の村入用費取り立て帳	
1988	天保197	当申年新代四分一家別割渡帳	天保七年申十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の新代のうち四分の一は家別に分配する	
1989	198	当申年新代四分三高当郷中割渡帳	天保七年申十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の新代のうち四分の三は高当りで分配する	
1990	199	覚	天保五年申から天保七年申	三十 二通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り覚え、書簡(保管整理袋は伊勢鯉熊々金丹の袋を利用)	
1991	200	覚	天保七年申	十八 一通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々受け取り覚え、(保管整理袋同封)	
1992	201	覚	天保七年申	三通	前嶋八郎九郎	年貢などの覚え	
1993	202	差出申一札之事	(天保七年申)	四枚		申已年より不作、野口村庄三郎が買い取るので材木を切り出した	
1994	203	当酉年御用村用記録	天保八年酉一月吉日	二冊	前嶋八郎九郎正弼	天保八年一月から十二月までの御用村用方日記	
1995	204	作恐以書付奉願上御事	天保八年酉二月	一通	小川村他十カ村村役人、飯田屋役所	天保七年の天候不順で不作困窮しているので、七百両借金した	
1996	205	飢人取調書上帳	天保八年酉二月	一冊	大河原村名主他村役人	家数二十三軒百一人の飢人の名前	

1997	206	天保八年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榎木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	天保八年 西 三月 天保八年 西 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十八人(男二十八人、女二十人)、減人四十五人(男十九人、女二十六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千三百三十九人(男七百二十二人、女六百十七人) 馬数三十五匹	
1998	207	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事 (3)書簡 (4)書付(三枚)	(1)天保八年 西 四月十六日 (3)四月四日	三通 と 書付 三枚	大河原村、部奈村・ 阿嶋山田平右衛門	六郎左衛門被官兵之丞の不埒一件、 部奈村からの一報と内分で済ますための一札など	
1999	208	乍恐以書付奉願上候	天保八年 西 四月二十日	一通	大河原村徳之丞他・ 飯田御役所	徳之丞二男十八歳男子を不行跡につき 勘当した	
2000	天保 209	久々里御表より村内飢人共江御救金 請書	天保八年 西 四月二十八日	一冊	三四郎他・ 御役人中	二両二分二朱の金子を飢人のお救いの ため下された請書	
2001	210	大阪騒動記并落文宇	天保八年 西 四月	一冊	大河原村山中楼	大塩平八郎の乱(五月)の際の落文および 乱の模様、大阪大火消火範囲	
2002	211	天保七年申免定并掛札 (1)申免定之事 (2)掛札 (3)覚	(1)天保七年申十 月(2)天保八年西 五月(3)一	三通 一包	飯田御役所・ 大河原村	大河原村の天保七年分の年貢高掛札 と覚書	
2003	212	乍恐以書付御届奉申上候	天保八年 西 六月	一通	大河原村名主和五 郎他・岸本十輔役所	江戸表からの鷹御用があったが、果鷹が 見つからないので断る	
2004	213	(開作植付夫食拝借金御請証文) 差上申御請証文之事	天保八年 西 六月	一冊	御預所十一力村・ 飯田御役所	天保七年の凶作により夫食拝借金を 受け、受け取る証文	
2005	214	(1)貯穀拝借願人貸付帳 (2)開作植付夫食拝借雑用取立帳 (3)開作植付夫食拝借金割付帳 (4)拝借金割付差引帳	天保八年 西 (1)一月 (2)六月 (3)六月 (4)七月一日	四冊 一袋	大河原村名主所	天保四年以来の凶作続きで難渋した。 天明八年以来の貯穀を拝借した。	

2006	215	口濱	天保八年 西 七月四日	一通	大河原村香松寺、同 村名主・宿々役人中	小児一人が尋ね人へ来村したが該当 者がいないので送り返す	
2007	216	覚(書付)	天保八年 西	五通		金子受け取りなど	天保八年 書袋入り文
2008	217	申年御年貢御勘定目録 覚	天保八年 西 八月	二通	大河原村名主他・ 飯田御役所	天保七年分の年貢勘定目録と返納金の 覚え	
2009	218	融通金調書上帳	天保八年 西 八月	一冊	大河原村名主他・ 飯田御役所	名主の八郎九郎郎が金や穀物などを 融通した額などの書上げ帳	
2010	219	差上申一札之事	天保八年 西 九月	一通	惣百姓代所右衛門 他・名主組頭衆中	天保七年分の畑方年貢を凶作に付き 減額することについて請書	
2011	220	申年御口米代小前取立皆済帳	天保八年 西 九月	一冊	大河原村名主所	天保七年分の口米代の取り立て帳	
2012	221	申年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保八年 西 九月	一冊	大河原村名主所	天保七年分の嶋川原新田の年貢取り 立て帳	
2013	天保 222	(1)申年御年貢御樽木成勘定取立皆 済納帳 (2)覚	天保八年 西 九月吉日	二冊	大河原村名主所	天保七年分の年貢取り立て帳とろき高 などの覚え	
2014	223	差上申一札之事	天保八年 西 十月	一通	名主八郎九郎・ 飯田御役所	酒造の減米を三分の二減らして三分の 一を今年の酒づくりに使う	
2015	224	覚	天保八年 西 十月、十一月十六日	二通	湯淺徳治・ 大河原村名主	国役金の受け取り、納入金の受け取り	
2016	225	指上申御請証文之事	天保八年 西 十一月	一冊	御預所九方村・ 飯田御役所	安永九年の新田への定免の切り替えを 請ける証文	
2017	226	当酉年御年貢初納二納割付取立帳	天保八年 西 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	天保八年分の年貢割り付け取り立て 帳	
2018	227	差上申御証文之事	天保八年 西 十一月吉日	一通	小野村佐五左衛門・ 他・飯田御役所	文政十年から天保八年まで十年分の 質屋の景加永を増額し以後十年上納	
2019	228	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保八年 西 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代他・ 名主組頭衆中	来年戌年に惣百姓代、小代割を引き 受けるにあたって一札いれる	
2020	229	差出申候一札之事	(天保八年 西) 十二月九日	一通	香松寺納所・ 御会所	天保七年分の年貢を先納し受け取りに 際し差し出した書付	天保八年 書袋入り

2021	230	当酉年国役金高掛割付取立納帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保八年分の国役金取り立て帳	
2022	231	貯穀小前貸付四ヶ年賦当酉年一つ返納取立帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主所	当年春の播種のうち貯穀代返納した、四ヶ年賦のうち一年分の取り立て帳	虫食い
2023	232	当酉年村入用家別取立帳	天保八年 酉 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保八年分の村入用費の家別取り立て帳	
2024	233	当酉年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保八年分の村入用費の高当り割付取り立て帳	
2025	234	当酉年国役高掛り金貯穀貸付積戻当失銭取立差引帳	天保八年 酉 十二月十五日	一冊	大河原村名主会所	天保八年分の高掛金、貯穀代失銭などの差引き取り立て帳	虫食い
2026	235	本新田畑小前高辻帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑の高辻帳、天保十年分が未で記入されている	
2027	236	去申年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保七年分の新田年貢、本年貢、口米代の取立金計帳	
2028	237	当酉年新代取調覚帳	天保八年 酉 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保八年分の新代調べ	虫食い
2029	天保 238	覚	天保八年 酉	一通	大河原村名主八郎 九郎・飯田御役所	天保七年の凶作について、二酉二分二朱のお救い金の受け取り覚え	
2030	239	覚	天保八年 酉	十七 通	大河原村名主八郎 九郎	米、金子、祈禱料など諸々受け取り覚え	
2031	240	当戌年御用村用記録	天保九年 戌 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弔	天保九年一月から十二月までの御用村用万日記	
2032	241	(一)以書付奉願候 (二)乍恐以書付奉願候	天保九年 戌 一月	二通	六郎左衛門・ 飯田御役所	六郎左衛門被官源四郎の伴基助二十三才を不行跡につき勘当したい	
2033	242	乍恐以書付奉願上候	天保九年 戌 二月	一通	大河原村名主他村 役人・飯田御役所	久々里表の勝手方不如意で御用金を仰せ付けられたが、御免願いたい	

2034	243	天保九年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	天保九年 戌 三月 天保九年 戌 一月吉日	七 一袋冊	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人三十五人(男十三人、女二十二 人)、減人八十一人(男四十七人、女三 十四人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十五軒 人数千二百九十三人(男六百八十八 人、女六百五十二人) 馬数三十五匹	
2035	244	乍恐以書付奉願上候	天保九年 戌 三月	一通	八郎九郎、安三郎、 飯田御役所	八幡宮林木であったケヤキから材木一 本と板二枚を売る許可の願	
2036	245	開作夫食拝借金年賦御返納取立帳	天保九年 戌 四月一日	一冊	大河原村名主所	夫食拝借金の年賦返納取り立て帳	
2037	246	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立 差引帳	天保九年 戌 四月一日	一冊	大河原村名主所	夫食拝借金の年賦返納取り立て帳	
2038	247	往来手形之事	天保九年 戌 四月	二通	遠州二村の名主、組 頭、関所村々役人中	村民が信州善光寺参りのため通行する のぐよあしくの書付控え	
2039	248	(1)乍恐以書付奉願上候 (2)以書付奉願候	天保九年 戌 四月	二通 一包	大河原村名主八郎 九郎、飯田御役所	佐右衛門を不行跡のつき勘当する願。 一通は名主八郎九郎への願	
2040	249	書簡	(天保九年) 戌 六月二十九日	一通	金洗村名主専兵衛、 八郎九郎	当村村役、大河原村舟藏方へお世話に なすお礼状	天保九年 袋入り
2041	天保 250	天保八酉年定免并掛札 (1)覚 (2)掛札 (3)覚	(1)天保八年 酉 十月 (2)天保九年 戌 五月 (3)一	三通 一包	飯田御役所、 大河原村	天保九年に納める年貢、定免、掛札、 割掛の覚え	
2042	251	書簡	(天保九年) 戌 八月二十六日	二通	天祐寺寺僧・ 八郎九郎、香松寺	天祐寺僧が大河原村へ立ち寄るにつき 諸事願い	天保九年 袋入り
2043	252	(1)酉年御年貢御勘定目録 (2)覚	天保九年 戌 八月	二通 一包	大河原村名主他、 飯田御役所	天保八年分の年貢樽木代金、小物成の 勘定目録、口米代不足金納入覚	
2044	253	酉年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保九年 戌 八月	一冊	大河原村名主所	天保八年分の嶋川原新田の年貢取り 立て帳	
2045	254	酉年御口米代小前取立皆済帳	天保九年 戌 八月	一冊	大河原村名主所	天保八年分の口米代の取り立て帳	

2046	255	酉年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	天保九年 戌 八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保八年分の年貢取り立て帳	
2047	256	寛	天保九年 戌 九月三日	一通	天祐寺雷震、 香松寺知事	路貫一両と切手一通の受け取り覚書	
2048	257	香松寺什物改帳写	天保九年 戌 九月	一冊	会所	香松寺にある什器、仏壇、仏具などの 書上げ、過去は二度調査している	
2049	258	(1)戌年免定之事 (2)寛	天保九年 戌 十月	二通 一包	市岡勘藏、湯浅儀兵衛、大河原村名主	天保九年戌年免定と上下田の反当り 掛割、口米傳啟の覚え	
2050	259	乍恐以書付奉願上候御事	天保九年 戌 十月	一通	大河原村名主他、 飯田御役所	薪山から風倒木にちた樺二本と五葉 松を社修復のため部奈村で使う願	
2051	260	当戌年御年貢初納二納割付取立帳	天保九年 戌 十月吉日	一冊	大河原村名主所	天保九年分の年貢割り付け取り立て 帳	
2052	261	寛	天保九年 戌 十一月十六日	二通	市岡寛藏、 大河原村名主	当年分の国役金、納入用金を受け取 った	
2053	262	差上申御請證文之事	天保九年 戌 十一月十八日	一冊	溝内路、鹿塩、大河 原村	今度の定免切替の請證文	
2054	263	乍恐以書付奉願上候	天保九年 戌 十一月	一通	大河原村八郎九郎、 飯田御役所	入相山にある三ツツニ一本を飯田上原 屋がほしいので伐出を願う	
2055	264	去酉年御年貢勘定当戌夫錢勘定中入 用百姓代納帳写	天保九年 戌 十一、十二月	一冊	大河原村会所	天保八年の年貢、九年分の入用費など 百姓代の賸り分	
2056	265	天保 当戌年国役高掛り金貯穀貸付積戻当 夫錢取立差引帳	天保九年 戌 十二月十五日	一冊	大河原村名主会所	天保九年の国役金、貯穀貸付金、夫錢 の取り立て計算帳	
2057	266	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保九年 戌 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代小代判、 名主組頭衆中	来年亥年に惣百姓代、小代判を仕する にあたり差し出された書付	
2058	267	酉年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	天保九年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保八年分の新田年貢、本年貢、口米 代の取立会計帳	
2059	268	当戌年村入用家別取立帳	天保九年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	天保九年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2060	269	当戌年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保九年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保九年分の村入用費の高当り割付 取り立て帳	
2061	270	当戌年薪代取調覚帳	天保九年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保九年分の薪代調へ	

2062	271	当成年国役金高掛割付取立納帳	天保九年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保九年分の国役金取り立て帳	
2063	272	貯穀小前貸付四分年賦当戌二年目返 納取立帳	天保九年 戌 十二月	一冊	大河原村名主所	貯穀貸付返納金四年賦のうち二年目 の返納取り立て帳	
2064	273	書簡、覚	天保四己、五十年 天保八酉、九戌年	八拾 八通	様々、 前嶋八郎九郎	日常諸書簡、諸々受け取り覚え	
2065	274	当亥年御用村用記録	天保十年 亥 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	天保十年一月から十二月までの御用 村用方日記	
2066	275	天保十年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋莖官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	天保十年 亥 三月 天保十年 亥 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人五十五人(男十八人、女三十七 人)、減人八十五人(男三十人、女五十 五人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十五軒 人数千二百六十三人(男六百七十六 人、女五百八十七人) 馬数三十五匹	
2067	276	以書付々願上候	天保十年 亥 一月	一通	鹿塩村新八他二名、 大河原村名主中	大河原村中尾の持ち林から、松百本、桂 三本、柳二本を切り出す願	当亥年、袋 を同封
2068	277	乍恐以書付奉願上候	天保十年 亥 一月	一通	大河原村名主他、 飯田御役所	大河原村中尾飯森、鹿塩村私林から 困窮対策として木を切り出す願	虫食い
2069	278	書簡	(天保十年) 亥 七月	一通	八郎九郎、 伝左衛門	村役人等り合いを触れたが病弱流行な ど、何人が集まれない知らせ	
2070	279	(1)亥年御年貢御勘定目録 (2)覚(二通) (3)書付	天保十年 亥 八月	四通 一包	大河原村名主他、 飯田御役所	天保九年分の年貢小物成の勘定目録と 口米その他納入金の覚、少々の間違いに つき返金の覚書付	
2071	280	戌年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	天保十年 亥 八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保九年分の年貢取り立て帳	
2072	281	戌年御口米代小前取立皆済帳	天保十年 亥 八月	一冊	大河原村名主所	天保九年分の口米代金取り立て帳	
2073	282	戌年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保十年 亥 八月	一冊	大河原村名主所	天保九年分の嶋川原新田の年貢取り 立て帳	

2074	283	本新田畑并焼畑高沢渡口覚帳	天保十年 亥 八月	一冊	大河原村名主会所	本 田、新田畑、焼畑の高と所有者の覚え、譲り渡し	
2075	284	本新田畑并焼畑高沢請取口覚帳	天保十年 亥 八月	一冊	大河原村名主会所	本 田、新田畑、焼畑の高と所有者の覚え、請取り	
2076	285	嶋川原新田譲引反別訳帳	天保十年 亥 八月	二冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の内、譲り渡された分の面積など覚	
2077	286	一札之事	天保十年 亥 十月八日	一通	名主八郎九郎・ 宿々村々衆中	絹太郎、さへ、よし親子三人、西国巡礼と金毘羅大権現に参ら、往来一札	
2078	287	作忍以書付奉願上候	天保十年 亥 十月	一通	大河原村、鹿塩高村 村役人、飯田御役所	殿様御参府の折には来村しないとの事なのでお役所へ、穢嫌伺い出向く	
2079	288	覚	天保十年 亥 十一月二十一日	三通	湯浅儀兵衛・ 大河原村名主	天保十年分の納入金、拝借米、冥加金、国役金の受け取り覚え	
2080	289	覚	天保十年 亥 十一月	一通	上穂村名主七兵衛・ 大河原名主衆中	殿様参府の際に上穂に泊まり、その際の人足賃として二両を受け取った	
2081	290	作忍以口上書奉申上候	天保十年 亥 十一月	一通	大河原村名主他二 名、飯田御役所	上蔵薬師堂を水野忠邦様が譲渡を懸望したがお断りする口上書	
2082	291	当亥年御年貢初納二納割付取立帳	天保十年 亥 十一月吉日	一冊	大河原村名主所	天保十年分の年貢割付取立帳	
2083	天保 292	開作植付夫食拝借金年賦御返済納取立帳	天保十年 亥 十一月	一冊	大河原村名主所	夫食拝借金の二年賦返納の取り立て帳	
2084	293	拝借金十カ年賦御返済取立差引帳	天保十年 亥 十一月	一冊	大河原村	拝借金十カ年賦三年目の返納の取り立て帳	
2085	294	正八幡宮鳥居建立入用帳	天保十年 亥 十一月吉日	一冊	前鳥氏	鳥居建立の寄付覚え、屬子寄進の覚え	
2086	295	去成年御年貢勘定当亥年夫銭勘定中入用百姓代納帳の覚字	天保十年 亥 十一、十二月	一冊	大河原村会所	天保九年の年貢、十年分の入用費など百姓代の賦い分	
2087	296	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保十年 亥 十二月二十三日	二通 一包	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	来年子年に惣百姓代、小代判を任ずるにあたり差し出された書付	
2088	297	貯蔵小前貸付四ケ年賦当亥三ケ年目返納取立帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主所	貯蔵貸付返納金四年賦のうち三年目の返納取り立て帳	

2089	298	当亥年国役金高掛り御時穀取集メ村 入用去銀時穀貸付損矣御年貢埃割返 取立差引帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十年分の国役金、時穀代、去銀、 年貢割返による差引計算帳	
2090	299	当亥年国役金高掛割付取立納帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十年分の国役金取り立て帳	
2091	300	貯穀小前割付御預帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村	貯穀とその他の麦の取り集め預り帳	
2092	301	御年貢埃割返帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主所	天保四年から天保八年までの間に 出た年貢の少額残金を割り返す	
2093	302	戌年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保九年新田年貢、本年貢口米代の 取り立て計算帳	
2094	303	当亥年新代取調覚帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十年分の新代調べ	
2095	304	高沢入用割付取立帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	高を調査する際の入用金を割り付け 取り立てる	
2096	305	当亥年村入用家別取立帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2097	306	当亥年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保十年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十年分の村入用費の高当り割付 取り立て帳	
2098	307	覚(請取仕切書)	天保六未年から 天保十亥年	六十 九通	様々、 前嶋八郎九郎	天保六年から十年までの諸々請取覚え	
2099	天保 308	覚(請取仕切)	天保九戌年 天保十亥年	三十 三通	様々、 前嶋八郎九郎	諸々請取覚え	
2100	309	一札之事	天保十一年 子 一月六日	一通	名主八郎九郎、 宿々村々衆中	友太郎二十六才、金毘羅大権現に参 る、往来一札	
2101	310	覚	天保十一年 子 二月二十八日	一通		渡場で必要な物品とその数の覚え	
2102	311	本新田畑小前高辻帳	天保十一年 子 二月吉日	一冊	大河原村名主所	大河原村小前高辻帳	虫食いやや ひら
2103	312	亥年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保十一年 子 八月	一冊	大河原村名主所	天保十年分の嶋川原新田年貢の取り 立て帳	

2104	313	亥年御口米代小前取立皆済帳	天保十一年 予 八月	一冊	大河原村名主所	天保十年分の口米代取り立て帳	
2105	314	亥年御見取方増米仕出し帳	天保十一年 予 八月	一冊	大河原村名主会所	天保十年の見取りで増米した分の覚え	
2106	315	亥年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	天保十一年 予 八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保十年分の年貢取り立て帳	
2107	316	荒所起返爲御見分布岡寛蔵横渡辺定 五郎様御出役御逗留中入用納帳	天保十一年 予 九月七日	一冊	大河原村名主所	荒所など見分のため来村した市岡、渡 辺両役人が逗留中に要した帳の費用	
2108	317	子年免定之事	天保十一年 予 十月	一通	市岡寛蔵、湯淺儀兵衛、大河原村名主	天保十一年分の大河原村免定、包み紙 は天保十四年	
2109	318	開作權付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	天保十一年 予 十月	一冊	大河原村名主所	夫食拝借金十年年賦返納の三年目の 取り立て帳	
2110	319	拝借金十年年賦御返納取立差引帳	天保十一年 予 十月	一冊	大河原村名主所	夫食拝借金の年賦三年目の取り立て計 算帳	
2111	320	亥年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	天保十一年 予 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十年分の新田年貢、本年貢、口米 代の取り立て帳	
2112	321	郷中勘定纏心帳	天保十一年 予 十二月	一冊	大河原村	天保十二年十二月から安政二年十二 月までの纏心帳	
2113	322	当丑年御用村用記録	天保十二年 丑 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	天保十二年一月から十二月までの御 用村用万日記	
2114	323	一札之事	天保十二年 丑 一月二十六日	一通	名主八郎九郎、 宿々村々衆中	一八六十才、伊勢参宮と金毘羅大権 現に参る、往来一札	
2115	天保 324	一札之事	天保十二年 丑 一月二十六日	一通	名主八郎九郎、 宿々村々衆中	政左衛門(六十五才)、伊勢参宮と金 毘羅大権現に参る、往来一札	
2116	325	一札之事	天保十二年 丑 一月二十六日	一通	名主八郎九郎、 宿々村々衆中	政左衛門(六十五才)と一八(六十 才)、二人分の往来一札	
2117	326	信濃国伊那郡大河原村地内自普請所 仕来書上帳	天保十二年 丑 一月	三冊	大河原村、 飯田御役所	勘定、普請方役人が見分の際、飯田役 所へ出したが不要にちた文書	
2118	327	御公儀様御役所御触申渡請印帳	天保十二年 丑 二月一日	一冊	大河原村名主所	天保十二年二月、大御所死去のお触れ から十三年十二月迄の各種公儀触れ	
2119	328	請取申一札之事	天保十二年 丑 二月二十一日	一通	香松寺隠居達禪、 香松寺現住衆中	隠居料として十五両を受け取った	

2120	329	差上申御請證文之事	天保十二年 丑 二月	一冊	大河原村他九カ村・ 飯田御役所	二十五カ年賦で返納するというので 金予を拝借する	
2121	330	子年取集之分拝借御返納金割戻帳	天保十二年 丑 二月	一冊	大河原村名主所	天保十一年に集めた夫食返納金で割 り戻す六面二分の分配	
2122	331	天保十二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文一通門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	天保十二年 丑 三月 天保十二年 丑 一月吉日	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十五人(男二十八人、女二十七 人)、減人三十五人(男十七人、女十八 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十六軒 人数千二百六十四人(男六百七十九 人、女五百八十五人) 馬数三十五匹	
2123	332	(1)子年御年貢御勘定目録 (2)寛	天保十二年 丑 六月	二通 一包	大河原村名主他・ 飯田御役所	天保十一年分の年貢勘定目録と口米 未進、出役扶持米代などの覚え	
2124	333	作恐以書付奉願上候	天保十二年 丑 六月	一通	大河原村名主八郎 九郎・飯田御役所	文政十二年の洪水で流失した大河原 村八幡堂の再建のため梶の売却願う	
2125	334	寛	天保十二年 丑 六月	一通	名主八郎九郎・ 飯田御役所	去年の出役の扶持米代の受け取り寛 え	
2126	335	久々里御表御用金并渡辺定五郎様御 無心金取立差引帳	天保十二年 丑 七月十二日	一冊	大河原村名主会所	久々里御用金と渡辺様が無心した金 子を割り当て取り立て	
2127	天保 336	久々里御講と唱候御用金并御年代渡 辺定五郎様御無心金四分一家別取立 帳	天保十二年 丑 七月	一冊	大河原村名主会所	久々里との様御用金と、渡辺様が無心 した金予之四分の一を家別に割り当て 取り立てる	
2128	337	久々里御講と唱候御用金并御年代渡 辺定五郎様御無心金四分三高当り取 り立て帳	天保十二年 丑 七月	一冊	大河原村名主会所	久々里との様御用金と、渡辺様が無心 した金予之四分の三を高当り割り当 て取り立てる	
2129	338	(七月十一日御勘定所三而被仰渡候) (書付)	(天保十二年)丑 七月	一冊		七月十一日に御樽木山の管理見回り、 苗木植付けなど仰せ付けられた覚え	天保十二 年袋入り 文書
2130	339	差上申御請書之事	天保十二年 丑 九月	二通	大河原村名主他・ 飯田御役所	御樽木山見回り、苗木等も折々植 付け、風倒木などを知らせる、下書き一 通	

2131	340	天保十二五年免定 覚	天保十二年 丑 十月	一通	飯田御役所・ 大河原村名主	天保十二年の大河原村免定	
2132	341	覚(三通) (書付一通)	天保十二年 丑 十月、十一月	四通	湯淺儀兵衛・ 大河原村名主	天保十二年分の国役金、軍加米、口米 代、納入用金の受け取り覚えと書付	
2133	342	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保十二年 丑 十二月十九日	二通 一包	総百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を仕するにあたり 差し出す一札	
2134	343	覚	(天保十二年) 丑	三通		勸化金の受け取り覚え	
2135	344	覚(請取仕切)	天保十一子年 天保十二丑年	四十 通	様々・ 前嶋八郎九郎	天保十一、十二年分、諸々受け取りと 仕切り書覚え	
2136	345	覚(請取仕切)	天保十二年 丑	十八 通	様々・ 前嶋八郎九郎	金子、米など諸々受け取りと仕切り書 覚え	
2137	346	当富年御用村用記録	天保十三年 寅 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弔	天保十三年一月から十二月までの御 用村用方日記	
2138	347	天保十三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	天保十三年 寅 三 月 天保十三年 寅 一月吉日 天保十三年 寅 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人七十二人(男三十人、女四十二 人)、減人四十三人(男十人、女三十三 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千二百九十三人(男六百九十五 人、女五百九十四人) 馬数三十五匹	
2139	天保 348	送一札之事	天保十三年 寅 一月二十一日	一通	名主八郎九郎・ 吉田村庄屋	当村岡助女すぶね二十六才は吉田村 庄屋の女屋になつ、宗門人別送る	
2140	349	高村申合之事	天保十三年 寅 正月	一通	名主他	十二年十二月の條約お触書により鹿 塩大河原高村條約の申し合はせ	
2141	350	嶋川原新田流為見分御役所足輕今村 才十殿御出役之節入用帳	天保十三年 寅 六月十一日	一冊	会所	嶋川原新田の流れたの名見分のため出 役した今村殿に要した費用の覚え	
2142	351	(1)丑年御年貢御勘定目録 (2)覚	天保十三年 寅 八月	二通	大河原村名主他・ 飯田御役所	天保十三年分の年貢勘定目録と覚え	
2143	352	当富年御年貢初納二納割付取立帳	天保十三年 寅 十月吉日	一冊	大河原村名主所	天保十三年分の年貢割付取り立帳	

2144	353	(天保十三年寛年免定) 寛	天保十三年 寅 十月	一通	飯田御役所・ 大河原村名主	大河原村の天保十三年分の免定	
2145	354	(御出役様御出役三付)	天保十三年 寅 十月	一冊	小野村他・ 飯田御役所	十一カ村自普請について、御殿様通行 についてなら文書の写し帳	
2146	355	乍恐以書付奉願上候	天保十三年 寅 十月	一通	大河原村八郎九郎・ 飯田御役所	櫓の板を飯田町松好屋へ差し出した の許可を願う	
2147	356	寛	天保十三年 寅 十月十一月	四通	市岡寛藏・ 大河原村名主	天保十三年分の国役金、酒造実加金、 納入用金、米倉返納金の受け取り覚え	
2148	357	毫米銀切質取集帳	天保十三年 寅 十一月一日	一冊	名主会所	一朱銀を七部の割合で切り替え、引き 換える、村民各人の引き換を寛	
2149	358	拝借金五賦御返納取立指引帳	天保十三年 寅 十一月	一冊	大河原村名主所	拝借金を十カ年賦と二十五カ年賦へ返 納する、二年目の取り立て計算帳	
2150	359	拝借金五賦御返納取立帳	天保十三年 寅 十一月	一冊	大河原村名主所	開作植付け米倉のための拝借金を十年 賦と二十五カ年賦へ返納する、二年目	
2151	360	御預所拾壹ヶ村酒造方立儀三付被仰 渡御請印帳	天保十三年 寅 十一月	一冊	御預所十一ヶ村・ 飯田御役所	十一ヶ村の酒造についてお任せされた たことについての請印帳	
2152	361	御預所拾壹ヶ村御下穀并貯穀有高御 請書	天保十三年 寅 十一月	一冊	小川村他十一カ村・ 飯田御役所	十一カ村の下穀と貯穀の請け書	
2153	362	(一)差出申書付之事 (二)差出申一札之事	天保十三年 寅 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代小代判・ 名主組頭衆中	来年卯年に惣百姓代、小代判を仕する に際し差し出された書付	
2154	363	貯穀小前割付御預帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村	貯穀としての奉の取り集の預り帳	
2155	天保 364	当寛年薪代運上取調帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十三年分の薪代運上金調べ	
2156	365	当寛年国役高掛り金貯穀代取集利入 用夫銭取立差引帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十三年分の国役金、貯穀代金、夫 銭の取り立て帳	
2157	366	当寛年国役金高掛割付取立納帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十三年分の国役金取り立て帳	
2158	367	当寛年村入用家別取立帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十三年分の村入用費の家別取り 立て帳	
2159	368	当寛年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保十三年 寅 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十三年分の村入用費の高当り割 付取り立て帳	

2160	369	書簡	(天保十三年)寅十二月	一通	大草村名主弥兵衛・大河原村名主	当村左兵衛の酒代滞納について相対て処理する件について	
2161	370	覚	天保十三年 寅	六通		御免勸化金・無欠金などの受け取り覚え	
2162	371	覚(請取仕切)	天保十三年 寅 天保十四年 卯	七 四通	様々・ 前嶋八郎九郎	花池、花入れなど雑貨、米、大豆代金など諸々受け取り、仕切りの覚え	
2163	372	(1)当初年御用村記録 (2)式番当初年御用村記録	天保十四年 卯 一月吉日、八月	二冊	前嶋八郎九郎正弼	天保十四年一月から十二月までの御用村用方日記	
2164	373	天保十四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	天保十四年 卯 三 月 天保十四年 卯 一月吉日 天保十四年 卯 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村・ 飯田御役所	増人四十人(男十六人、女二十四人)、減人三十三人(男十二人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十七軒 人数千三百人(男七百三人、女五百九十七人) 馬数三十五匹	
2165	374	一札之事	天保十四年 卯 一月十二日	一通	名主八郎九郎・ 宿々村々衆中	仙・松他四名、伊勢・参宮と金毘羅大権現に参ら、往来一札	
2166	375	村送一札之事	天保十四年 卯 一月	一通	名主八郎九郎・ 飯田町年寄り庄屋	八郎左衛門殊之ち二十九才を飯田・柳原様家代万之助の妻とす、宗門送り	

2167	天保376	御改革三付本新田畑御見取場地位御 改革所起返御改切添切開御改一件諸 書付入 (一)古新屋敷調 (二)古新寄付之写 (三)左忍口上書左三奉伺候 (四)奉差上御請書之事 (五)左忍以書付奉願候 (六)申渡 (七)別紙 (八)御預所村々一同殿様被仰渡候御 演古御趣之通書写 (九)從御公儀様今般御預所御改革被 仰出候三付：… (十)御改革付御趣意 (十一)信州伊那郡大河原村高反別取 米帳 (十二)大河原村耕地絵図、仕訳絵図 案、絵図下絵図案 (十三)(諸書付)	天保十四年 卯 八月 天保十四年 卯 八月 九月九日 天保十四年 卯 九月 天保十四年 卯 八月十日 天保十四年 卯 八月十日 天保十四年 卯 八月 天保十四年 卯 九月 天保十四年 卯 天保十四年 卯	十三 件 一冊 一冊 二通 一包 一通 一通 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊 二冊 絵図 五枚 八通	名主会所 大河原村 八郎九郎 八郎九郎他、 吉田八郎、湯淺定左 衛門 尊六、小左衛門、 松永与三衛門、 大河原村他 — 大河原村 大河原村 大河原村 大河原村控え 八郎九郎他	古新七十六軒の屋敷 田畑古新屋敷の云々 衛図面、小前帳、貯穀のことなど 村内荒所、新田畑見取り場など、村内 改めにつき案内する なるべく石高を低く見積もつてほしい 本新田畑などの改めを行う 村内田畑など巨細改める 改革について殿様の演説要旨等し 今度の改革に付検見役人名と持ち場の 一覧 このたびの改革の趣旨 大河原村高反別帳 美しい邑付絵図 巨細耕地絵図 三枚 下絵図一枚 絵図案一枚	
------	-------	---	---	---	---	---	--

2168	天保377	申渡	天保十四年 卯 三月八日	一冊	立田 岩太郎、竹内清太郎	寛政九年、文政元年、天保元年からそれぞれ三年、まる丑から二年の村入用費の吟味	虫食い
2169	378	差出申一札之事	天保十四年 卯 三月	一通	峠村名主他、大河原村名主中	白沢権現神社に杉苗木を植えたが、樹木などみだりに切らぬ	虫食い
2170	379	武蔵信濃式ヶ国相对勸化巡行帳	天保十四年 卯 七月	一冊	松平和泉守、御領私領寺社領等	熊野権現と稲荷社再建の勸化巡行帳	虫食い
2171	380	御改基三付御検地被仰出下改申諸入用帳	天保十四年 卯 八月十七日	一冊	大河原村百姓代	財政から改革のため検地をすることにちだ下調査に要した費用覚え	
2172	381	御公儀様御役所御触申渡請印帳	天保十四年 卯 八月	一冊	大河原村名主所	天保十四年八月から弘化に年十月までの各種御触れ、申渡しの請印帳	
2173	382	(一)當年御年貢勘定目録 (二)覚	天保十四年 卯 八月	二通 一包	大河原村名主他、飯田御役所	天保十三年分の年貢勘定目録と覚書	虫食いひどい
2174	383	差上申御讀書之事	天保十四年 卯 八月	一通	大河原村村役人、飯田御役所	御樽木山を大切に看守することについての讀書	虫食い
2175	384	落合山神祠再建勸化帳	天保十四年 卯 八月	一冊	世話人九名	落合山の山神様の祠を再建するための寄付金集め	
2176	385	覚	(天保十四年)卯 九月二十三	一冊	大河原村名主	触書と夫錢帳についての覚書、合冊	虫食いひどい
2177	386	御改基三付為地改吉田八郎様湯淺貞左衛門様松永与左衛門様御廻村当村御止宿中諸勘定帳	天保十四年 卯 九月二十九日	一冊		改革で検地に米村した吉田八郎他二名の役人が止宿中に要した諸費用の覚え	
2178	387	切替焼畑之内年々作付相成候分改出	天保十四年 卯 九月	一冊	八郎九郎他、吉田八郎、湯淺貞左衛門	改革につき、荒所起返、切添その他改め、焼畑で毎年作付け分の書出し	
2179	388	(一)切替焼畑之内年々作付相成候分下改帳 (二、三)切替焼畑之内年々作付相成り候分改書上帳 (四)千村平右衛門御預所信濃国伊那郡大河原村当卯改出小前帳	天保十四年 卯 九月	四冊 一袋	大河原村役人	焼畑の内、毎年作付けを行っている分の書上げ帳	
2180	389	去富夫錢帳附穀有量書上帳	天保十四年 卯 九月	二冊 合冊	大河原村名主他	天保十三年分の夫錢帳と時穀現在量の覚え帳	

2181	天保 390	去寛夫銭帳	天保十四年 卯 九月	一冊	八手村(大河原村 控)	伊那郡八手村の天銭帳控	
2182	391	寅年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	天保十四年 卯 九月	一冊	大河原村名主所	天保十三年分の嶋川原新田年貢の取 り立て帳	
2183	392	寅年御口米代小前取立皆済帳	天保十四年 卯 九月	一冊	大河原村名主所	天保十三年分の口米代取り立て帳	
2184	393	嶋川原新田去寛荒所引方名寄帳	天保十四年 卯 九月	一冊	大河原村名主所	天保十三年に荒所となつた嶋川原の新 田の所有者と高	
2185	394	寅年御年貢御榑木成勘定取立皆済納 帳	天保十四年 卯 九月	一冊	大河原村名主所	天保十三年分の年貢取り立て帳	
2186	395	落合山神祠再建入用帳	天保十四年 卯 九月	一冊		落合山神の祠を再建する必要経費の覚	
2187	396	(天保十四年御年貢御勘定目録覚	天保十四年 卯 十月	二通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	大河原村の天保十四年分の年貢勘定 目録	
2188	397	当卯年御年貢初納二納割付取立帳	天保十四年 卯 十月	一冊	大河原村名主所	天保十四年分の年貢割り付け取り立 て帳	
2189	398	覚	天保十四年 卯 十一月十六日	五通	湯浅貞左衛門	天保十四年分の国役金、夫銭などの受 け取り	虫食いひと い
2190	399	書簡	(天保十四年)卯 十一月二十三日	一通	渡辺定五郎・ 八郎九郎	口米値段についての知らせ	天保十四 年袋入り
2191	400	指上申御請書之事	天保十四年 卯 十一月	一冊	大河原村他六ヶ村 名主・飯田屋役所	これまで冥加米を年々上納してきた が、このたび御免に	虫食い
2192	401	開作植付天食拝借金年賦御返納取立 帳	天保十四年 卯 十一月	一冊	大河原村名主所	拝借金の三年目返納取り立て帳	
2193	402	開作植付天食拝借金年賦御返納門家 被官共取立帳	天保十四年 卯 十一月	一冊	八郎九郎	拝借金の三年目返納被官分取り立て 帳	
2194	403	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	天保十四年 卯 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代・小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代・小代判を仕立てにあつた づ差し出す一札	
2195	404	当卯年村入用家別取立帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十四年分の村入用費の家別取り 立て帳	
2196	405	当卯年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十四年分の村入用費の高当り割 付取り立て帳	

2197	天保 406	当卯年薪代運上取調帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	天保十四年分の薪代運上金調へ	
2198	407	当卯年国役高掛金貯穀代取集村入用 夫銭取立差引帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十四年分の国役金、貯穀代金、夫 銭の取り立て帳	
2199	408	当卯年国役金高掛割付取立納帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十四年分の国役金取り立て帳	
2200	409	貯穀小前割付御預帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村	貯穀として妻を取り集め預かる	
2201	410	寅年御年貢初納二納耕地て小代判 取集帳写	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主所	天保十三年分の年貢初納二納を耕地 ごとに集めた帳面の写し	
2202	411	寅年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	天保十四年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十三年分の新田年貢、本年貢、口 米代の取り立て帳	
2203	412	何国何郡何村高反別小前帳案	天保十四年 卯	一冊		高反別小前帳の作成見本、様式	虫食い

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
2204	弘化 1	当辰年御用村用記録	弘化元年(天保十五 年)辰 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	弘化元年一月から十二月までの御用 村用万日記(正弼四十四才)	
2205	2	村送一札之事	弘化元年(天保十五 年)辰 二月	一通	名主八郎九郎・ 山村庄屋庄右衛門	当村徳十弟政兵衛三十六才、山村甚 右衛門の養子にのみ、宗門人別送る	
2206	3	天保十五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	弘化元年(天保十五 年)辰 三月 弘化元年(天保十五 年)辰 一月吉日 弘化元年(天保十五 年)辰 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十七人(男二十一、女二十六 人)、減人四十七人(男二十人、女二十 七人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数十三百人(男七百四人、女五百九 十六人) 馬数三十五匹	
2207	4	差上申御請證文之事	弘化元年(天保十五 年)辰 三月	一冊	大河原村八郎九郎 他飯田御役所	夫食糧借金を二十五年賦で仰せ付け られ有り難く請ける、今後も願む	
2208	5	差上申御請證文	弘化元年(天保十五 年)辰 三月	一冊	大河原村名主他一 統	夫食代を拝借し、二十五年賦で返納 する	
2209	6	覚	弘化元年(天保十五 年)辰 四月十八日	一冊	湯浅貞三衛門・ 大河原村名主	法輪寺勸化のための五百文を受け取 った	
2210	7	(1)津島鹿島砲臺御祈禱代参諸人用 割付帳(2)覚	弘化元年(天保十五 年)辰 四月	二冊	世話人弥五八、清右 衛門	津島鹿島神社に砲臺御祈禱の代参の願 い入二百三十五人の名前と入用費	
2211	8	以書付奉願上候	弘化元年(天保十五 年)辰 五月十日	一通	別当福島院・ 千村様御役所	熊野大権現と甲府城内稻荷大明神福 島院が大破、再建のための巡行届	
2212	9	覚	弘化元年(天保十五 年)辰 五月十一日	一通	別当福島院千村様 御役所御役人中	熊野大権現と甲府城内稻荷大明神福 島院再建の助成金を受け取った	

2213	弘化10	御免勸化 覚	弘化元年辰 六月二十四日	一通	遠州山住神宮：大河 原村御役人衆中	遠州山住神社の修復のための寄付金受 取状	
2214	11	嶋川原新田譲引反別認渡口帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主所	嶋川原の新田の内、譲り渡した分の面 積など覚	
2215	12	嶋川原新田譲引反別認請取口帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主会所	嶋川原の新田の内、譲り渡された分の 面積など覚	
2216	13	(天保十二子年免定) 卯年御年貢勘定目録	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一通	大河原村名主他： 飯田御役所	天保十四年の年貢、小物成などの勘 定、裏書有り	
2217	14	安永九子新田定免切替村々御請證文	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	御預所之内拾ヶ村、 飯田御役所	弘化元年から十年間、新田にかかる免 を定めることを請ける	
2218	15	(卯年本御年貢帳)卯年御年貢御樽木 成勘定取立皆清納帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月吉日	一冊	大河原村名主所	天保十四年分の年貢取り立て帳	
2219	16	本新田畑井焼畑高認渡口覚帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主所	本新田畑焼畑の譲渡の覚え、広さ、高、 持ち主、渡し方	
2220	17	本新田畑井焼畑高認請取口覚帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑焼畑の譲渡の覚え、広さ、高、 持ち主、請取方	
2221	18	田畑譲引高分入用取立帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主会所	田畑の売り買い、高分をした際の必要 経費取立帳	
2222	19	卯年嶋川原新田御年貢取立皆清帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主会所	天保十四年分嶋川原新田の年貢取り 立て帳	
2223	20	卯年御口米小前取立皆清帳	弘化元年(天保十五 年)辰八月	一冊	大河原村名主所	天保十四年分の口米代取り立て帳	
2224	21	覚	弘化元年(天保十五 年)辰十月二日	一通	東禅寺納所、 大河原村役人衆中	金一両の受領の覚え	
2225	22	当屋年御年貢初納二納割付取立帳	弘化元年(天保十五 年)辰十月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化元年分年貢の初納二納取立帳	
2226	23	借用仕候金子之事	弘化元年(天保十五 年)辰十一月	一通	大河原村平九郎他、 市岡寛藏	五十両の借用書	
2227	24	覚	弘化元年(天保十五 年)辰十一月	四通	市岡寛藏、 大河原村名主	国役金、入用金、夫食返納金、冥加米 を受け取った	
2228	25	覚	(弘化元年)辰 十二月十五日	一通	嶋川原新田惣代、 御名主衆中	当年に嶋川原新田の荒所見分に出張 した役人の扶持米代を受け取った	

2229	弘化 26	(来巳年百姓代并小代判より差出候 書付二通之) (1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	弘化元年(天保十五 年)辰十二月二十一日	二通 一包	(1)百姓代与市役見 前右衛門(2)各耕地 小代判 名主組頭衆中	来巳年に総百姓代および各耕地代 判の役目請け証文	
2230	27	開作植付夫食拝借金年賦御返納門家 被官共分取立帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	八郎九郎	拝借金の三年目返納被官分取り立て 帳	
2231	28	卯年御年貢初納二納耕地にて小代判 取集帳写	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十四年分年貢の初納二納は各耕 地で小代判が取集める覚え	
2232	29	当辰年村入用家別取立帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化元年分の村入用費、家別取り立て 帳	
2233	30	当辰年村入用郷中割付取立小前割掛 皆清帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化元年分の村入用費取り立て帳	
2234	31	卯年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主会所	天保十四年分の年貢、口米代の取立計 算帳	
2235	32	当辰年国役高掛金貯穀代取集御拝借 金返納村入用夫錢取立差引帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化元年分国役金など取りたて計算 帳	
2236	33	当辰年国役金高掛割付取立納帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化元年分国役金の取りたて帳	虫食い
2237	34	貯穀小前割付御預帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀として大妻を取集めて預かる覚え	
2238	35	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主所	開作植付け夫食のため拝借した金を年 賦で返す、当辰分取集め	
2239	36	当辰年薪代連上取調帳	弘化元年(天保十五 年)辰十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化元年分の薪代連上調べの報告帳	
2240	37	親類書	弘化元年(天保十五 年)辰	一通	(前嶋八郎九郎)	前嶋八郎九郎との関係で当時の親類関 係の覚え書き出し	
2241	38	当巳年御用村用記録	弘化二年 巳 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弔	弘化二年一月から十二月までの御用 村用方日記	虫食い
2242	39	村送り一札	弘化二年 巳 一月	一通	伊那郡遠山上村名 主大河原村名主	上村百姓娘きわ(二十二丁)が大河原 村谷之丞へ縁組するの宗門送る	
2243	40	村送り一札之事	弘化二年 巳 一月	一通	伊那郡遠山上村名 主大河原村名主	上村百姓娘と主(二十四丁)が大河原 村市三郎へ縁組するの宗門送る	

2244	弘化 41	為取替申一札之事(二通) 差出申一札之事(二通)	弘化二年 巳 三月	四通	部奈村、禰与村、 大河原村	部奈村が用水不足につき禰与村と大河 原村内の沢水を永久に借りる事と	
2245	42	弘化二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	弘化二年 巳 三月 弘化二年 巳 一月吉日 弘化二年 巳 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人七十三人(男三十九人、女三十四 人)、減人四十四人(男二十二入、女二 十二人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千三百二十九人(男七百二十一 人、女六百八人) 馬数三十五匹	
2246	43	為取替申一札之事	弘化二年 巳 四月	二通	部奈村、禰与村、 大河原村	部奈村が用水不足につき禰与村と大河 原村内の沢水を永久に借りる事と	
2247	44	乍恐以書付御屈奉申上候	弘化二年 巳 六月	一通	大河原村孝助・ 飯田御役所	当村宇北條八幡様の神木松二本を本 丸御用板にするため切り出す届け	
2248	45	御高札場修覆入用帳	弘化二年 巳 六月	一冊	大河原村名主会所	高札場修覆のための経費覚え書き	
2249	46	辰年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	弘化二年 巳 八月	一冊	大河原村名主会所	弘化元年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2250	47	辰年御口米代小前取立皆済帳	弘化二年 巳 八月	一冊	大河原村名主所	弘化元年分の口米代取り立て帳	
2251	48	辰年御年貢御樽木成勘定取立皆済納 帳	弘化二年 巳 八月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化元年分の年貢取り立て帳	
2252	49	当巳年御年貢初納二納割付取立帳	弘化二年 巳 十月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化二年分年貢の初納二納取立帳	
2253	50	当巳年御年貢初納二納耕地にて小代 判取集方書付渡候写	弘化二年 巳 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分年貢の初納二納は各耕地 で小代判が取集めを覚え	
2254	51	御拜借金返納割方覚(一通) 覚(五通)	弘化二年 巳 十月、十一月	六通	湯浅貞左衛門・ 大河原名主	弘化元年分の国役金、納入用金、夫食 返納金、酒造冥加米、口米代不足金の 受け取り覚え、夫食返納金の割方覚え	
2255	52	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	弘化二年 巳 十二月十八日	二通 一包	惣百姓代、小代判・ 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を仕立てにあた りて差し出す一札	

2256	弘化 53	開作權付米食押借金年賦御返納門家 被官共分取立帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	八郎九郎	押借金の返納被官分取り立て帳	
2257	54	辰年御年貢初納二納耕地にて小代判 取集帳写	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化元年分年貢の初納二納は各耕地 で小代判が取集めを覚え	
2258	55	当巳年村入用家別取立帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化二年分の村入用費、家別取り立て 帳	
2259	56	当巳年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化二年分の村入用費取り立て帳	
2260	57	辰年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化元年分の年貢、口米代の取立計算 帳	
2261	58	当巳年国役高掛り金貯穀代取集御押 借金返納村入用夫錢取立差引帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分国役金など取り立て計算 帳	
2262	59	当巳年国役金高掛割付取立納帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分国役金の取り立て帳	
2263	60	貯穀小前割付御預帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀として大妻を取集めて預かる覚え	
2264	61	開作權付米食押借金年賦御返納取立 帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主所	開作權付は米食のため押借した金を年 賦で返す、当年分取集め	
2265	62	当巳年薪代連上取調帳	弘化二年 巳 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化二年分の薪代連上調への報告帳	
2266	63	(諸請取仕切書) 寛	弘化元辰年 弘化二巳年	百一 通	(諸人・前嶋八郎九 郎・善五郎	宿泊代、伝馬代、金子請取、大豆、木 綿、米、麦など代金覚え仕切り書	二年分
2267	64	当午年御用村用記録	弘化三年 午 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正卿	弘化三年一月から十二月までの御用 村用乃日記	
2268	65	御送り一札之事	弘化三年 午 一月	一通	上村与吉・ 大河原村名主所	上村与左衛門娘、よと大河原村忠之 丞と縁組するので宗門人別送る	
2269	66	送一札之事	弘化三年 午 一月	一通	名主八郎九郎・ 上村名主与吉	当村三四郎弟末男二十五才を上村常 吉の養子とする、宗門人別送る	
2270	67	(一)村送一札 (二)寺送り一札之事	弘化三年 午 三月	二通 一包	鶯村名主・龍淵寺・ 大河原名主・香松寺	当村安左衛門が大河原村十郎左衛門 の養子になるので村、宗門送りする	

2271	弘化 68	弘化三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山証文門屋被官分 差上申證文之事(二冊) (9)家人馬数御改帳	弘化三年 午 三月 弘化三年 午 一月吉日 弘化三年 午 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十九人(男二十人、女二十五人)、減人四十八人(男二十人、女二十八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数十三百三十人(男七百二十一、女六百九) 馬数三十五匹 (7)「御樽木山証文」の一冊は小百姓不残証文である	
2272	69	議定證文之事	弘化三年 午 四月	一通	彦兵衛	細屋商売をしていたが藍が腐り近年の凶作で借金返済の議定書(十書き)	
2273	70	小前帳認直し二付本新田畑并焼畑譲引二付間違之分高訳帳	弘化三年 午 六月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑之譲渡二き間違いを正して詳細改めを覚え	
2274	71	巳年本年責帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主所	巳年分年責増済帳明細	
2275	72	巳年嶋川原新田御年責取立増済帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分嶋川原新田の年責取り立て帳	
2276	73	巳年御口米代小前取立増済帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主所	弘化二年分の口米代取り立て帳	
2277	74	嶋川原新田譲引反別訳渡口帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主会所	嶋川原新田の譲渡、面積持ち主と渡し口覚え	
2278	75	嶋川原新田譲引反別訳請取口帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主会所	嶋川原新田の譲渡、面積持ち主と請取口覚え	
2279	76	本新田畑并焼畑高訳渡口覚帳	弘化三年 午	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の分の年責を納めたるめは訳、譲渡渡し口の覚え	
2280	77	本新田畑并焼畑高訳請取口覚帳	弘化三年 午 八月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の分の年責を納めたるめは訳、譲渡請取口の覚え	
2281	78	(電書)	弘化三年 午 十月 一日から十四日	一通		十月朔日に由立、十四日に帰村、木曾小侯から中津川行方左殿の出費覚	
2282	79	覚	弘化三年 午 十月、十一月	五通	市岡寛藏 大河原村名主	弘化三年分国役金・二納年責金などの納入期限の知らせと受け取り覚え	

2283	弘化 80	寛(二通) 口上(一通)	弘化三年 午 十一月十八・十九日	三通	光前寺; 前嶋八郎九郎	光前寺山門再建勸化金の受け取り寛 え	
2284	81	当年年御年貢初納二納割付取立帳	弘化三年 午 十一月十四日	一冊	名主所	弘化三年分年貢の初納二納取立帳	
2285	82	弘化二己田畑起返名寄帳	弘化三年 午 十一月	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分の田畑起返りの書き出し	
2286	83	(一)差出申書付之事 (二)差出申一札之事	弘化三年 午 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代、小代判; 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を任ずるにあた つて差し出す一札	
2287	84	本新田畑小前高辻帳	弘化三年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化三年小前高辻帳	
2288	85	開作植付夫食拝借金年賦御返納門家 被官共分取立帳	弘化三年 午 十二月	一冊	八郎九郎	拝借金の返納被官分取り立て帳	
2289	86	当年年村入用家別取立帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化三年分の村入用費、家捌取り立て 帳	
2290	87	当年年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化三年分の村入用費取り立て帳	
2291	88	已年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化二年分の年貢、口米代の取立計算 帳	
2292	89	当年年国役高掛り金貯穀代取集御拝 借金返納村入用夫錢取立差引帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化三年分国役金など取りたぐ計算 帳	
2293	90	当年年国役金高掛割付取立納帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化三年分国役金の取りたぐ帳	
2294	91	貯穀小前割付御預帳	弘化三年 午 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀として大集を取集めて預かる寛え	
2295	92	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主所	開作植付け夫食のため拝借した金を年 賦で返す、当半年分取集め	
2296	93	当年年薪代連上取調帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化三年分の薪代連上調べの報告帳	
2297	94	田畑譲引高分入用取立帳	弘化三年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	田畑譲渡の際高訳に必要な経費取り立 て帳	
2298	95	(請取仕切) 寛	弘化三年 午	五十 一通	(諸); 前嶋氏	弘化三年分の大豆、板子、米、酒、柴 物、木綿などの売買仕切り、請取	

2299	弘化 96	寛、書付	天保二卯年から 弘化三年生まで	五十 五通	(諸々： 前嶋八郎九郎	諸々受け取り仕切り書など	
2300	97	村々割合帳	弘化三年 午	一冊	荒町御預役所	甲州南段寺の相對勤化金を十一カ村の 石高に依りて割り当てる	
2301	98	宗門方入用寛	弘化三年 から 安政六年	十五 枚		宗門改めをうけた際の諸経費寛え書き	
2302	99	当米年御用村用記録	弘化四年 未 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弼	弘化四年一月から十二月までの御用 村用方日記	
2303	100	送り一札之事	弘化四年 未	一通	名主八郎九郎： 嶋田村太平右馬介	当村當十三一才を嶋田村半左衛門 の養子とする、宗門人別送る	
2304	101	(1) 差出申一札之事 (2) 作恐以書付奉願上候	弘化四年 未 三月	二通 一包	文次他、名主組頭衆 中、飯田御役所	文次差市十改め番十は家にいなかった が近年改めたので宗門復活願う	
2305	102	上飯田村国山権現釣鐘井鐘樓勤化取 集帳寛	弘化四年 未 三月	二冊	前嶋八郎九郎： 国山寺	国山寺の鐘樓と釣鐘の建造のため寄進 金の取り集め帳	
2306	103	弘化四年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳(二冊) (6) 鉄砲御改帳 (7) 御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事(二冊) (9) 家人馬数御改帳	弘化四年 未 三月 弘化四年 未 一月吉日 弘化四年 未 三月	九冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村： 飯田御役所	増人五十七人(男二十六人、女三十一人)、 減人三十九人(男十八人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十七軒 人数三百四十八人(男七百二十九人、女六百十九人) 馬数三十五匹 (5)「五人組書上帳」の一冊は各人の石 高を記したものである (7)「御樽木山証文」の一冊は小百姓 不殘証文である	
2307	104	神納之事	弘化四年 未 八月一日	一通	柴田日向守・大河原 村前嶋八郎九郎	太神樂永代加入金の受け取り	
2308	105	(今年本年貢帳)今年御年貢御樽不成 勘定取立皆済納帳	弘化四年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化三年分年貢取りたて帳	
2309	106	今年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	弘化四年 未 八月	一冊	大河原村名主会所	弘化三年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	

2310	弘化 107	千年御口米代小前取立皆済帳	弘化四年未 八月	一冊	大河原村名主所	弘化三年分の口米代取り立て帳	
2311	108	本新田畑并焼畑高取渡口覚帳	弘化四年未 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の分の年貢を納めたる めの仕訳、譲渡渡し口の覚え	
2312	109	本新田畑并焼畑高取請取口覚帳	弘化四年未 八月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑と焼畑の分の年貢を納めたる めの仕訳、譲渡請取口の覚え	
2313	110	当米年御年貢初納二納割付取立帳	弘化四年未 十一月廿四日	一冊	名主所	弘化四年分年貢の初納二納取立帳	
2314	111	覚	弘化四年未 十月、十一月	五通	湯淺貞左衛門、 大河原村名主	当年分国役金、納入要金、米食米代、 酒造享加金の受け取りと口米算覚え	
2315	112	借用仕金予之事	弘化四年未 十一月十六日	一通	大河原村八郎九郎 他・市岡孝太郎	講金の内金五十両の借用書、担保は畑 地七反九畝七分高七石二斗八升四合	
2316	113	借用仕金予之事	弘化四年未 十一月	二通	八郎九郎・孝助、和 五郎・市岡實太郎	湯淺様無尽講證文の控え	
2317	114	当米年御年貢初納二納耕地で小代 判取集方書付渡候控江	弘化四年未 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	弘化四年分年貢の初納二納は各耕地 で小代判が取集めを覚え	
2318	115	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	弘化四年未 十二月二十三日	二通 一包	惣百姓代、小代判、 名主組頭衆中	米年惣百姓代、小代判を仕するにあた つて差し出す一札	
2319	116	開作植付米食押借金年賦御返納門家 被官共分取立帳	弘化四年未 十二月	一冊	八郎九郎	押借金の返納被官分取り立て帳	
2320	117	当米年村入用家別取立帳	弘化四年未 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化四年分の村入用費、家別取り立て 帳	
2321	118	当米年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	弘化四年未 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	弘化四年分の村入用費取り立て帳	
2322	119	千年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	弘化四年未 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	弘化三年分の年貢、口米代の取立計算 帳	
2323	120	当米年国役高掛り金貯穀代取集御押 借金返納村入用米銭取立差引帳	弘化四年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化四年分国役金など取りたて計算 帳	
2324	121	当米年国役金高掛割付取立納帳	弘化四年未 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化四年分国役金の取りたて帳	
2325	122	貯穀小前割付御預帳	弘化四年未 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀として大麦を取集めて預かる覚え	

2326	弘化123	開作・植付・大食・押借・金・年賦・御返納・取立帳	弘化四年 未十二月	一冊	大河原村名主所	開作・植付は・大食のため・押借した金を・年賦で返す、当年分・取集め	
2327	124	当未・年・薪・代・運上・取調帳	弘化四年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭・会所	弘化四年分の・薪・代・運上調への・報告帳	
2328	125	田畑・譲引・高・分入・用取立帳	弘化四年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	田畑・譲渡の際・高・取に必要・経費・取り立て帳	
2329	126	寛	(弘化四年) 未	六通	各地寺、宮、大河原村	浅草・横・随・院、三州伊賀・御宮、白山寺の・勧化金・受け取り	弘化四年の・袋入り
2330	127	(諸々・請取仕切)	弘化四年 未	六十通	(諸々)・前嶋氏	諸々・受け取り・覚え	
2331	128	書簡	弘化元年(天保十五年)辰から弘化四年未	百三十八通	(鑑乏)・前嶋八郎九郎	日常・諸・書簡、絵入、植物・販・画・書簡袋が目立つて多い、弘化元年四十六、二年二十六、三年五十二、四年十四通	

嘉永

整理番号	年号別番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
2332	嘉永1	当申・年・御用・村用・記録	嘉永元年(弘化五年)申一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正卿	嘉永元年一月から十二月までの御用・村用・方日記	
2333	2	差出申一札之事	(弘化五年)嘉永元年申一月十一日	二通 一包	種右衛門他、 名主組頭衆中	惣百姓代から差し出した一札が遅れた、百姓代を和へ、さう二通下書き	
2334	3	送り一札之事	(弘化五年)嘉永元年申二月	一通	上村名主・大河原村名主中	当村平八娘・さのは大河原村・文平に嫁す、村送りする	

2335	嘉永 4	弘化五年 宗門御改帳 (1) 宗門増減下改帳 (3) 宗門御改帳 (4) 増減御改帳 (5) 門屋被官五人組帳 (6) 鉄砲御改帳 (7) 御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9) 家人馬數御改帳	嘉永元年(弘化五 年)申 三月 嘉永元年(弘化五 年)申 一月吉日 嘉永元年(弘化五 年)申 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十六人(男三十二人、女二十四人)、減人三十六人(男十五人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千三百六十八人(男七百四十六人、女六百三十二人) 馬数三十五匹	
2336	5	(書付字)	嘉永元年申 三月廿四日	一通	(役所)?・潮来村彦 兵衛、同人妻	男子十五人を養育した褒美の書付亭し、他に女子も五人いた	
2337	6	古検井辰御検地高反別寄附帳	嘉永元年申 五月	一冊	大河原村名主所	古検と辰年検地による高反別の覚え	
2338	7	作忍以書付奉願上候	嘉永元年申 六月二十二日	一通	小野村他村々名主・ 飯田御役所	江戸養屋敷の修復入用のため金予を用立てよとのことが、断りたい	
2339	8	(1) 小嶋市右衛門様御廻村御泊入用帳 (2) 御料理献立	嘉永元年申 六月	一冊 一枚	名主組頭百姓代会 所	小嶋市右衛門廻村し一泊した際の諸入用帳、および六月一日夜の料理献立	
2340	9	村送り一札之事	嘉永元年申 七月	一通	名主八郎九郎・遠州 豊田郡中栗村名主	当村十歳弟重作三十四才は中栗村惣左衛門方にお世話になる、宗門送る	
2341	10	(弘化四未年本御年貢帳) 未年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	嘉永元年申 八月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化四年分の本年貢取り立て帳	
2342	11	未年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	嘉永元年申 八月	一冊	大河原村名主所	弘化四年分嶋川原新田の年貢取り立て帳	
2343	12	未年御口米代小前取立皆済帳	嘉永元年申 八月	一冊	大河原村名主所	弘化四年分口米代の年貢取り立て帳	
2344	13	本新田畑并焼畑高取渡口寛帳	嘉永元年申 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	弘化四年分本新田畑焼畑之高取渡し口	
2345	14	本新田畑并焼畑高取請取口寛帳	嘉永元年申 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	弘化四年分本新田畑焼畑之高取受け取り口	
2346	15	久々利御表御用達四分一家別取立帳	嘉永元年申 九月	一冊	八郎九郎他	久々利表御用立てた二十両の四分の一は家別に割って取り立てる	

2347	嘉永 16	久々利御表御用達四分三高当割付取 立帳	嘉永元年 申 九月	一冊	八郎九郎他	久々利表御用立てた二十両の四分の三 は高当たりで取り立てる	
2348	17	久々利御表御用達四分三高当四分一 家別割付取立勘定指引帳	嘉永元年 申 九月	一冊	八郎九郎他	久々利表御用立てた二十両の村人への 分担、取り立て計算帳	
2349	18	当申年御年貢初納二納割付書立帳	嘉永元年 申 十月廿四日	一冊	名主所	嘉永元年分の年貢、初納二納分割付 帳	
2350	19	書簡	(嘉永元年) 申 十月二十五日	一通	湯淺氏世話人・ 八郎九郎	かねて世話にふたふた黒揃えは昔月十 六日に行うのでおいでください	
2351	20	覚	(弘化五年) 嘉永元 年申 十月、十一月	七通	湯淺貞左衛門・ 大河原村名主	弘化四年分の国役金他受け取り覚え 五通、年貢などの納入日付の覚え	
2352	21	(定免切替村々御請證文) 差上申御請證文之事	嘉永元年 申 十一月	一冊	清内路鹿堀、大河 原村、飯田御役所	定免の切り替りの請け証文	
2353	22	(1) 差出申書付之事 (2) 差出申一礼之事	嘉永元年 申 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代他・ 名主組頭衆中	来年に惣百姓代、小代判を引き受ける にあたって一礼いれる	
2354	23	差出申一礼之事	嘉永元年 申 十二月十日	一通	種左衛門他五名・ 御役人衆中	堂垣外薬師堂前川原から上で新田開 発にかかわり川除する	
2355	24	開作樋付夫食拝借金年賦御返納門屋 被官共分取立帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	八郎九郎	開作樋付夫食拝借金の年賦による返 納金の取り立て帳	
2356	25	田畑譲り高分入用帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	田畑売買の際の必要経費を売り方と買 い方に割り付ける	
2357	26	当申年国役金高掛割付取立納帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永元年分の国役金の取り立て帳	
2358	27	開作樋付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作樋付け夫食のため借りた金字を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2359	28	当申年村入用家別取立帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永元年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2360	29	当申年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永元年分の村入用費の取り立て帳	
2361	30	本新田畑小前高辻帳	嘉永元年 申 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	嘉永元年申年十二月改めの本新田畑 高辻帳	
2362	31	来年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	嘉永元年 申 十二月吉日	一冊	大河原村名主所	弘化四年分年貢と口米代の取立計算 帳	

2363	嘉永 32	当申年国役高掛金貯穀代取集御拝借 金返納村へ用关銭取立差引帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永元年分の国役金など取り立て計算 帳	
2364	33	当申年新代連上取調帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永元年分新代連上の調査覚え	
2365	34	貯穀小前割付御預帳	嘉永元年 申 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を取集めて預かる覚 え	
2366	35	覚	(嘉永元年)	四通		金子受け取り覚え他	弘化五年 袋入り文書
2367	36	(諸向請取仕切) 覚	(弘化五年)嘉永元 年 申	七十 二通	(諸々： 前嶋八郎九郎)	諸々請取、仕切り書覚え	
2368	37	書簡	嘉永元年 申	五十 九通	(諸々： 前嶋八郎九郎)	諸々日常書簡、短歌、連句の記述、絵 図一枚(深尾重教陣の図)入る	
2369	38	当酉年御用村用記録	嘉永二年 酉 一月吉日	一冊	前嶋八郎九郎正弔	嘉永二年一月から十二月までの御用 村用方日記	
2370	39	送り一札之事	嘉永二年 酉 一月	一通	名主八郎九郎・吉田 村庄屋源左衛門	当村与吉田仙十改名仲十郎三十二才 が吉田村へ引越す、宗門人別送る	
2371	40	(表題なし)	嘉永二年 酉 二月十九日	一通	大河原村和五郎、八 郎九郎他三宅肥後	大河原村神祇道御教陰の感謝の書き 付け	
2372	41	吉田御殿宇生御出役三宅肥後殿廻村 止宿諸人用取調帳	嘉永二年 酉 二月十九日	一冊	大河原村会所	三宅肥後殿廻村、宿泊した時の諸人用 帳	
2373	42	嘉永二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	嘉永二年 酉 三月 嘉永二年 酉 一月吉日 嘉永二年 酉 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村： 飯田御役所	増人七十四人(男三十六人、女三十八 人)、減人四十六人(男二十人、女二十 六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千三百九十六人(男七百六十二 人、女六百三十四人) 馬数三十五匹	
2374	43	申年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	嘉永二年 酉 八月	一冊	大河原村名主会所	嘉永元年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	

2375	嘉永 44	(嘉永元申年本御年貢帳)申年御年貢御榎木成勘定取立並納帳	嘉永二年 西 八月	一冊	大河原村名主所	嘉永元年分の本年貢取り立て帳	
2376	45	申年御口米代小前取立並納帳	嘉永二年 西 八月	一冊	大河原村名主所	嘉永元年分口米代の年貢取り立て帳	
2377	46	久々利御表御用金四分一家別取立帳	嘉永二年 西 十月	一冊	大河原村名主会所	久々利表に用立てた御用金十五両二分の四分一は家別に取り立てる	
2378	47	久々利御表御用金四分三高当割付取立帳	嘉永二年 西 十月	一冊	大河原村名主会所	久々利表に用立てた御用金十五両二分の四分三は高当たりで取り立てる	
2379	48	久々利御表御用金四分三高当四分一家別取立勘定指引帳	嘉永二年 西 十月	一冊	大河原村名主会所	久々利表に用立てた御用金十五両二分の取り立て計算帳	
2380	49	覚	嘉永二年 西 十月、十一月	五通	湯浅儀兵衛・ 大河原村名主	国役金、米銭、酒造買加永などの納入受け取り	
2381	50	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	嘉永二年 西 十二月十九日	二通 一包	惣百姓代他・ 名主細頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたって一札いれる	
2382	51	開作植付夫食拝借金年賦御返納門屋被官共分取立帳	嘉永二年 西 十二月	一冊	八郎九郎	開作植付夫食拝借金年賦による返納金の取り立て帳	
2383	52	申年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	嘉永二年 西 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	嘉永元年分年貢、口米代の取立計算帳	
2384	53	書簡	嘉永二年 西	二十 五通	(諸人・前嶋八郎九郎・善五郎	日常書簡、短歌、俳句の記述あり	
2385	54	(諸々請取仕切)	嘉永二年 西	八十 八通	(諸人・前嶋八郎九郎・善五郎	諸々受け取り仕切りの覚え、法事のための買物受け取り	
2386	55	覚	嘉永二年 西	三通		金子受け取り覚書など三通	
2387	56	送り一札之事	嘉永三年 戌 一月	二通	名主八郎九郎・飯田宿庄屋	名主八郎九郎の次男才七郎十八才を飯田良左衛門方へ養子、宗門人別送る	
2388	57	送一札之事	嘉永三年 戌 二月二十八日	一通	名主八郎九郎・山吹村庄屋和三郎	当村善三郎姉あとの二十九才、山吹村周蔵の女屋になど、宗門人別送る	
2389	58	宝暦七丑荒焼畑水流所名寄帳	嘉永三年 戌 三月	一冊	名主会所	宝暦七年に荒所となつた田畑などの面積と持ち主名	
2390	59	持林名寄惣高	嘉永三年 戌 五月六日	一冊		私有林の持ち主と面積の書き出し	

2391	嘉永 60	辰巳子御検地御野帳字	嘉永三年 戌 五月	一冊	名主会所(兵四郎)	延宝の嘉五郎分、右馬之丞分被官兵 四郎に確認のため渡された野帳の写し	
2392	61	(御検地御野帳字請取書) 差出申請取之事	嘉永三年 戌 六月	一冊	園助他: 名主衆中	検地のたひに受け取っていた野帳字しを 今回も受け取って銘々確認した	
2393	62	往来一札	嘉永三年 戌 十一月二十九日	一通	盛久寺: 御役人衆中	濃州豊那郡山田村友蔵は御宗門徒、 普光寺参り、同人の戒名と更われる同 封	
2394	63	書簡	嘉永三年 戌	七十 九通	(諸人・前嶋八郎九 郎・嘉五郎	日常諸々書簡	
2395	64	(諸所請取仕切書および書簡)	嘉永三年 戌	九十 九通	(諸人・前嶋八郎九 郎・嘉五郎	諸々受け取り、仕切りの覚え書簡	
2396	65	当亥年御用村用記録	嘉永四年 亥 一月吉日	一冊	前嶋嘉五郎政美	嘉永四年一月から十二月までの御用 村用万日記政美二十七才)	
2397	66	萬駄賃改帳	嘉永四年 亥 一月吉日	一冊	前島氏	穀類、塩など駄賃、飯田上下荷物など の覚え	
2398	67	送り一札之事	嘉永四年 亥 一月	一通	名主嘉五郎: 山村庄屋喜源治	当村併右衛門三十八才は山村四郎八 の養子になる宗門人別送る	
2399	68	嘉永四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	嘉永四年 亥 三月 嘉永四年 亥 一月吉日 嘉永四年 亥 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人七十九人(男三十七人、女十二 人)、減人五十八人(男三十人、女二十 八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十七軒 人数千四百二十二(男七百六十七 人、女六百五十五人) 馬数三十五匹	
2400	69	濃州豊那郡馬場山田村死人一件入用 帳	嘉永四年 亥 三月	一冊	大河原村名主所	他村事件による必要経費などの覚え	
2401	70	御見取田荒所小前帳	嘉永四年 亥 三月	一冊	大河原村: 飯田御役所	見取り田で荒所とされた地の届け	
2402	71	御高札御制札字	嘉永四年 亥 六月	二冊		正徳以来の高札制札の文字が消えて不 分の部分があるので嘉永四年に享	

2403	72	本新田畑并焼畑高沢渡口覚帳	嘉永四年 亥 八月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑、焼畑之売り買い高沢、渡し口の覚え	
2404	73	本新田畑并焼畑高沢請取口覚帳	嘉永四年 亥 八月	一冊	大河原村名主会所	本新田畑、焼畑之売り買い高沢、受け取り口の覚え	
2405	74	覚	嘉永四年 亥 十月八日	一通	普光寺清水良平他、 前嶋八郎九郎	奉納金の受け取り状	
2406	75	当亥年御年貢初納二納割付取立帳	嘉永四年 亥 十月二十三日	一冊	大河原村名主所	嘉永四年分の年貢、初納二納の取立帳	
2407	76	作忍以書付奉願上候	嘉永四年 亥 十月	一通	名主普五郎他村役人、 飯田御役所	入会山からミネバリ二本、棚、桂を切り出して売りたい	
2408	77	覚	嘉永四年 亥 十月、十一月	五通	湯浅貞左衛門、 大河原村名主	国役金、酒造実加金、夫金返納金、などの受け取りと納入期限の知らせ	
2409	78	当亥年御年貢初納二納耕地二小代判取集方書付渡歴控	嘉永四年 亥 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	嘉永四年分年貢初納二納の取集め帳、 嘉永五年分もこの紙面で集める	
2410	79	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	嘉永四年 亥 十二月二十三日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたり一札いれる	
2411	80	田畑譲引高沢入用取立帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	田畑の売買高沢の際の必要経費取り立て帳	
2412	81	御年貢曉零改帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永三年から慶応元年までの年貢、口米代減金(ほり)の覚え	虫食い
2413	82	当亥年村入用家別取立帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永四年分の村入用費の家別取り立て帳	
2414	83	当亥年村入用郷中割付取立小前割掛 皆清帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永四年分の村入用費の取り立て帳	
2415	84	市岡様御頼金四分一家別割付帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村会所	二百六十五軒、一軒に二十文を市岡様に用立てる金子の四分の一とする	
2416	85	市岡様御頼金四分三高当割付帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	名主会所	市岡様に用立てる金子の四分の三は高当たりで割り付ける	
2417	86	当亥年国役金高掛割付取立納帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永四年分の国役金の取り立て帳	
2418	87	当亥年薪代運上取調帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永四年分薪代運上の調査、覚え	

2419	88	開作植付夫食押借金年賦御返納取立帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付は夫食のため借りた金子を年賦で返す、当年分の取り立て	
2420	89	貯穀小前割付御預帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての大麦を取集め預かる覺え	
2421	90	当亥年国役高掛金貯穀代取集御拝借金返納村入用夫錢市問様御講金取立差引帳	嘉永四年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永四年分国役金などは引き取りたくて計算帳	
2422	91	書簡	嘉永四年 亥	五十通	(諸人・前島八郎九郎・善五郎	もちろん日常書簡、べりー米船のこと、当時の諸物価、相場など	
2423	92	寛	嘉永四年 亥	八通		各種勸化金子の受け取り	嘉永四年の袋入り文書
2424	93	書簡	嘉永四年 亥	二通		鹿塩村名主から板山一件について、中村左兵衛から寄進を願う書簡	嘉永四年の袋入り
2425	94	(諸請取仕切)寛	嘉永四年 亥	三十四通	(諸人・前島八郎九郎・善五郎	諸々請取、仕切りの寛え書簡	
2426	95	当子歲御用村用記録	嘉永五年 子 一月吉日	一冊	前嶋善五郎政美	嘉永五年一月から十二月までの御用村用日記	
2427	96	萬駄賃改帳	嘉永五年 子 一月吉日	一冊	前島氏	嘉永五年分の方駄賃寛え	
2428	97	送り一札之事	嘉永五年 子 二月	一通	嶋田村八幡別当・名主善五郎	当寺領米蔵の娘く、二十一才を大河原村今右衛門伴龍之助の妻とする	
2429	98	知満和尚隱居金請取之事	嘉永五年 子 三月十六日	一通	甲州湧居寺・香松寺	和尚隱居金としてこれまで受け取った額と合わせ、七両すべて受け取った	
2430	99	送り手形一札之事	嘉永五年 子 三月	一通	遠山上村名主与吉・大河原村役人	当村助佐の娘は大河原村八左衛門の嫁になる、宗門人別送る	

2431	100	嘉永五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	嘉永五年 子 三月 嘉永五年 子 一月吉日 嘉永五年 子 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村； 飯田御役所	増人五十五人(男二十六人、女二十九人)、減人三十九人(男十七人、女二十二) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百三十八人(男七百七十六人、女六百六十二人) 馬数三十五匹	
2432	嘉永 101	覚	嘉永五年 子 八月朔日	二冊	名主嘉五郎； 飯田御役所	天明八年から嘉永四年までの貯穀高、貯穀を行なつた年など一覽	
2433	102	御預所拾壹ヶ村御下穀井貯穀有高御 請書	嘉永五年 子 八月	一冊	大河原村他十一カ村； 飯田御役所	十一カ村の天明八年から嘉永四年までの貯穀と下穀のまとめ	
2434	103	荒所起返帳	嘉永五年 子 八月	一冊	大河原村名主嘉五郎； 飯田御役所	本新田畑で荒所となつた地の広さ、高、荒所となつた理由、持ち主など	
2435	104	御請	嘉永五年 子 八月	一通	十一カ村； 飯田御役所	貯穀帳は翌年三月に宗門帳とともに出したがこれからは当年に提出する	
2436	105	亥年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	嘉永五年 子 八月	一冊	大河原村名主会所	嘉永四年分嶋川原新田の年貢取り立て帳	
2437	106	(嘉永四亥年本御年貢帳)亥年御年貢御榑木成勘定取立皆済納帳	嘉永五年 子 八月吉日	一冊	大河原村名主所	嘉永四年分の本年貢取り立て帳	
2438	107	亥年御口米代小前取立皆済帳	嘉永五年 子 八月	一冊	大河原村名主所	嘉永四年分口米代の年貢取り立て帳	
2439	108	香松寺御留主居順番帳	嘉永五年 子 八月	一通		八月から方丈様が留守なので留守番を順番で行う	
2440	109	当子年御年貢初納二納割付取立帳	嘉永五年 子 十月二十三日	一冊	大河原村名主所	嘉永五年分の年貢、初納二納の取立帳	
2441	110	覚	嘉永五年 子 七月、十月	五枚		須磨福禅寺、泉州大金仏寺、向泉寺へ堂社修復の寄進の受け取りと分担	
2442	111	覚	嘉永五年 子 十月、十一月	五通	市岡芳太郎； 大河原村名主	国役金、納入要金などの受け取りと納入期限などの通知書き付け	
2443	112	受書	(嘉永五年)子 十一月吉日	一通	秋葉寺；大河原村前 嶋嘉五郎他世話人	秋葉寺への寄進七百二分三百十五文を受け取つた	

2444	113	亥年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	嘉永五年 子 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	嘉永四年分年貢、口米代の取立計算帳	
2445	114	当子貯穀小前割付御預帳	嘉永五年 子 十一月	一冊	信州伊那郡河村	表題の文書の見本	
2446	115	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	嘉永五年 子 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代割を引き受けるにあたって一札いれる	
2447	116	貯穀小前割付御預帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての大暮を取集め預かる覚え	
2448	嘉永 117	(1)(2)差出申一札之事 (3)左恐以書付奉願上候 (4)(5)左恐以書付奉申上候 (6)書付	(1、2)嘉永五年子 十二月四日 (3、4、5)嘉永五年子十二月	六通 一包	五郎左衛門その他、 名主他、 御役人衆中、飯田御役所	五郎左衛門が年貢皆済帳、貯穀帳やその他に印形を拒みお役所の届けに差し障ったことにご本人の詫状、その他覚書	
2449	118	当子年国役金高掛割付取立納帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永五年分の国役金取立帳	
2450	119	当子年村入用家別取立帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	嘉永五年分の村入用費の家別取り立て帳	
2451	120	当子年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	嘉永五年分の村入用費の取り立て帳	
2452	121	市岡様御頼金四分一家別割付帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	名主会所	市岡様に用立てる金子の四分の一を家別に割り付ける	
2453	122	市岡様御頼金四分三高当割付帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	名主会所	市岡様に用立てる金子の四分の三は高当たりで割り付ける	
2454	123	当子年市岡様御講金取集差引帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	市岡様に用立てる講金の取集め計算帳	
2455	124	当子年薪代運上取調帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	嘉永五年分薪代運上の調査、覚え	
2456	125	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主所	開作植付け夫食のため借りた金子を年賦で返す、当年分の取り立て	
2457	126	当子年国役高掛金貯穀代取集御拝借金返納村入用夫銭取立差引帳	嘉永五年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永五年分国役金など差引き取り立て計算帳	
2458	127	寛	嘉永五年 子	六通		各種金子の受け取り六通	嘉永五年 袋入り

2459	128	書簡	嘉永五年 子	四十 七通	(諸人、前島八郎九郎、豊五郎	もちろん書簡	
2460	129	(諸々請取仕切) 覚	嘉永五年 子	五十 三通	(諸人、前島八郎九郎、豊五郎	諸々受け取り、仕切りの覚	
2461	130	当丑歳御用村用記録	嘉永六年 丑 一月吉日	一冊	前嶋豊五郎政美	嘉永六年一月から十二月までの御用村用日記	
2462	嘉永 131	嘉永六年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	嘉永六年 丑 三月 嘉永六年 丑 一月吉日 嘉永六年 丑 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、 飯田御役所	増人五十一人(男二十七人、女二十四人)、減人四十二人(男二十四人、女十八人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百四十七人(男七百七十九人、女六百六十八人) 馬数三十五匹	
2463	132	夫錢帳貯穀帳雛形入	嘉永六年 丑 三月	二通 一包		夫錢帳と貯穀帳の様式見本	
2464	133	貯穀御預并当何年小前割付帳(雛形)	嘉永六年 丑 三月	一冊	(大河原村、 飯田御役所)	貯穀の預り帳、小前割付帳の様式見本	
2465	134	差出申一札之事	嘉永六年 丑 七月四日	一通	与三郎他三名、 惣御役人衆中	与三郎の弟浅五郎に間違えた事を持ちかけられ取調をうけ厄介をかけた	
2466	135	覚	嘉永六年 丑 七月二十二日	一通	十一カ村の三役人、 (飯田御役所)	殿様多病につき家督を主税様が継いだ、今後も諸事守て運ぶ	
2467	136	(1)乍恐奉願口上書 (2)紀州寺社御役所之添願字	嘉永六年 丑 七月二十二日	一冊 一通	熊野本宮、 飯田御役所	熊野本宮が寄進を願う口上書、紀州寺社御役所による願状の添え状	
2468	137	御触書請印帳字	嘉永六年 丑 七月	一冊	大河原村	嘉永六年四月と七月のお触書の写し	
2469	138	書簡(送)	(嘉永六年) 丑 八月七日	一通	大河原村惣役人、 智満寺	香松寺住職は度々の不幸により隠居したいとのことにつき	嘉永七年の 袋入り
2470	139	子年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	嘉永六年 丑 八月	一冊	大河原村名主会所	嘉永五年分嶋川原新田の年貢取り立て帳	
2471	140	(嘉永五子年本御年貢帳) 子年御年貢御榑木成勘定取立皆済納帳	嘉永六年 丑 八月吉日	一冊	大河原村名主所	嘉永五年分の本年貢取り立て帳	

2472	141	子年御口米代小前取立皆済帳	嘉永六年 丑 八月	一冊	大河原村名主所	嘉永五年分口米代の年貢取り立て帳	
2473	142	当丑年御年貢初納二納割付取立帳	嘉永六年 丑 十月吉日	一冊	大河原村名主所	嘉永六年分の年貢、初納二納の取立帳	
2474	143	覚	嘉永六年 丑 十月、十一月	五通	湯浅貞左衛門、 大河原村名主	国役金、納入要金などの受け取りと納 入期限などの通知書き付け	
2475	嘉永 144	書簡(号し)	嘉永六年 丑 十一月四日	一通	大河原村名主考助、 豊五郎、大瀧村名主	大金を携えた大瀧村晴次郎と大河原村 弥吉が伊勢参りて事件にちがった件	
2476	145	当丑年御年貢初納二納耕地二小代 判取集方書付渡候控	嘉永六年 丑 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	嘉永六年分年貢初納二納の取集め帳、 嘉永五年分も、の帳面で集める	
2477	146	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	嘉永六年 丑 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたって一札いれる	
2478	147	差出申一札之事	嘉永六年 丑 十二月	三通 一包	伴三郎、他二名、 御役人中	去七月、伴三郎、茂三郎、専左衛門の 三人が不埒に及び、後侮した	
2479	148	当丑年国役金高掛割付取立納帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永六年分の国役金取立帳	
2480	149	当丑年村入用家別取立帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永六年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2481	150	当丑年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永六年分の村入用費の取り立て帳	
2482	151	当丑年薪代連上取調帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	嘉永六年分薪代連上の調査、覚え	
2483	152	開作權付大食押借金年賦御返納取立 帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作權付け大食のため借りた金字を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2484	153	当丑年国役金高掛金御押借金返納納入 用夫錢取立差引帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永六年分国役金など差引き取りた て計算帳	
2485	154	子年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	嘉永六年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	嘉永五年分年貢、口米代の取立計算 帳	
2486	155	貯穀小前割付御預帳	嘉永六年 丑 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を取集めて預かる覚 え	
2487	156	書簡	嘉永六年 丑	八十 八通	(諸方、前嶋八郎九 郎、豊五郎	初夏便りの書簡、南山・山賊、痘瘡、医 師派遣、短歌俳句の記述あり	

安 政

2488	157	(諸々請取仕切) 覚	嘉永六年 丑	六十 通	(諸々、前島八郎九 郎、豊五郎	諸々受け取り、仕切りの覚	
2489	158	覚、書付(三通)	嘉永六年 丑	三通		金子受け取り、その他書き付け	嘉永六年 袋入り
2490	159	子年御年貢違之事	嘉永六年 丑	一通		子年に年貢計算に間違ひがあり返納す る分の覚書	嘉永六年の 袋入り文 書

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
2491	安政 1	萬駄賃改帳	安政元年(嘉永七 年)寅 一月吉日	一冊	大河原村 志井島?	安政元年分の万駄賃覚え	虫食い
2492	2	当歳御用村用記録	安政元年(嘉永七 年)寅 一月吉日	一冊	前嶋豊五郎政美	安政元年一月七日から十二月二十一 日までの御用村用日記。政美三十才	
2493	3	差出し申一札之事	安政元年(嘉永七 年)寅 一月	一通	山村藤七、大河原村 庄屋豊五郎	嘉永四年大河原村から村送りの伴右 衛門難繼、宗門人列送りの一札	
2494	4	嘉永七年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	安政元年(嘉永七 年)寅 三月 嘉永七年 寅 一月吉日 嘉永七年 寅 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十三人(男二十八人、女二十五 人)、減人五十二人(男二十六人、女二 十六人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百四十八人(男七百八十一 人、女六百六十七人) 馬数三十五匹	
2495	5	(1)御手代渡辺定五郎機請勘定帳 (2)献立	安政元年(嘉永七 年)寅 四月八日	一冊 二枚	大河原村名主組頭 会所	冥加金土納じき渡辺權が四月八日か ら十四日まで、農村滞在中の諸々用	

2496	6	嶋川原新田正反別名寄帳	安政元年(嘉永七年)寅七月	一冊	大河原村名主所	嶋川原新田の持ち主別反別書き出し	
2497	7	丑年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政元年(嘉永七年)寅八月	一冊	大河原村名主会所	嘉永六年分嶋川原新田の年貢取り立て帳	
2498	8	(丑年本御年貢帳)丑年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	安政元年(嘉永七年)寅八月吉日	一冊	大河原村名主所	嘉永六年分の本年貢取り立て帳	
2499	9	丑年御口米代小前取立皆済帳	安政元年(嘉永七年)寅八月	一冊	大河原村名主所	嘉永六年分口米代の年貢取り立て帳	
2500	安政10	当富年御年貢初納二納割付取立帳	安政元年(嘉永七年)寅十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政元年分の年貢、初納二納の取立帳	
2501	11	指上申御請書之事	安政元年(嘉永七年)寅十月	一通	大河原、鹿塩両村、飯田御役所	殿様御参府に「さ入用金を大河原、鹿塩両村から貸す事につき請書	
2502	12	寛	安政元年(嘉永七年)寅十月十一月	六通	湯浅貞左衛門、大河原村名主	公儀上納金、国役金などの受け取りと、納入期限などの通知覚書	
2503	13	寛	安政元年(嘉永七年)寅十一月十五日	一通	桐山間屋、大河原村役人	金子の受け取り	嘉永七年袋入り
2504	14	(1)祭礼勸化帳(九冊) (2)御神事諸入用帳(一冊) (3)祭礼寄進供物札	安政元年(嘉永七年)寅十一月二十六日	十冊		(1)各耕地小代判が世話にて寄進の覚え(2)祭礼入用帳(3)祭り当日供物札多数、大地蔵につき無難の願掛け、たしおれの祭礼	
2505	15	御講御受書之事	安政元年(嘉永七年)寅十一月	一通	豊五郎他二名、渡辺定五郎	発起された講に来年から十一年季で年々取集める	
2506	16	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安政元年(嘉永七年)寅十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他、名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたって一札いれる	
2507	17	差上申御請證文之事	安政元年 寅十二月	一冊	南山村他五力村、飯田御役所	質屋稼業の冥加承、弘化元年から十一年季明け、当年から十年は十文増承	
2508	18	当富年国役金高掛割付取立納帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主会所	安政元年分の国役金取立帳	
2509	19	当富年村入用家別取立帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	安政元年分の村入用費の家別取り立て帳	
2510	20	当富年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	安政元年分の村入用費の取り立て帳	

2511	21	当寅年薪代連上取調帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	安政元年分薪代連上の調査、覚え	
2512	22	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け夫食のため借りた金亨を年賦で返す、当年分の取り立て	
2513	23	当寅年国役高掛金御拝借金返納利入用夫銭貯穀取立差引帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主会所	安政元年分国役金など差引き取りたて計算帳	
2514	24	丑年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	大河原村名主会所	嘉永六年分年貢、口米代の取立計算帳	
2515	25	安政 貯穀小前割付御預帳	安政元年(嘉永七年)寅十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての大麦を取集めて預かる覚え	
2516	26	書簡	安政元年(嘉永七年)寅	六十通	(諸々・前嶋八郎九郎、喜五郎政美)	諸方より日常書簡、安政大地震のこゝと幕末世相の記述あり	
2517	27	(諸々請取仕切) 覚	安政元年(嘉永七年)寅	七十一通	(諸々・前嶋八郎九郎、喜五郎政美)	諸々受け取り仕切りの覚え(整理袋の一(は)は黒様を描かれている)	
2518	28	当卯歳御用村用記録	安政二年 卯 一月吉日	二冊	前嶋喜五郎政美	安政二年一月七日から九月、十月から十二月の御用村用日記	
2519	29	萬御通	安政二年 卯 一月吉日	一冊	松好屋金作、大河原村	よろず通い帳	
2520	30	村送一札之事	安政二年 卯 一月	一通	林村名主新右衛門、大河原村名主中	当村五ハ女子十四才を大河原村常三郎の嫁にする、宗門人御送る	
2521	31	安政二年宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山証文門屋被官分 差上申證文之事(二冊) (9)家人馬數御改帳	安政二年 卯 三月 安政二年 卯 一月吉日 安政二年 卯 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人四十九人(男十九人、女三十人)、減人四十一人(男十八人、女二十三人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家數二百五十七軒 人數千四百五十六人(男七百八十二人、女六百七十四人) 馬數三十五匹 (7)御樽木山証文の一冊は小百姓不殘証文である	
2522	32	桶合喜橋繁領地金名番請三付鍵地金古鎌勘化帳	安政二年 卯 三月吉日	九冊	世話人松屋、桶合小兵衛、次助	古鎌または鎌(寄進者名簿)市場はじめ九耕地別	

2523	33	村送り一札之事	安政二年 卯 四月	一通	鹿嶋村名主傳兵衛、 名主豊五郎	当村榮兵衛を大河原村六左衛門被官 養子にするさかのばて宗門送る	
2524	34	(1)永代太々御神楽講中名面帳 (2)永代太々御寄附名面帳(一冊) (3)口演(回文)	安政二年 卯 一月、五月	四冊 一通	諏訪大祝家士樋口 記内、金子惣左衛 門大河原村中	諏訪商宮大明神太々神楽寄付帳、(未 使用四冊)と、太々神楽は五月二十八 日に行われるという通知回文	
2525	35	出華大社御守迎候人数名前并代銭取 調書入	安政二年 卯 五月	十一 枚		出華大社のいろいろなお守りを請ける 人数と名前、寄進のお金調べ	
2526	36	覚	安政二年 卯 八月	一通	上總村名主七兵衛、 飯田御役所	殿様廻村で当村は物入り多く大河原 村が援助金を出した、金子受け取った	
2527	37	(お礼状)	安政二年 卯 八月	一通	福与村ほか、 春山図書之助	神祇道の御教諭をくだり、福与村始 め七力村は感謝という	
2528	38	寅年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政二年 卯 八月	一冊	大河原村名主会所	安政元年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2529	39	(嘉永七寅年本御年貢帳)寅年御年 貢御榎木成勘定取立皆済納帳	安政二年 卯 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政元年分の本年貢取り立て帳	
2530	40	寅年御口米代小前取立皆済帳	安政二年 卯 八月	一冊	大河原村名主所	安政元年分口米代の年貢取り立て帳	
2531	41	書簡	(安政二年 卯 十月十五日)	一通	渡辺定五郎、 大河原村役人中	堀石見守領地山村の藤七が大河原村 半四郎に金を貸した、早々の返済を	安政二年 袋入り文 書
2532	42	(絵図)	安政二年 卯 十月十九日	一通		土地境界に関する絵図(書き損じ)	
2533	43	当卯年御年貢初納二納割付取立帳	安政二年 卯 十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政二年分の年貢、初納二納の取立帳	
2534	44	(定免切替村々御請證文写) 差上申御請書之事	安政二年 卯 十一月	一冊	大河原村他九力村	十力村の安永九年新田定免の切替、こ の年の定免を受けると少し増米する	
2535	45	当卯年御年貢初納二納耕地で小代 判取集方書付渡候控	安政二年 卯 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政二年分年貢の初納二納を各耕地 小代判が取り集めた寛え	
2536	46	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安政二年 卯 十二月廿三日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたって一札いれる	
2537	47	当卯年国役金高掛割付取立納帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政二年分の国役金取立帳	

2538	48	当卯年村入用家別取立帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政二年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2539	49	当卯年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政二年分の村入用費の取り立て帳	
2540	50	当卯年薪代運上取調帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政二年分薪代運上の調査、覚え	
2541	51	開作植付米食押借金年賦御返納取立 帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け米食のため借りた金子を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2542	安政 52	当卯年国役高掛金御押借金返納納入 用未銭貯穀代取立差引帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政二年分国役金などを差引き取りた て計算帳	
2543	53	寅年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	安政二年 卯 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政元年分年貢、口米代の取立計算 帳	
2544	54	貯穀小前割付御預帳	安政二年 卯 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を取集めて預かる覚 え	
2545	55	覚	安政二年 卯	六通	湯浅貞左衛門・ 大河原村名主	公儀上納金、国役高掛金、などの受け 取りと、年貢などの納入期限通知、	
2546	56	書簡	安政二年 卯	七十 通	(諸〴〵: 前嶋豊五郎	諸方より書簡、短歌記述あり	
2547	57	(諸〴〵請取仕切) 覚	安政二年 卯	七十 一通	(諸〴〵: 前嶋豊五郎	諸々受け取り、仕切りの覚え	
2548	58	差上申御請書之事	安政二年 卯	一冊	十一カ村	銀二十一枚を受け取り、十一カ村で分 ける、これは上納金の報奨金	
2549	59	覚	安政二年 卯	四通		各種金子の受け取り覚え	安政二年 書 袋入り文
2550	60	(書付)	(安政二年 卯)	三枚	(飯田御役所)・ 大河原、鹿塩村	殿様廻村について、遠見、迎え入込、皆 済勘定は八月十七日、大黒講のこと	安政二年 書 袋入り文
2551	61	覚	(安政二年 卯)	一通		当村八十歳以上の高齢者の書き出し、 九十六歳まで十九名、最高は九十六	安政二年 書 袋入り文

2552	62	(桶合高橋普請帳面入) (1)桶合高橋普請請入用取調勘定帳 (2)寛 (3)桶合高橋奈木井手摺普請入用帳 (4)桶合高橋諸廻間敷	安政二年 卯 十二月吉日 安政三年 辰 三月吉日 三月六日	四冊 一袋	大河原村名主所	桶合の高橋を普請する際に要した金 銭、資材などの覚書並び、 橋の各部分寸法の覚え	
2553	63	当屋歳御用村用記録	安政三年 辰 一月吉日	一冊	前嶋普五郎政美	安政三年一月七日から十二月二十 一日までの御用村用日記	
2554	64	送り一札之事	安政三年 辰	一通	名主普五郎・ 田村村喜十郎	当村伊左衛門弟唐九郎二十七才は田 村村常七の養子になる、宗門人別送る	
2555	65	村送り一札之事	安政三年 辰 一月	一通	上村名主字元・ 名主八郎九郎	当村普左衛門殿より三十七才を大河 原村惣七の養子とする、宗門人別送る	
2556	66	送り一札之事	安政三年 辰 一月	一通	名主普五郎・赤須村 名主平左衛門	当村彦作四十一才が赤須村新七の養 子になる、宗門人別送る	
2557	安政 67	安政三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山証文門屋被官分 差上申證文之事(二冊) (9)家人馬数御改帳	安政三年 辰 三月 安政三年 辰 一月吉日 安政三年 辰 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十人(男二十六人、女二十四 人)、減人三十五人(男十五人、女二十 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百七十二人(男七百九十三 人、女六百七十八人) 馬数三十五匹 (7)「御樽木山証文」の一冊は小百姓 不残証文である	
2558	68	差出申一札之事	(安政三年)辰 五月	二通	宗久寺普松寺、大河 原村名主・飯田役所	梵鐘調査につき、普松寺に一へ宗久寺 には無い	安政二年 袋入り文 書
2559	69	乍恐以事村奉願上候	安政三年 辰 七月	一通	大河原村三役人・ 飯田御役所	入会山釜沢、寺沢、山神津木の榎、釜 沢の八幡境内の榎を四畝一分で売る	
2560	70	卯年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政三年 辰 八月	一冊	大河原村名主会所	安政二年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2561	71	(安政二卯年本御年貢帳)卯年御年 貢御樽木成勘定取立皆済納帳	安政三年 辰 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政二年分の本年貢取り立て帳	

2562	72	卯年御口米代小前取立皆済帳	安政三年 辰 八月	一冊	大河原村名主所	安政二年分口米代の年貢取り立て帳	
2563	73	当辰年御年貢初納二納割付取立帳	安政三年 辰 十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政三年分の年貢、初納二納の取立帳	
2564	74	御年貢夫錢勘定中懸忘帳	安政三年 辰 十一月	一冊	大河原村	安政三年から万延元年までの懸忘帳	虫食いひと い
2565	75	寛	安政三年 辰 十月、十一月	五通	市岡芳太郎、 大河原村名主	二納、納入用、夫食返納、国役金などの受け取りと納入期限の通知	
2566	76	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安政三年 辰 十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたって一札いれる	
2567	77	寛	安政三年 辰 十二月	一通	市岡芳太郎、湯浅貞 左衛門、大河原名主	金子二十両の受け取り覚え	
2568	安政 78	当辰年国役金高掛割付取立納帳	安政三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政三年分の国役金取立帳	
2569	79	当辰年村入用家別取立帳	安政三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政三年分の村入用費の家別取り立て帳	
2570	80	当辰年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	安政三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政三年分の村入用費の取り立て帳	
2571	81	当辰年新代四分一家別割渡帳	安政三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政三年分新代の四分の一は家別に分配する	
2572	82	当辰年新代四分三高当郷中割渡帳	安政三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政三年分新代の四分の三は高当たりで分配する	
2573	83	開作樋付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	安政三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作樋付は夫食のため借りた金字を年賦で返す、当年分の取り立て	虫食いひと い
2574	84	当辰年国役高掛金御拝借金返納村入 用夫錢貯穀代新代割返取立差引帳村入	安政三年 辰 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政三年分国役金などを差引き取りたて計算帳	
2575	85	卯年新田御年貢本御年貢御口米代取 立差引帳	安政三年 辰 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政二年分年貢、口米代の取立計算帳	
2576	86	貯穀小前割付御預帳	安政三年 辰 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての小麦を集めて預かる覚え	
2577	87	書簡	安政三年 辰	三十 九通	(諸之、 前嶋豊五郎	日常諸々書簡、ベリ―来航の記事あり、短歌記述あり	

2578	88	寛、書簡	(安政三年)辰	十通		金子受け取り寛之書き七通、書簡三通	安政三年 袋入り文書
2579	89	書簡、書付	安政三年 辰	六通 一包	市岡芳太郎、湯浅貞 左衛門、大河原名主	市岡、湯浅量役人への貸し金返納の寛 之、借金などについての書簡五通	
2580	90	(諸請取仕切) 寛	安政三年 辰	九十 六通	(諸人) 前嶋善五郎	諸々受け取り、米酒仕切りの寛之、書 簡少々混在	
2581	91	当己歳御用村用記録	安政四年 巳 一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	安政四年一月七日から十月、十一月 から十二月までの御用村用日記	
2582	92	(一)送一札之事 (二)下駄ぎと書式(見本書ぎ付け)	安政四年 巳 一月十一日	二通	名主善五郎、 河野村庄屋	当村五郎左衛門娘うめ二十六才が河 野村弥十次の嫁になる、宗門人別送る	
2583	安政 93	借用金證文之事	安政四年 巳 一月	一通	市岡芳太郎湯浅貞 左衛門、大河原村役 人	十両の借用証文	
2584	94	書簡	(安政四年)巳 二月三日	一通	松山和五郎、 前嶋善五郎	会合に出られず、印形でぎす失礼し た、後日にする	安政四年 袋入り文書
2585	95	書簡	(安政四年)巳 二月六日	一通	市岡九八郎、 大河原村善五郎	殿、樵入用の蜜峰を早速差し出しの礼 状、殊のほかお喜びだ	安政四年 袋入り文書
2586	96	差上申書付之事	(安政四年)巳 二月	一通	大河原村他七カ村 名主、飯田御役所	預かり所八カ村、米穀は別として他の 産物品々、小細工物など多少はある	安政四年 袋入り文書
2587	97	差出申一札之事	安政四年 巳 三月	二通	忠治郎、茂三郎、 御中間所中	最近私についてよくない風聞あり、組頭 にもろのく今後行いを改める	
2588	98	(五人組書上帳) 差上申五人組手形之御事	安政四年 巳 三月	一冊	大河原村	安政四年に書き替えられた五人組諸 心得、法規	

2589	99	安政四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山還文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	安政四年 已 三月 安政四年 已 一月吉日 安政四年 已 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十四人(男二十七人、女二十七人)、 減人五十二人(男三十二人、女三十人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百七十三人(男七百九十八人、女六百七十五人) 馬数三十五匹	
2590	100	永代橋普請寄進覺書	安政四年 已 四月吉日	九冊	各耕地世話人	大河原村耕地ごとに、寄進者の名前と 寄進額が記されている	
2591	101	永代橋普請諸入用払方帳	安政四年 已 四月吉日	一冊	大河原村名主会所	永代橋普請の際の諸経費支払い帳	
2592	102	永代橋普請人足并諸入用帳	安政四年 已 四月吉日	一冊	大河原村役人	永代橋普請に要した人側やその他諸経 費の覚え	
2593	103	書簡	(安政四年)已 六月二十三日	一通	渡辺定五郎・ 大河原村名主	甚十他六人の煙明を差押え、渡世難 渋の訴えがあったが、言い聞かせよ	
2594	104	差出申一札之事	安政四年 已 七月	四通	重左衛門他二名・ 大河原村役人	百姓入会山で渡世いたすが、無断で木 を切らず、御榑木山には、いらず、など	
2595	安政 105	辰年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政四年 已 八月	一冊	大河原村名主会所	安政三年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2596	106	(安政三辰年本御年貢帳)辰年御年 貢御榑木成勘定取立皆済納帳	安政四年 已 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政三年分の本年貢取り立て帳	
2597	107	辰年御口米代小前取立皆済帳	安政四年 已 八月	一冊	大河原村名主所	安政三年分口米代の年貢取り立て帳	
2598	108	秋葉山太々講帳	安政四年 已 九月	一冊	信州野地村大平新 右衛門他	遠州秋葉山太々神楽のため遠山六カ 村と鹿塩大河原村に産物奉納を願う	
2599	109	絵図	安政四年 已 十月十四日	絵図 一枚		下唐沢の東西、要右衛門焼畑、田地境 などの絵図	
2600	110	当巳年御年貢初納二納割付取立帳	安政四年 已 十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政四年分の年貢、初納二納の取立帳	
2601	111	乍恐以書付奉願上候	安政四年 已 十一月二十九日	一通	大河原村八郎右衛 門・飯田御役所	上蔵耕地野々宮大明神の杜木、楓、杉 を切つて売却したい	

2602	112	寛	安政四年己十一月十六日	五通	湯淺貞左衛門、大河原村名主	酒造室加金、納入用金、米金返納金など受け取りと納入時期通知	
2603	113	差出申一札之事	安政四年己十二月二十二日	一通	虎藏、御役人衆中	五葉松と煙子を無断で切て板子にして売ろうとした、申し訳ない	
2604	114	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安政四年己十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他、名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代割を引き受けるにあたって一札いれる	
2605	115	当己年国役金高掛割付取立納帳	安政四年己十二月	一冊	大河原村名主会所	安政四年分の国役金取立帳	
2606	116	当己年村入用家別取立帳	安政四年己十二月	一冊	大河原村名主組頭、会所	安政四年分の村入用費の家別取り立て帳	
2607	117	当己年村入用郷中割付取立小前割掛管渡帳	安政四年己十二月	一冊	大河原村名主組頭、会所	安政四年分の村入用費の取り立て帳	
2608	118	当己年薪代四分一家割割渡帳	安政四年己十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭、会所	安政四年分薪代の四分の一は家別に分配する	
2609	119	当己年薪代四分三高当郷中割渡帳	安政四年己十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭、会所	安政四年分薪代の四分の三は高当たりで分配する	
2610	120	開作權付米食拝借金年賦御返納取立帳	安政四年己十二月	一冊	大河原村名主会所	開作權付は米食のため借りた金等を年賦で返す、当年分の取り立て	
2611	安政121	当己年国役高掛金御拝借金返納納入用米銭貯穀代新代割返取立差引帳	安政四年己十二月	一冊	大河原村名主会所	安政四年分国役金など差引き取り立て計算帳	
2612	122	辰年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	安政四年己十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政三年分年貢、口米代の取立計算帳	
2613	123	貯穀小前割付御預帳	安政四年己十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての大麦を収集めて預かる寛え	
2614	124	寛	(安政四年己)	八通		金子受け取り寛えなど書き付け八通	安政四年 袋入り文書
2615	125	書簡	安政四年己	三十 六通	(諸方、前嶋豊五郎	諸々書簡、短歌記述あり	
2616	126	(諸々請取仕切) 寛	安政四年己	八十 八通	(諸方、前嶋豊五郎	諸々受け取り寛え、飯田および名古屋、出役中諸々受け取り、米仕切りの寛え	

2617	127	(送り状) 覚	安政四年 巳	二 十 八 通	(諸人、 前嶋善五郎	諸々送り状、受け取り覚え	
2618	128	要書簡 書付	安政四年 巳	二 十 一 通	(諸方、 前嶋善五郎	日常書簡、安政五年三月四月通商条 約に関する書付三通	
2619	129	当年歳御用村用記録	安政五年 午 一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	安政五年二月七日から十二月二十一 日までの御用村用日記	
2620	130	萬駄賃改帳	安政五年 午 一月吉日	一冊	大河原郷 忘井島?	安政五年分の万駄賃覚え	虫食い
2621	131	差出申一札之事	安政五年 午 一月十一日	一通	組合惣代定六、長 作名主組頭衆中	財兵衛の生活が不具合になり家族三 人とも旅費で、宗門人別除いてほしい	
2622	132	村中申合議定證文之事	安政五年 午 一月二十八日	一冊	大河原村村中一同 連印	バク子取締りの取り決め、村中一同取 り決め、連印	
2623	133	送り一札之事	安政五年 午 一月	一通	長峯庄屋津作、 大河原村八郎九郎	当村源七弟義太郎三十二才、横谷耕 地菊蔵の養子になら、宗門人別送る	
2624	134	作忍以書付奉願上候	安政五年 午 一月	一通	大河原村八郎右衛 門、飯田御役所	持ち林から薪木を切り出して売りたい	
2625	135	永代橋再建諸入用帳	安政五年 午 一月	一冊	大河原村名主会所	永代橋再建にあたって要した諸入用費 の覚え	
2626	136	差出し申一札之事	安政五年 午 二月	一通	田村村基右衛門、 大河原村庄屋	大河原村常弥を子分にしたいので、宗 門人別を送ってほしい	
2627	安政 137	送り一札之事	安政五年 午 二月	一通	名主善五郎、 田村村庄屋衆中	当村喜代輔伯父浅太郎は弘化二年に 田村村へ移住して、宗門人別送る	
2628	138	(村送り一札) 送り切手之事	安政五年 午 二月	一通	山村庄屋源右衛門、 名主善五郎	当村きん二十五年と娘りん五才は大 河原村幸七郎の妻に、宗門人別送る	
2629	139	作忍以書付奉願上候	安政五年 午 二月	一通	大河原村伊左衛門、 飯田御役所	伊左衛門持ち薬師堂境内にある榎を 八本、薬師堂屋根増請のため売りたい	

2630	140	安政五年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山証文門屋被官分 差上申證文之事(二冊) (9)家人馬數御改帳	安政五年 午 三月 安政五年 午 一月吉日 安政五年 午 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十三人(男二十五人、女二十八人)、減人三十六人(男十八人、女十八人) 威士鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千四百九十人(男八百五人、女六百八十五人) 馬数三十五匹 (7)「御樽木山証文」の一冊は小百姓 不殘証である	
2631	141	差出申一札之事	安政五年 午 三月	一通	小槌嘉内 大倉兵右 衛門・大河原村役人	入会山内にて木地師稼業、ブナ、カツ ラ、ハンノキだけ切る、冥加金払う	
2632	142	乍恐以書付奉願上候	安政五年 午 三月	一通	大河原村幸七郎・ 飯田御役所	持ち林から薪木を切り出し売りたい	
2633	143	乍恐以書付奉願上候	安政五年 午 五月	一通	大河原村豊五郎・ 飯田御役所	持ち林から樫、桜計七本を切り出し 築地御門跡の材木にするため売りたい	
2634	144	(1)寛 (2)差出申一札之事	安政五年 午 七月、十月	二通	大河原村今右衛門・ 信濃屋勇助	材木伐出につき会所からの道のり見え ど、杣日雇米味噌入用など見え	
2635	145	巳年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政五年 午 八月	一冊	名主会所	安政四年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2636	146	(安政四巳年本御年貢帳)巳年御年 貢御樽木成勘定取立皆済納帳	安政五年 午 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政四年分の本年貢取り立て帳	
2637	147	巳年御口米代小前取立皆済帳	安政五年 午 八月	一冊	大河原村名主所	安政四年分口米代の年貢取り立て帳	
2638	安政 148	差出申一札之事	安政五年 午 九月	一通	小前惣代彦兵衛他・ 名主総頭惣百姓代	去年からの不作で困窮している、持ち 林から材木を伐出、御樽木山を通る	
2639	149	(1)遣作村作證文之事 (2)荷物運送請負證文之事	安政五年 午 十月	二通	名主他	駿州田代山宇西又谷から樹木切り出 し、荷物運送請負にと	
2640	150	当午年御年貢初納二納割付取立帳	安政五年 午 十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政五年分の年貢、初納二納の取り立 て帳	
2641	151	当午二年御年貢初納二納耕地二小代 判取集大書付渡候控	安政五年 午 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政五年分年貢の初納二納を各耕地 小代判が取り集めた見え	

2642	152	寛	安政五年 午	四通	飯田御役所、 大河原村名主	国役寛掛金、納入用金、酒造実加金、 夫食返納金の受け取り	
2643	153	差入申一札之事	安政五年 午 十一月十二日	一通	香松寺、 村役人中	鹿塩村塩泉寺で三十高講を行う、大 河原村中で半分を請け、名目は香松寺	
2644	154	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	安政五年 午 十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代小代割を引き受けるに あたって一札いれる	
2645	155	当午年国役金高掛割付取立納帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政五年分の国役金取立帳	
2646	156	当午年村入用家別取立帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政五年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2647	157	当午年村入用郷中割付取立小前割掛 管清帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政五年分の村入用費の取り立て帳	
2648	158	当午年薪代四分一家割割渡帳	安政五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政五年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2649	159	当午年薪代四分三高当郷中割渡帳	安政五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政五年分薪代の四分の三は高当たり で分配する	
2650	160	開作纏付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作纏付は夫食のため借りた金等を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2651	161	当午年国役高掛金御拝借金返納納入 用夫銭貯穀代新代連上割返取立差引 帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政五年分国役金など差引き取りた て計算帳	
2652	162	已年新田御年貢御年貢御口米代取立 差引帳	安政五年 午 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政四年分年貢、口米代の取立計算 帳	
2653	安政 163	貯穀小前割付御預帳	安政五年 午 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を集めて預かる寛 え	
2654	164	郷金貸付并預方改帳	安政五年 午 十二月	一冊	大河原村名主会所	郷金の貸し付け方と預かり方の寛え、 安政四年から慶応三年までのもの	
2655	165	(金札)	安政五年 午	三冊 一袋		安政五年午年分の金札(貯穀帳入れの 袋を利用していふ)	
2656	166	(諸々請取仕切書) 寛	安政五年 午	六十 七通	(諸々、 前嶋豊五郎	諸々受け取り仕切りの寛え(飯田池田 町古川屋粒中丹の袋一枚入る)	

2657	167	書簡	安政五年 午	六十 二通	(諸方)・ 前嶋善五郎	諸方より日常書簡、家業関係、その他つらう流行の記事あり	
2658	168	覚	安政五年 午	三通		各種金予を受け取り覚え	
2659	169	再々請私方覚	安政五年 午	一冊		いずれかの再請に対する寄進、金額など(寄進者名(永代様置請か))	
2660	170	送一札之事	安政六年 未 一月	一通	名主善五郎・ 遠山上村名主	当村大佐兄龍太郎四十五才を上村吉十の養子とする、宗門人別送る	
2661	171	送一札之事	安政六年 未 一月	一通	何村名主誰・ 何村名主	送一札の見本を書きか	
2662	172	当米歳御用村用記録	安政六年 未 一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	安政六年一月七日から十二月二十三日までの御用村用日記	
2663	173	萬御通	安政六年 未 一月吉日	一冊	松好屋金作・ 大河原村	よろず通い帳	
2664	174	村送り一札之事	安政六年 未 二月	一通	名主善五郎・ 座光寺村住屋	当村淺治郎弟治助三十才を座光寺村末吉の娘すゑの方へ入夫、宗門送る	
2665	175	送一札之事	安政六年 未 二月	一通	名主善五郎・ 河野村庄屋猪平	当村吉五郎の女房りの三十六才、離縁、河野村に厄介になるべ、宗門送る	
2666	176	差出申路用請一札之事	安政六年 未 二月	一冊	五左衛門他一同・ 名主組頭衆中	新代渡世に不法があったこの仕役所に出向くときは費用を分担する	
2667	177	以書面願上候御事	安政六年 未 三月	二冊	虎岩村九八郎他・ 大河原村善五郎他	大河原村に石灰焼石があり運び出して売りたい、お役所に取り次ぎ願う	
2668	178	書付	安政六年 未 三月	一通	松口郎・ 前嶋善五郎	安政五年九月以降、安政の大獄で処士横議で吟味中の飯田左近他預け先	

2669	安政 179	木地師一件諸書付	安政六年 未	計 二 一 通	(大鹿村誌(七)に詳細掲載)
		(一)差出申一札之事	安政四年巳十一月	二 通	(一)大河原村入会山で木地師渡世するにあたって差し出す一札の案文
		(二)書簡	安政六年未一月廿八日	一 通	(二)簡井木地師取締り方より大河原村役人へ
		(三)書簡	安政六年未三月	一 通	(三)大河原村役人から簡井公文所へ
		(四)書簡	安政六年未三月	一 通	(四)公文所と大河原村相互書簡
		(五)口書	安政六年未三月二 十八日	一 通	(五)大河原村善五郎による木地師引き払い口書
		(六)書簡	安政六年未四月	一 通	(六)大山石左近から木地師久兵衛、善兵衛への書簡
		(七)書簡	安政六年未四月廿 日	一 通	(七)釜沢山木地師から大河原村役人衆への書簡
		(八)御書二付乍恐以書付奉申上候	安政六年未四月	一 通	(八)名主善五郎から飯田御役所へ
		(九)乍恐以書付奉御歎訴候	安政六年未四月	二 通	(九)木地師書内、武左衛門から飯田御役所への歎願、一通は亭し
		(十)乍恐奉申上候事	安政六年未四月	一 通	(十)木地師方から大河原村役人衆中へ
		(十一)木地師一件二付飯田出勤中日記	安政六年未四月、五 月	二 冊	(十一)名主善五郎による木地師一件についての日記一と二
		(十二)木地師一件二付飯田詰中入用覚	安政六年未五月 安政六年未六月六 日	一 冊 一 通	(十二)木地師一件で飯田に出役中の諸入用帳
		(十三)書簡			(十三)簡井公文所大岩左近から飯田御役所へ
		(十四)書付	安政六年未七月九 日	一 冊	(十四)名主善五郎、八郎左衛門から渡辺定五郎への書内欠落、後日経過の報告
		(十五)(関連書付)		四 通	

2670	安政 180	安政六年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	安政六年 未 三月 安政六年 未 一月吉日 安政六年 未 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人五十三人(男二十一、女三十二人)、 減人三十三人(男十二人、女二十一人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千五百十人(男八百十四人、女六百九十六人) 馬数三十五匹	
2671	181	嶋川原新田高訳請取口覚帳	安政六年 未 八月	一冊	大河原名主会所	嘉永四年から安政五年までの年貢勘 定の新田分	
2672	182	千年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	安政六年 未 八月	一冊	大河原村名主会所	安政五年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	
2673	183	(安政五巳年本御年貢帳) 千年御年 貢御榑木成勘定取立皆済納帳	安政六年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政五年分の本年貢取り立て帳	
2674	184	千年御口米代小前取立皆済帳	安政六年 未 八月	一冊	大河原村名主所	安政五年分口米代の年貢取り立て帳	
2675	185	嶋川原新田高訳渡口覚帳	安政六年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	嶋川原新田の売買高訳、渡し口の覚え	
2676	186	本新田畑井焼畑高訳渡口覚帳	安政六年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑、焼畑の売買高訳、渡し口の 覚え	
2677	187	本新田畑井焼畑高訳請取口覚帳	安政六年 未 八月吉日	一冊	大河原村名主会所	本新田畑、焼畑の売買高訳、請取口の 覚え	
2678	188	当米年御年貢初納二納割付取立帳	安政六年 未 十月吉日	一冊	大河原村名主所	安政六年分年貢初納二納の取り立て 帳	
2679	189	木地仕一件入用惣ノ高帳	安政六年 未 十二月十七日	一冊	大河原村名主所	木地師一件で諸入用費の覚え	
2680	190	(安政六米年分御年貢埃割返帳) 嘉永三戌年より安政四巳年迄御年貢 埃割返帳	安政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主所	嘉永三年から安政四年までの年貢で端 数金がたまらしたので割り返す分	
2681	191	当米年国役金高掛割付取立納帳	安政六年 未 十二月	一冊	大河原村名主会所	安政六年分の国役金取立帳	

2682	安政192	当米年村入用家別取立帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政六年分の村入用費の家別取り立て帳	
2683	193	当米年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政六年分の村入用費の取り立て帳	
2684	194	当米年新代四分一家割割渡帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	安政六年分新代の四分の一は家別に分 配する	
2685	195	開作植付米食押借金年賦御返納取立 帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付は米食のため借りた金子を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2686	196	当米年国役高掛り金御押借金返納村 入用米銭貯穀代薪代運上割返取立差 引帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	安政六年分国役金などを差引き取りた て計算帳	
2687	197	午年新田御年貢御年貢御口米代御年 貢埃割返取立差引帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	安政六年分年貢、口米代などで出た残 りを割り返す分と取立分計算帳	
2688	198	貯穀小前割付御預帳	安政六年 未十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての小麦を収集めて預かる覚 え	
2689	199	田畑譲引高訳入用取立帳	安政六年 未十二月	一冊	大河原村名主会所	田畑の売買のために高分けした際の入 用費の取り立て帳	
2690	200	(請取) 覚	安政六年 未	十一 通	座光寺村住右衛門・ 前嶋豊五郎	諸々受け取り覚え	
2691	201	書簡	安政六年 未	四十 五通	(諸方・ 前嶋豊五郎	諸方よりの書簡	
2692	202	覚	安政六年 未	五通	大河原村名主組頭 会所他	小白木伐出および運上金・清田山・金 澤山などの内山からの伐出覚え	
2693	203	書簡	安政六年 未	十四 通	(諸方・ 前嶋豊五郎	安政六年郷用米書簡整理袋中の主に 豊五郎宛て書簡だが、必ずしも安政六 年ではないかもしれない	
2694	204	(書簡、請取覚、整理袋)	安政四巳年から安 政六未年	十四 通	(諸方・ 前嶋豊五郎	安政三二四年から六年までの書簡、受 け取り箋整理袋及び書簡など十四通	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
2695	万延 1	一札之事	万延元年(安政七 年)申一月	一通	福与村左治兵衛、三 左衛門・大河原村喜 兵衛	志す、男、女、の三人事情あて親 里に帰すので人別に加えはしい	
2696	2	(1)村送一札之事 (2)宗門送り一札之事	万延元年(安政七 年)申一月	二通	牛牧村庄屋、下市田 村松源寺、喜五郎、 香松寺	牛牧村やの三十才、大河原村兼五 郎妻になら、宗門人別送る	
2697	3	乍恐以上書奉申上候	万延元年(安政七 年)申閏三月廿四日	一通	大河原村新五郎他、 飯田御役所	新五郎伯母、なみが行方不明、捜索 したが見つからないことを帰ける	
2698	4	安政七年 (5)五人組書上帳	万延元年(安政七 年)申三月	一冊	信濃国伊那郡大河 原村・飯田御役所	五人組各人の石高の書き上げ	
2699	5	送一札之事	万延元年(安政七 年)申三月	一通	名主喜五郎、遠州秋 葉山寺内照壽院	当村半蔵伴勘太郎二十一才が照壽院 に厄介になら、宗門人別送る	
2700	6	本新田畑小前高辻帳	万延元年(安政七 年)申三月	一冊	大河原村名主所	本新田畑高辻帳	虫食いひと い
2701	7	印鑑帳	万延元年(安政七 年)申三月	一冊	大河原村名主所	万延元年三月から明治五年四月まで の印鑑帳	
2702	8	本新田畑荒所引き高小前帳	万延元年 申 八月	一冊	大河原村名主喜五 郎、飯田御役所	本新田畑で荒所となつた地と年貢引き 高についての調査	虫食いひと い
2703	9	(1)荒所帳 (2)覚	万延元年申五月、文 久元年酉八月	十三 通	大河原村勘定所	荒所の覚え字書きと、申年年貢納入の 覚えは文久元年	
2704	10	荒所下改中諸入用勘定帳	万延元年 申 八月	一冊	大河原村名主会所	荒所改めて必要なら諸経費の覚え	
2705	11	米年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	万延元年 申 八月	一冊	大河原村名主会所	安政六年分嶋川原新田の年貢取り立 て帳	

2706	万延12	(安政六末年本御年貢帳) 未年御年貢御樽米成勘定取立並納帳	万延元年 申 八月吉日	一冊	大河原村名主所	安政六年分の本年貢取り立て帳	
2707	13	未年御口米代小前取立並納帳	万延元年 申 八月	一冊	大河原村名主所	安政六年分口米代の年貢取り立て帳	
2708	14	覚	万延元年 申 七月、十二月	三通	大河原村名主所・ 木地師帶刀他二名	薪代運上金、前納後納分の受け取り	
2709	15	(絵図)	万延元年 申 十月十三日	十三 枚	豊五郎他	五月の洪水で流失した田畑を関係者 立会いで境界を定めた、各人控え	
2710	16	当申年御年貢初納二納割付取立帳	万延元年 申 十月吉日	一冊	大河原村名主所	万延元年分年貢初納二納の取り立て 帳	
2711	17	当申年御年貢初納二納耕地て小代 判取集書付渡候控	万延元年 申 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	万延元年分の年貢初納二納を各耕地 小代判が取集めた控え	
2712	18	当申貯穀小前割付預帳	万延元年 申 十一月	一冊	信州伊那郡大河原 村	万延元年分の貯穀としての大妻を取集 めて預かる覚え	
2713	19	一札之事	万延元年 申 十二月一日	一通	名主豊五郎・ 宿々村々衆中	庄右衛門四十二才女房すえ三十六才 津弥太十二才金毘羅参り往來一札	
2714	20	当申年国役金高掛割付取立納帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	万延元年分の国役金取立帳	
2715	21	当申年村入用家別取立帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	万延元年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2716	22	当申年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	万延元年分の村入用費の取り立て帳	
2717	23	当申年薪代四分一家別割渡帳	万延元年 申 十二月吉日	一冊	大河原村名主組頭 会所	万延元年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2718	24	当申年薪代四分三高当郷中割渡帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	万延元年分薪代の四分の三は高当たり で分配する	
2719	25	開作植付米食拝借金年賦御返納取立 帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け米食のため借りた金亨を年 賦で返す、当年分の取り立て	
2720	26	入用米銭貯穀代薪代運上割返取立差 引帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	万延元年分国役金と差引き取りた て計算帳	

2721	27	米年新田御年貢御年貢御口米代取立 差引帳	万延元年 申 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	安政六年分年貢、口米代の取立計算 帳	
2722	28	万延 時穀小前割付御預帳	万延元年 申 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	時穀としての大麦を取集めて預かる寛 え	
2723	29	郷金貸借金銭出入并利足勘定帳	万延元年 申 十二月	一冊	大河原村名主会所	万延元年から明治三年までの郷金貸 借会計帳	
2724	30	金札	万延元年 申 十二月改	一冊		万延元年十二月改めの金札	
2725	31	寛	万延元年(安政七年) 申	百十 六通	(諸人・ 前嶋氏	万延元年中の諸々受け取り寛え	
2726	32	書簡	万延元年 申	五十 通	(諸人・ 前嶋豊五郎	米、その他、日常書簡、桜田門一件擲 楯、幕府役職名簿、短歌俳句の記述	
2727	33	きぎんのころも	万延元年 申	一冊	三河羽田文庫蔵板	羽田野敬雄編中山繁樹跋、万延元年 刊行の『飢饉の時の食物の大略』増補 改定版(前嶋蔵書)	
2728	34	宗門方入用寛	万延元年(安政七 年)から慶応二年	一冊	大河原村	万延元年(安政七年)から慶応二年ま での宗門方入用寛帳	

文 久

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
2729	文久 1	当西蔵御用村用記録	文久元年 西 一月吉日	二冊	前嶋豊五郎政美	文久元年一月から十二月までの御用 村用日記	
2730	2	送一札之事	(万延二年)文久元 年 西 一月	一通	上村名主清兵衛・ 大河原村名主中	上村直右衛門娘のゑ二十二才を大河 原村仙六の嫁とする、宗門人別送る	
2731	3	(1)以書付奉願候 (2)乍恐以書付奉願上候	(万延二年)文久元 年 西 一月	二通 一包	兵助、源兵衛他・ 飯田御役所	兵助弟藤作は農業を嫌、常々遊方不行 跡につき勘当	

2732	4	萬駄賃改帳	(万延二年)文久元年 酉一月吉日	一冊	大河原郷 志意島氏?	文久元年分の万駄賃覚え	
2733	文久 5	書簡	文久元年 酉 二月十日	一通	前島善五郎、 前沢弥衛門	新兵衛が病死、栄助が養子になったが 離縁、宗門送り状も無く厄介けた	万延二年 袋入り文 書
2734	6	市岡佐藏様御出役之節入用帳	文久元年 酉 三月二十五日	一冊	大河原村名主所	御榑木山吟味、貯穀改め、酒造改めな ど市岡様廻村の際の入用帳	
2735	7	乍恐以書付奉願上候	(万延二年)文久元 年 酉三月	一通	大河原村和五郎、 飯田御役所	自分持ち林から欄目通り九尺廻り、 朽木につき薪にして売りたい	
2736	8	乍恐以書付奉願上候	(万延二年)文久元 年 酉三月	一通	大河原村和五郎、 飯田御役所	自分持ち林から欄目通り九尺廻り、 朽木につき薪にして売りたい	
2737	9	覚	文久元年 酉 三月	一通	名主善五郎他村役 人市岡佐藏	貯穀大麦と初をネズミに食われること も無く貯え年々新穀に替えている	
2738	10	差上申一札之事	文久元年 酉 三月	一通	名主善五郎他村役 人市岡佐藏	貯穀は蔵を建てて積み置き、改めを受 けることを承知した	
2739	11	万延二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御榑木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	文久元年(万延二 年) 酉三月 文久元年(万延二 年) 酉一月吉日 文久元年(万延二 年) 酉三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人六十三人(男二十九人、女三十四 人)、減人四十五人(男二十一人、女二 十四人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十七軒 人数千五百三十六人(男八百二十七 人、女七百九人) 馬数三十五匹	
2740	12	覚	文久元年 酉 四月	一通	名主善五郎他村役 人、飯田御役所	金十五両を御用立てするとの覚を書 き	
2741	13	印鑑帳	文久元年 酉 四月吉日	一冊	前嶋善五郎政美	文久元年から明治五年までの畑など地 代等記録帳	

2742	14	文久元酉高訳帳 (1)本新田畑井焼畑高訳請取口覚帳 (2)本新田畑井焼畑高訳渡口覚帳 (3)田畑糺引高訳入用取立帳 (4)嶋川原新田高訳渡口覚帳 (5)嶋川原新田高訳請取口覚帳	文久元年 酉 八月	五冊 一包	大河原村名主会所	文久元年の田畑高訳の覚え	
2743	15	御山入会山畑十分一帳	文久元年 酉 八月	一冊		入会山や畑産物である栗、大豆などの十分の一の納量覚え	虫食いひら
2744	文久 16	(万延元申年本御年貢帳) 申年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	文久元年 酉 八月吉日	一冊	大河原村名主所	万延元申申年分年貢の取立帳	
2745	17	本新田畑荒所小前帳	文久元年 酉 八月	一冊	普五郎	普五郎分の本新田、新畑のうち荒所に ななものの書きとめ	
2746	18	申年御口米代小前取立皆済帳	文久元年 酉 八月	一冊	大河原村名主所	万延元年分の口米代取りた帳	
2747	19	申年島川原新田御年貢取立皆済帳	文久元年 酉 八月	一冊	大河原村名主会所	万延元年申年分の島川原新田年貢の 取りた帳	
2748	20	文久元年酉八月荒所帳小前改之書留 端書入	文久元年 酉 八月	十枚 一包	政美	本新田畑荒所小前帳の下書き	
2749	21	御用(書付)	文久元年 酉 十月二十一日	一冊	杉山三郎兵衛他十 村平右衛門役人中	和宮様御下向に中山道木曾十一カ宿 助郷は古今稀な規模だが合カせよ	
2750	22	書簡	文久元年 酉 十月二十六日	一通	大河原村役人・ 鹿嶋村御役人中	和宮様御下向の助郷は鹿嶋村と状況が 同じなので同じようにしたい	
2751	23	覚	文久元年 酉 十月	二通 一包	飯田御役所・ 大河原村名主	文久元年の年貢高の決定、本途、高掛 小物成は前免の通り、一通は不足額覚え	
2752	24	覚	文久元年 酉 六月、十月、十一月	六通	飯田御役所・ 大河原村名主	本丸普請金、国役高掛金、酒造冥加 金、納入用金、夫食返納金の請け取と 通和	
2753	25	当酉年御年貢初納二納割付取立帳	文久元年 酉 十月吉日	一冊	大河原村名主所	文久元年分の年貢初納二納取りたて 帳	
2754	26	香松寺前御金勘化帳	文久元年 酉 十一月吉日	九冊 一袋	世話人	香松寺の大金寄進勘化帳、勘定書は同 年の用留に記されているとある	

2755	27	去年御年貢当夫銭勘定中諸入用覚帳	文久元年 西十一月	一冊	百姓代 儀左衛門和太八	万延元年分の年貢、文久元年分の入用費の百姓代願い分	
2756	28	書簡	文久元年 西十二月三日	一通	林良左衛門、前嶋善五郎	皇女和宮御下向について、中津川、三留野辺りでの様子	
2757	29	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文久元年 西十二月廿一日	二通 一包	総百姓代他、名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるにあたって一札いれる	
2758	30	差出置候一札之事	文久元年 西	一通	香松寺、忘心講世話人中	忘心講で集めた金二十両を借用する、返金は下作金と年々行う	
2759	文久31	申合議定証文	文久元年 西十二月	一冊	島川原新田連中	島川原新田で農作するものは力を各々せて洪水などを防ぐに注意約束	
2760	32	覚(書付)	文久元年 西	九通		諸々金子受け取り覚え書きなら書き付け	
2761	33	金札	文久元年 西十二月	一冊		文久元年十二月改めの金札	
2762	34	申年新田御年貢御年貢口米代取立差引帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主会所	万延元年分の年貢、口米代の取立差し引き計算帳	
2763	35	貯穀小前割付御預帳	文久元年 西十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての大麥を高当たりで割り付けて集めた覚え	
2764	36	当酉年村入用家別取立帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主会所	文久元年分村入用費の家別取り立て帳	
2765	37	当酉年村入用郷中割付取立小前割掛皆済帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主組頭会所	文久元年分村入用費の取り立て帳	
2766	38	当酉年新代四分一家別割渡帳	文久元年 西十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久元年分新代の四分の一は家別に分配する	
2767	39	当酉年新代四分三高当郷中割渡帳	文久元年 西十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久元年分新代の四分の三は高当たりで分配する	
2768	40	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け夫食のために借金した、年賦で返納する取り立て帳	
2769	41	当酉年国役金高掛割付取立納帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主会所	文久元年分国役金の取り立て帳	
2770	42	当酉年国役高掛金御拝借返納村入用夫銭貯蔵代新代連上割返取立差引帳	文久元年 西十二月	一冊	大河原村名主会所	文久元年分の国役金など諸費差し引き計算取立帳	

2771	43	覚、書簡	文久元年 酉	百五 通	諸人、 前嶋善五郎	諸々受け取り覚えと書簡、皇女和宮御 下向、助郷について短歌文書ある	
2772	44	覚	文久元年(万延二年)	八十 通	諸人、 前嶋氏	諸々受け取り覚え書き、母上榎飯田お いづの時の買物受け取り六通含む	
2773	45	当戌歳御用村用記録	文久二年戌 一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	文久二年一月から十二月までの御用 村用日記	
2774	46	送一札之事	文久二年 戌 一月	一通	名主善五郎、 福島村庄屋久兵衛	当村宗蔵、榎太二十九才を禮島村仙 治郎の養子にする、宗門人別送る	
2775	47	送一札之事	文久二年 戌 一月	一通	名主善五郎、 下殿島村庄屋清八	当村小七弟、栄六三十三才を下殿島村 うめの養子にする、宗門人別送る	
2776	48	萬駄賃改帳	文久二年 戌 一月吉日	一冊	志意島氏	文久二年分の万駄賃覚え	
2777	49	休り高改書抜帳	文久二年 戌 二月吉日	一冊	大河原村名主所	生産を中止している田畑の高改書出 し	
2778	50	地改中諸入用覚帳	文久二年 戌 三月二十三日	一冊	大河原村百姓代安 右衛門	土地改めの仕事中に必要だった者につ いて覚え書き	
2779	51	(1)一代神職前島頼負六十二歳 (2)乍恐以書付御尾奏申上候 (3)一札	文久二年 戌 三月	三通 一包	前島頼負(八郎九郎 正弼)、 飯田御役所	白川御殿門人になり免託、一代限りの 神職を務める、前島頼負と前嶋八郎 九郎正弼六十二才	
2780	52	本新田畑井見取場荒所小前帳	文久二年 戌 四月	一冊	大河原村名主所	本田、本畑、辰新田、辰巳新畑、安永 新田、新畑、寛延見取り田の諸書出し	
2781	53	酉年御年貢御勘定目録	文久二年 戌 七月	一通	名主善五郎他村役 人、飯田御役所	文久元年分年貢小物成などの目録	
2782	54	湯浅貞左衛門様渡辺延助様荒所起返 為御改御出役中諸入用覚帳	文久二年 戌 八月十一日	一冊	大河原村名主会所	屋佐、渡辺両役人が八月十一日から 十三日まで、禮村止宿中諸入用覚え	
2783	55	差上申御請書之事	文久二年 戌 八月十二日	一冊 一通	伝左衛門他、 名主組頭衆中	八十才以上のものに銭三貫文下さる、 三十一名(男十八名、女十三名)	
2784	56	荒所起返下改帳	文久二年 戌 八月	一冊	大河原村役人	水害、土砂石流等で荒所となった屋敷 地所、田畑、山林の面積と高	
2785	57	荒所起返帳	文久二年 戌 八月	一冊	大河原村、 飯田御役所	荒所起返しの田畑広さ、高さ等、理 由など	虫食い

2786	58	(文久元年酉年本御年貢帳) 酉年御年貢御糧米成勘定取立皆済納帳	文久二年 戌 八月吉日	一冊	大河原村名主所	文久元年申年分年貢の取立帳	
2787	59	酉年島川原新田御年貢取立皆済帳	文久二年 戌 八月	一冊	大河原村名主会所	文久元年分の島川原新田年貢の取り たく帳	
2788	60	酉年御口米代小前取立皆済帳	文久二年 戌 八月	一冊	大河原村名主所	文久元年分の口米代取りたく帳	
2789	61	(諸入用覚)	文久二年 戌 九月二十六日	一冊		九月二十六日に出て晦日飯田着、十月 朔日、二日飯田逗留、三日曙村、入用 の覚え書き	
2790	文久 62	安永新田畑免増御請帳	文久二年 戌 九月	一冊	預かり所十一力村、 市岡佐蔵、湯浅儀兵衛	安永新田畑の免を増加することを請け る	
2791	63	差出申一札之事	文久二年 戌 十月二十三日	一通	各耕地小代判、 名主組頭惣百姓代	近年悪銭多く、年貢夫銭勘定に差し 支える、村内で通用する金札を發行	
2792	64	相讓申新田證文之事	文久二年 戌 十月	一冊	利兵衛他、 文五郎	年貢の未進に借金が年々増え、力及ば ず島川原新田を讓る	
2793	65	当戌年御年貢初納二納割付取立帳	文久二年 戌 十月吉日	一冊	大河原村名主所	文久二年分の年貢初納二納取りたく 帳	
2794	66	覚	文久二年 戌 十一月十六日	四通	市岡佐蔵、 大河原村名主	酒造冥加金、夫食返納金、納入用金、 国役高掛金の受け取り	
2795	67	日掛御初穂奉納帳	文久二年 戌 十一月	一冊	秋葉山役寮、大河原 村世話人喜五郎他	秋葉山初穂神納の覚え書き、實際は献 金	
2796	68	当戌貯穀小前割付御預帳	文久二年 戌 十一月	一冊	大河原村	文久二年分の貯穀割り当て預り帳	
2797	69	当戌年御年貢初納二納耕地二小代 判取集書付渡候控	文久二年 戌 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久二年分の年貢初納二納の取集め覚 え、文久三年分もの帳面で行った	
2798	70	(金札)	文久二年 戌 十二月六日	二冊 一包		文久元年酉年金札、文久二年十二月 六日改め	
2799	71	借用申講金證文之事	文久二年 戌 十二月十日	一通	会所、 講連中	二十両をこれまでの講金として借用す る	
2800	72	御年貢当夫銭勘定中入用取集帳	文久二年 戌 十二月十四日	一冊	大河原村名主会所	年貢、夫銭の取集めに際して必要経費 の取集め帳	

2801	73	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文久二年 戌 十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他: 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あだてられれる	
2802	74	申合議定證文之事	文久二年 戌 十二月	一冊	豊五郎他村民連印	最近悪銭が多く、年貢夫錢に困つてい る。村内金札は村内限りを約束する	
2803	75	酉年新田御年貢御年貢御口米代取立 差引帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久元年分の年貢、口米代の取立差し 引き計算帳	
2804	76	当成年村入用家別取立帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文久二年分村入用費の家別取り立て 帳	
2805	文久 77	当成年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文久二年分村入用費の取り立て帳	
2806	78	当成年薪代四分一家別割渡帳	文久二年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久二年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2807	79	当成年薪代四分三毫当郷中割渡帳	文久二年 戌 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久二年分薪代の四分の三は高当たり で分配する	
2808	80	当成年国役高掛金御拝借返納村入用 夫錢貯穀代薪代連上割返取立差引帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久二年分の国役金など諸費差し引き 計算取立帳	
2809	81	開作權付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作權付け夫食のために借金した、年 賦で返納する取り立て帳	
2810	82	当酉年国役金高掛割付取立納帳	文久二年 戌 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久二年分国役金の取り立て帳	
2811	83	貯穀小前割付御預帳	文久二年 戌 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麥を高当たりで割り付 けて集めた覺え	
2812	84	京都加茂河桑番之事	文久二年 戌	一冊		文久二年七月京都四条河原に桑番さ れた島田左近について(文久二年書簡 整理袋中の文書)	
2813	85	(諸々御通帳)	文久二年 戌	十冊	各種商店、 前嶋豊五郎	飯田にある呉服、紙屋、金物、薬屋な ど各種買物の通帳	
2814	86	書簡	文久二年 戌	六十 二通	諸人、 前嶋豊五郎	文久元年と三年を混じり、主に文久二 年の書簡、その他雜少々	
2815	87	覺	文久二年 戌	百廿 八通	諸人、 前嶋豊五郎	諸々受け取り覺え	

2816	88	覚	文久二年 戌	一冊	預かり所十一カ村・飯田御役所	本丸普請にぎ、村々が上納金を出したこの募資として一丁銀十枚分ける	
2817	89	作忍以書付奉申上候	(文久二年) 戌	一通	清内路、鹿塩、大河原村名主・飯田御役所	ヒノキの種子が手に入るかに登えたこの秋に採取しておうか	文久二年 袋入り文書
2818	90	覚	(文久二年) 戌	十一通		種々金予う受け取りなど	文久二年 袋入り文書
2819	91	書簡	(文久二年) 戌	八通		位置岡佐蔵、渡辺延助などの書五郎への書簡	文久二年の 袋入り文書
2820	文久 92	戌年起返名寄帳	(文久二年) 戌	一冊		(万延元年の年号が見られるので文久二年)起返田畑の面積を高く覚	
2821	93	秋葉山勸化帳外	文久二年 戌	一件		秋葉山勸化帳(未使用)と秋葉山からの書状一件	
2822	94	当亥歳御用村用記録	文久三年 亥 一月吉日	三冊	前嶋善五郎政美	文久三年一月から十二月までの御用村用日記(三分冊)	
2823	95	送一札之事	文久三年 亥 一月	一通	名主善五郎・ 瀬与村住屋佐忠治	当村弥傳治殊やす二十二才は福与村半右衛門の嫁にまゝ、宗門人別送る	
2824	96	覚	文久三年 亥 一月	一通	大河原村名主藤一郎・飯田御役所	御用板木料の受け取り	
2825	97	差上申御請書之事	文久三年 亥 一月	一冊 一通	大河原村他九カ村・飯田御役所	安永新田定免切り替への請け書、少々増米のこと一通は請け書の原案か	
2826	98	萬駄賃改帳	文久三年 亥 一月吉日	一冊	前島氏	文久三年分の万駄賃覚え	
2827	99	(1、2)買入米請取駄賃改帳 (3)郷蔵普請諸入用賄帳 (4)郷蔵普請諸入用携帳	文久三年 亥 一月、六月、九月	四冊 一袋	大河原村名主所	貯穀の買入れ覚えと郷蔵普請の必要経費の覚帳	
2828	100	作忍以書付奉願上候	文久三年 亥 二月	一通	大河原村和五郎・飯田御役所	持ち林にある松木二百五十本程を二十一両で阿島村虎之助へ売りたい	
2829	101	廻状	文久三年 亥 三月一日	一通	白沢大へ・十一カ村名主	渡辺延助殿の小姓格になられた	

2830	102	差上申御請書之事	文久三年 亥 三月一日	一通	鹿塩村名主考之助、 飯田御役所	鹿塩村の文々の南北組分け争議、大河 原村善五郎が越名主に於る請書	
2831	103	文久三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬数御改帳	文久三年 亥 三月 文久三年 亥 一月吉日 文久三年 亥 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人二十九人男十一人、女十八人、 減人四十三人男二十一人、女二十二 人、 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十八軒 人数千五百三十二人(男八百十二人、 女七百二十人) 馬数三十五匹	
2832	文久 104	御尊三付申上候口上書之事	文久三年 亥 三月	一通	十か村名主、 飯田御役所	蚕稼事は安永十カ年で行ってきた、 蚕の出来が不良の時は減額を願った	文久三年 袋入り文 書
2833	105	覚	(文久三年)亥 四月九日	一通	大河原村名主右衛門、 荒町御役所	熊皮一枚の代金一向三分の受け取り	文治元年 袋入り文 書
2834	106	乍恐以書付奉願上候	文久三年 亥 四月	一通	大河原村名主鹿塩 村越名主飯田御役 所	熊皮の御用仰せ付けたい大河原鹿塩 周辺村々も当節は無い	
2835	107	名状(御用急)	文久三年 亥 七月二十一日	一通	飯田御役所、 鹿塩村組頭	頭分四名他四名、この名状書き次第出 頭せよ、病氣でも駕籠に乗り出頭せよ	
2836	108	書付御用	文久三年 亥 七月廿四日	一通	飯田御役所、 大河原村名主	鹿塩村小前が大勢きて越名主を辞める よう願うので前のとおりにする	
2837	109	御貯養新穀引替帳	文久三年 亥 七月晦日	一冊	大河原名主所(善五 郎)	貯穀として大麦を新穀と引き替えて預 かる覚え	
2838	110	書簡	文久三年 亥 八月二十七日	二通	名主善五郎・葛嶋、 峠、部奈村名主	当村から杉の大小角材を十本川下け し、阿島村虎之助へ売ら、村内を通る	
2839	111	乍恐以書付奉願上候	文久三年 亥 八月	一通	名主善五郎他村役 人飯田御役所	入会山の内土蔵向山の槻五本、唐沢で 十本を下駄などにするため売る	
2840	112	戊午御口米代小前取立皆済帳	文久三年 亥 八月	一冊	大河原村名主所	文久二年分の口米代取立帳	

2841	113	戌年島川原新田御年貢取立皆済帳	文久三年 亥 八月	一冊	大河原村名主会所	文久二年分の島川原新田年貢の取り たて帳	
2842	114	(文久三年高取帳) (1)本新田畑井焼畑高取渡口覚帳 (2)本新田畑井焼畑高取請取口覚帳 (3)嶋川原新田高取渡口覚帳 (4)嶋川原新田高取請取口覚帳 (5)田畑引高取入用取立帳	文久三年 亥 八月 十二月	五冊	大河原村名主会所	本新田畑、嶋川原新田の高取帳、五冊 一組	
2843	115	覚	文久三年 亥 九月廿四日	一通	香松寺、前嶋善五郎 他役人衆中	十両の受け取り証書	
2844	116	御達	(文久三年)亥 九月	一通	酒造掛かり郷田新 之助、野口源十郎	米値が各地出水で上がったので、酒造は 半分にせよ、密造などないように	文久三年 袋入り文 書
2845	117	当亥年御年貢初納二納割付取立帳	文久三年 亥 十月吉日	一冊	大河原村名主所	文久三年分の年貢初納二納取りたて 帳	
2846	文久 118	従公儀御触字	文久三年 亥 十月	一通	飯田御役所、 十一カ村	三条西中納言他六名、朝威を語って各 地で諸人を惑わしている、偽名も使う	文久三年 袋入り文 書
2847	119	(1)借用申金子之事 (2)覚	文久三年 亥 十月	二通	伊藤龜藏他、 (何村誰)	借用書の見本、覚えは金額、利息、返 済日の覚え書き見本	
2848	120	乍恐以書付奉願上候	文久三年 亥 十月	一通	名主重五郎他、 飯田御役所、	当村由五郎持ち林にある榎と入会山に ある桂を売りたて	
2849	121	覚	文久三年 亥 十月、十一月	四通	湯浅儀兵衛、 大河原村名主	国役金、納入用金、夫食返納金、酒造 冥加金の受け取り	
2850	122	(書付)	(文久三年)亥 十一月十九日	一通	渡辺延助、 大河原村他十カ村	湯浅貞左衛門と市岡佐藏が隠居し、湯 浅儀兵衛と市岡謙一郎に家督を譲る	
2851	123	統仁玉皇	(文久三年)亥 十一月十八日	一通	飯田御役所、 預かり所十一カ村	スエヒト統仁玉皇という御講について俗 名実名私れいらが改まる	文久三年 袋入り文 書
2852	124	外米改出し帳	文久三年 亥 十一月	一冊	大河原村名主所	米出し方の覚え	
2853	125	覚	文久三年 亥 七月、十二月	二通	大河原村、 飯田御役所	今般御入用金御せ付られ十二月に 上納する、四十二両二分の受け取り	

2854	126	(金札)	文久三年 亥 十二月五日	二冊 一包		文久三年改め金札	
2855	127	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	文久三年 亥 十二月廿一日	二通	惣百姓代他、 名主組頭衆中	来年惣百姓代、小代判を引き受けるに あたって一札いれる	
2856	128	借用申金予證文之事	文久三年 亥 十二月	一通	豊五郎他名主会所、 源蔵	四十二両二分の借用書、村入用要用の ため返済方法四年間で	
2857	129	差出申賒用請證文之事	文久三年 亥 十二月	一冊	豊五郎被官團助他 村民、名主組頭衆中	中山道伝馬使役を受ける証文、御樽 木山見回りなどに如え迷惑が受ける	
2858	130	戌年新田御年貢御年貢御口米代取立 差引帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久二年分の年貢、口米代の取立差し 引き計算帳	
2859	131	御年貢当夫錢勘定中入用取集帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢や夫錢を集める際に必要な経費の 取集め帳	
2860	132	当亥年薪代四分一家別割渡帳	文久三年 亥 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久三年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2861	133	当亥年薪代四分三高当郷中割渡帳	文久三年 亥 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久三年分薪代の四分の三は高当たり で分配する	
2862	文久 134	当亥年村入用家別取立帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文久三年分村入用費の家別取り立て 帳	
2863	135	当亥年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	文久三年分村入用費の取り立て帳	
2864	136	当亥年国役金高掛割付取立納帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久三年分国役金の取り立て帳	
2865	137	当亥年国役高掛金御律借返納村入用 夫錢薪代運上割返取立差引帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	文久三年分の国役金など諸費差し引き 計算取立帳	
2866	138	貯穀小前割付御預帳	文久三年 亥 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を高当たりで割り付 けて集めた覚え	
2867	139	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	文久三年 亥 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け夫食のために借金した、年 賦で返納する取り立て帳	
2868	140	借用申金予證文之事	文久三年 亥 十二月	一通	豊五郎外、 源蔵	村入用要用のため四十二両二分を借 用する	
2869	141	(山證文) 差出申一札之事	文久三年 亥	一通	木地師市五郎、 大河原村役人村方	入会山で木地師終業をする、フナ、カ ヅバ、ハンノキ以外はやらない、	

2870	142	文久三亥名前替り	文久三年 亥	一枚		豊五郎被官民五郎改名定治郎他十二名の改名覚書	
2871	143	郷蔵尊請立方之事	(文久三年 亥)	三通		住宅尊請の入れ仕様見積もり	
2872	144	書簡	(文久三年 亥)	六通		豊五郎から渡辺延助、浪合佐源太、貞祥寺へ、浄居寺から豊五郎へ一通	
2873	145	(書付)	文久三年 亥	二十二通		諸金子受け取り覚えその他書き付け	文久三年 書 袋入り文
2874	146	(諸々御通帳)	文久三年 亥	七冊	各種商店、 前嶋豊五郎	飯田にある呉服、紙屋、金物、薬など各種買い物通帳	
2875	147	書簡	文久三年 亥	六十四通	(諸々、 前嶋豊五郎	諸々日常書簡、受け取り覚え混じり、幕末世摩の手紙、短歌、幼児の手紙	
2876	148	覚	文久三年 亥	百八通		諸々受け取り覚え(三月九日から十四日飯田逗留中受け取り覚え八通含む)	

元 治

整理番号	年号別番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
2877	元治 1	当子歳御用村用記録	元治元年(文久四 年)予一月吉日	二冊	前嶋豊五郎政美	元治元年(文久四年)一月から八月、八月から十二月までの御用村用日記	
2878	2	差出申一札之事	元治元年(文久四 年)予一月二十四日	一通	本人五郎左衛門、 御役人衆中	鹿塩村十左衛門から馬を預かり、その件でお役所沙汰になり申し訳ない	
2879	3	村送一札之事	元治元年(文久四 年)予一月	一通	福与村庄屋佐史治、 名主豊五郎	福与村坂介娘みと十五歳、大河原村文治郎の嫁になく、宗門へ別送る	
2880	4	往来一札之事	元治元年(文久四 年)予一月十七日	一通	名主豊五郎、 宿々村々衆中	山梨郡豊年村庄屋佐兵衛佐貞次郎上下二人が帰郷する往来一札	

2881	5	往来一札之事	元治元年(文久四 年)予一月	一通	名主善五郎・ 宿々村々衆中	山梨郡富士村庄屋佐兵衛貞次郎 上下二人が滞郷する往来一札	
2882	6	村送一札之事	元治元年(文久四 年)予二月	一通	和田村名主庄兵衛・ 名主善五郎	当村は廿三十八才は大河原村弥吉 の妻にも宗門人列送る	
2883	7	大皇宮	元治元年 予 一月	一通	神主吉田主殿・ 御役人衆中	大皇宮本社その他が大破した、修復す るのいくばくか寄付を願う	
2884	8	差出申切金返金証文之事	(元治元年 予 一月)	一通	(五郎左衛門)	両親養育に差し支え預かった馬を断り も無く売った金は四年間で返す	元治元年 袋入り文 書
2885	9	萬駄賃改帳	(文久四年)元治元 年 予 一月吉日	一冊	前島氏	元治元年分の万駄賃寛え	
2886	10	差出申一札之事	(文久四年)元治元 年 予 三月	一通	鹿塩村重左衛門・大 河原村五郎左衛門	心得違いで無礼な振る舞いをしきだ、 預け馬の一件もすまなかつた	
2887	11	(一札)	元治元年 予 三月?	一通	本人重左衛門他	鹿塩村重左衛門、この度不埒の事情説 明の原文	元治元年 袋入り文 書
2888	12	元治元年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御檀木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	元治元年 予 三月 元治元年 予 一月吉日 元治元年 予 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	僧人四十二人(男二十一、女二十一 人)、減く三十五人(男十四、女二十 一人) 威し鉄砲十九挺、狐師鉄砲十六挺 家数二百五十八軒 人数千五百三十九人(男八百十九人、 女七百二十人) 馬数三十五匹	
2889	13	書簡	元治元年 予 四月十八、二十九日	二通	名主松下和五郎・ 鹿塩村名主中	久々里妻の勝手方御用で湯淺様廻村の 件	元治元年 袋入り文 書
2890	14	覚	元治元年 予 一月六日、五月五日	二通	香松寺・ 前嶋善五郎他	一月の十両と五月の五両の金子受け取 り	
2891	15	御殿様江献金御受印連名書上帳	元治元年 予 五月	一冊	野口村名主他村役 人、湯淺貞左衛門	一年から五年間納で殿様への献金、額 と献金者の名前書出し	

2892	16	御時美新穀引替取調帳	元治元年 子 五月	一冊	大河原村名主所	貯穀してあだ大麥を新しい者と入れ替える	
2893	17	御触書	(元治元年子 七月二十九日)	三通	大河原村名主善五郎 鹿塩村名主、	鹿塩村から送られてきた川御触書の 他二通は間違ひ、南原村送る	元治元年 袋入り文書
2894	18	往来一札之事	元治元年 子 八月九日	一通	名主善五郎、組頭幸助 木曾禪島關所	友藏五十四才、木曾御嶽山へ登山拝礼する往来一冊	
2895	19	書簡	元治元年 子 八月十一日	一通	鹿塩南組名主・ 善五郎、和五郎	もし出役など無ければ、ご機嫌伺いに 同伴願いたい	元治元年 袋入り文書
2896	20	(野州浮浪之徒致横行壁二付取締之儀 ：)	元治元年 子 八月	一通	大河原村組頭考助 他九カ村	野州浮浪の者横行、今度も京都で騒動 があつた村への立ち入り取り締まる	
2897	21	本新田畑小前高辻帳	元治元年 子 八月吉日	一冊	大河原村名主所	田畑年貢高の調帳	
2898	22	本新田畑小前高辻帳	元治元年 子 八月 (文久二改年二月)	一冊	大河原村名主所	田畑年貢高の調帳(文久二年の帳面 を元治二年用に朱で書き込まれてい る)	
2899	23	(文久三亥年本御年貢帳) 亥年御年 貢御樽本成勘定取立培濟納帳	元治元年 子 八月吉日	一冊	大河原村名主所	文久三年申年分年貢の取立帳	
2900	元治 24	亥年御口米代小前取立培濟帳	元治元年 子 八月	一冊	大河原村名主所	文久三年分の口米代取立帳	
2901	25	亥年新田御年貢御年貢御口米代取立 差引帳	元治元年 子 九月吉日	一冊	大河原村名主会所	文久三年分の年貢、口米代の取立差し 引き計算帳	
2902	26	(御廻状亭し) 御勘定所廻米方二而御達	(元治元年子 九月十一日)	一通	飯田御役所・ 十カ村名主	村々にて産出する生糸高を取り調べて 知らせよ	元治元年 袋入り文書
2903	27	(金札)	元治元年 子 九月	二冊 一包		文久三年金札、元治元年九月改め	
2904	28	(1)書簡 (2)一札之事	元治元年 子 八月二十日、九月	二通	名主善五郎、木曾野 尻宿他三宿総代	木曾四宿へ助郷の知らせだが、現在当 村は免陸願い中なので出せない	
2905	29	乍恐以書付奉願上帳	元治元年 子 九月	一通	大河原村へ郎次・ 飯田御役所	困窮につき、杉の木二十本を吉田村番 八に八割二分を売りたい	

2906	30	書簡	元治元年 子 十月一日	二通	香松寺、前嶋 善五 郎・貞松寺	活定僧立職(時)の厚情への感謝、一通 は下書き	
2907	31	一札之事	元治元年 子 十月二日	二通	名主善五郎・ 關所番所役人、他	伊作五十二歳、秀太郎二十歳、尾州津 島半頭五王參詣する往來一札	
2908	32	(1、2)年忍以書付奉願上候 (3、4)書簡	(1、2)元治元年子 七月(3)子九月二 日(4)子十月十一 日	四通 一包	大河原村名主善五 郎、孝助・ (1、2)飯田御役所 (3、4)葛嶋村	(1、2)大河原村考助と伊左衛門がそ れぞれ杉と松丸太を売りた、 (3、4)九月と十月の杉丸太川下げの 知らせ	
2909	33	御祈禱願主人数覚帳	元治元年 子 十月	一冊	大河原村願主連中	大河原村各耕地で祈禱を願う人名と 家族の人数覚を全書き	
2910	34	年忍以書付内々奉願上候	元治元年 子 十月	一通	大河原村名主善五 郎・飯田御役所	久々里お勝手不如意、御頼み金の件と 関り上二着用品許すのは止めてほしい	
2911	35	覚	元治元年 子 十月、十一月	四通	市岡謙三郎・ 大河原村名主	国役寛保金、納入用金、未食返納金、 酒造寛保金の受け取り	
2912	36	当子年御年貢初納二納割付取立帳	元治元年 子 十月吉日	一冊	大河原村名主所	元治元年分の年貢初納二納取りたて 帳	
2913	37	当子年御年貢初納二納耕地二小代 判取集書付渡候控	元治元年 子 十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	元治元年分年貢の初納二納を小代判 が集めて書付を渡した覚え	
2914	38	(1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	元治元年 子 十二月廿一日	二通 一包	惣百姓代他・ 名主組頭衆中	来年物言百姓代、小代判を引き受けるに あたて一札いれる	
2915	39	年忍以口上書奉歎願候	元治元年 子 十二月	一通	名主善五郎・ 飯田御役所	伊那街道格別の通行で上穂宿(佐馬の 仰せ付けだが、免陸願、たい	
2916	40	水戸浪人通行二付為御取締と湯浅儀 兵衛様御出役中諸入用勘定帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主所	湯浅儀兵衛出役中の諸入用帳	
2917	41	郷金利信勘定帳	元治元年 子 十二月	五冊	大河原村	弘化元年から元治元年まで、郷金出入 の利信改め書え帳	
2918	42	御年貢当未銭勘定中入用取集帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢や未銭を集める際に必要な経費の 取集め帳	
2919	43	当子年薪代四分一家別割渡帳	元治元年 子 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	元治元年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2920	44	当子年薪代四分三毫当郷中割渡帳	元治元年 子 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	元治元年分薪代の四分の三は郷中たり で分配する	

2921	45	当子年村入用家別取立帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	元治元年分村入用費の家別取り立て 帳	
2922	46	当子年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	元治元年分村入用費の取り立て帳	
2923	47	当子年国役金高掛割付取立納帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	元治元年分国役金の取り立て帳	
2924	48	当子年国役高掛り金御拝借返納村入 用夫銭助郷免除願雑用新代還上割返 取立差引帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	元治元年分国役金など諸費差し引き 計算取立帳	
2925	49	時穀小前割付御預帳	元治元年 子 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	時穀としての小麦を高当たりで割り付 けて集めた覚え	
2926	50	開作植付夫食拝借金年賦御返納取立 帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付け夫食のために借金した、年 賦で返納する取り立て帳	
2927	51	先々より鉄砲所持之者御用御召二付 惣代之者御役所江罷出候節雑用取集 帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	鉄砲を持っている者の総代が役所に出向 いた際の雑費の取集め帳	
2928	52	木曾助郷免除嘆願中諸雑用四分一家 別取集帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	去る冬木曾野尻他三宿助郷免除願いの 諸雑費用四分の一を家別に集める	
2929	53	木曾助郷免除嘆願中諸雑用四分三高 割取集帳	元治元年 子 十二月	一冊	大河原村名主会所	去る冬木曾野尻他三宿助郷免除願いの 諸雑費用四分の三を高割で集める	
2930	元治 54	(諸々御通帳)	(文久四年)元治元年 子	十冊	各種商店、 前嶋善五郎	飯田にある呉服、紙屋、金物、薬など 各種買物の通帳	
2931	55	書簡	元治元年 子	八 十 九 通	諸人、 前嶋善五郎	日常的な諸々書簡、水戸浪士事件、和 田峠攻防など、八郎九郎病氣見舞い、 死去おくりなど	
2932	56	書付、覚え	元治元年 子	二十 通		各種金文の受け取り、種々の書付覚え	元治元年 袋入り文 書

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
2933	慶應 1	当丑歳御用村用記録	慶応元年(元治二 年)丑一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	慶応元年(元治二年)一月から十二月 までの御用村用日記	
2934	2	書簡	慶応元年 丑 一月廿日	一通	哲定傳・ 前嶋善五郎	改年の挨拶と平家院筑波山拳兵、信濃 和田峠辺りの戦いの様子など	
2935	3	一札之事	慶応元年(元治二 年)丑一月廿五日	二通	名主善五郎、組頭幸 七郎、宿々村々衆中	遠州秋葉山他三州豊川稲荷に参る、勇 左衛門三十才他四名、往來一札	
2936	4	村送一札之事	慶応元年(元治二 年)丑一月	一通	今田村庄屋八郎平・ 名主善五郎	文三郎娘はるの二十才、大河原 村善三郎の女房になる、宗門人別送る	
2937	5	萬駄賃改帳	(元治二年)慶応元 年 丑一月吉日	一冊	前島氏	慶應元年分の万駄賃覚え	
2938	6	一札之事	慶応元年(元治二 年)丑二月五日	二通	名主善五郎、組頭幸 七郎、宿々村々衆中	尾州津島牛頭天王と三州鳳来寺遠州 秋葉山へ参る、虎蔵、弥吉往來一札	
2939	慶應 7	一札之事	慶応元年(元治二 年)丑二月五日	二通	名主善五郎、組頭幸 七郎、宿々村々衆中	尾州津島牛頭天王へ参る、勘左衛門四 十六才の往來一札	
2940	8	乍恐以書付奉願上候	慶応元年(元治二 年)丑二月	一通	大河原村口右衛門・ 飯田御役所	蚕種売りた、冥加米を上納するので 願い上げる(蚕種株の願い)	虫食いひと い
2941	9	元治二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御樽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (8)家人馬数御改帳	慶應元年(元治二 年) 丑 三月 慶應元年 丑 一月吉日 慶應元年 丑 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人四十八人(男二十四人、女二十四 人)、減人五十二人(男十九人、女三十 三人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十八軒 人数千五百三十五人(男八百二十四 人、女七百十一人) 馬数三十五匹	
2942	10	今度長防御征伐之義	慶応元年 丑 四月晦日	一通	(御役所・ 大河原村)	松平伯耆守の仰せ渡しの写し、長州防 州征伐の触れ書	

2943	11	(御時表引替請取書入)	慶応元年(元治二年)丑四月	二通 一袋	大河原村名主所	貯麦の受け取り書	
2944	12	公方様長防御征伐後進發被為候二付上納金御請帳	慶応元年 丑五月	一冊	大河原村	公方様が長州防州征伐に出るにつき上納金の請け書	
2945	13	御上納金御請帳	慶応元年 丑五月	一冊	大河原村	長州防州征伐のための上納金の請け書	虫食い
2946	14	御貯麦引替人足改帳	慶応元年 丑七月吉日	一冊	大河原村名主所	貯麦のための麦俵の受け取り三十表、渡し口三十表	
2947	15	乍恐口上書寛	慶応元年 丑七月	一通	大河原村名主喜五郎・飯田御役所	久々里御用の熊皮は村内に無い、今秋から冬に獲れたら出す、五く一両	
2948	16	御樽木山夜番人足控帳	慶応元年 丑八月	一冊	名主所	御樽木山の夜番にかかる費用覚え	
2949	17	子年嶋川原新田御年貢取立皆済帳	慶応元年 丑八月	一冊	大河原村名主会所	元治元年分嶋川原新田の年貢取り立て帳	
2950	18	(元治元子年本御年貢帳)子年御年貢御樽木成勘定取立皆済納帳	慶応元年 丑八月吉日	一冊	大河原村名主所	元治元年分の本年貢取り立て帳	
2951	慶應 19	子年御口米代小前取立皆済帳	慶応元年 丑八月	一冊	大河原村名主所	元治元年分口米代の年貢取り立て帳	
2952	20	(初納二納取集帳) (1)当丑年御年貢初納二納耕地ニ小代判取集書付渡候控 (2)当丑年御年貢初納二納割付取立帳	慶応元年 丑十月吉日	二冊 一袋	大河原村名主所	慶応元年分の年貢取集め取り立て帳	
2953	21	御上納金取集帳	慶応元年 丑十月十七日	一冊	大河原村	長防征伐のための上納金の取集め帳	
2954	22	書付	慶応元年 丑十月二十一日	一通	大河原村組頭八郎次・飯田御役所	熊皮一枚、代金五両(請求書か?)	
2955	23	高橋謀入用寛帳	慶応元年 丑十月	一冊	世話人治郎兵衛他	高橋を掛ける工事のための諸入用費覚え	
2956	24	御進發御用途之内(献金仕候者共江御褒美被下置割賦頂戴帳	慶応元年 丑十一月吉日	一冊	大河原村名主会所	長防征伐のための上納金の褒美に上納金の高に於て金字を与えられる	
2957	25	二月六日ヨリ廿二日迄之内橋掛費取調帳	慶応元年 丑十一月	一冊	大河原村名主会所	高橋をかける工事につき必要経費の覚え	虫食い

2958	26	(1)以書付奉願候 (2)乍恐以書付奉願上候	慶応元年 丑 十一月	二通 一包	大河原村曹五郎・ 飯田御役所	曹五郎被官惣次郎の弟長治郎廿五才 を勘当しだい	
2959	27	乍恐以書付奉願上候	慶応元年 丑 十一月	二通 一冊	大河原村伊左衛門・ 他飯田御役所	困窮につき持ち林からサウラを二本、 杉一本、楓四本を切て売りたい	
2960	28	覚 差上申御請證文之事	慶応元年 丑 十一月	二通 一冊	大河原村他八ヶ村 名主・飯田御役所	冥加金五百二十七両二分三米を上納 した褒美の丁銀五十三枚の受け取り	
2961	29	(1)二月六日ヨリ同廿二日迄荷物上 下取調帳(一冊) (2)覚	(1)慶応元年 丑 十一月 (2)丑二月	一冊 と多 数枚	大河原村名主組頭 会所	慶応元年二月に大豆、米、塩などの物 資が運ばれた覚え、下書きの覚え書き 多数	
2962	30	(金札)	慶応元年 丑 十二月六日	一冊		慶応元年改め金札	
2963	31	(郷藏上ノ塗入用帳面) (1)郷藏上塗之節諸入用書留 (2)郷藏上ノ塗入用取調勘定帳	慶応元年 丑 七月 十二月十一日	二冊 一袋	大河原村名主会所	号倉の上塗りの際の諸経費を書きと め、郷金で支払ったこと、覚え帳	
2964	32	覚	慶応元年 丑 十二月十四日	二通 一包	名主曹五郎・ 渡邊延助	久々里へ用立てた金子百両の利足受け 取り覚え	
2965	33	慶應 (1)差出申書付之事 (2)差出申一札之事	慶応元年 丑 十二月二十一日	二通 一包	惣百姓代小代割・ 名主組頭衆中	今年惣百姓代小代割を任するにあたり て差出す一札のこと	
2966	34	産物荷継一条二付柄山井部奈峠江掛 り證事掛合中諸雜用取調帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	産物運搬の件で関わった交渉中の諸経 費などの覚え	
2967	35	御年貢当夫錢勘定中入用取集帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	年貢と夫錢を取り立てる用事の中入用 費を取集める覚え	
2968	36	当丑年国役金高掛割付取立納帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	慶応元年分の国役金取り立て帳	
2969	37	当丑年村入用家別取立帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	慶応元年分の村入用費の家別取り立て 帳	
2970	38	当丑年村入用郷中割付取立小前割掛 皆済帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主組頭 会所	慶応元年分の村入用費の取り立て帳	
2971	39	当丑年薪代四分一家割割渡帳	慶応元年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	慶応元年分薪代の四分の一は家別に分 配する	
2972	40	当丑年薪代四分三毫当郷中割渡帳	慶応元年 丑 十二月吉日	一冊	大河原村名主会所	慶応元年分薪代の四分の三は當郷たり で分配する	

2973	41	開作植付米食押借金年賦御返納取立帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	開作植付は米食のため借りた金子を年賦で返す、当年分の取り立て	
2974	42	当丑年国役高懸り金御押借金返納村入用米銭薪代運上割返取立差引帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	慶応元年分国役金などを差引き取りたて計算帳	
2975	43	予年新田御年貢本御年貢御口米代取立差引帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	大河原村名主会所	元治元年分年貢、口米代の取立計算帳	
2976	44	貯穀小前割付御預帳	慶応元年 丑 十二月	一冊	信州伊那郡大河原村	貯穀としての小麦を集めて預かる寛え	
2977	45	賞、書付	慶応元年 丑	十三通	(諸口・前嶋善五郎)	諸々金字受け取り、及び支払いの寛え	
2978	46	書簡	慶応元年 丑	五通	(諸口・前嶋善五郎)	御用呼び出しその他連絡(当丑年御用村用諸書付入れ袋を同封)	慶応元年 袋入り
2979	47	書簡	慶応元年 丑	五十 七通	(諸口・前嶋善五郎)	幕末騒然の状況を記した書状多い、天狗党通過の様子、幕府の動向	
2980	48	当富蔵御用村用記録	慶応二年 寅 一月吉日	三冊	前嶋善五郎政美	慶応二年一月から十二月までの御用村用日記(三分冊)	
2981	慶應 49	萬駄賃改帳	慶応二年 寅 一月吉日	一冊	前嶋氏	慶応二年分万駄賃寛え	
2982	50	送一札之事	慶応二年 寅 一月	一通	名主善五郎・遠州周知郡向市場村	当村園治郎弟伴四郎三十六才、向市場村の嘉十の養子となる宗門人別送る	
2983	51	送一札之事	慶応二年 寅 一月	一通	名主善五郎・供野村庄屋幸治郎	弥伝次下男十作の母由弥三十七才が供野村権三郎の後家養子に、宗門送る	
2984	52	送一札之事	慶応二年 寅 一月	一通	名主善五郎・南原村名主豊四郎	当村勘五郎改め勘十郎二十九才を南原村勘右衛門の養子に、宗門人別送る	
2985	53	差上申一札之事	慶応二年 寅 一月	一通	本人太七・豊五郎・直太郎	元親頼被官の五郎助を相続することを許され有り難く、謹言度を守る	
2986	54	案永九才新田定免切替村々御請證文	慶応二年 寅 一月	一冊	大河原村他十力村・飯田御役所	この度の定免切替にあたり少しずつ増米するので、十年季の定免に願う	
2987	55	申達	慶応二年 寅 二月二十九日	一通	弥田金七郎・篠山力弥・諸国預所役人	預り所村々の物成の内、金納の地はなろく米納に、金納は物地ににじる	
2988	56	送一札之事	慶応二年 寅 二月	一通	上村名主林左衛門・名主善五郎	助作娘つねの廿五才、大河原村久平の女房になら、宗門人別送る	

2989	57	慶應二年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (3)宗門御改帳 寺々門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (7)御槽木山證文門屋被官分 差上申證文之事 (9)家人馬數御改帳	慶應二年 寅 三月 慶應二年 寅 一月吉日 慶應二年 寅 三月	八冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 飯田御役所	増人八十人(男三十五人、女四十五人)、減人五十九人(男三十人、女二十九人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十八軒 人数千五百五十六人(男八百二十九人、女七百三十七人) 馬数三十五匹	
2990	58	乍恐以書付奉願上候	慶應二年 寅 三月	一通	八郎右衛門・弥伝 次、他・飯田御役所	八郎右衛門・弥伝次、重左衛門は控え 地にある杉、榎を荒吉に売りた、	
2991	59	乍恐以書付奉願上候	慶應二年 寅 三月	一通	大河原村名主他・ 飯田御役所	賊兵差し出しの仰せだが当村には応え られる若者は、ない、金納を願う	
2992	60	寅三月廿四日御勘定所遣中方江御達 二相成候事	慶應二年 寅 三月	一通	松野千十郎、亀田三 郎右衛門	大河原村と鹿塩村が中山道野尻宿他 三宿に当分助郷を勤めなかった件	
2993	61	慶應 (1)差出申請一札之事 (2)差出申路用請一札之事	慶應二年 寅 四月二日	二通 一包	百姓百二十人総代・ 名主組頭衆中	四月一日小百姓百二十人惣代々々々 里から召し状到来、請状と路用請上	
2994	62	奉差上御託書一札	慶應二年 寅 四月	二通	傳右衛門他四名・ 前田主計	惣之丞、民吉、伊助の三人の者が神職 祓を行った事についてお詫び	
2995	63	差上申一札之事	慶應二年 寅 五月二十一日	一通	五兵衛他倅、親類、 組合・豊五郎	五兵衛の女房うらが昨夜急に癪が起こ り手当その甲斐なく今朝死去	
2996	64	御用廻文	慶應二年 寅 六月九日	一通	野尻宿他三宿・鹿塩 大河原村庄屋	木曾四宿で助郷をまだ実行していない ことについて相談のため出頭せよ	
2997	65	廻状御用	慶應二年 寅 六月十六日	一通	飯田御役所・中坪、 野口、八手村名主	兵賦は金納では済まず、まさに兵を出 すように、この件で廿二日に出頭せよ	
2998	66	乍恐以書付奉敷願候	慶應二年 寅 六月	一冊	大河原村名主他九 力村・飯田御役所	荒所多く諸物価高値につき他村同様の 兵賦では難儀で、減免を願う	

2999	67	(従公儀御用金被仰付候節諸書付入) (1)(公儀江献金書類)(八通) 差上申御證文之事 乍恐以書付奉願 上候 (2)差上申御請證文之事 (3)乍恐以書付奉願上候 (4)覚 (御公役様上穂江御出張之節諸入用 取調帳其他書類品々)(十通) (5)御公役様方御泊諸入用取調書抜 帳 (6)覚 (7)御公役様方御泊諸入用割合出金 覚 (8)(書付) (9)覚え	慶應二年 寅 五月吉日 六月改日	十 八 通	豊五郎他。 野口村、御掛御役人 中など	(1)御用金として二百両差出す請證 文一冊 (2)二十五百両の御用金を三百両ずつ五 年間で差出す (3)御用金を上納するのだから苗字帯 刀(めん)を願う (4)上納額に応じて何代苗字御免など 身分の許しの覚え四枚上納者八名の 名前の覚え二枚 (5)諸入用費の覚え一冊 (6)諸入用費の各村分担割合の覚え (7)諸入用金の各村分担金額の覚え (三冊) (8)塚田金蔵以下役人方宿泊先の覚 え二枚 (9)金子受け取り覚え(三通)	
3000	68	御時奉引替人足改帳	慶應二年 寅 七月九日	一冊	大河原村名主所	貯穀のための奉儀の受け取り口三十、 渡し口三十表	
3001	69	廻文	慶應二年 寅 七月十八日	一通	飯田御役所、 十一カ村	生糸、養種、紙の改め方役を鹿塩村源 蔵、大河原村今右衛門に申し付けた	
3002	慶應 70	乍恐以書付奉歎願候御事	慶應二年 寅 七月	二通	十一カ村、 飯田御役所	村々物成金納してきたが物価に応じた 値段で上納はめを願う	
3003	71	乍恐以書付奉願上候	慶應二年 寅 八月	一通	大河原村名主他、 飯田御役所	木曾四宿助郷は御免の願いをしつゝ決 を待ていふことを伝へるはしい	
3004	72	兵賦入用割付帳	慶應二年 寅 八月	一通	大河原村 松下正路 写し	鹿塩村久弥が病氣歸村の入用費、兵賦 三人分の入用費の割付帳	慶應二年 袋入り文 書
3005	73	乍恐以書付奉申上候	慶應二年 寅 九月二日	一冊	大河原村、鹿塩村名 主、御掛り役人中	五月に御用金を差出すことを承知し た證文通り上納金仰せ付けられる	
3006	74	差出申一札之事	慶應二年 寅 十月	一通	長峯柄山庄屋他、 大河原村役人中	大河原村出入りの荷物の取り扱いで昨 早具合が悪いことが起った	
3007	75	差出申路用請一札之事	慶應二年 寅 十一月十日	一通	百姓代伝七、 名主組頭衆中	御役所から召し状到来、同行する村役 人の路用を賄う	

3008	76	寛	慶應二年 寅 十一月	一通	渡辺延助・ 大河原村名主中	兵賦入用割合金と上穂村出役人用割 合金の受け取り	
3009	77	(初納二納取集帳) (1)当寅年御年貢初納二納耕地テ小 代判取集書付渡歴控 (2)当寅年御年貢初納二納割付取立 帳 (3)如法百姓并被官共初納二納取集 帳	慶應二年 寅 十一月吉日	三冊 一袋	大河原村名主会所	慶應二年分の年貢取集め取り立て帳	
3010	78	(御時穀帳) 当富貯穀小前割付御預帳	慶應二年 寅 十一月	一冊	大河原村・ 飯田御役所	貯穀のための大麦預り帳	
3011	79	(1)差出申一札之事 (2)寛	慶應二年 寅 十二月廿四日	二通	新七・茂十・徭五 郎名主他村役人	小使い買水の受け取りと明細寛之書き	
3012	80	貯穀小前割付御預帳	慶應二年 寅 十二月	一冊	信州伊那郡大河原 村	貯穀としての大麦を取集めて預かる寛 え	
3013	81	金沢耕地治兵衛法名金預利信勘定帳	慶應二年 寅 十二月	一冊	大河原村名主会所	弘化三年から慶應二年まで預金計八 両余慶應三年に渡した寛	
3014	82	(御用諸請取入)	慶應二年 寅	七通 一袋		諸種御用受け取り寛之書き	
3015	83	(書簡亨し世)	慶應二年 寅	六通		書簡の亨しなど六通	慶應二年 書入り文
3016	84	(御用寛)	慶應二年 寅	一冊		慶應二年寅から明治四年未までの御 用寛	
3017	慶應 85	書簡	慶應二年 寅	二十 七通	(鑑乏・ 前嶋善五郎	慶應二年十二月改めの書簡袋入り、赤 木家に行っている席作直太郎宛八郎 九郎の化じ付き書簡が珍しい	
3018	86	当卯歳御用村用記録	慶應三年 卯 一月吉日	二冊	前嶋善五郎政美	慶應三年一月から十二月までの御用 村用日記	
3019	87	萬駄賃改帳	慶應三年 卯 一月吉日	一冊	前島氏	慶應三年分の万駄賃寛え	
3020	88	送一札之事	慶應三年 卯 一月	一通	大草村名主佐兵治・ 名主善五郎	当村伝之丞弟徳太郎十九才を大河原 村林助の養子とする、宗門人別送る	

3021	89	送一札之事	慶應三年 卯 二月	一通	上村名主林左衛門、 名主右馬之丞(誤)	当村助左衛門娘 おな 三十一才を大 河原村義治郎女房とする、宗門人別送 る	
3022	90	村送り一札之事	慶應三年 卯 二月	一通	名主曹五郎、別府村 庄屋庄右衛門	当村孫兵衛年太五十六、二十四才を別 府村勘治郎姉たきへ婿入り、宗門送る	
3023	91	御公儀様御役所御申渡請印帳	慶應三年 卯 二月	一冊	名主所	公儀、役所、行政官からの布令、布告の 請印帳	
3024	92	慶應三年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (9)家人馬数御改帳	慶應三年 卯 三月 慶應三年 卯 一月吉日 慶應三年 卯 三月	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村、 飯田御役所	増人三十六人(男八人、女二十二)、減 人三十六人(男十一人、女二十五人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十八軒 人数千五百五十人(男八百二十六人、 女七百二十四人) 馬数三十五匹	
3025	93	長防御征伐二付献金仕候処御褒美銀 被下置御請證文并割符御書付写 (1)寛 (2)差上申御請證文之事 (3、4)寛書付 (5、6)差上申御請證文之事 (7)寛	(1)慶應三年 卯 二月 (2、3、4) 慶應三年 卯 三月	七通 一包	各村名主他、 飯田御役所	長防征伐につき献金をした、その褒美 を受ける二連の請書と寛え (1)上納金額と上納者名 (2)献金の褒美を受ける請書 (3、4)献金の受け取りと褒美を与え る通達 (5、6)褒美の銀請書、同文二冊 (7)褒美銀の各村への分配寛え	
3026	慶應 94	(貯麦拝借願并請書) (1)差出申一札之事 (2)御公儀様御貯穀拝借仕度願出候 人数取調帳 (3、4)作忍以事付奉願上候 (5)貯穀拝借願済二付御請證文 (6)書簡	慶應三年 卯 二月 三月	六通 一包	大河原村他、 飯田御役所	(1)去年の大風被害で困窮につき貯麦 拝借したい (2)同願人名簿 (3、4)貯麦拝借について、大河原、鹿 塩村役人からお役所への願書 (5)願が通り、貯麦の拝借請書 (6)結算拝借の件、前嶋曹五郎より宮 下伴三郎への連絡	
3027	95	御貯麦拝借改算付帳	慶應三年 卯 三月二十二日	一冊	大河原村名主所	慶應三年の不作で夫食不足につき貯麦 を拝借した	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
------	-----------	--------	-------	-----	--------------------	-------------	--------

明治

3028	96	寛	慶應三年 卯 四月十七日	一通	渡邊延助・大河原村 名主喜五郎	公儀上納金二十両の受け取り	
3029	97	御拝借申金子之事	慶應三年 卯 五月廿二日	一通	大河原村源兵衛他・ 飯田御役所	五十両の借用證文	
3030	98	乍恐以書付奉願上候	慶應三年 卯 六月	一通	大河原村組頭源兵 衛他・飯田御役所	中山道馬籠他三カ宿に当分助郷を免 除の願い書	
3031	99	書簡	慶應三年 卯 十月廿二日	二通	安藤佐喜次郎他・ 飯田御役所	伝馬などについて安藤から前嶋への連絡 と国役金の割付についての通知	
3032	100	(初納二納取集帳) (1)当卯年御年貢初納二納耕地ニテ小 代判取集書付渡候控 (2)当卯年御年貢初納二納割付取立 帳	慶應三年 卯 十月吉日	二冊 一袋	大河原村名主所	慶應三年分の年貢取集め取り立て帳	
3033	101	寛	慶應三年 卯 十月十一月	四通 一包	市岡謙一郎・ 大河原村名主	国役金、寛加永の受け取り覚え	
3034	102	(寛加永寛)	(慶應三年 卯)	一通		種々寛加永の覚え・書付書式の見本	
3035	103	差出申一札之事	(慶應三年) 卯	一通	香松寺他・ 道嚴寺	八郎九郎神葬のご文書ト書き見本	

3036	明治1	当辰歳御用村用記録	明治元年(慶応四年)辰一月吉日	二冊	前嶋豊五郎政美	明治元年(慶応四年)一月から十二月までの御用村用日記	虫食いあり
3037	2	覚、書付	明治元年(慶応四年)辰一月十二日	六通 一包	飯田御役所、大河原村	寅、卯二年分の年貢と口米代の受け取り覚えと金額の覚を書き	
3038	3	人別請取一札	明治元年(慶応四年)辰一月吉日	一通	名主豊五郎・吉岡村、名主茂右衛門	吉岡村から、さきを当村豊兵衛の養女に、宗門人別を受け取った	
3039	4	申々寅年御年貢、法小百姓百拾巷人もの初納二納割付取立帳	(慶応四年)明治元年辰一月吉日	一冊	大河原村名主所	慶應三年分の年貢の取り立て帳	
3040	5	萬駄賃改帳	(慶応四年)明治元年辰一月吉日	一冊	前島氏	明治元年分の万駄賃覚え	
3041	6	去々寅年御口米代金再御触之分割付取立帳	(慶応四年)明治元年辰一月吉日	一冊	大河原村名主所	慶應二年分の口米代金の取り立て帳	
3042	7	去々寅年御口米代金再御触之分耕地ニテ小代判取書書付渡歴控	(慶応四年)明治元年辰一月吉日	一冊	大河原村名主会所	慶應二年分の口米代金を小代判が取り集めた分	
3043	8	去々寅年御年貢、法小百姓百拾巷人もの初納二納割付取立帳	(慶応四年)明治元年辰一月吉日	一冊	大河原村名主所	慶應二年分の年貢の取り立て帳	
3044	9	覚	(慶応四年)明治元年辰二月廿七日	一通	(前嶋豊五郎、八郎次)	文書の預け、校受の覚え、(万延、元治、明和、安政の文書)	
3045	10	村送り一札之事	(慶応四年)明治元年辰二月	一通	和田村名主茂兵衛、大河原村役人中	増次郎親きり四十七歳を大河原村藤七の妻に、宗門人別送る	
3046	11	(1)村送り一札之事 (2)宗門送一札之事	(慶応四年)明治元年辰一月三日	二通	吉岡村名主茂兵衛、大河原村名主中	吉岡村 あらい、二十一才を大河原村豊兵衛嬢に嫁付き、宗門人別送る	
3047	明治12	御誓文御号 (第二号ノ内三)	明治元年(慶応四年)辰三月	一冊		広く会議を興し...の御誓文の写し、大河原学校の印あり	
3048	13	慶應四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (9)家人馬数御改帳(二冊)	明治元年(慶應四年)辰三月 明治元年辰一月吉日 明治元年辰三月	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河原村、飯田御役所	増人二十四人(男十三人、女十一人)、減人三十人(男十七人、女十三人)、威士鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十八軒 人数千五百四十四人(男八百二十二人、女七百三十二人) 馬数三十五匹 (9)一冊は明治元年十月の日付	

3049	14	乍恐以書付奉同上候	(慶應四年)明治元年辰 閏四月十六日	一通	豊五郎萬席作他、 民生御役所	ご一新後の村方はしばらく差し控えて いるようにとの事、今後どうなるかの問 い合わせ	
3050	15	本新田畑荒所引高小前帳	(慶應四年)明治元年辰五月	一冊	大河原村	本新田畑で荒所になった分を年貢高か ら差し引く覚え	
3051	16	(初納二納取集帳) (1)当辰年御年貢初納二納耕地テ小 代判取集書付渡候控 (2)当辰年御年貢初納二納割付取立 帳	明治元年辰 十一月吉日	二冊 一袋	大河原村名主会所	明治元年分の年貢取集め取り立て帳	
3052	17	朝廷より御觸申渡請印帳	明治元年辰 十一月	一冊	名主所	明治政府からの布令、人相書きなどの 写しと請印帳	
3053	18	(辰年中米勘) 書簡	(慶應四年) 明治元年辰	百五 十七 通	(鑑乏: 前嶋席作、直太郎、 豊五郎	慶應四年(明治元年)を主とし、前後のも のを混じる、諸方よりの書簡、幕末明 治初年の世上諸事件情報が豊富	
3054	19	覚	明治元年 辰	百六 十九 通	諸村村役人、 大河原村名主	明治元辰年より以前十カ年余御廻状 受け取り覚え(安政四年已からか?)	
3055	20	御布達類	明治元年から明治 八年	二十二 九通		明治元年以来八年まで各種布達文 書。二十九通	
3056	21	当已歳御用村用記録	明治二年己 一月吉日	三冊	前嶋豊五郎政美	明治二年一月から明治三年一月十一 日付けまでの御用村用日記	虫食い

3057	明治 22	<p>從天朝七拾歳以上之者江御褒美御金 被下置候二付割符頂戴諸書付</p> <p>(一) 七拾歳以上之者江御褒美御金 被下置候節伊那県御役所より 被下置候御書付</p> <p>(二) 差出申御請証文之事</p> <p>(三) 覚</p> <p>(四) 高年之者江金子被下置村役人 御請印帳</p> <p>(五) 從朝廷七拾歳以上之者江御褒 美金被下置候二付割符頂戴為仕 段御受印帳</p> <p>(六) 覚</p> <p>(七) 差上申御請証文之事</p> <p>(八) 覚</p> <p>(九) 差上申御請証文之事</p> <p>(十) 覚</p> <p>(十一) 覚</p> <p>(十二) 差上申御請証文之事</p> <p>(十三) 覚</p> <p>(十四) 覚</p> <p>(十五) 乍恐以書付御居奉申上候</p> <p>(十六、十七) 覚</p> <p>(十八) 乍恐以書付御居奉申上候</p> <p>(十九、二十) 差出申一札之事</p> <p>(二十一、二十六) 覚、記</p>	<p>明治元辰年から明 治三年年</p> <p>(一) 明治元年十二 月出同二年巳正月 頂戴 (二、三) 明 治元年長十二月十 四日 (四) 明治二年 巳一月十二日 (五、 六) 明治二年巳一月 十七日 (七、八) 明 治二年巳一月二十 四日 (九、十、十 一) 明治二年巳一月 (十二) 明治二年巳 二月 (十三) 明治二 年巳十月 (十四) 明 治二年巳 (十五) 明 治三年午一月四日 (十六、十七) 明治三 年午三月、十二月二 十六日 (十八) 明治 三年午閏十月二十 日 (十九、二十) 明 治三年午十二月二 十八日 (二十一、 二十六) 日付無し</p>	二十 六通	<p>大河原村名主所</p> <p>(一) 伊那県大河原 村 (二、三) 正碩孫 住左衛門他御名主 衆中 (四) 大河原村 組頭治郎四郎他、飯 田御役所 (五) 大河 原村七十才以上の 者、名主衆中 (六) 正 碩孫庄左衛門他、名 主衆中 (七、八) 和田 八、直作、名主衆中 (九、十、十一) 和田 八母々々他、飯田御 役所 (十二) 和田八 他、名主衆中 (十三) 大河原村組頭、飯田 御役所 (十四) 大河 原村組頭他、飯田御 役所 (十五) 大河原 村組頭、飯田御役所 (十六、十七) 磯太郎 他、名主衆中 (十八) 大河原村名主豊五 郎、伊那県御役所 (十九、二十) 和田八 他 (二十一、二十 六) 名主豊五郎</p>	<p>七十才以上の者に褒美の金字を与ふる (一) 伊那県からの通知 (二) 褒美を請 ける請け書 (三) 富右衛門八十九才正 碩九十二才、受取る金字と米換算 (四) 大河原、鹿塩、他ハカ村村役人に よる受け印と七十才以上の者の各村人 数 (五) 七十才以上の者全員による請け 書 (六) 米と代金の覚え七、八) 請け証 文と金字覚え九、十、十一) 請け証文 と覚え (十二) 請け証文 (十三) 正碩九 十才とみ川八十八才の届け (十四) 八 十八才以上の者の名前、年齢と所在の 覚え届け (十五) 正碩が九十四才で明 治二年七月に病死した届け (十六、十七) 米換算褒美金字の受取り 覚え (十八) 富右衛門は褒美米を受取ら たが当月十一日に病死したこと届け (十九、二十) 褒美の米代金を受取った (二十一、二十六) 褒美の米と代金の覚え</p>	
3058	23	乍恐以書付奉歎願候	明治二年 巳 二月	一冊	<p>大河原村頼人惣代 組頭、飯田荒町尾州 御取締役所</p>	<p>中山道馬籠宿伝馬、助郷について、困窮 の村なので免除願いたい</p>	
3059	明治 24	朝廷より御触申渡請印帳	明治二年 巳 二月	一冊	名主所	<p>明治二年二月付けから十二月廿一日 付まで、政府からの布令、布告、人相 書きなどの写しと請印帳</p>	虫食いひど い

3060	25	明治二巳年貯麦拝借諸書付	明治二年巳 二二二七月	四通 一袋	大河原名主他: 飯田荒町御役所	明治元年洪水で困窮した、貯麦を拝借 したい、他	三包、四通 一袋
3061	26	送一札之事	明治二年巳 三月	一通	大河原村名主書五 郎市之瀬村庄屋	当村藤七娘きく二十四才は市之瀬村 久左衛門の妻にぞ、宗門人別送る	
3062	27	明治二年宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳帳 (3)宗門御改帳 (4)増減御改帳 (5)門屋被官五人組帳 (6)鉄砲御改帳 (9)家人馬数御改帳	明治二年巳 三月 明治二年巳 一月吉日 明治二年巳 三月	六冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村: 飯田御役所	増人三十八人(男三十一人、女十七 人)、減人四十人(男十七人、女二十三 人) 威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十六挺 家数二百五十八軒 人数(千五百四十二人、この欄は書き 込みなしだが、増減数から計算した) 馬数三十五匹	
3063	28	(1)御貯麦拝借人数下改帳	明治二年巳 三月、六月	二冊	大河原村名主会所	貯麦大費を不作や災害で困窮のため借 りる人の調べ	
3064	29	(貯麦拝借帳 御返納受取帳巻冊)	明治二年巳 三月、七月	二冊 一袋	大河原名主所	明治二年の貯麦(貸付帳と返納受け取 り帳	
3065	30	当村御高札場より隣村高札場迄町数 御改二付書上候書類控	明治二年巳 四月二十九日	一通 他	大河原村名主所: 荒町御取締御役所	大河原村高札場から各隣村高札場ま での距離の報告書、他	計八通
3066	31	辰年荒地取調帳	明治二年巳 八月廿七日	一冊	大河原村名主所	(明治元年)辰年荒地とふた田畑の地 主、面積などの覚え	
3067	32	(初納二納取集帳) (1)当巳年御年貢初納二納耕地テ小 代判取集書付渡候控 (2)当巳年御年貢初納二納割付取立 帳	明治二年巳 十二月吉日	二冊 一袋	大河原村名主会所	明治二年分の年貢取集め取り立て帳	虫食い
3068	33	(難形宗門人別改帳) (1)宗門改人別帳 (2)作宗門人別帳 (3)家数人別并牛馬増減仕訳帳	明治二年巳	三冊	阿郡何村	宗門帳各種の書式難形帳	
3069	34	(巳午年名前替り)	明治二年から	七枚		明治二年以後、村人の改名の覚書	
3070	明治 35	送一札之事	明治三年 午 一月	一通	大草村佐兵次: 大河原村書五郎	当村兵次郎娘しか二十三才は大河 原村茂左衛門の妻にぞ、宗門送る	

3071	36	朝廷より御触申渡請印帳	明治三年 午 一月	一冊	名主所	明治三年一月から十月付まで、政府からの布令、布告、人相書きを請印帳か	
3072	37	明治三年 (1)宗門増減下改帳	明治三年 午 一月吉日	一冊	名主所	宗門改めの下調査	
3073	38	(宗門方諸帳面へ) (1)小百姓生死人別取調帳 (2)被官人別取調 (3)戌、亥戌年名前替 (4)寛	明治三年 午 七月四日 明治三年 午	一包 二冊 二冊 三枚	大河原村	宗門改めに関する諸帳面、下書き、 明治元年から三年まで	
3074	39	寛	明治三年 午 十一月十三日	一通	名主会所、島川原新 田惣代伊助	島川原新田年貢の二納金、三両一分 二朱の受け取り	
3075	40	飛脚賃銭割合	(明治四年 未) 一月十日	一通	七十三区倉平岩男	飛脚賃の分担支払いの覚え	
3076	41	御用村用諸入用取調帳	明治四年 未 一月吉日	一冊	大河原村名主所	御用、村用に要した諸費用の覚え	
3077	42	惣人民苗字取調帳 (付組合帳覚)	明治四年 未 一月吉日	一冊	大河原村名主所	村民の苗字調べ及び各耕地の組合構成 と当年の代表者名の覚え	
3078	43	御一新二付五人組改正名前取調帳	明治四年 未 一月吉日	一冊	大河原村名主所	明治維新後の五人組改正と各人の名前の調査	
3079	44	明治四年辛未二月より同五年壬申正月迄生死并行衛不知人繕送籍書上之 分控	明治四年 未 二月	一冊	第百七十九区戸長 前嶋善五郎、 御役所	明治四、五年分の生死、行方不明、入 送籍書上げ	
3080	45	書簡	(明治四年 未) 三月十七日	二通	宮下他、 前嶋	戸籍の件についての連絡、他一通	
3081	46	当未歳御用村用記録	明治四年 未 三月二十三日	二冊	前嶋善五郎政美	明治四年三月二十三日から十二月までの御用村用日記	
3082	47	増減御改帳	明治四年 未 三月	一冊	大河原村、 伊那県御役所	明治四年の大河原村民口増減	

3083	明治 48	明治四年 宗門御改帳 (1)宗門増減下改帳(二冊) (3)宗門御改帳 小作人宗門御改帳 宗門書上帳 (6)鉄砲御改帳 (9)家人馬数御改帳	明治四年 未 三月	七冊 一袋	信濃国伊那郡大河 原村・ 伊那県御役所	威し鉄砲十九挺、獵師鉄砲十二挺 家数二百五十八軒 人数千五百十人(男八百七人、女七百 三人) 馬数三十五匹	
3084	49	書簡	(明治四年 未) 四月廿三日	二通	前嶋豊五郎	送籍について	
3085	50	(一)記 (二)覚	明治四年 未 (一)六月十九日 (二)六月三十一日	二通	(一)福享村役人 (二)鹿塩村両組名 主・大河原村名主衆	(一)飯嶋より飛脚賃金割り当ての廻状 (二)飛脚賃金割り当ての承知	明治四年 袋入り
3086	51	当去年名前替覚	明治四年 未 六月廿日	一冊	名主会所	六月廿日現在で名前を替えたものの覚 え書き一覽	
3087	52	差上申一札之事	明治四年 未 六月二十四日	一通	(伊那郡三十三区)	戸籍法の改正で一区から三十三区まで の戸長副長を仰付られ承知した	
3088	53	廻状	明治四年 未 六月二十五日	一通	伊那縣廳、大河原鹿 塩村戸長	戸籍人別帳を来年二月までに作るこ と、その際諸注意廻状写し	
3089	54	人員増減取調帳	明治四年 未 六月	一冊	前嶋豊五郎政美	伊那県管轄第二十五区における人口 増減調査の覚	
3090	55	当去年戸籍方御用記録	明治四年 未 六月	一冊	前嶋豊五郎政美	戸籍方を主として、戸長としての御用 村用日記	
3091	56	(戸籍法被仰出区内一同御請印感) 差出申一札之事	明治四年 未 七月二日	一冊 一枚	下沢嘉七他多数・ 前嶋豊五郎	戸籍法改正に付き守るべきの請書、一 枚は本文下書き	
3092	57	(1)戸籍方并御用向日記 (2)以書付御届奉申上候	明治四年 未 七月十七日	二冊	前嶋政美・ 伊那縣御役所	七月十八日と八月二十九日から二 回の飯田出張中の日記、宗門戸籍届け	
3093	58	戸籍方書簡控	明治四年 未 七月廿日	一冊		戸籍についての書簡の控帳、一通分だけ 記されている	
3094	59	御鑑札類	明治四年 未 七月、八月	一冊	二十五区大河原村 戸長前嶋豊五郎	諸方に発行した旅行、出稼ぎ鑑札など の控え	

3095	明治 60	(1)入札人名前取調帳 (2)名主役取調覚帳 (3)組頭役取調覚帳 (4)百姓代取調覚帳 (5)差出申一札之事 (6)題名なし (7)作忍以書付奉願上候 (8)入札	明治四年 未 七月晦日	(1)(4) 四冊 (5) 五通 (6) 一通 (7) 一枚 (8) 多数 三件		(1)村三役選挙人名簿 (2)く(4)の選挙人が誰に投票した かの一覧、二百八十三名の内二百七十 九人が投票、四名は代出に付き陰札 (5)白紙選記などしたもの、始末書一 札 (6)(5)下書き (7)村三役の伊那県に出した勤務に励 むの文書 (8)投票人と被選挙人三役名が書か れた投票紙、無効票も含む	
3096	61	(書付)	明治四年 未 七月晦日	一通	大河原村戸長前嶋 善五郎・名子村辺 村々戸長	大河原村大工半蔵六十四才が名子村 辺へ旅稼ぎに出るので鑑札発行した	
3097	62	(書付)	明治四年 未 八月二日	一通	大河原村戸長前嶋 善五郎・河野村辺 村々戸長	大河原村指物職幸吉二十二才が河野 村辺へ旅稼ぎに出るので鑑札発行した	
3098	63	(自辨祭官許書付、入用費立帳入) (1、2)作忍以書付奉願上候 (3)覚	明治四年 未 九月	三冊	大河原村前嶋善五 郎他、 伊那県御役所	これまでのように神辨を行いたい、願書 と官許の付記、願出に要した諸費の覚 え	
3099	64	野帳写御預ヶ書出帳	明治四年 未 十月一日	一冊		野帳の預け先の書出し帳	
3100	65	八拾八歳以上之もの書上	明治四年 未 十月	一冊	第二十五区・ 伊那県御役所	八十八歳以上の者五名の書きだし	
3101	66	作忍以口上書奉申上候	明治四年 未 十一月	一冊	前嶋善五郎他十名、 伊那県御役所	戸長に給米を下さうとのことだが無給 で勤めたので給米は御免を願う	
3102	67	受取書	明治四年 未 十二月一日	一通	香松寺・ 長役人	庄右衛門父が十二月一日に死亡した 届けのこと	明治四年 袋入り
3103	68	(筑摩縣管轄戸籍之一)	(明治四年 未)	一冊	信濃国筑摩郡金井 村	筑摩郡金井村を例とした戸籍簿見本 か？	明治四年 袋入り
3104	69	(書付)	明治四年 未	四通	大河原村	出稼ぎ鑑札、明治四年の死亡者、役所 への呼び出し状、受取覚えの四通	

3105	明治 70	(1)某侍藩職分表の一 (2)某侍藩縣寄留表	(明治四年 未)	二枚		職業別人口、身分別人口の書き込み表	
3106	71	送籍書	明治四年 未	四件	(諸所)・ 大河原村	諸所から大河原村への送籍書	
3107	72	(書付)	明治四年 未	一枚		天明八年以来の貯穀について、慶應二年から明治四年まで貯穀は取集められていない	
3108	73	(席作井久和送り状控) 送一札之事	(明治元年辰三月) 明治四年未 三月	二通 一包	名主善五郎他・ 上穂村九郎右衛門	善五郎娘久和十七才、上穂村彦四郎方へ嫁ぐ、席作は英太郎方へ婿養子、宗門人別送る	
3109	74	(神宮掛り回章入) 要用書類	明治四年から明治 十二年	四十 五通	諸神宮など	神社、神宮関係の種々書類	
3110	75	(一)積穀預方覚帳 (二)記 (三)御貯麦押借方証書帳 (四)積穀貸付記載簿 (五)貯麦押借請書留 (六)御貯麦積穀並目方改帳 (七)貯麦穀売渡代金受取帳 (八)貯麦代金受取方取調簿 (九)貯麦費貸付帳 (十)貯麦費元利取纏帳 (十一)備蓄金穀取集帳 (十二)貯麦請取方并改貸付帳 (十三)貯麦元利請取簿 (十四)貯麦取集并改貸手簿 (十五)貯穀貸与元利取調簿 (十六)貯麦取集并改貸手帳 (十七)貯穀整理取調帳	明治四年から 明治四十二年	十七 冊	名主会所、大河原区 事務所	貯穀としての大暮の取集め、貸付、代金など 明治四、六、七、十三、十四、十五、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十九、三十一、四十二年	
3111	76	戸籍御用掛記録	明治五年 申 一月	一冊	前嶋善五郎政美	戸籍方を主として戸長としての御用村 用日記、一月四日から二月五日まで	
3112	77	乍恐以事付奉願上候	明治五年 申 一月	三冊	前嶋善五郎政美・ 筑摩縣飯田出張所	質屋株の継続願い、同一文書として三冊	

3113	明治 78	信濃国伊那郡大河原村鹿塩村神社氏 子書上げ帳	明治五年 申 二月廿七日	二冊	二十五区戸長前嶋 善五郎、筑摩縣	大河原、鹿塩両村にある神社の氏子数 書き上げ、一冊は鹿塩村分下書き	
3114	79	(布令)	明治五年 申 四月十二日	一冊	伊那縣	精密地図を作るので、違者が多く選 して出張せよ	
3115	80	明治五年戸籍下編製 (1)筑摩縣管轄第七十九区戸籍之 帳 (2)人員増減取調帳 (3)名前替り覚帳	明治五年 申 三月	三冊	信濃国伊那郡大河 原村鹿塩村 前島善五郎	大河原、鹿塩両村の壬申戸籍下調べ 帳、および名前替りの覚帳	
3116	81	第二十五区戸籍台	明治五年 申 三月	一冊		明治五年第二十五区の戸籍台帳、一 番から二百八十七番	虫食い
3117	82	(先般地所永代売買御差許相成候二 付)	明治五年 申 三月	一冊	(筑摩縣飯田出張所)	地所の売買に際しては地券発行の申し 出を書式に従って行うこと	
3118	83	覚	明治五年 申 四月十八日	一通	野田屋	戸籍方で使う紙の代金受け取り	
3119	84	(廻状)	明治五年 申 四月二十九日	一冊	筑摩縣飯田出張所、 百七十二〜百八十 区区長	戸籍簿の作り方について書式、文字、位 置、大きさなどの指定、捨て字、間引 き、塗胎などの禁止	
3120	85	(一礼差出申一礼之事)	明治五年 申 四月	一通	篠元庄蔵他、 戸長御役人	元鹿塩村出生島蔵後家 志を 六十七 歳の入籍許可されたこと	
3121	86	生死御届書	明治五年 申 五月十二日	一冊	前島善五郎ほか、 筑摩縣飯田出張所	二月一日から五月五日までの出生記、 および死亡届、送葬など	
3122	87	第七十九区ノ内大河原村学校方世 話人	明治五年 申 五月	二件	大河原村戸長前嶋 善五郎	大河原村で学校方を勤める者の名簿	虫食い
3123	88	去小宮卯辰巳午未六ヶ年分村入用家 別取立帳	明治五年 申 六月	一冊	大河原村	慶應二年寅から明治四年未までの六 年分村入用費の家別取立帳	

3124	明治 89	(夫錢外取調帳) (1) 去ル丑年より去未年迄村入用年 内取換物取調記 (2) 去ル寅卯辰巳午未六ヶ年分村入 用郷中割付取立小前割掛管済帳 (3) 去ル寅卯辰巳午五ヶ年分村入用 家別取立帳 (4) 午未式ヶ年分村入用郷中割付取 立小前割掛管済帳 (5) 夫錢其外諸諸入用諸クニ而取換 書抜	明治五年申 六月	五冊 一包	大河原村名主	慶應元年丑年から明治四年未年まで の村入用費その他を計算し取り立て た覚え帳	
3125	90	(書上)	明治五年申 七月	一通	前嶋善五郎 筑摩縣飯田出張所	区内取締りに係る人物を入選した	
3126	91	(慶應二寅年より明治四未年まで) 六ヶ年村入用郷中割付取立小前割掛 管済帳	明治五年申 七月	一冊	大河原村名主会所	慶應二年から明治四年まで六ヶ年分の 村入用費取り立て帳	
3127	92	書簡と覚	明治五年申 七月	三通 一包	宮下崎太郎 前嶋善五郎	送贈の件と先に以来の八選四人のこと 及び飛脚傳書	虫食いひと い
3128	93	(1) 戸籍方総費取調書上帳 (2) 戸籍方年齢取調	明治五年申 七月	二冊 一袋	大河原村	明治四年七月から明治五年七月まで の戸籍方諸経費の書上げ帳と村民の年 令調査メモ	
3129	94	寅より申迄七ヶ年村入用費夫錢家別 懸り利足取集管済帳	明治五年申 七月	一冊	大河原村名主会所	慶應二年から明治五年までの七ヶ年分 村入用費の利足家別取り立て帳	
3130	95	村入用費夫錢七ヶ年利足取調帳	明治五年申 七月	一冊	大河原村名主所	慶應二年から明治五年までの七ヶ年分 村入用費の利足調べ	
3131	96	(慶應二寅年より明治四未年迄合六ヶ 年分夫錢勘定中入用覚帳	明治五年申 七月	一冊	百姓代前次良造	慶應二年から明治四年までの夫錢勘 定中に必要ならた経費の覚え	
3132	97	寅ヨリ未迄国役管繕高掛取立帳	明治五年申 七月	一冊	(大河原村)	慶應二年から明治四年までの六ヶ年分 国役金など取り立て帳	
3133	98	寅年以來御国役御口米管繕取換上納 書抜	明治五年申 七月	一冊	大河原村	慶應二年以來の国役金など納入の覚え	
3134	99	寅ヨリ未迄国役御口米管繕方利息勘 定取調帳	明治五年申 七月	一冊	(大河原村)	慶應二年から明治四年まで国役金な どの利足調べ	

3135	明治 100	御国役金御役所常總方御入用并御口 米代金夫錢七ヶ年分利息高掛り貫取 立帳	明治五年 申 七月	一冊	(大河原村)	慶應二年から明治五年までの七年分 国役金などの利息取りたて帳	
3136	101	寅より未迄六ヶ年分新代四分一家別 割渡帳	明治五年 申 七月	一冊	大河原村名主会所	慶應二年から明治四年まで六ヶ年の 新代の四分の一は家別に分配する	
3137	102	寅より未迄六ヶ年分新代四分三高当 郷中割渡帳	明治五年 申 七月	一冊	大河原村名主会所	慶應二年から明治四年まで六ヶ年の 新代の四分の三は郷中たりで分配	
3138	103	寅ヨリ未迄六ヶ年国役高掛夫錢并御 口米其外利息新代運上差引勘定帳	明治五年 申 七月	一冊	大河原村旧名主役 場	慶應二年から明治四年までの国役金な ど、差し引き計算帳	
3139	104	(卯より未迄五ヶ年分宗門人別錢寄帳 外二入用請取) (1)宗門方入用取調覺帳 (2)慶應三卯より明治四未年迄宗門 入用取集帳 (3)未年分宗門方諸書付(七通)寛	明治五年 申 六月 七月	九件 (二冊 七通)	大河原村名主組頭 会所	慶應三年から明治四年までの五ヶ年 分、宗門人別調へに際し入用費などを調 べ帳、および諸費支払い受け取り	
3140	105	記	明治五年 申 七月	一通	役場、 幸七郎	慶應二年から明治四年までの夫錢、国 役金など増減の覚え	虫食い
3141	106	慶應三卯年御貯穀拝借入用取集帳	明治五年 申 七月	一冊	大河原村名主会所	慶應三年に貯穀拝借の際に要した諸経 費を一人三百十文ずつ集める	
3142	107	明治二己年三月御貯穀拝借之節入用 取集帳	明治五年 申 七月	一冊	大河原村会所	明治二年三月に貯穀拝借の際に要した 諸経費を一人三十文ずつ集める	
3143	108	本夫錢利息勘定 外	明治五年 壬申 七月	五冊	豊五郎	本夫錢、国役金など豊五郎ならびに立替 払い分の利息計算帳	
3144	109	(送箱書式のこ)	明治五年 申 八月	一通		送箱書式の設定と見本	
3145	110	寄留證之事	明治五年 申 八月	一通	前島善五郎、宮下崎 太郎、遠江周智郡第 十一区戸長	大河原村熊谷鐵平弟勘十郎が当地へ 寄留する	
3146	111	神器書上	明治五年 申 九月	一冊	大河原村、 筑摩縣飯田出張所	大河原村諏訪明神、若宮神社、白沢神 社、正八幡神社の所有神器の書上げ	

3147	明治 112	(壬申御布令写) (1)社寺四民家所有之武器明細取調可 差出事… (2)近来自葬所行廢物も… (3)地所永代売買ノ差許度ニ付… (4)村々役人給料并役用總費…	明治五年申五月十 七日 七月廿二日 八月十一日 日付けなし	四通 一包通	筑摩縣飯田出張所、 太政官	(1)武器、硝石釀成、など行方者 (2)自葬は禁止戸長給料など (3)地券を發行するにあたり土地所有 者名を届けよ (4)役人給料、入用費など書式に従つ て提出せよ	
3148	113	村高井従前村吏給料役用總費已千米 三ヶ年平均書上帳	明治五年申 八月	一冊	信州伊那郡大河原 村、飯田出張所	村高四百七十九石五斗七升三合、村 吏十三人給料役用總費用など届け	
3149	114	(壬申死亡御届送籍)	明治五年申 九月十日	二冊	大河原村	壬申九月死亡届、送籍届け、入籍、寄 留届け	
3150	115	(通達)	明治五年申 十一月廿六日	一通	筑摩縣飯田出張所、 百七十九戸長	来る二十八日紀元節の際に、県庁内で 選擇するので参上のごと	
3151	116	(書付)	明治五年申	七通	大河原村	大河原村早貴高、春松寺と宗久寺の境 内分別など、その他書付覚え	
3152	117	送籍届	明治五年申	十二 件	(諸人、 大河原村	送籍書、大河原村への入籍と他への転 籍	
3153	118	(入籍書入) 差出申一札之事	明治五年申	六通 一袋	(諸人、 戸長	入籍のこと、寄留の届け書付	
3154	119	(壬申以来戸籍三總計)	明治五年から明治 八年	十二 冊と 三通	二十四大区	明治五年から八年まで戸籍總計、送 籍、寄留、神官戸籍、職分などの帳面	
3155	120	神社掛諸書付	明治五年から 明治十三年	四十 二通	(前島直太郎)源正英	明治五年付けから十三年付けまで、神 社関係書付、書簡など	
3156	121	(1)神社掛記録 (2)神社掛諸人取調帳	明治六年西 一月	二冊	前嶋正英	明治六年から同十二年までの神社諸 費用の覚え	
3157	122	送籍證	明治六年西 一月く四月	十一 冊一	大河原村、 諸所	転出するので送籍する	
3158	123	(送籍証控、その他雑)	明治六年西 二月	十三 件	第七十九区戸長	送籍証控、旅稼ぎ鑑札控、その他雑書 付	
3159	124	書付	明治六年西 二月	二枚	前嶋善五郎、宮下崎 太郎	申年にあたる職分總計控をなすに下書 き	

3160	明治 125	御請書	明治六年 西 二月	一通	森庄五郎・ 前嶋善五郎	捕丁役を聞き受ける	虫食いひと い
3161	126	證書(四通) 書付(二枚)	明治六年 西 二月	六件	前嶋善五郎・ 国々戸長	金毘羅から伊勢参宮、秋葉神社から 大阪などへ旅行する人に出した証書	
3162	127	筑摩県一覽表	明治六年 西 二月	一枚	筑摩県	筑摩県(信濃国筑摩、安曇頭訪、伊 那四郡と飛騨一國)の要覽一覽表	御布達類 袋入り
3163	128	書簡	明治六年 西 三月廿四日	四通 一包通	赤木信一郎(遠江浜 松)・前嶋善五郎	善五郎宛て二通、お母様、高坂謙作あ ての計四通、近況の便り	
3164	129	(1)以書付奉願上候 (2)記	明治六年 西 三月	二通	前嶋善五郎外	区内に同名の者がいるので改名の願、四 名分	
3165	130	神風義社規約教会大意	明治六年 西 四月	一冊	久斯魂屋	神宮教会の規約案	
3166	131	御布令村々請印綴	明治六年 西 四月	一冊	区長(前嶋善五郎)	明治六年三月から六月の種々布令、区 割、天竜川通航、視船實用蒸餾方法	虫食いあり
3167	132	御通	明治六年 西 四月	一冊		買い物通帳か?	虫食い破損 激しい
3168	133	御布令諸取帳	明治六年 西 四 月、五月、七月	三冊	伊那郡二十四大区 区長	政府からの布告、布令受け取り帳	
3169	134	御布令代価取調帳	明治六年 西 七月	二通	区長	明治六年一月から六月まで布令経費 の調書	虫食いひと い
3170	135	地券調出張中入用記	明治六年 西 七月	一冊	大河原区	地券発行業務中の必要経費の覚え	
3171	136	乍恐以書付奉歎願候	明治六年 西 九月廿二日	一通	前嶋善五郎(筑摩縣 権令永山盛輝)	区長辞任の願	
3172	137	西年御用状入(1)(通達状) (2)賞、書付	明治六年 西 九月	二十 七件	筑摩縣飯田出張所 など(前嶋直太郎)	(1)種々通達、封筒、本状九通、外封筒 の(2)各種受け取りなど覚え	
3173	138	(明治六年中諸御届書控)	明治六年 西	三十 二件	二十四区長・ 筑摩縣権令	種々届けの控、冷泉・温泉三件、山伏 二件、神宮三件、兵役二件、など	
3174	139	公用諸書物	明治六年	十冊	二十四大区	種々な布令、布告、届書きなど	虫食いひと い
3175	140	御触留	明治六年	八十 七件	百七十九区	明治六年三月からの明治政府(筑摩縣 の布令布告、その他)	

3176	明治 141	(書簡)	明治六年	五十 五通	諸方、 前島直太郎	明治六年以来の区長掛、公事信書、そ の他書簡	
3177	142	(出生、死亡、送精届け)	明治六年 西	一冊	前島善五郎・筑摩県 飯田出張所	大河原、鹿塩村関係、出生、死亡、送 精届けの綴り	
3178	143	(戸籍方入費取調帳) (1)戸籍方総費取調書上帳 (2)戸籍方乳費取調記 (3)壬申八月書上後戸籍掛入用取調 井未年ヨリ当西二月迄総費区内戸数 割付帳 (4)御改正前戸籍掛り月給取調帳 (5)癸酉二月ヨリ四月迄戸籍方入費 井辛未年以来総計取調帳	明治五申年、六酉年 (1)明治五申年八 月八日、(2)明治五 年申八月、(3)明治 六年西三月、(4)明治 五年 六年西四月、(5)明 治五年	五冊 一袋	前嶋氏	戸籍方で出入した費用調べ	虫食いひど い
3179	144	(布令、布告、通知)	明治五申年から明 治六酉年	一冊	太政官、文部省など	貸費生徒検査法(文部省)、無銭所持許 可、改暦に付き歳日ためなど	
3180	145	明治七年中 御布告綴込	明治六年十一月三 十日から明治七年 十二月二十一日	約二 百件 一冊	陸軍卿山縣有朋他 主に明治政府	明治七年中の陸軍省、文部省、司法省 などからの布告書の綴り、手配人相書 が多い	
3181	146	明治六七年分日当金取調書抜簿	明治六年、七年	一冊		明治六、七年に支払った諸々日当の書 留帳、計三十六円余	
3182	147	(覚)	明治六年から八年	二冊		明治六年から八年分までの宿料、酒代 など約七十六円の覚え	
3183	148	(明治六年中御用書物)	明治六年西から明 治八年亥	四十 二通	区長	明治六年から八年の種々布令、通達、 公務書簡、御用出役メモ帳など	
3184	149	神社掛御触留	明治六年から明治 十年	一冊	第百七十九区刺掌 前嶋正美	明治六年から十年までの神社神宮など にいて御触れ書き留帳	
3185	150	風神講社御廻状	明治七年 一月	一通	和田村佐藤弥太郎	風神講の知らせ	触基
3186	151	(1)死亡人取調書上帳 (2)第二十四大区明治六年一月一日 より十二月三十一迄死亡表	明治七年 一月	一冊	和田村、鶴淵寺住職 盛明山、 筑摩県権令	明治六年中の埋葬者氏名、および二十 四大区死者数の表(神葬五人、仏葬百 十四人の別)	
3187	152	亡命後三十六ヶ月超過御届	明治七年 一月	一冊	大河原、鹿塩村・筑 摩県権令永山盛輝	大河原、鹿塩村内から天保年間以来死 亡者名簿	

3188	明治 153	御布令回章請取簿	明治七年 一月、九月	三冊	第二十四大区区长	明治七年中の回章、布令の受け取り簿	
3189	154	(旧公有地関係書類) (1)官林公有地区別取調報告書様式 見本) (2)御官林取調簿 (3)年為以書付奉申上候 (4)(書付)	明治七年 七月 九月	二冊 二枚 計四枚	大河原村、 筑摩縣權令	(1)明治六年十一月に出された様式 見本(2)大河原区内官林シナギ、木 タル、地獄谷、中山日向などの立木現 況(3)山林、村絵図の提出が遅れたこ とに付 (4)字大西の小字名	
3190	155	(大河原鹿塩村合併改称)	明治七年 十月	一冊	大河原村惣代、 筑摩縣權令	大河原村と鹿塩村を合併し、八束穂 村とした。	
3191	156	(書付)	明治七年 十月	二枚		中尾耕地分の各地主と筆数の調査	
3192	157	銃砲書上帳	明治七年 十月	一冊	鹿塩村、 筑摩縣權令	保持されている四目八分以下の和銃の 数、サイズ、持ち主の書き上げ	
3193	158	(西学校敷地願) (1)年為以書奉願上候(同文二通) (2)以書付奉願上候(同文二通) (3)村絵図)	明治七年 十二月	六通 一袋	大河原村、鹿塩村、 筑摩縣權令永山盛 輝	(1、2)大河原村松清学校、鹿塩村塩 井学校の敷地を絵図付で報告 (3)大河原(明治七年)、鹿塩の絵図 (四種六枚の絵図)	
3194	159	(飯田出張中要用書) (1)牛馬売買御鑑札継願書 (2)鳥獸獵御免許地 (3)(僧轉者届) (4)以書付奉歎願候 (5)(諸文書)	明治七年	十六 件		牛馬売買鑑札願をはじめ、教習役辞退 願い、養蚕振興、鹿塩地区小字名、な ど	
3195	160	明治七年徴兵書類(不用) (1)徴兵要用書 (2)安政四年至十七年の者取調 (3)徴兵并免役連名簿	明治七年	一包		明治六年徴兵、免役書類、十七歳の者 名簿、明治七年徴兵関係の一連文書	
3196	161	公事書簡	明治七年 戌	十二 通	大河原村、飯田出張 所	明治七年中の公事書簡	
3197	162	(明治七年月番中來朝) 書簡	明治七年 戌	四十 通	(諸方、 前嶋直太郎	役所諸用件について諸村諸方からの連 絡書簡	

3198	明治163	(明治七年御用書物)	明治七年 戌	十七件	区長	太政官、文部、司法省などからの種々 布告、要旨、録、選、運、賃、手帳を含む	
3199	164	(明治七年御用書物)	明治七年 戌	七冊	区長	太政官、文部、司法省などからの種々 布告、布令、通達など	
3200	165	明治七年中御届書類	明治七年	約六十通 一袋	大河原村他二十四 大区、筑摩縣權令永 山盛輝	米収獲のこと、税金、田畑面積その他 様々な届書き	
3201	166	明治七年分戸籍月括御届控	明治七年 戌	九冊	二十四大区	明治七年五月から十二月、生死送入 籍異動届と戸籍月括り総計	
3202	167	明治七年八分当用記	明治七年、八年	二冊 手帳		諸経費、公事などのメモ帳	
3203	168	(第二十四大区区长掛諸帳簿)	明治七年、八年	十一通	前島直太郎	西岡公御巡回之節日記、日々記録、諸 上進書並日限録、御布令請取帳、区长 職など公職辞職の願書(三通)、地租御 改正二付困苦を情奏、など	
3204	169	明治七年ヨリ九年迄之分手伝人日当 取調簿	明治七年から九年	一冊		諸日当の支払いの覚え	
3205	170	筑摩県管下第二十四大区戸籍総計	明治八年 亥 一月一日	二冊	大河原鹿塩、上村 和 田木沢、重河内村	大河原鹿塩村、および上村、和田、木 沢、八重河内村の村勢一覽	
3206	171	死亡御届	明治八年 亥 一月	一冊	二十四大区	明治七年中の死亡届、神葬、仏葬の別 に届け	
3207	172	(明治八年分御布告其他請取入) 御布令請取簿	明治八年 亥 一月	一冊	二十四大区区长	紀元二千五百三十五年(明治八年)の 布令の受け取り簿	
3208	173	明治八年中戸籍月括御届書	明治八年 亥 一月、二月	二冊	伊那郡二十四大区	明治八年一月と二月分の出生、死亡、 転籍などの届け(大鹿村と木澤村)	
3209	174	(議事問題録)	明治八年 二月廿一日	一冊	前島直太郎、 一小区、二小区区长	三月七日に行われる香松寺における議 会の議案録(実際は十七日開催)	
3210	175	物産取調書	明治八年 三月二日	一冊	二十四大区二小区 柳瀬清臣他筑摩縣	明治七年分の物産量取調帳、米、麦、 豆、酒、熊、猪、鹿など	
3211	176	地券調中人費用止帳	明治八年 三月七日	一冊	大鹿村事務所	地券発行業務中の入用費の覚え	
3212	明治177	(出金憑)	明治八年 四月から 九月	一冊		戸長松下嘉藤太、副戸長松下治郎四 郎および松岡農作の明治八年出金簿	

3213	178	三番青木山林改正地引下調簿	明治八年 亥 五月十一日	一冊	事務役所	青木地区の上中洞から麓が渠までの荒地、芝地林地の持ち主と面積など	
3214	179	役所諸賄調上帳	明治八年 六月十三日	一冊	役所	大鹿村事務役所の必要経費、六月十三日から十月十日まで	
3215	180	(村勢)	明治八年 八月廿四日	五通	大鹿村	人口その他村勢、村概要、大河原字校、鹿塩学校と名称変更など	
3216	181	耕地掛手伝人給料取調簿	明治八年 八月二十五日	一冊	大鹿村役所	各耕地係りの手伝人に支払った給料の覚え	
3217	182	警察掛四等羅率巡邏検印簿	明治八年 亥 八月	一冊	大鹿村事務役所	大鹿村を羅率が巡邏したものの確認帳	
3218	183	(1)年恐以書付奉申上候 (2)以書付御届奉申上候	明治八年(1)十月 廿日(2)十一月十五日	二通	松下治郎四郎他、 筑摩縣權令	(1)七等出仕渡邊千秋殿巡夜の際、村境まで出迎えず失礼した (2)渡邊殿祝詞に頑迷な応対につき	
3219	184	米国奉糧拾八貫	明治八年 十月二十三日	一通	筑摩縣参事高木惟矩	米国の慶良美糧を二大区に付六百目分けるので地味良き所に撒き責てよ	
3220	185	記	明治八年 十二月十五日	一通	戸長松下嘉藤太、 筑摩縣参事	明治九年一月から三月までの区戸長その他の給料の通知	
3221	186	官有地民有地一税目毎取調簿	明治八年 十二月	一冊	戸長松下嘉藤太、筑 摩縣参事高木惟矩	大鹿村大河原区の民有地地目毎の税	
3222	187	地券入用記載簿	明治八年 十二月	一冊	大鹿村事務役所	地券発行に要した諸費の覚え	
3223	188	(第二番)去戌年川々堤防国役金割賦 取集帳	明治八年 亥 十二月	一冊	大鹿村事務役所	明治七年に堤防普請をした負担金の徴収帳	
3224	189	記	明治八年	一冊	大鹿村	明治七年分川々堤防国役金、分担徴収帳	
3225	190	明治八年分日当金取調書抜簿	明治八年	一冊		明治八年中には支払った諸日当の覚	
3226	191	(書付)	明治八年	八通		堤防国役金、煙草売買営業(者)、宿屋宿活人数など諸書付	
3227	明治 192	御届書	明治八年	約廿 五通	二十四区各小区、 筑摩縣權令	各村から集まった様々な届書きの写し	
3228	193	(明治八年分郵便付公書包紙)	明治八年	二十 件	飯田出張所など	公書郵便の封筒、切手付封筒など	

3229	194	(区振掛米輸入) 書簡	明治八年 亥	二十 五通	第二十四大区	二十四大区公事書簡類、一袋	
3230	195	公用村用買入諸品代価調取簿	明治九年 一月	一冊	大鹿村事務役所	大鹿村必要物品の購入の覚、一月と二 月の二日、三日の記録ページのみ	
3231	196	公用二付出農勝村検印帳	明治九年 一月	一冊	第二十四大区一小 区大鹿村	公用で出張した人名、期日、用件、出 張先など	
3232	197	(急番、二番) 去亥年村費取集簿	明治九年 子 一月	二冊	大鹿村事務役所	明治八年分の村費の取集め帳	
3233	198	(急番、二番) 地券入費取集簿	明治九年 子 一月	二冊	大鹿村事務役所	地券発行するに必要経費の徴収簿	
3234	199	亥年地券入費調出帳	明治九年一月	一冊	役所	明治八年の地券発行業務の必要経費は か	
3235	200	警察所受繕入費取調帳	明治九年 二月十日	一冊	大鹿村事務役所	警察署入用費の調査帳	
3236	201	旧公有地取調簿	明治九年 二月	二冊	鹿塩耕地総代近藤 健一郎、ほか	公有地として扱われていたが、従来か ら新炭林であたと	
3237	202	諸費入割取簿	明治九年 二月	一冊	第二十四大区一小 区役所賄方	大河原区の二月から十月までの購入公 用物品の覚え	
3238	203	(古境内上知宅地二ヶ所御拂下ヶ付願 書)御拂下ヶ願書	明治九年 三月五日	二冊 一袋	田原彦平、由井留 吉、筑摩縣参事	香松寺境内を文化十二年以来宅地と して使用しているが払い下げ願う	
3239	204	公用書簡	明治九年 八月廿四日	二通 一包	筑摩縣飯田出張所、 大鹿村	官林境界の絵図差出しと、共有墓地に ついで指示	
3240	205	(1)花火奉祝願書 (2)白煙硝合煙硝御願書	明治九年 八月二十九日	二通	大鹿村大久保幸内、 筑摩縣参事	氏神秋神社と金毘羅神社祭礼に花 火を奉納した、煙硝を調合する願	
3241	206	(送稻屋)	明治九年 八月二十九日	同文 七通	松下嘉藤太、筑摩縣 参事高木惟矩	伊那穂米川市村、送稻のこと	
3242	207	師範学校新築入費取集帳	明治八年 八月	一冊	大鹿村事務役所	師範学校の必要経費分担金の戸数割、 時価割り徴収帳	
3243	明治 208	従四月至六月警察入費諸給料取集簿	明治九年 八月	一冊	大鹿村事務役所	警察署保全入費系を字代わりで分担 徴収した、各人私有地の地価が記録	
3244	209	亥年租税増徴帳	明治九年 十月	一冊	大鹿村事務役所	明治九年分の税金徴収帳(鹿塩分の 二)	

3245	210	従七月至九月諸給料取集帳	明治九年 十月	一冊	大鹿村事務役所	大鹿村の諸々の給費の一覧	
3246	211	明治九年七月ヨリ十二月迄六ヶ月分警察入費取集組分簿	明治九年 十一月十八日	一冊	大鹿村事務役所	警察業務の必要経費約四十三円の取集帳	
3247	212	明治九年分村費取集簿	明治十年 五月	一冊	大鹿村事務役所	明治九年分村費の徴収帳	
3248	213	国道修繕費取集簿	明治十年 七月	一冊	大鹿村事務役所	国道、県道の修繕費約七十四円の徴収帳	
3249	214	実地丈量ノ件付諸派出入費簿	明治十年 十一月二十六日	一冊	大鹿村賄方	大鹿村測量ノ諸費の記	
3250	215	実地丈量内検査立会人員簿	明治十年 十一月	一冊	大河原区	十一月十九日に四名が立ち会た	
3251	216	従七月至九月警察署尾費取集簿	明治十一年 七月	一冊	大鹿村事務役所	警察署諸入用費を村民から徴収する	
3252	217	山林反別引重願	明治十一年 九月廿四日	一冊	大河原区、 檜崎寛直	明治九年中に行つた山林反別調査の再調査を願ふ	
3253	218	地券費取調中雇入日勤簿	明治十二年 九月七日	一冊	大河原耕地集会所	地券発行業務について雇入人の日勤簿	
3254	219	地券費額取調中諸費帳	明治十二年陰曆 九月七日	一冊	大河原耕地集席処	地券発行業務にかかわる費用の覚	
3255	220	原野共有建名簿	明治十二年 十月	一冊	戸長松下嘉藤太・ 長野県令檜崎寛直	大鹿村大西にある地所の共有について	
3256	221	深ヶ沢立木代金渡書抜	明治十二年から明 治十四年	一冊		深ヶ沢の立木代金を渡した覚え	
3257	222	(諸費領収書、請求書、他)	明治十二年から大 正二年	七十 通	諸人	諸費領収の覚え、請求書等	
3258	223	好神講奉納簿	明治十三年 三月四日	一冊	秋葉神社	周知郡領家村秋葉神社の奉納一円	
3259	明治 224	大河原耕地諸入用費覚帳	明治十三年 三月	一冊	集会所	大河原区諸入用費の覚え	
3260	225	明治六年九月ヨリ八年十月迄地券取調関係人勤務数取調簿	明治十三年 十一月	一冊	大鹿村大河原耕地	地券発行担当係りの人名と勤務日数など調査の覚え	

3261	226	(1)明治六年分地券入費取調簿 (2)明治七年分地券取調中費額簿 (3)明治八年分地券取調中費額簿	明治十三年 十一月	三冊	大鹿村大河原耕地	地券業務に要した費用の記録	
3262	227	明治六七八三ヶ年分入費調書抜簿	明治十三年 十二月十三日	一冊	大河原耕地集会所	明治六年から三ヶ年分の村費入用費で 記録された分	
3263	228	明治六年ヨリ同八年ニ至ル地券入費取 集簿	明治十三年 十二月十三日	一冊	大鹿村大河原耕地	地券業務に必要な経費の徴収帳	
3264	229	地券入費取集差引簿	明治十三年 十二月十三日	一冊	大河原耕地集会所	地券発行につき諸入用費の徴収帳	
3265	230	正金自札金取調惣計簿	明治十三年 十二月十三日	一冊	大河原集会所	貨紙幣の調査	
3266	231	(1)地券入費取集後拂方皆渡出勤并 入費帳 (2)地券入費取調中日当諸入費帳	明治十三年 十二月十四日	二冊	大河原集会所	地券にかかわる必要経費など	
3267	232	当耕地諸勘定差引帳	明治十三年 十二月二十九日	一冊	大河原耕地集会所	大河原耕地の諸会計の覚	
3268	233	明治六年ヨリ同八年ニ至ル地券関係日 当金拂方名寄簿	明治十三年 十二月	一冊	大河原耕地集会所	地券関係で支払われた日当の覚	
3269	234	明治六年同七年分地券勘定諸拂方書 抜	明治十三年 十二月	一冊		明治六年から八年十月まで三年分地 券業務に要した諸費の記録	
3270	235	地券入費賦課簿	明治十三年 十二月	一冊	大河原耕地集会所	地券関係必要経費分担金の書き上げ 帳、地価などを詳細記録あり	
3271	236	明治六七八三ヶ年分日当拂方耕地仕 訳簿	明治十三年 十二月	一冊	大河原耕地集会所	明治六年から三ヶ年分の諸日当支払い の覚え	
3272	237	地券勘定差引帳	明治十三年 十二月	一冊	集会所	地券発行にいて必要経費の接受会計 帳	
3273	238	共有山拾歩一取調簿	明治十三年 十二月	一冊	大河原集会所	大河原共有林地の産物の十分の一を取 集めた覚え	
3274	明治 239	白木運金請取并三道路金拂方簿	明治十三年 辰 旧十二月	一冊	大河原耕地集会所	白木運上金の受け取り覚えと道路金 請の支払金の覚え	
3275	240	役場懸り入買月当地裁簿	明治十三年 辰 十二月	一冊	大河原集会所	役場係員の給料の記	

3276	241	売木代金割合差引帳	明治十四年 已 一月二十八日	一冊	大河原耕地	大河原区有林から産出した材木などの 代金の覚え	
3277	242	(1)山代金受取割合差引帳(一冊) (2)山代金割合帳(六冊)	明治十四年 已 明治十五日	七冊	大河原耕地集会所	大河原六耕地別山代金の割り当て帳 および受取計算帳	
3278	243	香松寺本堂屋根修繕二付金員取集渡 方帳	明治十四年 已 二月廿日	一冊		香松寺本堂屋根修理費の取集め帳	
3279	244	深ヶ沢山売木代金受取簿	明治十四年 已 二月	一冊		深ヶ沢山の立木売却代金の受け取り帳	
3280	245	香松寺本堂屋根葺請入費取集帳	明治十四年 已 二月	一冊	世話人中	香松寺本堂屋根の修繕費取集め帳	
3281	246	御請書	明治十四年 七月廿七日	一通	平田孫十他、下伊那 郡長船越重郎	大鹿村役場移転について	
3282	247	香松寺屋根常繕毎戸取集物記帳并二 借り入物記	明治十四年 七月	一冊	世話掛	香松寺修繕に要した費用の取集めと借 り入れ物の覚え	
3283	248	養蚕社申合條件	明治十四年 秋佳日	一冊	前島政美他	養蚕組合の申し合わせ、元賞招集条 例、桑田の条例など	
3284	249	(地代金調)	明治十四年	二通		比野原、青田山、北ノ原などの土地代 金の調査覚え	
3285	250	本堂屋根費大河原去銭拂方 (雑書付、領収書)	(明治十四年)	一冊		大河原区各耕地へ香松寺屋根修繕費 を割り当てる(明治十四年と推定)	
3286	251		明治十四年から明 治三十七年 午	約五 十件		明治十年代から三十年代の諸雑書付、 領収書など	
3287	252	出役日勤調簿	明治十五年 午 一月吉日	一冊		大河原区公用の勤務日誌と費用	
3288	253	本村分離諸入用簿	明治十五年 二月九日	一冊		鹿塩耕地と分離の件で出張、香松寺一 件に付き議金を開いた際の入用費	
3289	254	共有地下駄調書帳	明治十五年 午 二月十三日	一冊	改所	共有地から下駄を産出した個人別調 帳	
3290	明治 255	落合機梁祭費簿	明治十五年 午 八月二十五日	一冊	大河原村世話人	落合機梁祭りの費用覚え	

3291	256	(1)集会所費書抜簿 (2)沢戸前橋費書抜簿 (3)落合橋梁費書抜簿	明治十五年 午 九月二日	三冊	集会所	大河原区集会所の諸費用および沢戸前橋と落合橋の修繕などに関する費用の覚	
3292	257	(通知文書)	明治十五年九月か ら十月	五通	大河原村、 諸所へ	酒造営業税徴収、洪水被害状況調べ、コラゲが下火になつたので小浜砂井開、洪水のため川下げ材木漂にき	
3293	258	下伊那郡学事会申役小集会議規	明治十六年 二月十七日	一冊		学事小会議規約条文	
3294	259	明治十六年分下伊那協議費第二期分 (納入票)	明治十六年十二月 八日から十日	一冊	大河原村戸長役場	協議費納入の納入伝票	
3295	260	秋葉大権現本殿再建勧進簿	明治十六年	二冊	遠江秋葉山秋葉寺	秋葉神社本殿再建のための寄付帳	
3296	261	記	明治十七年 五月二十八日	小冊 一冊		松下他の土地面積、明治十七年の麦概況の見積前年比七分、ペリ虫または五日虫の事についてなど五枚の小冊	
3297	262	(1)畦畔脱落編入願控 (2)畦畔脱落絵図面控	明治十八年 五月	二冊	下伊那郡大河原村	今回地図作成において抜け落ちている田畑地を編入する件、絵図一通付	
3298	263	大河原村惣代事務規程	明治十八年 八月廿四日	一冊		球状からなる大河原村総代事務規程	
3299	264	(1)地目変換野取絵図帳 (2)変換寒地一丈量野取絵図	(1)明治十八年九 月廿二日 (2)明治十八年	二冊	下伊那郡大河原村、 長野県令本梨精一 郎	(1)上蔵文蔵中尾の測量図 (2)上蔵文金沢十八百五十九から二千五百八十三番まで変換地測量図	
3300	265	現地目録番取調書	明治十八年 十月十五日	一冊	松岡良作他鹿塩村 大河原村戸長	地番、地目、現地目の詳細調査書	
3301	266	(絵図)	明治十九年 四月七日	一冊	松下久之進他	上青木新ヶ沢から青羽根まで地籍測地絵図(鉛筆下書き)	
3302	267	畦畔脱落図面	明治十九年 五月十七日	一冊	大河原村戸長、 長野県令	畦畔地盤丈量絵図	
3303	268	(1)丈量誤謬訂正願控 (2)丈量誤謬訂正願略図控	明治十九年 五月	二冊	下沢虎十、前沢和太 作	土地の広さ、地目など誤りを正すための願図付	
3304	明治 269	一類ヨリ二類地への変換願書	明治十九年 九月	一冊	大河原村	地味悪くとなつていゝ類地に復し難く二類地に修正願う	

3305	270	共有金地価割帳	明治十九年 十月五日	一冊	大河原村総代竹上 勝十、小島泰三郎	共有金を地価に応じて分担、徴収する	
3306	271	土地台帳用紙金借込帳	明治十九年 十月二十三日	一冊	松下治郎四郎、松川 藤次郎	土地台帳用紙代の貸借他	
3307	272	共有金割渡為換差引帳	明治十九年 十月	五冊	大河原村惣代竹上 勝十、小島泰三郎	共有金の分担、徴収の覚え他関連八枚 一袋	
3308	273	開墾熟地成地価修正願書	明治十九年	一件	下伊那郡大河原村	各持主名之地所略図、面積など、修正 願いの下書きまたは控え	
3309	274	一類地ヨリ二類地に変更願書	明治十九年	一冊	下伊那郡大河原村	各地の各人持ちの地目変更願い	
3310	275	(雑文書)	明治十九年から四 十一年	六十 通		諸領収書、立木伐採願い、出張届など	
3311	276	共有山ノ内立木売渡約定金受取記帳	明治二十年一月ヨリ	一冊	大河原村惣代	明治二十年一月から二十一年三月七 日まで、立木売却契約金受取帳	
3312	277	道路入費取調帳	明治二十年 二月三日から	一冊	松岡良作、竹下勝十	必要物品と金額の覚え	
3313	278	当村諸入費付込帳	明治二十年 亥 二月十七日	一冊	松多彦三郎、小島泰 三郎	大河原村の諸入用費の覚え	
3314	279	(分間地図作成のための調査覚)	明治二十年 十月三日	十 四 枚		地図作成のため所有地番、広さ、所有 者などなどの覚え	
3315	280	現地目調費取集簿	明治二十年 十月十二日	一冊	会計担当人松多彦 三郎、松川藤次郎	地目調べ費用の取集め帳と収支決算の 覚え	
3316	281	郷蔵新築諸入費帳	明治二十年 十一月十五日	一冊	松多彦三郎、小島泰 三郎	大河原区郷蔵を新築する際の諸経費の 覚え	
3317	282	田用開鑿井敷地借受約定為取替証	明治二十年 十一月二十三日	一通	松下嘉藤太他、大河 原村惣代松川、松下	釜沢の黒の田沢水を田水に引きたい、 工事をするに際しく約定取替え	
3318	283	共有地見取金穀井諸運上収入帳	明治二十年	一冊	大河原村総代松田 彦三郎、小島泰三郎	共有地における收穫物につき、運上金 の収入帳	
3319	284	収入穀売拂代価調帳	明治二十年度	一冊	大河原村総代松田 彦三郎、小島泰三郎	クリ、そば、おすきなどの売り価格調査 の記	
3320	明治 285	諸勘定拂方簿	明治二十年から二 十一年二月	一冊	大河原村惣代松多 彦三郎、小島泰三郎	大河原区必要経費の支払帳	

3321	286	小白木山約定為取換証など	明治二十年から明治二十四年	二十 六通	諸人、 共有総代	大河原共有山ノノキ山、大西山、豆下 子など各地から種々樹木伐採につき	
3322	287	「小白木約定為取替証」他	明治二十年から大 正元年	四十 一通	諸人、 大河原区長	小白木山約定はじめ、共有林樹木伐採 利用願など	
3323	288	(地図調製に付)	明治二十一年 二月七日	二通 一包	大河原村戸長	明治廿二年を完成の予定として地図を 作るべき布令	
3324	289	集会人名并取扱記録帳	明治二十一年 二月八日	一冊	松川 康次郎、松下 治 郎四郎	二月八日から十二月十日付け大河原 区委員会の出席者名と議事録	
3325	290	村内諸入費付込簿	明治二十一年 子	一冊	大河原共有総代、松 下 治郎四郎他	明治二十一年二月八日付けから二十 二年二月付けまでの諸入費の覚え	
3326	291	地価名寄帳	明治二十一年 五月二日	一冊	大河原村集会所	上下青木、釜沢、横谷、文清、中尾、上 蔵、沢戸、上下市場の各耕地地価	
3327	292	地図伝習入費簿	明治二十一年 八月六日	一冊	鹿塩村大河原村	分間地図を作成するにつき、担当者伝 習に必要な経費	
3328	293	分間地図伝習掛り人員出頭諸入費付 込簿	明治二十一年 八月六日	一冊	伝習掛り会計方	分間地図作製につき講習の諸経費	
3329	294	記	明治二十一年 八月九日	一通	量地社長矢崎多之 助、鹿塩大河原総代	測量伝習費九円六十二銭五厘の領収 書	
3330	295	土地分裂書面図面調査工数帳	明治二十一年 八月	一冊	大河原村集会所	土地分裂についての書類、図面調査の必 要手順	
3331	296	冷泉売却金高取調帳	明治二十一年 九月十六日	一冊	大河原共有総代、高 橋 勇作他	五十四番イ字字親山大河原共有山 林の内の冷泉と山林の売却支払い	
3332	297	共有山林ノ内売木運上金取調簿	明治二十一年 子 十月	一冊	大河原村総代、松 川、松下	共有山林の立木売却、その運上金の覚 え	
3333	298	共有山林原野ヨリ揚り拾歩一金穀取 調帳	明治二十一年 十月	一冊	大河原村集会所	大河原共有山の産出物量、用地使用 料など調査	
3334	299	鐘楼堂修繕入費取調簿	明治二十一年 十一月廿二日	一冊	香松寺	香松寺鐘楼の修理必要経費の覚え	
3335	300	道路修繕入費取調帳	明治二十一年 十二月	一冊	大河原村道路担当 人	道路修繕のために要した費用の覚え	
3336	明治 301	清酒通	明治二十一年 二十二年	二冊	松多酒店、 大河原惣代	明治二十一年二月から二十三年一月 まで二年間二冊清酒買い付け帳	

3337	302	(1)村長役場建築入費簿 (2)村長役場建築入費調帳	明治二十一年明治 二十二年十一月	二冊	前島直太郎他	村役場建築の諸入費の覚え	
3338	303	(共有山より伐採願、他)	明治二十一年から 明治三十五年	二十 九通	諸人、 大河原区長他	大河原共有山から諸木を切り出す件 願書、植林和の借り入れ、盗伐の件	
3339	304	(1)共有山林原野ヨリ揚九拾歩一金穀 取調帳 (2)共有拾歩一畝売拂代価受取簿	明治二十二年十月 明治二十二年一月	二冊	大河原村集会所	大河原区共有山林地の産物の十分の一 の取集めとそれらの売却代金	
3340	305	土地台帳用紙で分間地図分別調共入 費出金取調簿	明治二十二年 一月十一日	一冊	惣代松川、松下掛り	諸費入出金の書き留帳	
3341	306	土地台帳借入金其外諸入費共拂方帳	明治二十二年 丑 一月十五日	一冊	大河原集会所	土地台帳其の外諸入用金の支払帳	
3342	307	共有金貸付簿	明治二十二年 一月二十一日	一冊	大河原村総代	共有金の貸付と返済の覚え	
3343	308	郷諸入費互換金名寄書抜帳	明治二十二年 一月廿四日	一冊	大河原村集会所	大河原区入用費の立替払いの個人別覚 え帳	
3344	309	年内共有金収入取調簿	明治二十二年 一月	一冊	総代松川藤次郎、松 下治郎四郎	明治二十一年三月から二十二年一月 まで共有金収支の覚え	
3345	310	(大河原村道路担当人、大河原村総代 選挙、開票結果および投票用紙)	明治二十二年二月 二十一日	一件	上青木耕、楠谷耕 地	明治二十二年の総代選挙、一位松川 藤次郎、二位三位	
3346	311	当村所入費附の帳	明治二十二年 丑 二月吉日	一冊	高橋勇作、松川藤治 郎	大河原村諸入用費の覚え書き	
3347	312	諸出金入貢出頭簿	明治二十二年 丑 二月	一冊	松川藤治郎、高橋勇 作	三月九日から明治二十三年一月廿日 の寄り合い会議録、会議内容記述あり	
3348	313	分間筆当り借集々組名寄帳	明治二十二年 丑 三月九日	一冊	会計掛高橋勇作、松 川藤次郎	分間地図作成に付総計役四十四円余 りの入用費徴収の覚え、諸入用費	
3349	314	(村議員選挙投票紙及び集計)	明治二十二年 三月二十一日	一件	大河原区	大河原区村議員会議員の選挙投票用 紙と集計紙	
3350	315	開墾地井水開鑿御届	明治二十二年 五月	二通	高橋勇作、松川藤次 郎、戸長松下直雄	大河原共有地内で田用水開鑿した、	
3351	316	記	明治二十二年 七月二日	一通	松下久之進、 郷総代	宿泊料、酒代、わらじ代等の報告	

3352	明治317	分間掛り第式期帳	明治二十二年 八月二十六日	一冊	会計掛り高橋、松川	分間地図作製にき入用費徴収の覚え	
3353	318	土地名寄用紙代及筆工料取集簿	明治二十二年 八月	一冊	高橋勇作 松川藤次郎	土地登記用紙代、など経費の取集め帳	
3354	319	田地価金修正評定員出勤簿	明治二十二年 九月	一冊	会計掛吉田長九郎	田地価の修正につき評定員の出勤簿	
3355	320	(1)田地価金修正評定員諸経費帳 (2)田地価金修正二付諸経費簿	明治二十二年 九月	一冊	会計掛吉田長九郎	田地価の修正評価について要した諸費の覚え	
3356	321	分間地図入費第三期取集帳	明治二十二年 十一月廿四日	一冊	会計掛松川、高橋	分間地図作製にき入用費の取集め帳	
3357	322	共有山拾歩一取立帳	明治二十二年 十二月	一冊	大河原共有惣代	共有地使用料、諸産物收穫宴加金の取り立て帳	
3358	323	記	明治廿二年から二十三年	三十通	諸人	金銭納入の覚え	
3359	324	記	明治二十二年から廿四年	五枚		明治二十二年度から廿四年度の薪木、たまりその他大河原区経費などの記	
3360	325	小白木山約定為取替証	明治二十二年から大正二年	二十四通	諸人、大河原区長	大河原区共有山より立木伐出の約定、その他	
3361	326	書籍貸付簿	明治二十三年 一月	一冊	大河原学校	大河原学校図書貸し出し簿	
3362	327	共有地見取金穀井二諸運上収入帳	明治二十三年 二月一日	一冊	共有総代、高橋、松川	共有地における收穫物につき運上金など収入帳	
3363	328	明治二十二年通路橋梁入費	明治二十三年 二月五日	一冊		各地道路と橋の修理工事費などの覚え	
3364	329	諸日当調書帳	明治二十三年 二月五日	一冊	高橋勇作 松川藤治郎	明治二十三年十月から学校修繕などの日当支払い帳	
3365	330	諸運上取立帳	明治二十三年 二月五日	一冊	当共有惣代	共有山から材木や薪など産出、その運上金の徴収帳	
3366	331	拂方名寄書抜	明治二十三年 二月十一日	一冊	共有惣代高橋、松川	村入用諸費支払の覚え	
3367	332	酒之通	明治二十三年 三月一日	一冊	大河原村蒯廻屋、大河原村大総代	明治二十三年三月から二十四年二月までの酒売掛、支払い	

3368	明治333	諸出入員出頭帳	明治二十三年 寅 三月九日	一冊	高橋勇作、平島鎮一郎	明治廿三年二月八日から二十四年二月四日の諸用会合などの出席者名	
3369	334	当村諸入用費付込帳	明治二十三年 寅 三月九日	一冊	総代高橋勇作、平島鎮一郎	大鹿村村用諸費の覚え	
3370	335	土地台帳一筆一畝五厘当組寄帳	明治二十三年 三月二十三日	一冊	会計掛高橋勇作、松川藤治郎	土地台帳費の一筆につき一畝五厘の徴収帳	
3371	336	郷中日用類ばたら入用覚	明治二十三年 寅 五月十七日	一冊		酒代、食料代、薪代など村費覚え	
3372	337	道路野取工料取調帳	明治二十三年 五月十九日	一冊	会計掛高橋、平島	道路工賃の覚え	
3373	338	分間地図諸入費メ出帳	明治二十三年 五月二十一日	一冊	会計掛高橋勇作、平島鎮一郎	地図作製諸入費の分担徴収の覚え	
3374	339	(1)地図諸入費渡方帳 (2)地図勘定支払帳 (3)地図勘定中諸入費付込帳 (4)分間地図入費清算帳	明治二十三年 八月十日、十一日、 九月	四冊	会計掛高橋勇作、平島鎮一郎	分間地図の作製に要した諸費用の分担金など	
3375	340	(1)耕地筆数取調帳 (2)各耕地筆数調帳 (3)筆数調簿	明治二十三年 九月六日	三冊	会計掛高橋、平島	各耕地の土地筆数調査帳	
3376	341	共有地見取帳金諸運上状入帳	明治二十三年 十二月二十二日	一冊	総代高橋勇作、平島鎮一郎	共有地の使用その他の運上金の記録	
3377	342	諸邑勘定メ出し帳	明治二十三年	一冊	今井達治郎	村入用費の会計帳	
3378	343	共有地拾歩一取立帳	明治二十四年 一月五日	一冊	高橋勇作、平島鎮一郎	共有地使用料、諸産物收穫実加金の取立帳	
3379	344	共有山林伐採川下ヶ付契約書	明治二十四年 一月七日	一通	高橋勇作他、下青木提防御中	大河原大西から材木伐出川下げをする契約書(写し)	
3380	345	学校開業式仕きり調帳	明治二十四年 一月八日	一冊	大鹿村大河原今井	学校開業式の費用など覚え	
3381	346	大河原学校開校式借入物並買入記載帳	明治二十四年 一月九日	一冊	総代	開校式にあたって借り入れ、買入物品の覚え	
3382	347	土地台帳就合費取纏メ帳	明治二十四年 一月十五日	一冊	総代高橋、平島	土地台帳照合費の徴収帳	

3383	明治 348	墓地管理者月俸取集帳	明治二十四年 一月十六日	一冊	会計係高橋、平島	墓地管理者に支給する月俸の戸別取 集め帳	
3384	349	共有山焼畑借受証	明治二十四年 一月三十一日	四通	借受人下平初吉他、 大河原共有惣代	共有山の豆下小字上沢の焼畑地を向 こう十五年間借り受ける	
3385	350	親睦会費取集帳	明治二十四年 一月	一冊	会主	郡長など主になつて大鹿村親睦会の会費 徴収の覚え	
3386	351	記	明治二十四年 二月五日	一通	田原直次郎、 大河原惣代	サワラ、桶下駄、薪など出荷数の通知	
3387	352	学校建築費調	明治二十四年 二月十一日	一通	学校建築担当人平 多孫十、平島、高橋	学校建築費の受取覚え	
3388	353	役場造作方井調機取調簿	明治二十四年 二月	一冊	担当人	役場造作に付諸支払の覚え	
3389	354	役場蘭葎他入費簿	明治二十四年 二月	一冊	担当人三名	村役場建築の材料、工賃その他の覚え	
3390	355	苗木植付人足記帳	明治二十四年 四月三日	一冊	共有総代田原直次 郎、平島鎮一郎	苗木植付けのため各耕地計三百二十 六人出動	
3391	356	諸々会人員出頭帳	明治二十四年 四月三日	一冊	総代田原直次郎、平 島鎮一郎	四月三日から九月二十日まで諸会合 の出席者および議事録	
3392	357	高橋人足担当帳	明治二十四年 十二月	一冊	橋梁大担当人	高橋の建築工事人足の名前と作業日な ど覚え	
3393	358	明治二十四年度学費調	明治二十四年	一冊	旧大河原校世話人	明治二十四年、二十五年度の学校費の 収支覚え帳	
3394	359	(1)共有見取穀類売度帳 (2)共有地諸運上金収入簿 (3)委員集会人名簿 (4)共有諸入費付込簿 (5)白澤及青田山而件費用帳	明治二十四年	五冊	共有取締惣代	共有地収獲物の売り払い代金、運上 金、十一月六日から明治二十五年二 月迄、大河原委員会出席者と議事録、 共有山運上費の覚え	
3395	360	(出木付諸書付)	明治二十四年 二十五年	八通		櫛木など採出、出木の件で出張の覚、な ど明治二十四年度分	
3396	361	(1)酒之通 (2)現金酒之通	明治二十四年、二十 五年	二冊	久屋酒店、 大河原区長	大河原区として消費した酒の通帳	

3397	明治 362	(1)明治廿四年度勘定帳 (2)寛衡通(二冊) (3)記(三通)	明治二十四年から 明治二十八年	六通	今井達次郎: 大河原区事務所	明治二十四年度から二十八年まで大 河原区事務所で消費した諸物品の勘 定帳、通帳など	
3398	363	(1)(義指金帳簿、八通)高橋寄付金 募集簿 (2)収入金取調帳 (3)日誌 (4)人名簿 (5)高橋人足触当帳	明治二十四年十月 明治二十五年十月	十二 通	島川高橋架設大担 当人	島川高橋を架設する工事について、発 起人、会議録、費用、人足など二件書 付	
3399	364	共有地地租金徴請取帳	明治二十四年 明治二十五年	二冊	大鹿村大河原区	明治二十四、五年分の共有地地租金と 穀物の受取帳	
3400	365	区投諸入費簿	明治二十五年 旧一月	一冊	大河原区扱処	明治二十五年一月から十二月までの 大河原区必要経費の覚え	
3401	366	委員集会人名簿	明治二十五年 陰曆一月	一冊	松下嘉藤太、高橋勇 作	明治二十五年三月十日から二十六年 三月二十八日まで委員会議事録	
3402	367	(番号)(二号) 田地價修正費額取集帳	明治二十五年 二月	二冊	会計掛吉田長九郎	会計費用の取集め帳	
3403	368	明治二十三年度御拂不足書出シ帳	明治二十五年 三月二十三日	一冊		明治二十三年度中の惣代日当初め、支 払い不足の記	
3404	369	共有入山手形貸与控	明治二十五年 四月	二冊	大鹿村大河原区上 青木耕地、釜澤	明治二十五年度大河原共有山への入山 手形貸与の覚え	
3405	370	共有入山手形貸与控	明治二十五年 四月、十月	三冊	沢戸、中尾、上蔵各 耕地委員	共有山林木など利用のため入山する手 形貸出し帳	
3406	371	協議費日乞井兩乞入費簿	明治二十五年 八月	一冊	大鹿村大河原区	大河原区会議の必要経費、おひらめを い代参必要経費など	
3407	372	共有地見取穀売拂代金請求簿	明治二十五年 十二月十一日	一冊	大河原区	大豆、クリ、小豆、そばなど共有地産物 の売却代金の覚え	
3408	373	共有山野諸運上金取調帳	明治二十五年 旧十二月	一冊	大河原区扱処	共有地からの産物につき運上金の徴収 覚え	
3409	374	学校諸入費取調帳	明治二十五年 陰曆十二月	一冊	大河原村学務委員	学校諸経費の覚え	
3410	375	明治二十五年年度区費取集帳	明治二十五年	一冊	大鹿村大河原区	明治二十五年度の大河原区区費取集 め帳	

3411	明治 376	自費割合記	明治二十五年から 二十六年	一冊		実は二十八年まで酒肴代などの寛え	
3412	377	(共有山より立木伐採願い)	明治二十五年から 明治二十九年	百三 通	諸人、 大河原区長	大河原区共有山から各種立木伐採願 い	
3413	378	共有金不明之廉取調日勤并入費帳	明治二十六年 一月	一冊	大河原区	共有金使途不明について調査した記録	
3414	379	明治二十六年度分取費取調簿	明治二十六年一月	一冊	大河原区	明治二十六年度分の区費徴収簿	
3415	380	弁当料日当金拂方日数書抜簿	明治二十六年 二月	一冊		臨時雇日当日数、雇い人名、区長并出 勤調書、高橋出入金の寛え	
3416	381	(1)区取処教館兼用建築学校築地普 請二付入費并人定帳 (2)取処并学校教館建築入費取集帳	明治二十六年 (1)四月十三日 (2)九月八日	二冊	大鹿村大河原区	区の諸事取り扱、事務所と大河原学校 の兼用建築の費用と、その取り集めの寛 え	
3417	382	冷泉約定為取換書	明治二十六年 四月十六日	一冊	松田彦三郎・松下嘉 藤太、高橋豊作	大鹿村小字桂沢冷泉と敷地の賃借約 定	
3418	383	一号 大河原学校諸入費帳	明治二十六年 四月一日	一冊	学務委員	大河原学校の諸経費の寛え	
3419	384	委員会議事録	明治二十六年 四月	一冊	大河原区長	四月二日から明治二十七年三月二十 七日付けまでの大河原委員会議事録	
3420	385	記	明治二十六年 九月四日	一冊	大河原区長、 沢内委員	前記のとおり大河原区事務所と学校舎 建築にかかる経費出費願う	
3421	386	願書	明治二十六年 十月十日	一通	森庄五郎ほか、 大河原区長	遠山八幡神社と荒川嶽神社の信仰祭 りを行いたい	
3422	387	(1)大河原学校修繕諸品買物帳 (2)大河原学校石垣普請人定帳	明治二十六年 十月	二冊		大河原学校の修理の際の物品買入、及 び石垣修理に力を入れた人々の名前	
3423	388	雨乞三付願訪代参入費取集帳	明治二十六年 十月	一冊	大河原区	雨乞のため願訪神社へ代参する入用 費の取集め帳	
3424	389	(通知)	明治二十六年 十一月四日	一通	大鹿村役場、大河原 区長松下嘉藤太	養蚕講話について	
3425	390	(穀物入札)	明治二十六年 十二月二十三日	一 八枚		穀物売却入札	
3426	391	共有拾歩一穀物売拂簿	明治二十六年十二 月二十三日	一冊	大河原区	共有の穀物売却記	

3427	明治392	(区費徴収通知)	明治二十六年 旧十二月二十六日	七通	大河原区事務所、 各耕地委委員	明治二十五年度の区費不足金徴収のこ と	
3428	393	共有地諸運上金請取帳	明治二十六年 十二月	一冊	大河原区長松下嘉 藤太、高橋勇作	共有地を使用したり、共有地からの収 穫物につき運上金の徴収帳	
3429	394	共有地見取金殺請取簿	明治二十六年 十二月	一冊	大河原区	共有地の収穫物運上金の覚え	
3430	395	明治廿六年度区費割合并取集簿	明治二十六年	一冊	大河原区扱処	明治二十六年度分の区費徴収簿	
3431	396	明治二十六年度入費書抜簿	明治二十六年	一冊	今井達治郎	諸入用費の覚	
3432	397	(1)現金酒御通(三冊) (2)諸勘定明細表 (3)現金酒の通 (4)萬御通 (5)酒之御通	明治二十六年から 二十九年	七冊	久屋商店、平田商 店、今井、平多酒 店、 大河原区	大河原区用事の、主に酒の通帳	
3433	398	式号 大河原学校普請并諸入費取調帳	明治二十七年 一月	一冊	大河原学校学務委 員	大河原学校普請の諸経費の覚え	
3434	399	明治二十六年度大河原学校入費取集 帳	明治二十七年 四月十八日	一冊	大鹿村大河原学校 学務委員	大河原学校初年度明治二十六年度分 の各耕地から取集めた学校入用費	
3435	400	明治二十六年度大河原学校入費拂方 帳	明治二十七年 四月二十六日	一冊	大鹿村大河原学校 学務委員	明治二十六年度の大河原学校で要し た諸費の支払いの覚え帳	
3436	401	区入費取調簿	明治二十七年 四月	一冊	大河原区長、松下嘉 藤太、高橋勇作	明治二十七年四月から二十八年三月 まで、大河原区入用費の覚え	
3437	402	従明治廿六年二月至同廿七年三月区 費決算表	明治二十七年 四月	七通		大河原区各耕地の明治二十六年度分 区費の決算表	
3438	403	委員会議録	明治二十七年 四月	一冊	大河原区	明治廿七年四月十二日から廿八年四 月十五日付大河原区委員会の会議録	
3439	404	遠山八幡神社并外田社合祭日清事件 二府湯立御新橋入費取調簿	明治二十七年 旧八月十五日	一冊	大河原区扱処	祈禱に必要な経費の覚え	
3440	405	明治二十六年度分大河原学校入費残 額取集帳	明治二十七年 九月十五日	一冊	学務委員	明治二十六年度分大河原学校入用費 約三十二田の覚え	破損あり
3441	406	明治二十七年区費ノ内戸数割金員 取集帳	明治二十八年 八月三十日	一冊	大河原区	明治二十七年年度の区費の一部、取集め 帳	

3442	明治 407	当区投免井学校教館修繕費調帳	明治二十七年 九月	一冊		大河原区事務所と学校校舎修繕費の 覚え	
3443	408	学校用度金出納簿	明治二十七年 十一月	一冊	大河原尋常小学校 学務委員	明治二十七年三月から二十八年四月 まで小学校諸費用の出納簿	
3444	409	(1)共有地拾歩一見取金穀請取改簿 (2)共有地見取拾歩一般物売拂簿	明治二十七年 十二月	二冊	大河原区	大河原区共有地を使用した収獲物の 十分の一を受け取り、売却した覚え	
3445	410	記	明治二十七年	一冊		二十七年度区費払方、二十六年度分 払い不足、二十七年度不納の覚えなど	
3446	411	記	明治二十七年 明治二十八年	二通	みなどろ、平田酒店、 大河原区	酒代、その他入用費書き上げ覚え	
3447	412	(共有山加盟願書)	明治二十八年 一月	二十 四通	大鹿村大河原区	共有山加盟願い二十二通、他金受領 証と土地図	
3448	413	大河原学校教館修繕費取集帳	明治二十八年 一月	一冊	本校学務委員	大河原区小学校校舎の修繕費の取集め 帳	
3449	414	諸運上金并臨時収入金取調簿	明治二十八年 一月	一冊	大河原区	共有山より薪、材木など切り出し運上 金などの覚え	
3450	415	学校教館修繕費入費帳	明治二十八年 二月	一冊	大河原学校学務委員	大河原学校修繕の際に要した諸費用の 覚え	
3451	416	区入費取調簿	明治二十八年四月 から二十九年三月	一冊	松下嘉藤太、高橋勇 作	大河原区入用費の書き留帳	
3452	417	郷蔵建築入費簿	明治二十八年 九月	一冊	大河原区長松下嘉 藤太、高橋勇作	大河原区郷蔵の建築費の覚え	
3453	418	郷蔵建築入費取調簿	明治二十八年 九月	一冊	大河原区	大河原区有の倉を建築するのに要した 諸費用の覚え	
3454	419	大河原学校家根普請入費帳	明治二十八年 十月	一冊	当校学務委員	大河原学校の屋根普請の際に要した諸 費用の覚え	
3455	420	(1)大河原学校家根普請入費帳 (2)大河原学校家根入費取集帳	(1)明治廿八年十 月はじめ(2)明治廿 九年三月	二冊	当校学務委員	大河原学校の屋根修理に要する費用と 取集めの覚え	
3456	421	(通知)	明治二十八年 十二月二十三日	一通	大鹿村役場、松下嘉 藤太、高橋勇作	飯田町奉天堂眼科医院くは、赤貧の者 に限り無料診療をする件	

3457	422	共有焼畑拾歩一金穀取集簿	明治二十八年十二月	一冊	大河原区	大河原共有山使用料、供出産物など取集め帳	
3458	明治 423	共有地見取穀売拂取調帳	明治二十八年十二月	一冊	大河原区	共有地穀物の売り払い調べ	
3459	424	委員会会議録	明治二十八年四月から廿九年三月	一冊	下伊那郡大鹿村大河原区	大河原区委員会の出席者と会議録、伊良親王五百年忌に付	
3460	425	大河原学校入費取集帳	明治二十九年一月	一冊	当校学務委員	大河原学校の明治二十八年分入用費の取集め帳	
3461	426	明治二十八年度分共有山諸運上金取調簿	明治二十九年一月	一冊	大河原区	共有山使用料、運上金の記録	
3462	427	当大河原区各自所有地価取調簿	明治二十九年一月	一冊	大河原区事務所	大河原区内、各私有地の地価総覧帳	
3463	428	萬御通	明治二十九年 申二月	一冊	今井、大河原区役場	大河原区役場で買い付けた諸品の通帳	
3464	429	区入費取調帳	明治二十九年四月から三十年三月	一冊	大河原区長松下 藤太、高橋勇作	大河原区入費として使用した費用の覚え	
3465	430	委員会人名簿	明治二十九年四月から三十年五月	一冊	下伊那郡大鹿村大河原区	大河原区委員会の出席者と会議録	
3466	431	大河原学校家根入費戸掛負担金取集帳	明治二十九年六月	一冊	大河原区	大河原学校の屋根修繕費を各戸あたりで徴収した簿を帳	
3467	432	大河原区願主入費帳	明治二十九年九月七日	一冊		大河原区で購入した諸品の金額の覚え	
3468	433	建議書	明治二十九年九月十一日	一通	大鹿村井上初助、大河原区長	大河原青木川上青木、深ヶ沢水源川辺のシンノキから治山治水のため薪伐	
3469	434	共有山伐木願約定外代価請取取調帳	明治二十九年九月	一冊	大河原区事務所	共有山から伐木の願書、約定、および代価	
3470	435	大河原学校窓天井其他修費取集帳	明治二十九年旧暦十二月廿二日	一冊	当校学務委員	大河原学校の修費、取集め帳	
3471	436	東京日日新聞	明治二十九年十二月二十六日	一枚		十二月二十六日、一、二、七、八、一、三の新聞紙	
3472	437	共有地定税金取集帳	明治二十九年十二月	一冊	大河原区事務所	共有地利用者に対し、定税金の取集め帳	

3473	438	共有地諸運上取集簿	明治二十九年 十二月	一冊	下伊那郡大鹿村大 河原区事務所	共有地の冷炭、炭焼き、伐木採取など の運上金取集帳	
3474	明治 439	共有地拾歩一取集穀売拂簿	明治二十九年 十二月	一冊	大河原区事務所	共有地収穫物の十分の一を集め売却し た覚え、そば、くり、大豆、小豆	
3475	440	共有地拾歩一取集帳	明治二十九年 十二月	一冊	大河原区事務所	共有地収穫物の十分の一納入簿	
3476	441	「炭釜約定書」	明治二十九年から 大正元年	十通	諸人、 大河原区長	炭釜設置願いと設置の約定書	
3477	442	委員会人名帳	明治三十年 四月	一冊	大河原区	明治三十年七月から三十一年四月 迄、大河原区委員会の出席者名と協議 内容の覚え	
3478	443	諸願書	明治三十年 四月	二十 七通	諸願人、 大河原区長	共有山林への植林願い、下草刈り取り、 立木伐採願い	
3479	444	明治二十九年分道路橋梁祭費戸別割 金取集帳	明治三十年 五月	一冊	大河原区事務所	道路、橋の完成祭費の徴収帳	
3480	445	共有地定税金取集帳	明治三十年 十二月	一冊	大河原区事務所	大河原区各地区共有地の使用定税金 の徴収帳	
3481	446	(1)区費割合并取集帳 (2)共有地見取穀売拂代金請取帳 (3)区費割合金受取帳 (4)共有地諸運上金取集帳 (5)明治三十年度調上分帳	明治三十年	五冊	大河原区事務所	大河原区の区費、共有地収穫物の売り 払い代金、諸運上金などの覚え帳	
3482	447	明治三十年度区費物額 ほか	明治三十年から明 治三十四年	十 四枚		区費総額、決算、小浜橋補助金、小浜 橋千五百円に対する入費、檜黒部三 木榎木沢胡桃売却出張人員、榎木売 却代金収入について覚書	
3483	448	「墓地管理者給料金取集帳」他	明治三十年から明 治四十四年	四冊	大河原区事務所	大河原区墓地の管理費などの徴収の覚 え	
3484	449	立木伐採願	明治三十年から大 正元年	百十 一通	諸人、 大河原区長	村有林各地から櫛木、家屋用材など諸 木切り出し願	
3485	450	(1)遠山神社再建祭典費帳 (2)遠山社再建入費帳	明治三十一年四月	二冊		遠山神社の社を再建するに要した諸 費、再建祭典必要経費の覚え	

3486	451	区入費取調帳	明治三十一年四月 から三十二年三月	一冊	高橋勇作、前島文蔵	明治三十一年度の大河原区入用費の 覚え	
3487	明治 452	荒地免租年期付与願	明治三十二年 十一月十二日	一冊	松下文八他二名、大 鹿村長松下直雄	明治三十一年九月六日小渋川出水に つぎ荒地とみな各地の免租願い	
3488	453	明治三十年大河南学校入費取集帳	明治三十二年 旧十二月	一冊	本校学務委員	明治三十年度における大河南学校校 費の取集め帳	
3489	454	共有地定税金取集帳	明治三十二年 十二月	一冊	大河南区事務所	大河南共有地にかかる税金の取集め帳	
3490	455	小渋橋掛替入費記	明治三十二年	一冊		小渋橋掛替に必用な経費の覚え	
3491	456	(小渋橋修繕諸帳) (1)小渋橋修繕工事請負契約書(四 通) (2)小渋橋梁用材并設計仕様方変更 願(二通) (3)諸受取覚(三十四枚) (4)小渋橋懸日役人足帳 (5)小渋橋梁修繕諸入用帳 (6)小渋橋梁諸入費支拂帳 (7)小渋橋修繕費下調書	明治三十一年から 三十二年	四十 冊 通 四十 件 十		小渋橋修繕関係の文書 契約書、諸入用費の受取の覚、支払い 帳など	
3492	457	(共有山立木売却しき問(合わせ))	明治三十二年 一月三日	一通	松井金作、 大鹿村長役場	共有山約五十五畝余歩林地の約百 万本以上の木を黒田忠一に明治六十 年まで売却する件にしき問(合わせ)	
3493	458	諸出会人員出頭帳	明治三十二年 一月二十日	一冊	大鹿村大河南区	大河南区委員会の出席者および議事の 覚、三十二年一月と三十三年一月	
3494	459	小渋橋梁(終修)諸諸入用帳	明治三十二年 二月	一冊		小渋橋修理の際の諸入用費	
3495	460	明治三十拾叁年度区費集帳	明治三十二年 二月	一冊	高橋勇作、前島文蔵	明治三十一年度分の区費取集の帳	
3496	461	委員会人名帳	明治三十二年四月 から十一月	一冊	下伊那郡大鹿村大 河原区	大河南区委員会の出席者と会議録	
3497	462	牧場開設二付大河南区共有山林字中 山日向借地願	明治三十三年 十二月	一冊	前島直太郎、松下猪 之吉、区長高橋勇作	馬牧場開設するための社打ち願い、馬 数の減少を食い止めるためその他	

3498	明治 463	区会決算報告書	明治三十三年	一冊		明治三十三年度大河原区の会計帳	
3499	464	(願書など)	明治三十三年から 大正元年	三十 七通	諸人、 大河原総代	冷泉貸借、村有林立木伐出願、諸費受け取りなど	
3500	465	明治三十三年度区費書抜帳	明治三十四年 二月	一冊	大河原区事務所高 橋勇作	明治三十三年度の大河原区費の徴収簿	
3501	466	約定書	明治三十四年 三月十四日	一通	大河原区長ほか	小学校校地増加に付土地譲渡など約定書	
3502	467	委員会日勤録	明治三十四年四月 から三十五年三月	一冊	高橋勇作、田原直治 郎	大河原区委員会の出席者と会議録	
3503	468	共有地定税金取集帳	明治三十四年 旧十二月	一冊	大鹿村区長高橋勇 作	大河原区各地区共有地の使用定税金の徴収帳	
3504	469	明治三十四年度区費書抜帳	明治三十五年 一月二十三日	一冊	大河原区事務所区 長高橋勇作	明治三十四年度の大河原区費の徴収帳	
3505	470	委員会集會録	明治三十五年 五月十五日	一冊	大河原区事務所	五月十五、十六日の大河原区委員会出席者名簿	
3506	471	后照録	明治三十五年 五月	一冊	大河原区事務所	明治三十五年五月十四日付けから明治三十六年四月二十六日付けまで大河原区委員会議事録、共有山林立木売却について記述多い	
3507	472	前区長高橋勇作ヨリ引継ぎ付出勤者数 調	明治三十五年九月 五日から	一冊		明治三十五年度に日当を支払っていない分を含めて委員会出席者の覚え	
3508	473	願書	明治三十五年 十二月十六日	一冊	大河原学校井上初 助・田原直次郎	小学校で必要な物品購入するため補助願いたい	
3509	474	明治三十五年区費調帳	明治三十五年 十二月	一冊	大河原区事務所	明治三十五年分の大河原区費徴収帳	
3510	475	明治三十五年度大河原学校費決算表	明治三十五年	一冊		明治三十五年度の大河原小学校決算表	
3511	476	治水堤防費及水害道路橋梁費設計査 定	明治三十五年	一冊	大鹿村役場	明治三十五年の治水、堤防工事、水害道路、橋の修理費など	
3512	477	(明治三十五年度教育費)	明治三十五年、三十 六年	三通	大鹿村役場・大河原 学校学務委員	明治三十五年度大河原学校決算額について	

3513	明治 478	現金通之通	明治三十五年 明治四十二年	九冊	久斯通倉ほか、 大河原区会	大鹿村久斯通屋、竹上酒舗、井沢商店、豊原酒舗の大河原区の酒他の通帳	
3514	479	后照録	明治三十六年 一月廿日	一冊		明治三十六年一月廿日から廿四日までの大河原委員会集会の議事録、高橋使い込みの件	
3515	480	請願書	明治三十六年 一月二十三日	一冊	松浦勝三郎ほか、区 長代理田原直次郎	大河原学校物品購入のため設備費中に補助を願う	
3516	481	大鹿村大河原区賦役値予願	明治三十六年 四月七日	一冊	清水常次ほか、大河 原区長田原直次郎	父親死亡、願ひ本人幼少に付大河原区賦役の免除を願う	
3517	482	(大河原専常高等小学校雨申体操場建設一仕)	明治三十六年 十月二十一日	十件	大河原区長他	大河原小学校雨申体操場の建築に付、設計施工、担当者へ入札図面など	
3518	483	貯穀貸与元利取調簿	明治三十六年 十月	一冊	大鹿村大河原区事務 所	貸与した貯穀大麦の寛え	
3519	484	共有地拾歩巻税徴収記帳	明治三十六年 十二月二十八日	一冊	大河原区事務所	共有地にかかる税金の徴収帳	
3520	485	共有地定税徴収帳	明治三十六年 十二月	一冊	大河原区事務所	大河原区共有地にかかる税金の徴収帳	
3521	486	程野線大鹿村測量検分人工帳	明治三十六年 十二月	一冊	大河原区事務所	明治三十六年十二月廿日出頭人名はじめ程野線測量人名、入札立会など	
3522	487	明治三十六年度区費書抜帳	明治三十六年	一冊	大河原区事務所	明治三十六年に出費した区費の書き抜き帳、計二百十八円余	
3523	488	(程野線第一工区公入札の件)	明治三十七年 一月二十七日	四件	工事担当	程野線入札保証金の受取、入札の公示など	
3524	489	神宮奉請会々員加入名簿	明治三十七年五月	一通	神宮奉請会大本部、 大河原村区長	伊勢神宮奉請会へ加入の誘い	
3525	490	拾歩一税徴収帳	明治三十七年 十二月	一冊	大河原区事務所	大河原区共有地にかかる税の徴収帳	
3526	491	委員会料支拂帳	明治三十七年 十二月	一冊	大河原区事務所	委員会出席費の支払帳	
3527	492	共有地定税徴収帳	明治三十七年 十二月	一冊	大河原区事務所	大河原区共有地各地の利用者へかかる税の徴収帳	

3528	明治 493	山見分人夫井入費帳	明治三十七年	一冊	大河原区事務所	八月二十八日、三十日、九月三日、山見分と入札の参加者覚え	
3529	494	土地貸借証書	明治三十八年 一月一日	一通	松田彦三郎、 山下初次郎	大河原字橋渡の土地貸借	
3530	495	明治三十七年度諸収入帳	明治三十八年 一月	一冊	大河原区事務所	明治三十七年度の定税、職林地税など 諸収入の覚え	
3531	496	(通達)	明治三十八年 六月七日	二通	大鹿村役場、 大河原区長	勅令第百五十三号陸軍省令第八号の 第二国民召集令および戦利品展示会 招待について	
3532	497	(大河原区委員集会召集要領)	明治三十八年 六月二十八日	一通		諸税金徴収組合設立、水害道路修繕 の件で集会の要領	
3533	498	開墾成功地価取調書	明治三十八年	一冊	松下為弥他二名、 岡村尚孝	鹿塩区桃久保地で明治三十六年来開 墾してきたが成功したので地価報告	破損あり
3534	499	会計簿	明治三十九年 九月廿日	一冊	第二回軍人歓迎会	第二回軍人歓迎会の入出金覚え	
3535	500	土地分割届	明治三十九年 十一月十日	一冊	北沢今朝松、 飯田税務署長	地主北沢今朝松の鹿塩寺平と中尾沢の 土地を図のように分割する	
3536	501	(1)体操場造作工事費用請願書 (2)体操場開天窓硝子戸設計 (3)体操場費請不足額について (4)請求書 (5)請取証	明治三十九年から 明治四十三年	五通	学務委員他、 大河原区長	大河原小学校雨天体操場の造作と不 足額に関する請求、領収証	
3537	502	天照皇大神宮永大々御神楽奉奏加名 簿	明治四十年 一月	一通	神宮敬神会本部、 大河原区長	伊勢神宮大々神楽奉奏の件	
3538	503	引継三付不納金取調帳	明治四十年 五月十八日	一冊	大河原区事務所	運上金、税金などこれまで不納金の書 上げ帳	
3539	504	私用木下付願、共有山林入山伐採願、 など	明治四十年九月か ら十一月	十八 通	諸人、 大河原区長	大河原共有山青田山鶯ヶ巢の立木伐 採願い概観など計二十七本	
3540	505	開墾届	明治四十年 十一月二十三日	一通	松沢辰二郎、飯田税 務署長、岡村尚孝	中沢日向内へ開墾したいので届ける	

3541	明治506	(陸地測量標數地契約書類入) (1)陸地測量標數地貸借契約書 (2)陸地測量標數地貸借契約書別冊 (3)他四通	(1)明治四十年十二月八日 (2)大正二年二月九日	六件 一袋		一等三角点標數地の貸借に関する書類	
3542	507	分間地図訂正願	明治四十年十二月	一冊	伊藤紋重郎・大鹿村長松下直雄	分間地図作成の際に誤りがあったので図面を付して訂正を願ひ出る	破損あり
3543	508	諸運上並諸収入記帳	明治四十年	一冊	大河原区事務所	材木代、新運上金など覚え書き	
3544	509	拾歩亭税見取記帳	明治四十年十月十一日	一冊	大河原区事務所	大河原区共有地にかかる税の徴収見込み	
3545	510	共有地定税徴収帳	明治四十年	一冊	大河原区事務所	大河原区共有地の利用にかかる税金の徴収覚え	
3546	511	共有山林入山手形貸付帳	明治四十年	一冊	大河原区事務所	大河原地区共有山林への立ち入り手形貸付の覚え	
3547	512	共有山林入山手形貸付帳	明治四十年	一冊	大河原区事務所	大河原地区共有山林への立ち入り手形貸付の覚え	
3548	513	委員人当支拂帳	明治四十年	一冊	大河原区事務所	各委員へ手当ての支払の覚え	
3549	514	堤防日誌	明治四十一年三月吉日	一冊	島川原世話人	島川原田七十七坪の使用掛り金の覚え	
3550	515	開墾廢止届	明治四十一年五月二十一日	二通	前島直太郎・飯田税務署長岡村尚孝	大河原上野々で明治三十一年末開墾してきた瘠地につき断念した	
3551	516	(記)	明治四十一年六月五日	一通	松樋庄太郎・大鹿村役場	大鹿村伝染病予防費として六十円寄付したので木杯一個下賜する	
3552	517	公有山林台帳登録済報告書	明治四十一年六月五日	一通	大鹿村長松下直雄・下伊那郡長川村備衛	大鹿村有林十二筆につき概要を含め登録した報告書	
3553	518	書簡	明治四十一年十一月四日	三通	大鹿銅山事務所・大河原区長はるか	大河原区民の大河原区有林内の樹木に対する二口取りに付疑問、照会	
3554	519	墓地管理料金取集帳	明治四十一年旧十二月	一冊	大河原区事務所	墓地管理費の取集め帳	
3555	520	役員手当取調帳	明治四十一年	一冊	大河原区事務所	明治四十一年度の大河原区役員手当ての支払帳	

3556	明治 521	通課及出勤簿	明治四十一年 明治四十二年	一冊	大河原区事務所	村内諸事に付大河原区委員会の招集 通知、同議事内容、出席者	
3557	522	書類留	明治四十一年	一冊	大河原区事務所	炭窯設置定約、共有林よりの樹木伐採 払い下げ願い、その他	
3558	523	(一)分間地図訂正願	明治四十一年 明治四十二年	十冊	諸人	村内各所各人の地目、広さなどに関す る絵図付き文書	
3559	524	大河原区共有山林入山手形貸付帳	明治四十一年から 明治四十四年	三冊	大河原区事務所	大河原区共有林内へ立ち入る際の手形 貸付の覚え、字名、伐木樹種、氏名	
3560	525	后照録	明治四十一年から 大正二年度まで	一冊	下伊那郡大鹿村大 河原区事務所	大河原区委員会議事録、共有山立木 売却事件に関する議事記述あり	
3561	526	大鹿村勤倭会規約書	明治四十二年 十月十三日	一冊	塩原耕地近藤富吉 他、大鹿村長	金俵約のため冠婚葬祭など万事原金俵 約する会の規約	
3562	527	(臨時勸業費)請求書	明治四十三年 三月二十六日	一通	大鹿村農会長松下 直雄	大鹿村農会補助金二十六円の請求領 収書	
3563	528	建議書	明治四十四年 三月五日	一冊	手島鎮一郎他、大河 原区長竹下徳松	程野線小浜橋から上青木大沢間野道 路を改修する必要あり	
3564	529	願書	明治四十四年 十二月	一通	松沢利勢、大河原区 長竹下徳松	困窮につき区内公務全般を免除願う	
3565	530	土地合併届	明治四十四年	二通	松下為弥、飯田税務 署長山口忠一	土地合併につき図面を添えての届、同 文二通	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆者 差出人・ 受取り人	主 内 容	備 考
3566	大正 1	競売地保証金領収帳	大正元年 八月廿二日	一冊	大河原区	東渡合、大師ノ宿、小白次、蔵が興、な どにある競売地の保証金受取帳	
3567	2	拾歩一見取調	大正元年 十月十二日	一冊	大河原事務所	十分一年責調書	
3568	3	大河原区有林財産売却処分二箇スル綴 込永久保存	大正元年 十二月	一冊	大鹿村役場	明治三十年大河原区有林立木売却事 件につき、大正元年に解決した際の証 書書類などのまとめ	
3569	4	大正元年度 (諸費請求領収書)	大正元年	七冊	大鹿村役場	衛生費、種痘費、会議費、役場費、備品 費など、諸費請求領収書類綴り	
3570	5	(営業税納付請求書)	大正二年 十一月十日	七枚	大鹿村長伊藤直太 郎・間瀬伊与太郎	国税である営業税(付加税)の納付請 求書	
3571	6	大正二年度役場費村長報酬	大正二年	一冊	大鹿村役場	村長(伊藤直太郎)の報酬請求領収書 綴り(月給七円)	
3572	7	(1)大正三年六月末日現在社寺有林 野台帳 (2)社寺有林野管理区分台帳 (3)社寺有林野管理台帳	大正三年 六月	三冊	大鹿村役場	社寺有林野に関する台帳(大正三年 六月に作成されたものか)昭和年間ま で書き込みがある	
3573	8	公有林野管理方法台帳	(明治四十年) 大正三年六月	一冊	下伊那郡大鹿村	大河原区公有林の各地林の現況、伐採 計画、林令などの管理方法の記録	
3574	9	(1)村図訂正願 (2)土地分割届 (3)地目変換地価取調書 (4)土地合併届	大正三年から大正 五年	十 九 通	大鹿村・ 飯田税務署長	村図訂正願、などの図面付き願書、届書 き	
3575	10	村有財産処分登記一件書類(土地)	大正三年から 昭和十八年	四十 四冊	諸人	村有地なら財産処分、その他土地売買 の契約書、証書、大正年間三十四冊	

3576	大正11	大正四年度以降林業成例書類	大正四年から昭和九年	一冊	大鹿村役場	大正四年から昭和九年までの林業にかかわる諸通達などの書類綴り	
3577	12	御願	大正五年五月七日	二通	加子母村三浦為八、大鹿村長	モチ木全部を相当の代金で払い下げ願いだ	
3578	13	大正六年一月三十一日統一村会々議録	大正六年一月三十一日	三冊	松下田鶴丸、竹下徳松他	大正六年三月三十一日村会議事録、二通の写しは昭和十二年六月十一日発行の議事録謄本	
3579	14	大正六年度予算流用命令綴	大正六年	一冊	大鹿村長 大鹿村収入役	大鹿村予算を諸費へ変更流用することにより村長の命令書綴り	
3580	15	(1)大正七年度土木費治水堤防費 (2)大正七年度土木費道路橋梁費	大正七年	二冊		土木関係諸費領収書綴り	
3581	16	大正七年度雑支出納税組合表彰費	大正七年	一冊		納税組合表彰費の支出領収書綴り	
3582	17	(北川地籍売却書類)	大正十年九月二日	五件	大鹿村、下伊那郡長	大鹿村公有地の売却について許可書類など	
3583	18	大鹿村公有林野官行造林案造林基案	大正十一年十月	一冊	山林技手曾山静	官行造林計画を作るための基礎案、字西山小字地獄谷ほか	
3584	19	大正十一年度官行造林書類綴	大正十一年	一冊	大鹿村役場	大正十一年十月二日付はじめ官行造林に関する書類集	
3585	20	長野県上下(伊那郡)大鹿村公有林野官行造林案説明書	大正十四年十一月二十四日	一冊	東京営林局、大鹿村長	大鹿村有林の官行造林計画、鹿塩字西山四三四四イの一番	

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 入	主 内 容	備 考
3586	昭和 1	雑支出	昭和元年(大正十五 年)	一冊	大鹿村役場	徴兵、地元改良費、納税関係など大鹿 村雑支出領収書など	
3587	2	大正十五年以降庶務成例綴	昭和元年(大正十五 年)から昭和二十年	一冊	大鹿村役場	大鹿村庶務事項、法令、通達書類綴り	
3588	3	昭和二年度役場費電費費土木費全部	昭和二年	一冊	大鹿村役場	昭和二年度の役場費、諸入用費などの 領収書など綴り、昭和三年四月まで	
3589	4	(土地登記関係書類)	昭和三年から昭和 五年	五冊		土地面積、地主など、土地分割届け、 土地抵当物解除など	
3590	5	林業関係各種契約書類	昭和四年から昭和 六年	一冊	大鹿村役場	昭和四年から六年まで村有林野貸付 契約書など	
3591	6	決算書原本綴	昭和四年度から昭 和二十七年まで	一冊	大鹿村役場	大鹿村歳入歳出決算書綴り	
3592	7	失業救済低賃一件	昭和五年	一冊	松下健次郎他・大鹿 村長前島隆俊	昭和五年度各種工事、水害復旧など、 開墾など、各地の絵地図ある	
3593	8	水害復旧事業	昭和六年 一月	一冊	菅沼銀衛 他四団体	水害復旧の諸工事計画書	
3594	9	小用排水小設備改良事業	昭和六年	一冊	吉田富司他	小用排水改良事業計画	
3595	10	副業農業共同施設事業	昭和六年	一冊	宮下静雄他	内地向け副業施設事業計画、東豆腐の 製造、山葵、白菰製造などの事業	
3596	11	第二回桑園改良事業	昭和六年	一冊	大蔵喜十郎他	蚕桑改良事業の計画書	
3597	12	小開墾事業	昭和六年	一冊	菅崎忠男他	十六団体による各地区開墾事業計画 書	

3598	昭和 13	畜産諸施設	昭和六年	一冊	松下 楠實他	七団体による畜産諸施設計画	
3599	14	蚕桑改良事業	昭和六年	一冊	松尾 久登外二十六 団体	蚕桑改良事業の計画書	
3600	15	貸地関係書類	昭和七年	一冊	大鹿村役場	村有林野地の貸付に関する書類綴り	
3601	16	(官行造林案) (1)公有林野官行造林案 造林基案 (追加) (2)大鹿村官行造林案説明書(第一次 第二次) (3)大鹿村官行造林案説明書(第三次 追加) (4)公有林野官行造林案 造林基案 (第三次追加) (5)大鹿村官行造林地施業案説明書 (6)官行造林地地図(二枚)	昭和九年から 昭和十八年	五冊 二枚 図	営林署	大鹿村有地の官行造林に関する書類な ど	
3602	17	昭和十年度荒廢地復旧事業予定地公 図	昭和十年	地図 二枚		日 蔭と鹿塩字儀内路他の復旧事業予 定地地図	
3603	18	水災救助報告	昭和十三年 七月三十一日	一冊	大鹿村長吉田弘・長 野 県知事大村清一	昭和十三年七月五日の水害被災救助 の報告書	
3604	19	領収書類	昭和十三年			前島家各種領収書類	
3605	20	林道関係一件書類	昭和十四年	一冊	大鹿村役場	昭和十三年度水害林道復旧事業工事 に関する書類綴り	
3606	21	小浜川林道関係書類	昭和十五年	一冊	大鹿村役場	昭和十五年から二十年まで小浜林道 解説事業などに関する書類綴り	
3607	22	昭和十七年以降許可認可申請綴	昭和十七年から 二十二年	一冊	大鹿村役場	大鹿村内、諸許可認可申請書などの綴り	
3608	23	御料林交換地一件綴	昭和十八年	一冊	大鹿村役場	大鹿村有林と御料林との交換に関する 書類綴り	
3609	昭和 24	昭和二十年度以降事務報告書類	昭和二十年度から 昭和二十五年	一冊	大鹿村役場	昭和二十年度から二十五年まで大 鹿村事務報告書の綴り	

年代不明

3610	25	公有立木入札規定	昭和二十四年から 昭和二十五年	四冊	大鹿村	青田山、黒羽沢、土金、笹山など各村 有林の立木入札規定	
------	----	----------	--------------------	----	-----	--------------------------------	--

整理番号	年号別 番号	題 目	年 月 日	数 量	筆 者 差 出 人 受 取 り 人	主 内 容	備 考
3611	不明 1	千村平右衛門御預所信濃国伊那郡大 河原村高反別帳		一冊	大河原村	大河原村高反別帳明細	
3612	2	御検地帳前跡書荒所口訳抜		五冊 一包	前島政美	延宝五年検地以来安永八年検地まで の大河原村石高の控え	
3613	3	覚	八月二十日	一通	大河原村	酉年分として納めた材木高十三十六 本六分五厘を六か村で割た覚え、宝 暦四、五年か	
3614	4	(書付)				諸々請取覚え、文書下書き、書簡など 多数、明和か、安永、特に井納木	
3615	5	堂垣外料地下見帳		一冊		堂垣外他の田畑などの下見記録(明和 五年か)	
3616	6	覚	卯 四月十二日	一通	飯田御役所、 大河原村名主	荒所引き高小前帳と見取り田畑小前 帳の請取状(明和八年卯か)	
3617	7	(書付、下書き)		七件		宝暦御用木井木など、覚え書付、下書 き、日記断片など、明和から安永	
3618	8	(1)覚え (2)御寄附帳		四冊		金子覚え三冊と未使用の寄附帳、宝暦 または明和年間	
3619	9	覚	明和七年または八年 四月二十五日	一通	清六、 右馬之丞	染物四反の請取覚え、明和七、八年の 文書整理(袋同封)	
3620	不明 10	(日記断片)		十二 枚	(右馬之丞)	七月五日から八月二十九日のものは 木代材木納時期か、他は安永か	

3621	11	(熊野温泉または熊野権現伝奇)		一通		室町後期の語り物「小栗判官」の変形語り物、熊野温泉の伝奇、宝暦十二年前後の割り物	
3622	12	覚	亥 五月十二日	一通	半三郎・大河原元六 様、友八様	諸雜費代金の受け取り(明和四年か)	
3623	13	左之書付を以奉願…		一通		材木伐下げのようぐるについて	
3624	14	作忍書付を以奉願上候御事		一通	右馬之丞	弁木御用木の納め方について願書、 明和七年寅四月または五月か	
3625	15	(日記)		六件	(右馬之丞)	宝暦御用木弁木関係の右馬之丞筆の 日記断片、明和から安永年間	
3626	16	(銭寄差引帳)	(安永五年)申 一月七日から十日	一冊		おそらく安永五年の銭寄差引帳	
3627	17	証文敷覚	(文化六年?)	二枚		受け取った証文の覚書	
3628	18	(諸書付、下書)		七通		諸書付の下書き(文化十三年前後?)	
3629	19	覚		八通		御用廻状などの受取状(文化十三年前後?)	
3630	20	廻状御用	閏八月三日 (文化十三年?)	一冊	飯田御役所、 小川村他九ヶ村	仰せ渡すところあり、印判持参で出頭せよ、出役倉橋藤四郎湯小屋にて入湯	
3631	21	(書付)(入用書付)	(文化十三年前後)	四通 一包		普光寺記念スタンブ、六味蔵痛圓処方、お札、お守り	
3632	22	(御用書付覚え)		四通		御用書付、同請取覚えなど	
3633	23	(題目なし)	十二月十五日 (文化元年?)	一冊		諸費收支計算の覚え	虫食いひら
3634	24	覚		十六通		「養生」、金子など請取覚えなど、(文政三年前後?)	
3635	25	(書付、下書き)		六通		文政三〜四年前後のものと思われる	
3636	不明 26	覚	(文政三年前後?)	一通		知久氏一家の名前続柄の覚書、嫡子知久熊麿、次男知久吉次郎などの名あり	

3637	27	寛		二 三 五 通		文政年間から方延の、粉ねか、米、酒、 その他諸々請取覚え	
3638	28	寛、書付		四通	八郎九郎	江戸諸店において各種の買入れをし た際の代金受け取りその他	
3639	29	(書付)		一枚		煎じ薬の作り方、天保年間のものか？	
3640	30	(書付)		一冊		流作場などの調査覚え書き 天保年間か	
3641	31	(書指入)		一袋		覚書、書き指しなど十五枚	
3642	32	(書付)		二枚		樽木割り出し数の覚えか	
3643	33	寛		一冊		金子取立之覚帳	
3644	34	寛		一冊		材木数、金額、寸尺、木種の覚	
3645	35	御見取田畑分別ノ辻帳		一冊	伊那郡大河原村	寛延元年から宝暦、明和、延享四年、 文化、文政、天保の改出まで見取り田 畑の広さが記述されている	
3646	36	沢戸上蔵釜沢番附帳 沢戸下改帳		二冊		田畑荒れ所の書き上げ	虫食い
3647	37	青木川北俣御材木間知帳	申 四月十三日	一冊	中小屋会所・ 御用木御元メ	青木川北俣から切り出した御用木綻 梅姫子とうひ桂の材木間知帳	
3648	38	寛	申 四月十四日	一通	会所伝左衛門・ 下代友八	筏乗り金として五十両を受け取った	
3649	39	市岡左蔵様出入方御用二付御出御宿 購入用改帳	酉 四月五日	一冊		市岡左蔵はか一名が四月五日から七 日まで、井上柳八はか一名が四月九日 から十一日まで来村の際の入用費	
3650	40	饗応錢取集□□帳		一冊		饗応に要した金を取り集める名簿 (明治四、五年か？)	虫食い
3651	不明 41	御触書写し		一冊	大河原村控え	「浪人嫌之者…」で始まる触書の写し	

3652	42	札酒	卯 十二月二十三日	一通	中山村治介他・ 御会所様	下垣外發行の酒一升の商品券	
3653	43	(村民留木夫役の覚)	申 十二月	九通		薪取り、年貢取り立て、こやしかけ、柄 山行き、など仕事を怠らぬ名	
3654	44	熊野御札(御用御誓紙)		一袋		熊野本宮の御用誓紙	
3655	45	触書	申 二月二十四日	一冊	平作他・ 村々名主組頭	尾張殿用材の大井川川下げの触れ、焼 津港から江戸深川まで	
3656	46	絵図(十三枚) 書付(三枚)		十六 枚		普光殿の名が見えるので幕末から明治 の初めの文書か、田畑含む絵図	
3657	47	普光寺本領上人様御寄付覚		五冊	各耕地	普光寺への寄付を各耕地ごとに戒名を けて記録	
3658	48	測量図				大鹿村土地測量図	
3659	49	(雑記)		三冊 他		入用費など、金予覚で、覚書の下書き、 書き損じなど、幕末から明治始め	
3660	50	(雑記)		三冊 他		金予覚の帳の下書き、書き損じなど、 明治五年前後	
3661	51	鹿嶋十分一かけ塚運賃記す	卯 二月改め	一冊		材木を天竜川で運ぶに付き鹿嶋十分 一と掛塚からの運材運賃の覚え	
3662	52	種痘入用并礼金書取帳	未 七月	一冊 と十 一枚		種痘を受けたものの名前と料金の覚 え、計八十二人、一人に付き七十七 文、 幕末か明治はじめ	
3663	53	(籍移動など雑)	(明治四年または五 年)	二十 三件		籍移動などについてメモ書き、出生地に ついて問い合ふ返答メモなど	
3664	54	(1)以書付奉願上候 (2)記	明治五年または六年	二通	前島善五郎・ 筑摩県出張所	(1)無統のための火葬使用願 (2)結婚の届け	
3665	55	覚		一冊		田畑上中下の高の覚書	
3666	56	(延宝五巳年御検地と延享五辰年御検 地之節：取調書上帳)袋		一袋	大河原村	検地野帳が入っていたが、袋がそ れにかわると思われず文書紙製	

3667	不明 57	(書付写し)				書付写し、二、三、三、十、百姓五十三人 が年貢差出について願ひ出	
3668	58	(上申書)	明治年間(十五年前 後)	一冊		大鹿村鹿塩耕地の明治十年よりから始 また山調特に古島桂五郎に付き	
3669	59	青田山炭木伐採区域図面	明治年間	一通	立会調査人田原置 次郎他	黒田忠二に売り渡した三十品を除いて 炭用樹木を伐採する区域の図面	
3670	60	社寺境内絵図	明治年間	三十 二枚		大鹿村各地にある神社、寺の境内絵 図、色付き八枚を含む	
3671	61	(絵図)	明治年間	二枚		小一区第二十四大区一小区の提灯の 図柄と上村、八重河内間距離の道図	
3672	62	(絵図)	明治年間	十五 枚		釜沢、鷹ヶ巣などの絵図と各地地籍図	
3673	63	測量図				大鹿村土地測量図、下書き 昭和年間のものか	
3674	64	測量図				大鹿村土地測量図、下書き 昭和年間のものか	
3675	65	雑、書付(書簡、領収書、入用覚など)		三十 枚		秋葉山、その他書簡、領収書、諸入用 覚、小事件顛末記、伝馬人足名簿など	
3676	66	雑		約九 十件		書簡、領収書、諸金覚など	
3677	67	雑書付		二十 通		幕末から明治の雑書付	
3678	68	書簡	(宝暦十二年か)	四十 七通		書簡と書付、宝暦十二年用状袋の中 の、宝暦十二年前後と思われる医薬 品「金粒丸」の袋が整理袋で使用する	
3679	69	書簡	(明和元年か)	四十 六通		明和元年前後の書簡、宝暦十四年用 状入袋中のもの	虫食い混じ る
3680	70	書簡	(明和元年または二 年)	三通	御用木筏方会所、 前嶋兵左衛門	天竜川が出来て材木が流れた、必要な 二十両のうち十五両受け取った、など	
3681	71	(書簡、書付)御用状	酉 五月二十二日	一通	飯田御役所、 大河原村名主	川除押流れの現地見分御用状(明和二 年酉か)	

3682	72	書簡	(明和年間か) 十一月六日	一通	井上柳八、市岡佐 藏、右馬之丞他	小川村安宛について相談は飯田にて十一月十五日に行うこと	
3683	不明 73	書簡、書付		三十 三通		宝暦、明和年間、主に右馬之丞、兵左 衛門宛の書簡、書付	
3684	74	書簡	(明和から安永年間 か)	四通	右馬之丞他	右馬之丞宛、右馬之丞に書きなぐ、明 和六年丑八月の書簡紙の裏に書き	
3685	75	書簡、書付	(明和から安永年間 か)	七通		宝暦御用木の弁木、井川山入山など、 右馬之丞の筆と思われのものもある	
3686	76	書簡	(明和から安永年間 か)	七通		弁納木について右馬之丞が江戸に、間 の書簡と思われる	
3687	77	書簡	八月十六日	一通	唐沢佐忠次、 前嶋右馬之丞	見取り書き真帳の書き方の知らせ、裏面 に右馬之丞書簡の下書き	
3688	78	書簡	(文化十三年より文 政元年まで)	五十 九通		〜用向き、村用、自分用書簡	
3689	79	書簡、書付	(文化文政年間)	三十 七通		御用村用書簡と覚書付	
3690	80	書簡、書付	(文化十三年前後)	八十 一通		御用村用書簡、書付	
3691	81	雑書付、書簡	(文化年間)	二十 三通		主に前嶋兵左衛門宛の書簡と雑書付	
3692	82	書簡	(文化文政年間)	二十 三通		前嶋兵左衛門宛書簡	
3693	83	書簡	(文政四年前後)	二十 三通		前嶋兵左衛門宛書簡	
3694	84	書簡、書付	(文政元年から四年 か)	二十 三通		御用村用書簡、諸書付など	
3695	85	書簡	(文政三年前後)	四通		井上金四郎、鹿堀村名主大島彦兵衛 などから大河原村名主宛、御用村用	
3696	86	書簡と覚書付	(文政年間)	百七 通		主に前嶋八郎九郎宛、御用村用書簡	
3697	87	書簡(御用書付)	(天保年間?) 十二月十一日	一通	渡辺定五郎(飯田役 所)、大河原村名主	大河原村で焼いた石灰を売る件(寛元 惣代は役所に印判持参で出頭すよ)	

3698	88	書簡	(天保年間)	四通	井上金四郎他、 八郎九郎	井上金四郎より二通、他 御用村用書簡	
3699	不明 89	書簡	(文政から天保年間)	三十 六通		主に前島八郎九郎宛の御用村用書簡	
3700	90	覚、書簡		七十 二通	前島八郎九郎(兵左 衛門)	諸々請取覚、書簡、天保十一年二月改 め文化文政天保年間の米仕切りその 他諸請取、書簡	
3701	91	書簡	(安政二年前後)	五通	前島善五郎他	秋葉山役案、他からの書簡	
3702	92	書簡		六通	秋葉山、前嶋右馬之 郎丞、八郎九郎、善五 郎	来る壬午二月朔日から四月朔日、六 十一年目の御開帳勸化	
3703	93	書簡	(天保から幕末)	六十 三通	前島八郎九郎	大政奉還後あたりまで、神道、尊王に 関する書簡多い、短歌記述あり、文久 三年下関外国船砲撃の情報書簡あり	
3704	94	役用来翰と御廻状請取		二百 十九通		嘉永四年亥正月改め、八郎九郎正弼 代の書簡五十七通と御用廻状、触書な ど各村請取覚	
3705	95	書簡	元治元年前後	三十 三通		前島初員(八郎九郎)、前島善五郎宛 書簡	
3706	96	書簡、書付		六十 六通		右馬之丞、兵左衛門、八郎九郎宛書 簡、書付など雑々	
3707	97	(短歌、俳句)		五通		文化、文政、天保あたりのもの、安永二 年のもの？幕末から明治のものと思わ れる、短歌、俳句を記述した書付と書 簡	

長野県下伊那郡大鹿村

前島家文書

二〇〇三年九月二十五日